

高知県感染症発生動向調査事業報告

第 18 号

平成27年 1 月～28年12月

高知県感染症対策協議会感染症発生動向調査部会
(事務局 高知県健康政策部健康対策課)
高知県感染症情報センター
(高知県衛生研究所内)

はじめに

近年、新興・再興の感染症等のまん延や流行が毎年のように繰り返されるようになり、平成27年以降では、韓国で発生し、本邦への上陸が懸念された中東呼吸器症候群（MERS）や、リオオリンピック開催を契機に世界への感染拡大が懸念された蚊媒介感染症の一種であるジカウイルス感染症といった新興感染症の流行がありました。

また、我が国は、平成27年3月に世界保健機関（WHO）より麻しん（はしか）の「排除状態」にあると認定されていますが、認定以来初めてとなる麻しんの流行が、平成28年に関西や関東を中心にあったところです。それらの感染拡大を未然に防止するためには、日頃から県民の皆様への適切な情報提供とそれぞれの感染症に応じた予防対策等の普及啓発に取り組むことがますます重要になります。

高知県では、感染症予防の取り組みの一貫として、県医師会をはじめ多くの医療関係者の皆様のご協力を得て感染症発生動向調査事業を実施しており、収集・分析した結果を週報・月報・年報として各関係機関や県民の皆様にご活用いただくことにより、感染症の発生・拡大防止に備えた事前対応型の対策を推進しています。

この度、感染症予防の資料としてご活用いただく事を目的として、平成27年及び平成28年の2年間の事業概要をとりまとめ、高知県感染症発生動向調査事業報告書第18号を発行いたしました。

本報告書が皆様にご活用いただけることを祈念いたしますとともに、今後さらにご協力をいただければ幸甚に存じます。

最後に、本報告書の作成にあたり、ご尽力いただきました高知県感染症対策協議会感染症発生動向調査部会の委員の皆様並びに県医師会・定点医療機関をはじめとした多くの医療関係者の皆様に深く感謝を申し上げますとともに、今後も本事業の推進になお一層のご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年3月

高知県健康政策部長

山 本 治

第18号の発刊に寄せて

— 感染症の脅威と対応戦略 —

平成25・26年には感染症に関して3つの新たな事例が発生しました。第1は平成26年3月から始まった西アフリカでのエボラ出血熱（エボラウイルス病）の大流行です。流行地では高い死亡率ですが、米国での死者は1名のみで他の患者は回復したことより、適切な医療により死亡率は低下すると推測されます。日本では1類感染症指定医療機関が各県に存在しないこと、高知県における疑い患者搬送訓練の中で実際に診療にあたる職員の確保や健康管理がなどの問題が浮かび上がってきました。エボラ出血熱への対応を検討する中で、感染症の脅威と人類が長い間続けてきた感染症との闘いを改めて実感しました。第2は平成26年8月に発生したデング熱の国内感染です。重症患者は発生せず、感染場所と推測された都内の公園閉鎖等により終息しました。地球の温暖化やグローバルな人の動きにより、これまで念頭に無かった感染症が日本で発生する可能性が高まっています。第3は重症熱性血小板症候群（SFTS）です。平成25年1月に国内初例が確認されたわずか2か月後に高知県第1例が報告され、平成26年12月までに14例が報告されています。そのうち幡多地域からの報告が10例と多い理由は、地域での疾病理解が進んでいるためと聞きました。感染症との戦いにおいて、「彼を知り己を知らば百戦危うからず」を実践して下さっているようで心強い限りです。

感染症発生動向の変化は次の通りです。麻しんの報告は平成21年以降なく、風しんは平成24年以降3年間で14例の報告がありました。臨床的あるいはIgG抗体などで診断されています。麻しん・風しんが疑われる場合は最寄りの保健所に連絡して下さい。検体を搬送し高知県衛生研究所で抗原検査を行います。PCR検査法により病原体検出技術は目覚しく進歩し、衛生研究所では種々の感染症を正確かつ迅速に診断できるようになっています。さらにペニシリン耐性肺炎球菌感染症も激減し、肺炎球菌とインフルエンザ菌による髄膜炎・敗血症などの重症感染症も経験しなくなりました。水痘ワクチンは平成26年10月に定期接種化されましたが、早くもその報告数が減少している可能性があります。このような動向からもワクチン効果は明らかであり、今後子宮頸がんワクチンの勧奨再開、ロタウイルス・おたふくかぜ・B型肝炎などのワクチンの定期接種化が強く望まれます。

喜ばしいことに高知県内のワクチン接種率が向上しています。関係各位の努力に敬意を表するとともに、取り組みの継続により「ワクチンで予防できる病気（VPD）」をしっかりと予防しましょう。

感染症対策は、感染症に係るすべての方々はその立場でご尽力下さることで成し遂げられます。今後ともご協力ご支援をお願いします。

平成29年3月

感染症発生動向調査部会

吉川清志

目 次

I 患者情報

高知県における感染症の年次的推移（第18報）	1
1 年間報告累計	2
2 インフルエンザ	3
3 咽頭結膜熱	
4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5
5 感染性胃腸炎	6
6 水痘	
7 手足口病	8
8 伝染性紅斑	9
9 突発性発疹	
10 百日咳	11
11 ヘルパンギーナ	12
12 流行性耳下腺炎	
13 R Sウイルス感染症	14
14 流行性角結膜炎	15
15 無菌性髄膜炎	
16 マイコプラズマ肺炎	

II 検査情報

感染症発生動向調査における病原微生物分離	21
----------------------	----

III 地域情報

2015年、2016年高知県須崎地域における感染症発生動向調査	35
2015 / 16シーズンに当院を受診したインフルエンザ患児の検討	40
ロタウイルスワクチン導入前後における腸重積発生状況（特に高知県において）	42

IV 高知県感染症情報月報（平成27年1月～28年12月）

45

V 参 考

高知県の伝染病	191
高知県日本脳炎患者発生状況	192

VI その他

高知県感染症発生動向調査事業実施要綱	193
高知県感染症対策協議会規約	258
高知県感染症対策協議会委員名簿	259
高知県感染症対策協議会の体系図	260

I 患者情報

高知県における感染症の年次的推移（第18報）

2015年（平成27年）1月から2016年（平成28年）12月までの報告

1 年間報告累計

疾患別の報告総数および1 定点医療機関当たり報告数を、年次別に報告総数の多い順に配列し、それに全国の報告総数、1 定点医療機関当たり報告数および前年の順位を併記したものが、2015年（平成27年）（表1）と2016年（平成28年）（表2）である。

ここ数回の報告ではインフルエンザと感染性胃腸炎とで1位と2位が年ごとに交代することが多かったが、今回は2015年、2016年ともインフルエンザが1位である。

1) 2015年

インフルエンザは、新型インフルエンザの流行があった09年の報告数30,695名以降2番目に多い報告数15,392名である。

2位の感染性胃腸炎は、10年には81年の調査開始以降2位となる10,567名の報告があったが、それ以降は増減を繰り返して15年の報告数は6,475名で04年以降最少の報告数である。

3位のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は、81年の調査開始以降最多となる2,934名である。

4位の手足口病は、89年以降最多であった11年の報告数3,345名から翌12年には113名と大幅に減少、その後は増減を繰り返し、15年は報告数2,479名である。

5位以下で増減の目立った疾患は、水痘で、15年の報告数559名は81年の調査開始以降最小である。また、流行性耳下腺炎は14年の報告数1,618名から15年778名と約半数である。

2) 2016年

インフルエンザは、15年の報告数15,392名からわずかに増加し16年の報告数は15,587名である。

2位の感染性胃腸炎は、04年以降最少の報告数であった15年の報告数6,475名から増加し16年の報告数は7,183名である。

3位のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、調査開始以来最多の報告数であった15年の2,934名からわずかに減少し報告数は2,537名である。

4位のRSウイルス感染症は、04年の調査を開始以降、11年に報告数が1,026名となり、その後は毎年1,000台を超え16年の報告数は1,174名である。

5位以下で増減の目立った疾患は、手足口病が15年の4位2,479名から大幅に減少し16年は10位

表1 年間定点報告累計（全国との対比）

2015年（平成27年）

定点	順位	疾病名	高知県		全国		前年順位
			総数	定点当たり	総数	定点当たり	
インフルエンザ	1	インフルエンザ	15,392	320.67	1,169,041	237.42	2
小児科	2	感染性胃腸炎	6,475	215.83	987,912	314.02	1
	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2,934	97.80	401,274	127.55	5
	4	手足口病	2,479	82.63	381,720	121.34	8
	5	RSウイルス感染症	1,156	38.53	120,049	38.16	6
	6	ヘルパンギーナ	967	32.23	98,212	31.22	7
	7	流行性耳下腺炎	778	25.93	81,046	25.76	3
	8	突発性発疹	655	21.83	84,957	27.00	9
	9	水痘	559	18.63	77,614	24.67	4
	10	伝染性紅斑	218	7.27	98,521	31.32	11
	11	咽頭結膜熱	165	5.50	72,150	22.93	10
	12	百日咳	27	0.90	2,675	0.85	12
	眼科		急性出血性結膜炎	0	0.00	494	0.72
		流行性角結膜炎	16	5.33	25,037	36.44	
STD		性器クラミジア感染症	17	2.83	24,450	24.95	
		性器ヘルペスウイルス感染症	3	0.50	8,974	9.16	
		尖圭コンジローマ	0	0.00	5,806	5.92	
		淋菌感染症	2	0.33	8,698	8.88	
基幹		細菌性髄膜炎	12	1.50	452	0.95	
		無菌性髄膜炎	15	1.88	1,069	2.24	
		マイコプラズマ肺炎	311	38.88	10,367	21.73	
		クラミジア肺炎(オウム病を除く)	60	7.50	412	0.86	
		感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	88	11.00	4,350	9.12	
		メチリシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	240	30.00	17,057	35.61	
		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	0.00	2,057	4.29	
		薬剤耐性緑膿菌感染症	8	1.00	217	0.45	

表2 年間定点報告累計（全国との対比）

2016年（平成28年）

定点	順位	疾病名	高知県		全国		前年順位
			総数	定点当たり	総数	定点当たり	
インフルエンザ	1	インフルエンザ	15,587	324.73	1,751,968	354.58	1
小児科	2	感染性胃腸炎	7,183	239.43	1,116,800	353.87	2
	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2,537	84.57	367,815	116.54	3
	4	RSウイルス感染症	1,174	39.13	104,703	33.18	5
	5	流行性耳下腺炎	964	32.13	159,031	50.39	7
	6	ヘルパンギーナ	792	26.40	129,371	40.99	6
	7	咽頭結膜熱	715	23.83	67,487	21.38	11
	8	水痘	574	19.13	65,383	20.72	9
	9	突発性発疹	525	17.50	76,271	24.17	8
	10	手足口病	359	11.97	69,139	21.91	4
	11	伝染性紅斑	359	11.97	51,419	16.29	10
	12	百日咳	124	4.13	3,011	0.95	12
	眼科		急性出血性結膜炎	0	0.00	401	0.58
		流行性角結膜炎	21	7.00	26,099	37.72	
STD		性器クラミジア感染症	16	2.67	24,396	24.77	
		性器ヘルペスウイルス感染症	4	0.67	9,174	9.31	
		尖圭コンジローマ	3	0.50	5,730	5.82	
		淋菌感染症	2	0.33	8,298	8.42	
基幹		細菌性髄膜炎	10	1.25	493	1.03	
		無菌性髄膜炎	34	4.25	1,379	2.89	
		マイコプラズマ肺炎	324	40.25	19,721	41.34	
		クラミジア肺炎(オウム病を除く)	34	4.25	354	0.74	
		感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	242	30.25	5,266	11.04	
		メチリシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	237	29.63	16,332	34.10	
		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1	0.13	2,000	4.18	
		薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0.00	157	0.33	

359名の報告数である。また、百日咳は、順位の変動こそなかったが、報告数が15年の27名から16年は4.59倍の124名と急増している。

2 インフルエンザ

高知県の定点当たりの報告数を全国と比較すると15年は全国の1.35倍であったが、16年は0.92倍と少ない(表3)。また、流行パターンは15年16年ともに全国と同様に推移し、ピークは14～15年が15年1月(第4週定点当たり51.08)、15～16年が16年2月(第9週定点当たり49.42)である(図1)。

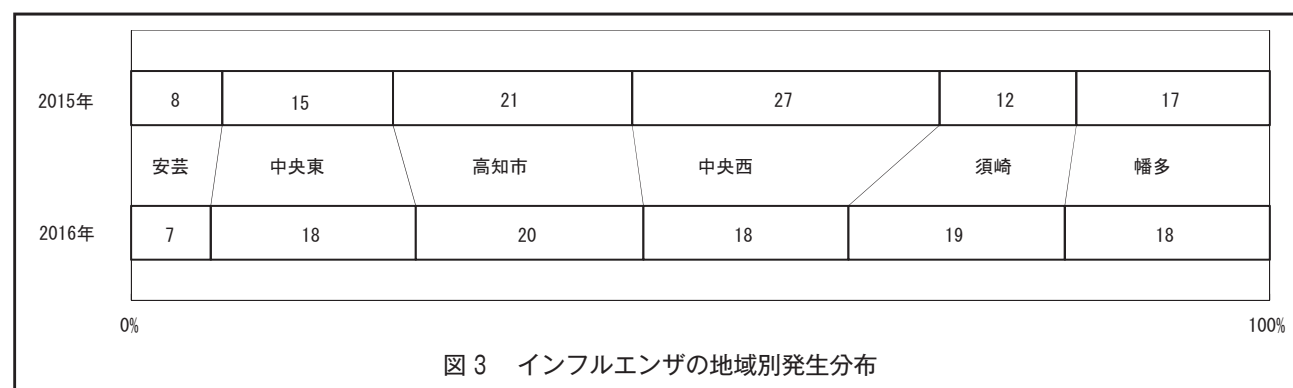
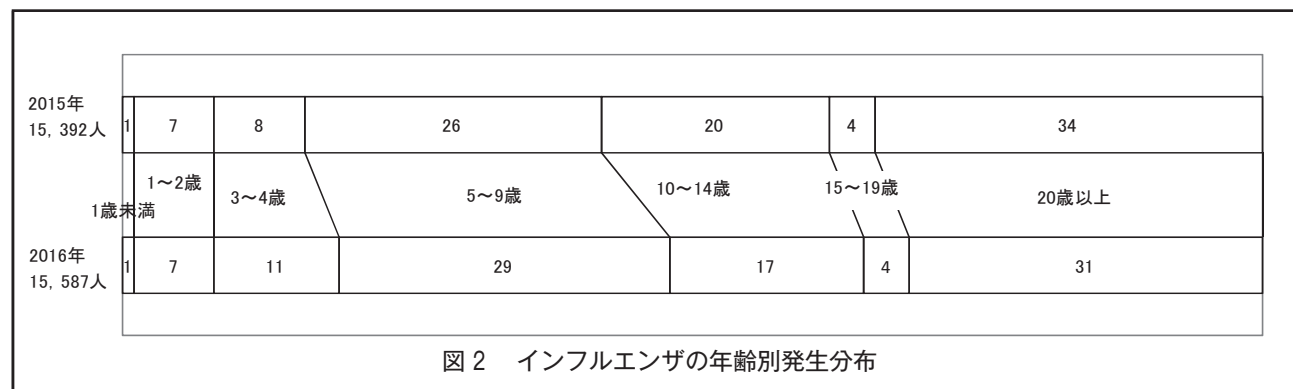
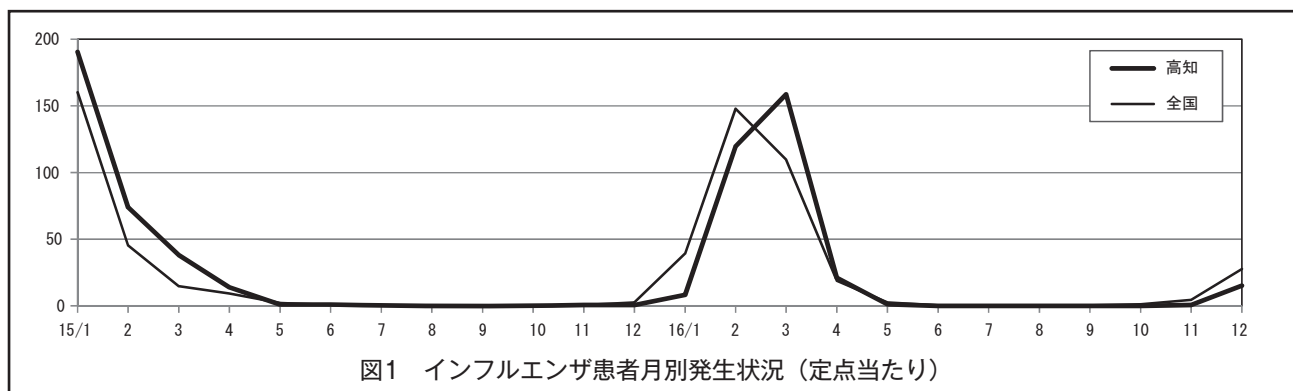
年齢別発生分布は、15年は、20歳以上が34%と最も多く、5～9歳が26%、10～14歳が20%と、5～14歳で46%を占めている。16年は、3～9歳で増加し、10～14歳、20歳以上で減少した(図2)。

地域別発生分布は、15年は中央西、中央東で増加し、幡多、高知市、安芸で減少したが、16年では須崎、中央東、幡多で増加し、中央西、安芸、高知市で減少した(図3)。

ウイルス分離検出状況は、15年はApdm09型2件、A香港型52件、B型17件、16年はApdm09型65件、A香港型9件、B型38件である。

表3 インフルエンザの年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2015	15,392	320.67	237.42
2016	15,587	324.73	354.58



3 咽頭結膜熱

15年と16年の定点当たりの報告数の比較では、全国は0.93倍で微減、高知県は4.33倍と急増した。また、高知県の報告数は、15年は全国の報告数の0.24倍とかなり少ないが、16年は1.11倍とわずかに多い（表4）。

定点当たり報告数の推移を全国と比較すると、15年は全ての報告月で全国を下回ったが、16年は7月から11月の5ヶ月間全国を大きく上回った。また、15年は全国が6月、高知県が7月、16年は全国が6月、高知県は9月がピークであった（図4）。

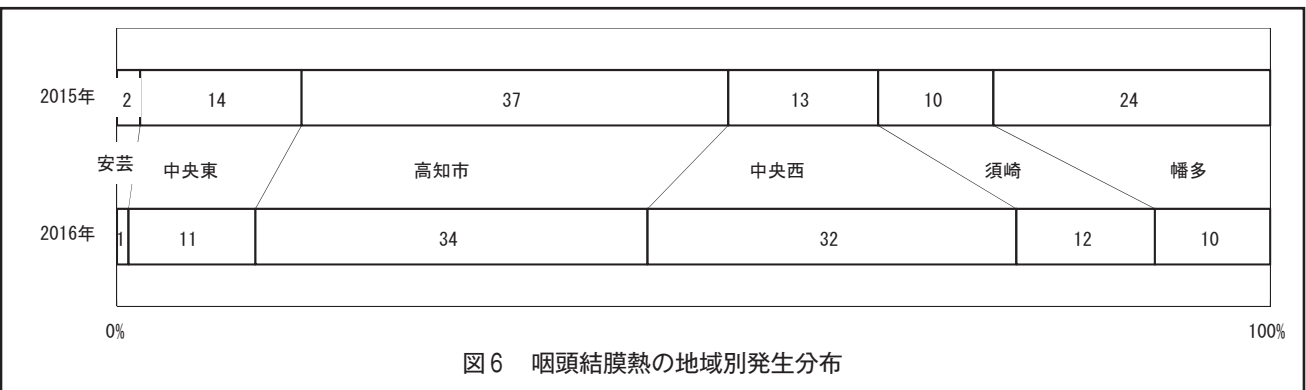
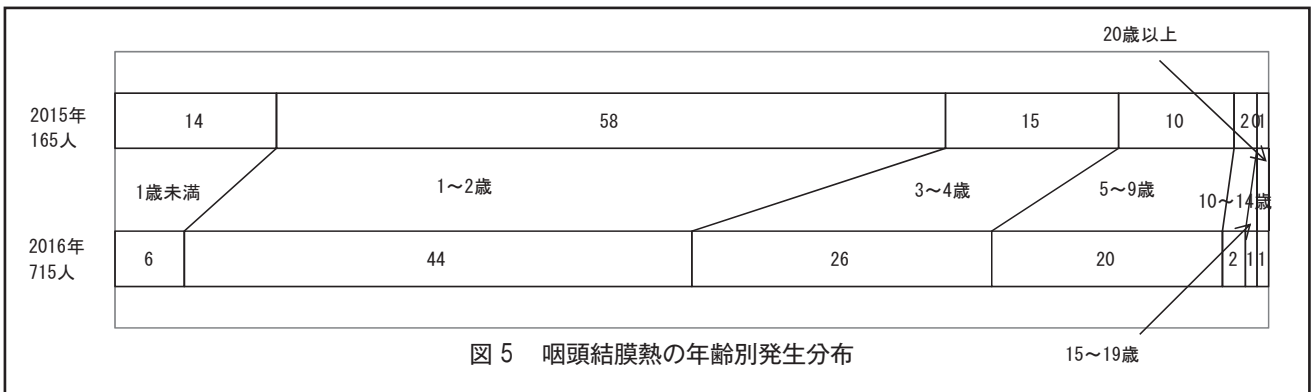
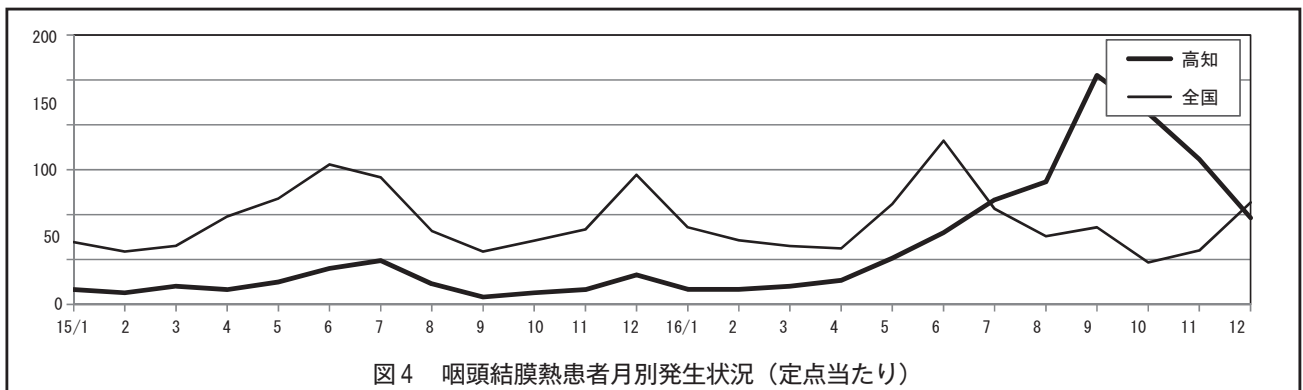
年齢別発生分布では、16年は1～2歳の割合が最

も高く、3～4歳、5～9歳、1歳未満と続き、これらの年齢でほぼ90%を占めている（図5）。

地域別発生分布は、15年は高知市・中央東・安芸で増加し、幡多・須崎・中央西で減少した。16年は中央西・須崎で増加し、幡多・中央東・高知市・安芸で減少した（図6）。

表4 咽頭結膜熱の年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2015	165	5.50	22.93
2016	715	23.83	21.38



4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

高知県の定点当たりの報告数は15年16年とも全国を下回った。00年～12年の年間報告数は1,200～2,500名程度で推移し、15年の2,934名は調査開始以来最多の報告数である（表5）。

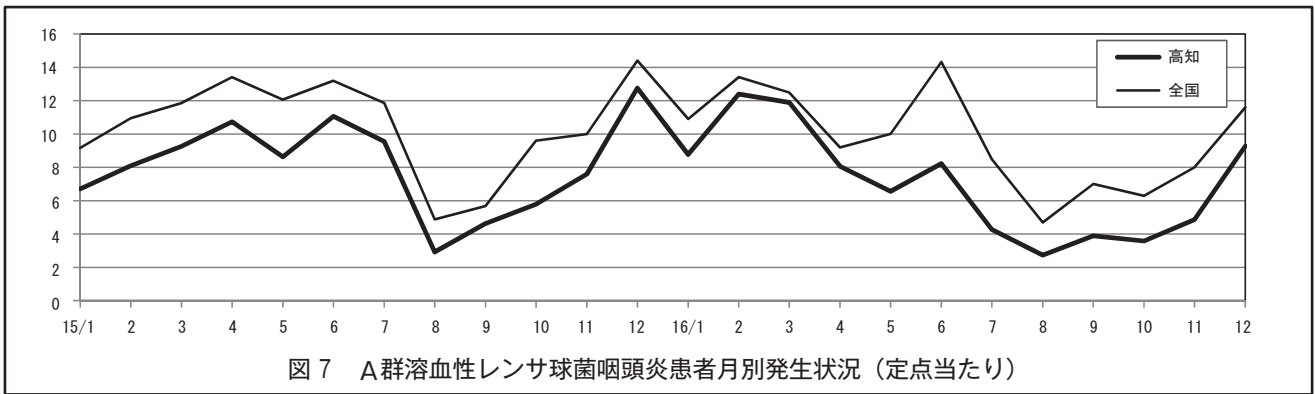
定点当たりの報告数の推移を全国と比較すると、15年16年ともに高知県は全国より少ない状況を維持している（図7）。

年齢別発生分布はほとんど変動がなく、5～9歳の割合が50～51%と最も高く、次に3～4歳が20%、10～14歳が約13～15%である（図8）。

地域別発生分布は、15年は安芸・幡多・高知市で増加し、中央西・須崎・中央東で減少した。16年は中央西・中央東・高知市・幡多で増加し、須崎・安芸で減少した（図9）。

表5 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2015	2,934	97.80	127.55
2016	2,537	84.57	116.54



年次	1～2歳	3～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20歳以上
2015年 2,934人	7	20	51	13	2	6
2016年 2,537人	7	20	50	15	1	6

図8 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の年齢別発生分布

年次	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多
2015年	13	6	26	13	21	21
2016年	7	12	27	21	11	22

図9 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の地域別発生分布

5 感染性胃腸炎

高知県の定点当たりの報告数は、15年16年とも全国を下回った。

高知県の報告数は、06年に11,070名と81年の調査開始以来最高値を示し、その後、07年9,704名、08年9,470名と高い値を示していたが、減少に転じ09年には6,794名となった。10年には10,567名と再び増加に転じ、過去2番目の報告数となったが、その後15年は6,475名と04年以降最少となった。16年は7,183名と増加している（表6）。

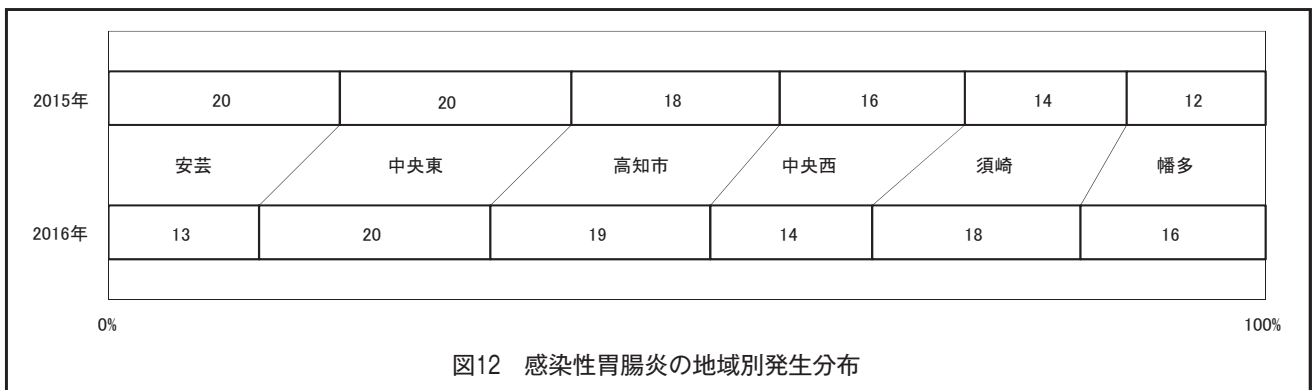
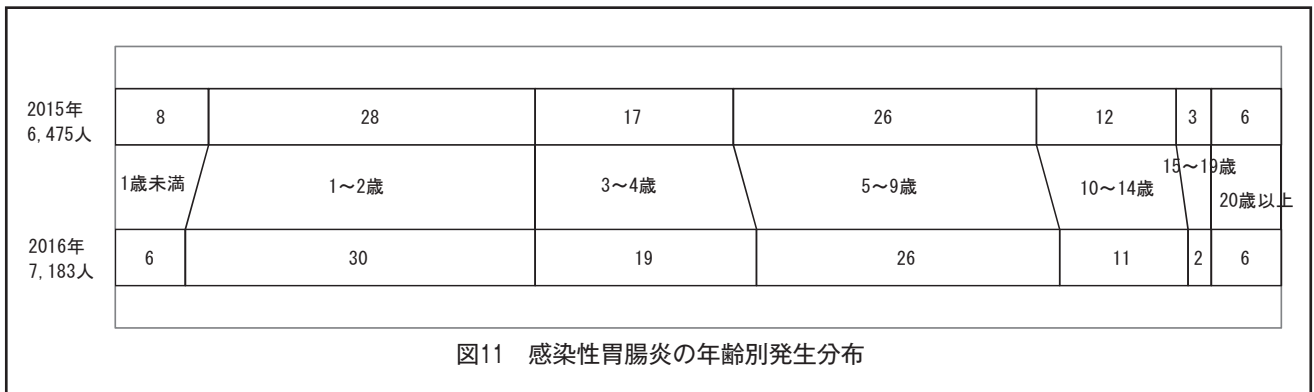
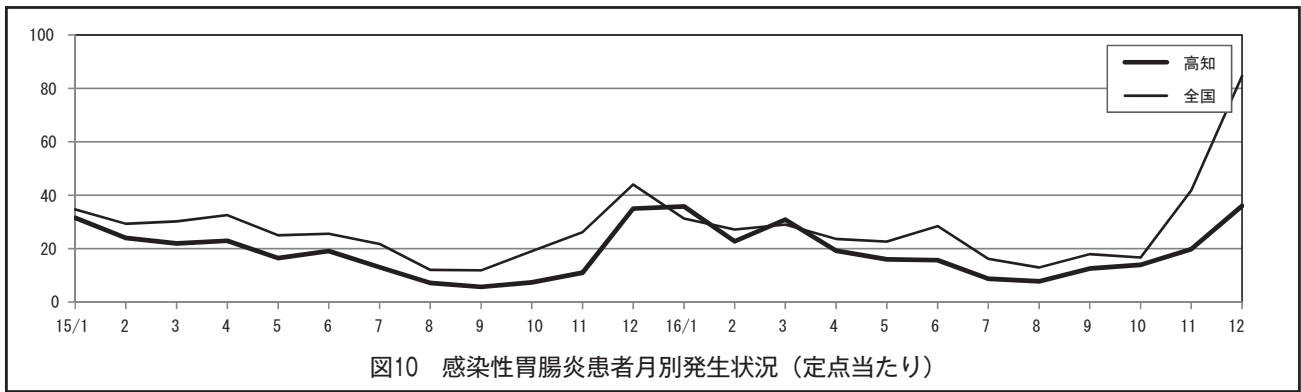
定点当たり報告数の推移を全国と比較すると、15年16年とも流行時期及びピーク値が全国とほぼ一致している（図10）。

年齢別発生分布は、4歳以下が約50%を占め、5～9歳の26%が続いている（図11）。

地域別発生分布は、15年は中央東で5%、安芸で4%、幡多で2%増加し、高知市で7%、中央西で4%減少した。16年は須崎・幡多・高知市で1～4%増加し、安芸で7%、中央西で2%減少した（図12）。

表6 感染性胃腸炎の年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2015	6,475	215.83	314.02
2016	7,183	239.43	353.87



6 水痘

高知県の定点当たりの報告数は、15年16年とも全国を下回った（表7）。98年以降でみると高知県での報告数は2～3年周期で2,000～3,000名と比較的大きく変動していたが、13年1,717名、14年1,491名と減少し、15年には81年の調査開始以降最少となる559名となった。16年は微増し574名である。これは14年10月からの水痘ワクチン定期接種開始の影響が考えられる。

定点当たりの報告数の推移を全国と比較すると、ピーク値の差は多少みられるものの流行時期は同様で4～10月が少なく、11～3月までが多い。これは夏休みの影響が推測される（図13）。

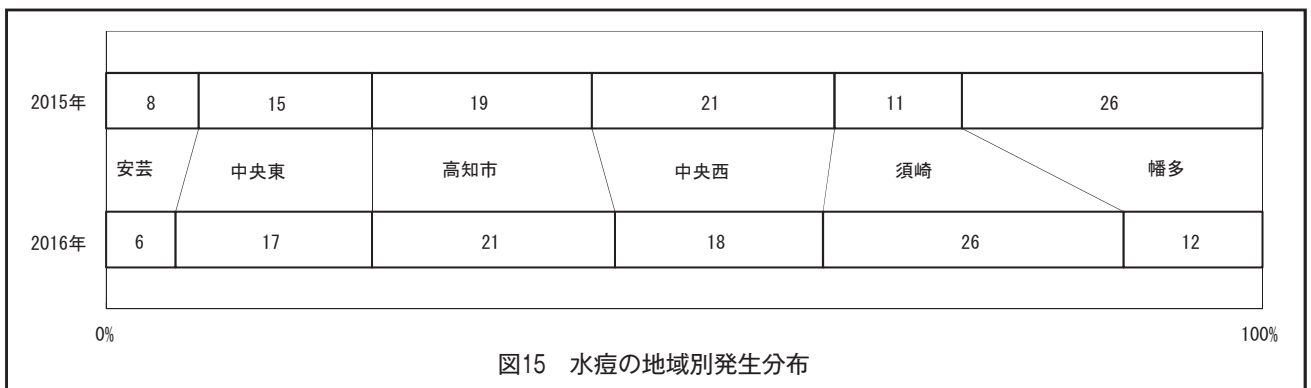
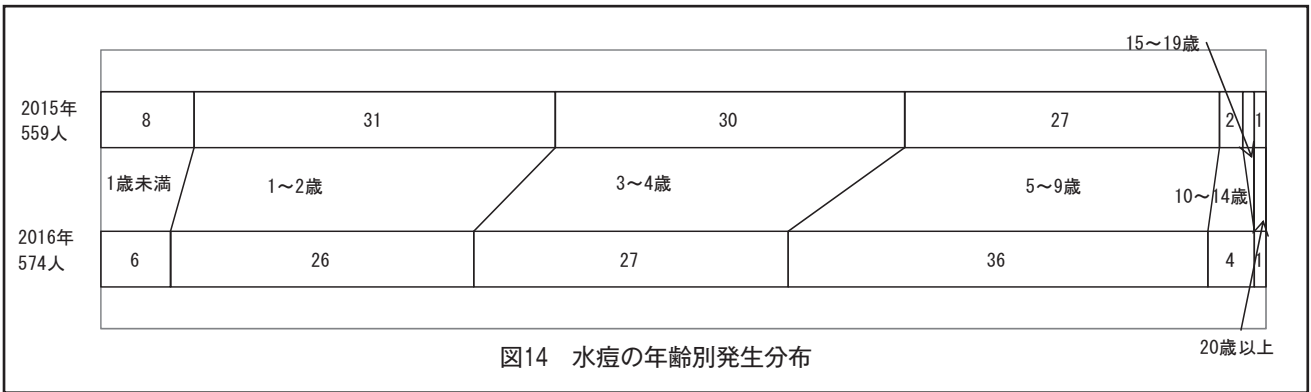
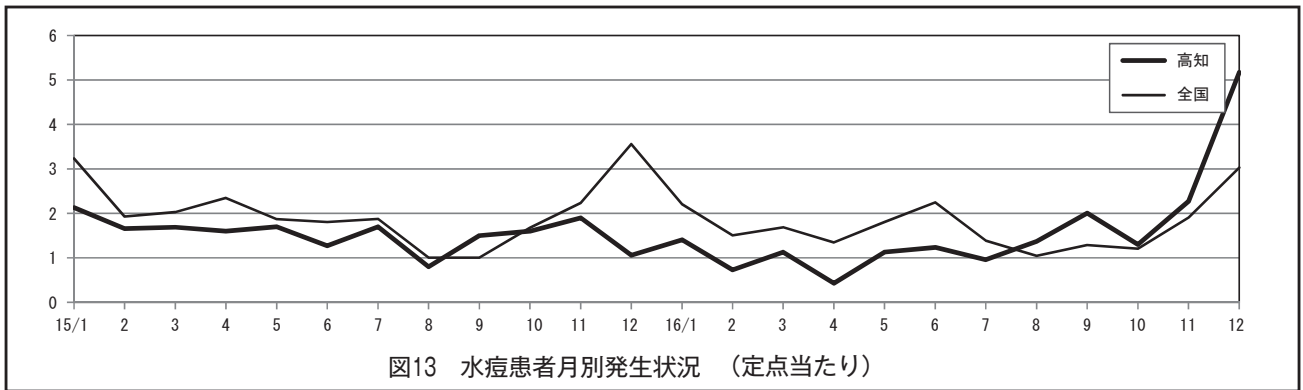
年齢別発生分布は、15年は4歳以下が69%、5

～9歳が27%で、16年は4歳以下が59%、5～9歳が36%と、9歳以下が約95%以上を占めている（図14）。

地域別発生分布は変動がみられ、15年は幡多・中央西・中央東で増加し、安芸・高知市・須崎で減少した。16年は須崎・中央東・高知市で増加し、幡多・中央西・安芸で減少した（図15）。

表7 水痘の年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2015	559	18.63	24.67
2016	574	19.13	20.72



7 手足口病

高知県の定点当たりの報告数は、05～09年にかけて連続して全国を下回っているが、10年には高知県で、11年には全国的に大きな流行があった。この疾患は年によって流行規模に比較的大きな差があり、調査開始以降毎年、約100～3,000名が報告されている。15年の2,479名は89年以降5番目に多い報告数なのに対し、16年は0.14倍の359名と激減している（表8）。

定点当たりの報告数の推移を全国と比較すると、全国の流行のピークは90年以降7月にあり、15年は同様に7月であったが、16年は10月である。高知県のピークは、15年は7月、16年は6月である（図16）。

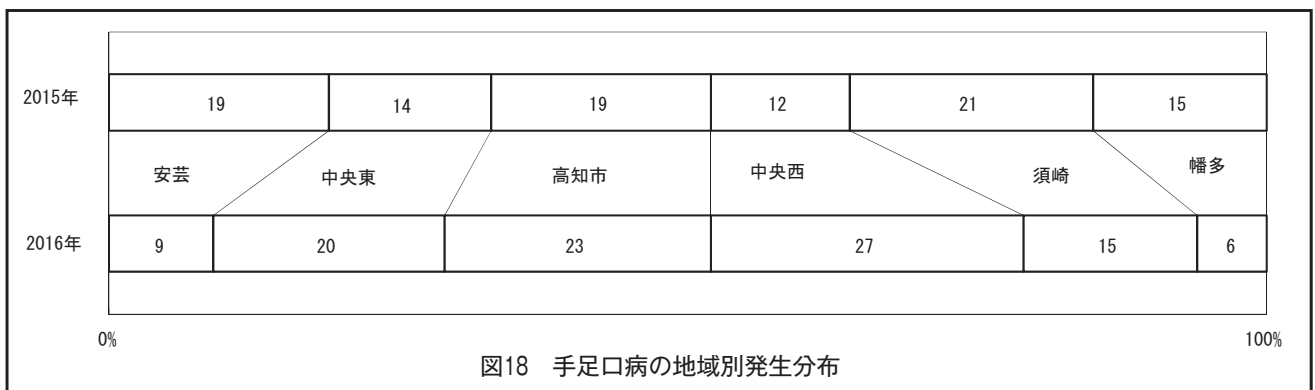
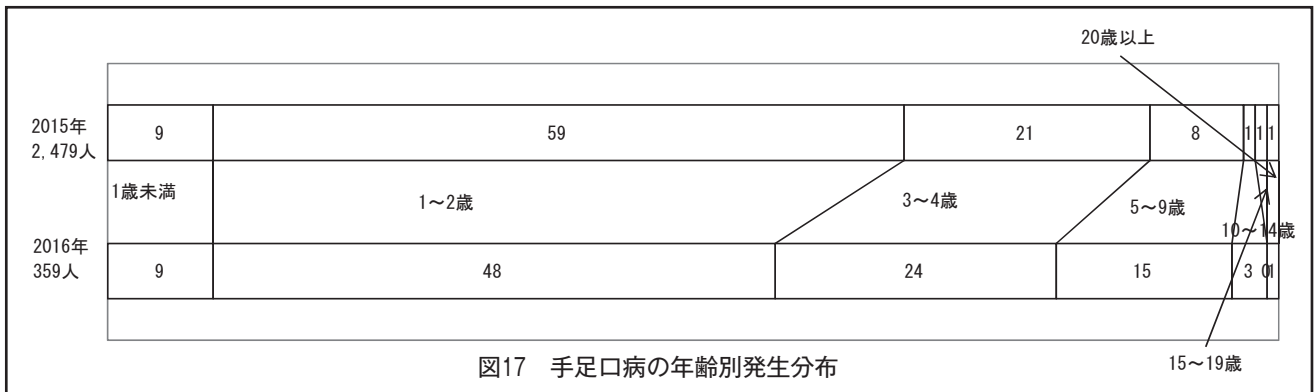
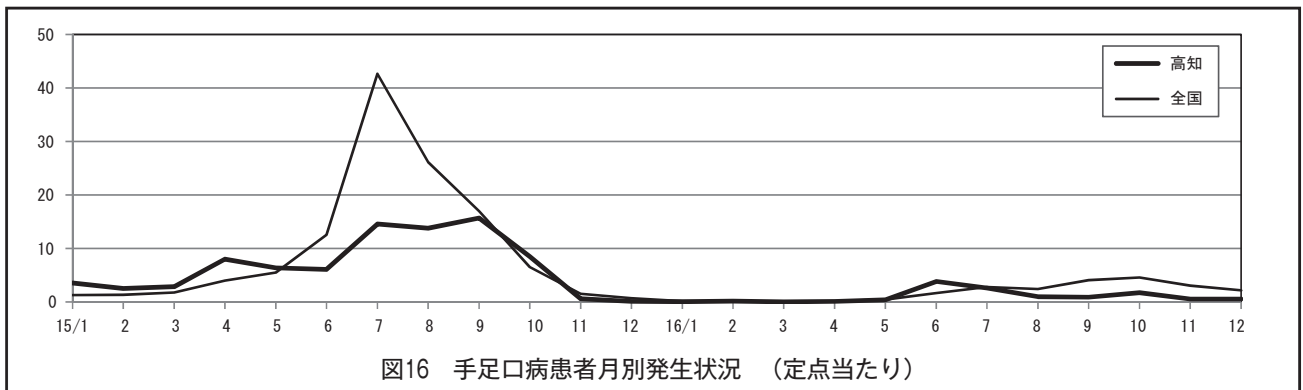
年齢別発生分布は、15年は1歳未満、15～19歳、20歳以上が増加し、3～4歳、1歳～2歳、5～9歳が減少したが、16年は5～9歳、3～4歳、10～

14歳が増加し1～2歳、15～19歳が減少した。0～9歳までの報告数は15年16年とも全体の95%以上を占めている（図17）。

地域別発生分布は、15年は安芸・幡多・中央西・須崎が増加し、高知市・中央東が減少した。16年は中央西・中央東・高知市が増加し、安芸・幡多・須崎が減少した。この2年間では増減が少ない地域とそうでない地域がみられるが、各地域に注目すると1～2年周期で増減を繰り返している（図18）。

表8 手足口病の年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2015	2,479	82.63	121.34
2016	359	11.97	21.91



8 伝染性紅斑

高知県の定点当たりの報告数は調査開始以来大きく変動しており、12年は820名と89年以降4番目に多い報告数であったが、13年、14年は激減し14年は89年以降2番目に少ない報告数42名となった。その後、15年は218名、16年は359名と増加している。15年16年ともに全国を下回り、特に15年は大きく下回った(表9)。

高知県の定点当たりの報告数の推移を全国と比較してみると、07年に突出した高い値となり全国を上回って以降、11年までは全国を下回っていたが、12年には再び全国を大きく上回った。その後15年は全国を下回ったが、16年は8月以降全国を上回っている(図19)。

年齢別発生分布は、15年16年共に5～9歳、3～

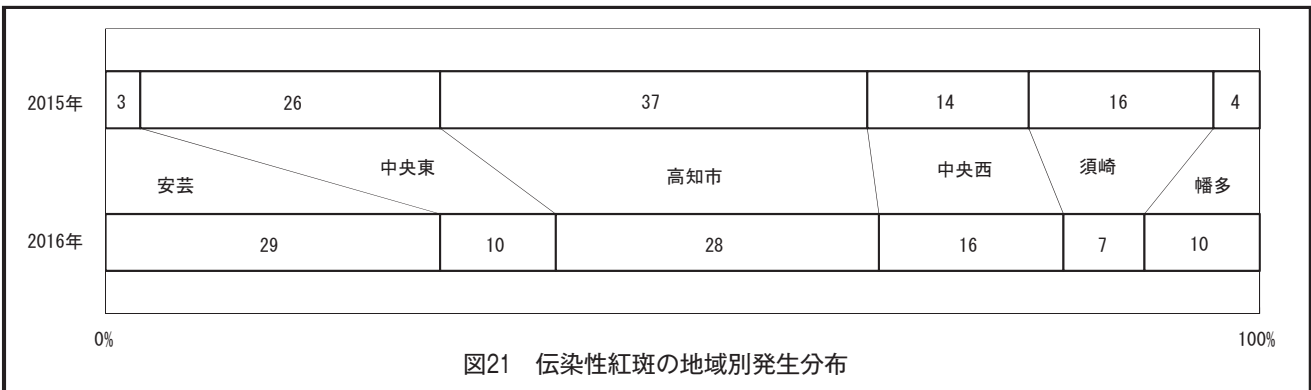
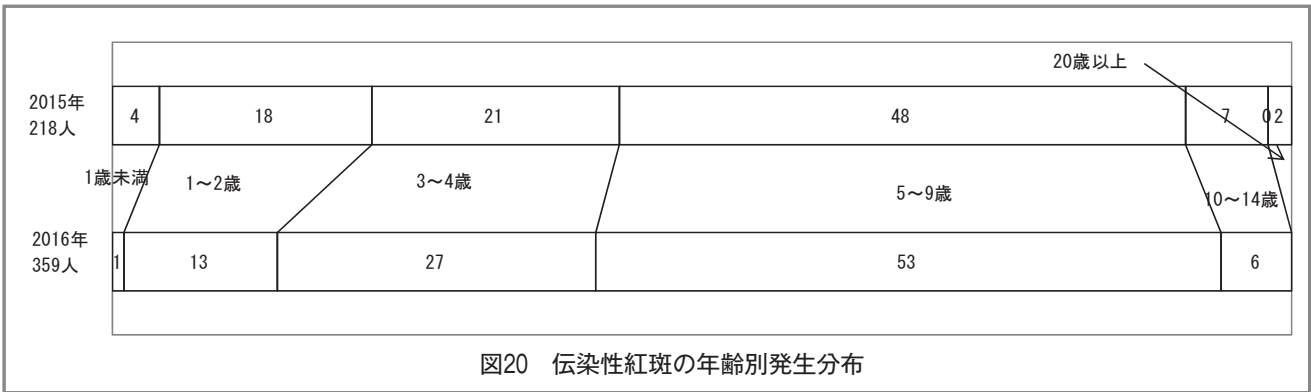
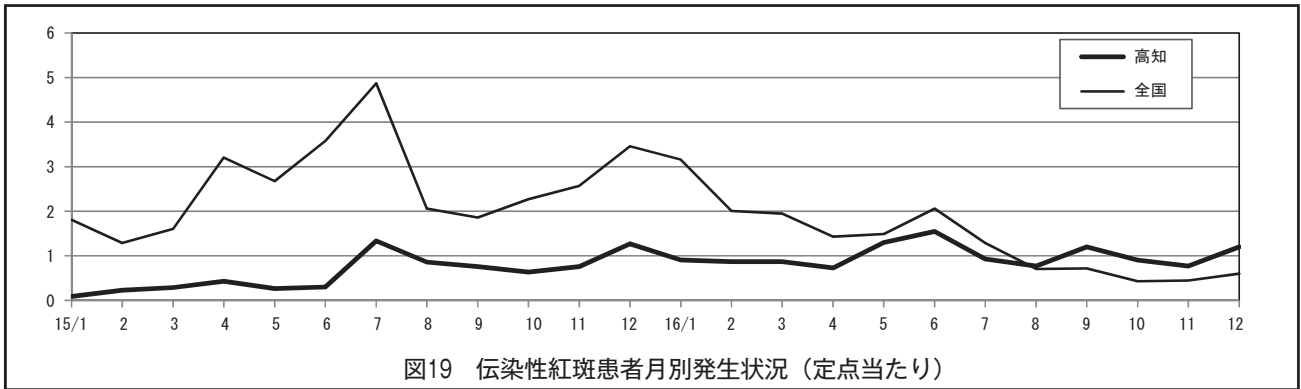
4歳が増加し、1～2歳、1歳未満、10～14歳が減少している。(図20)。

地域別発生分布では、15年は須崎・高知市・中央東で増加し、中央西・幡多・安芸で減少した。16年は、安芸・幡多・中央西で増加し、中央東・高知市・須崎で減少している(図21)。

また、調査開始以来、83年、87年、92年、97年、02年、07年、12年と報告数が多くなっており、5年周期で流行を繰り返している。

表9 伝染性紅斑の年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2015	218	7.27	31.32
2016	359	11.97	16.29



9 突発性発疹

高知県の定点当たりの報告数は、全国よりも少ない状況が持続している（表10）。また、報告数は年々減少傾向にあり、02年に1,000名を割り、その後も減少し16年は525名と調査開始以来最少となった。この原因は出生数の減少も関与していると推測される。

高知県の定点当たりの報告数の推移を全国と比較してみると、一年を通じて変動が少なく全国に類似している（図22）。

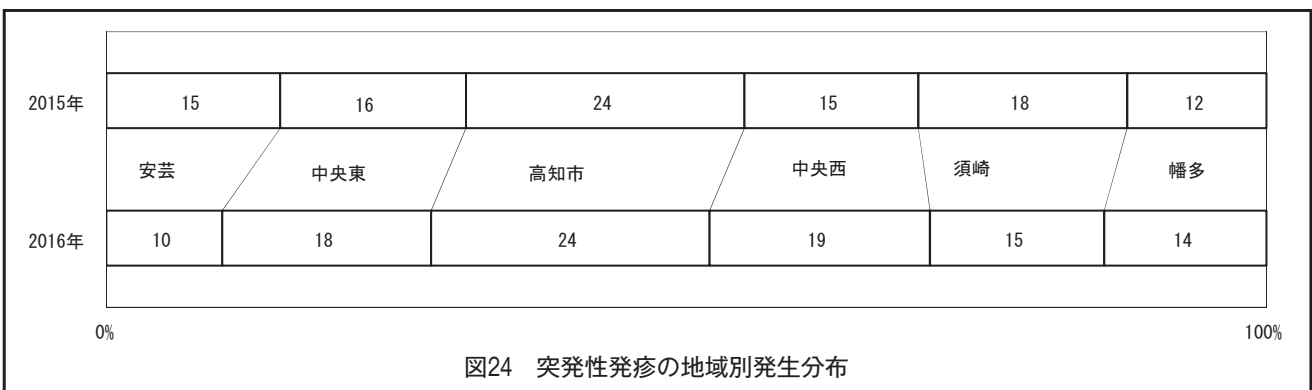
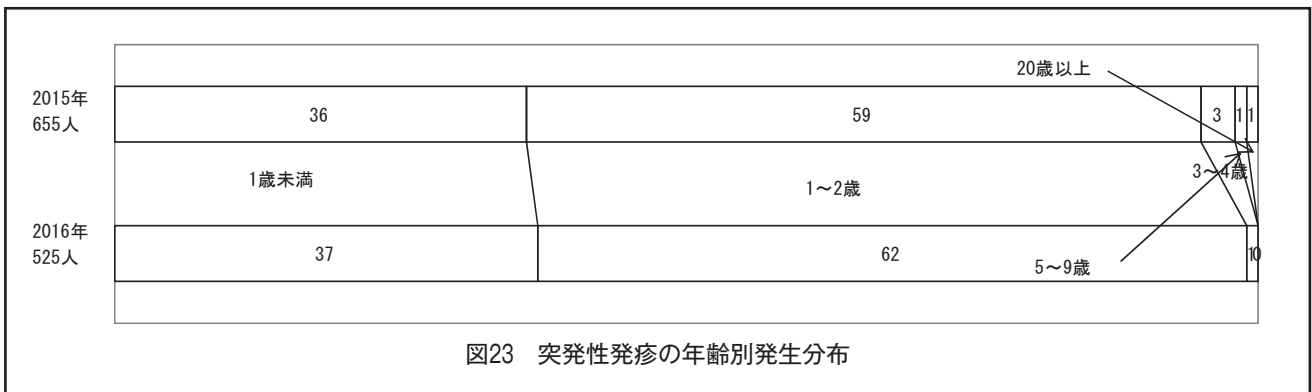
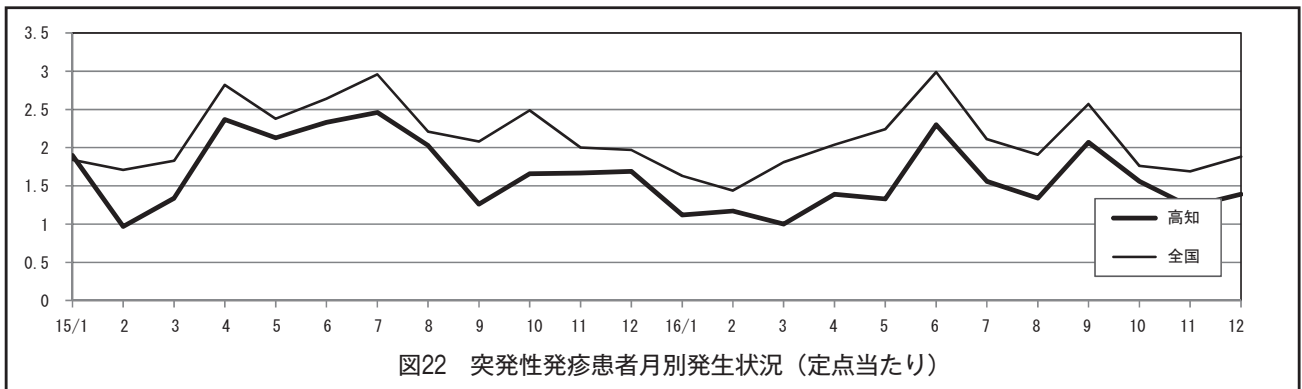
年齢別発生分布では、15年16年とも例年通り2歳以下が95%以上を占めている。1歳未満は10年まで

半数以上を占めていたが、11年以降1～2歳が半数以上を占め15年16年とも同様である（図23）。

地域別発生分布に大きな変動がないことが特徴であるが、高知市・中央西・中央東・須崎でやや多い（図24）。

表10 突発性発疹の年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2015	655	21.83	27.00
2016	525	17.50	24.17



10 百日咳

高知県の定点当たりの報告数は、15年は全国よりやや多く、16年は4.35倍と全国を大きく上回っている（表11）。年間報告数は89年以降2番目に多い12年の311名から13年は50名と大幅に減少し、14年15名、15年27名と推移したが、16年は124名と前年の4.59倍に増加している。

高知県の定点当たりの報告数の推移を全国と比較してみると、15年の10月以降の報告数は全国を上回っており、9月にピークがみられるが、全国は低い値ではほぼ一定に推移している（図25）。

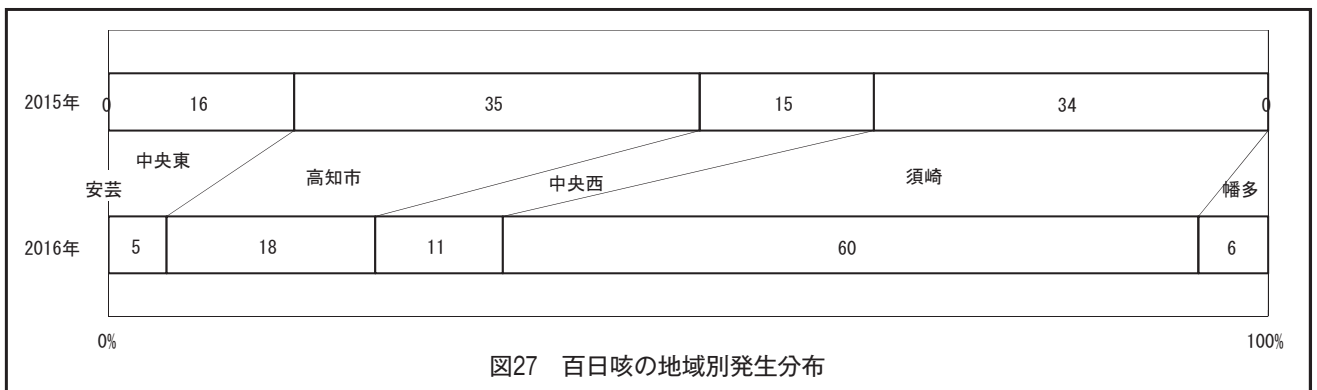
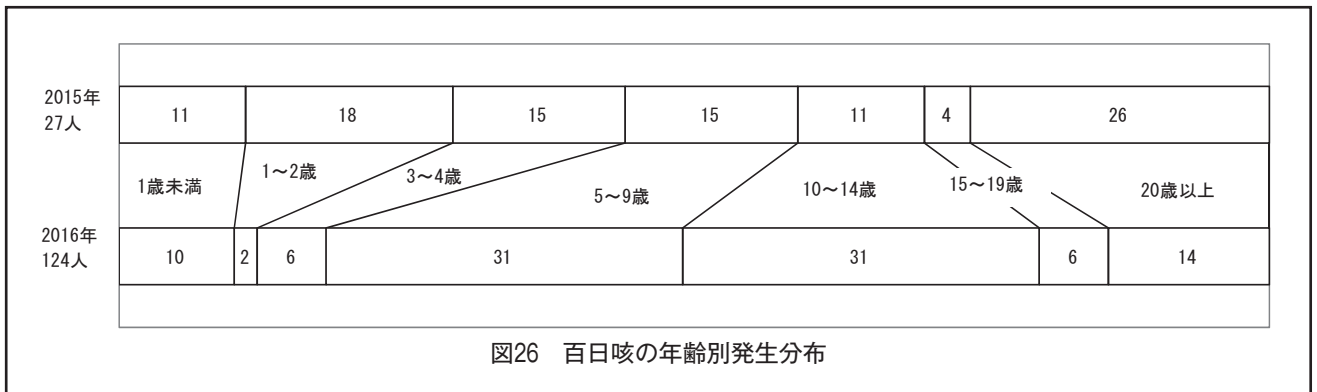
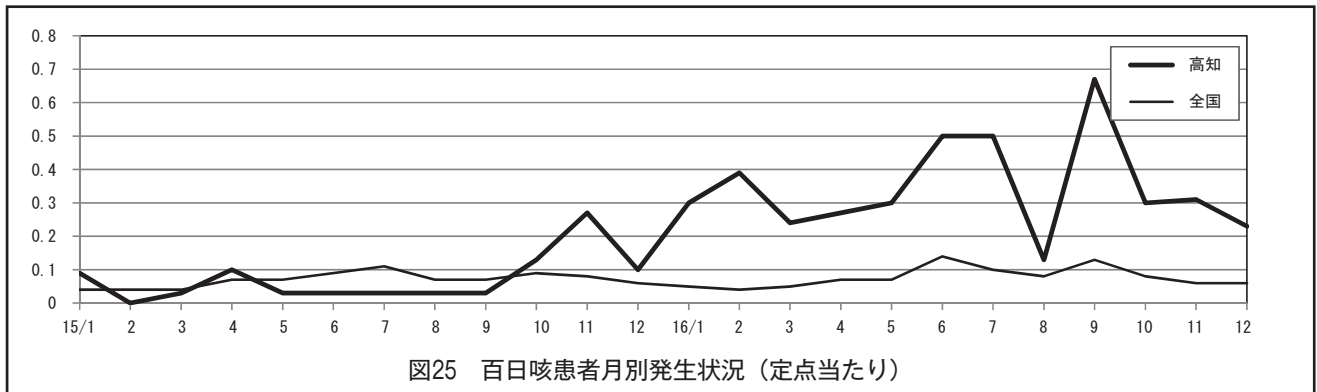
年齢別発生分布は、89年以降08年までは4歳以下が50%以上を占めている事が多かったが12年は19%と減少した。その後13年14年はともに大幅に増加し、15年は44%と多かったが、16年は18%と再び減少し

ている。20歳以上では、07年以降2年毎に増減を繰り返して12年16%、13年14%、14年34%、15年26%、16年14%である（図26）。

地域別発生分布は、年によって流行地域が大きく変化することが特徴である。07年以降は須崎の割合が非常に高かったが、14年は高知市が59%と高く、15年は高知市35%、須崎34%、16年は須崎60%と再び高くなっている（図27）。

表11 百日咳の年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2015	27	0.90	0.85
2016	124	4.13	0.95



11 ヘルパンギーナ

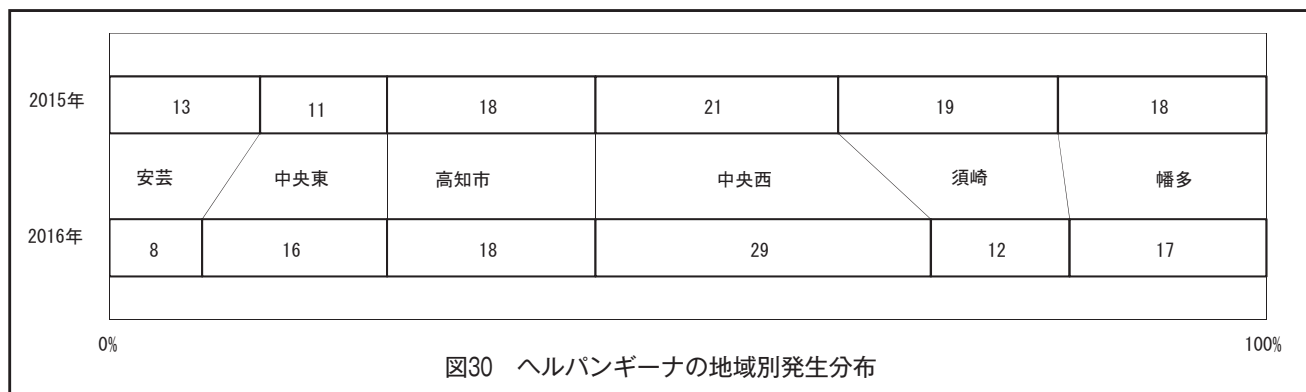
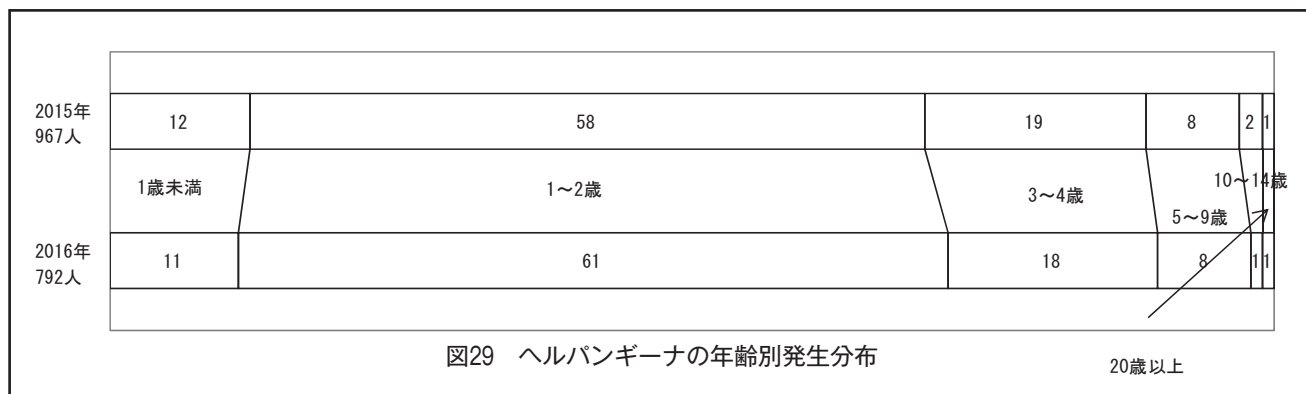
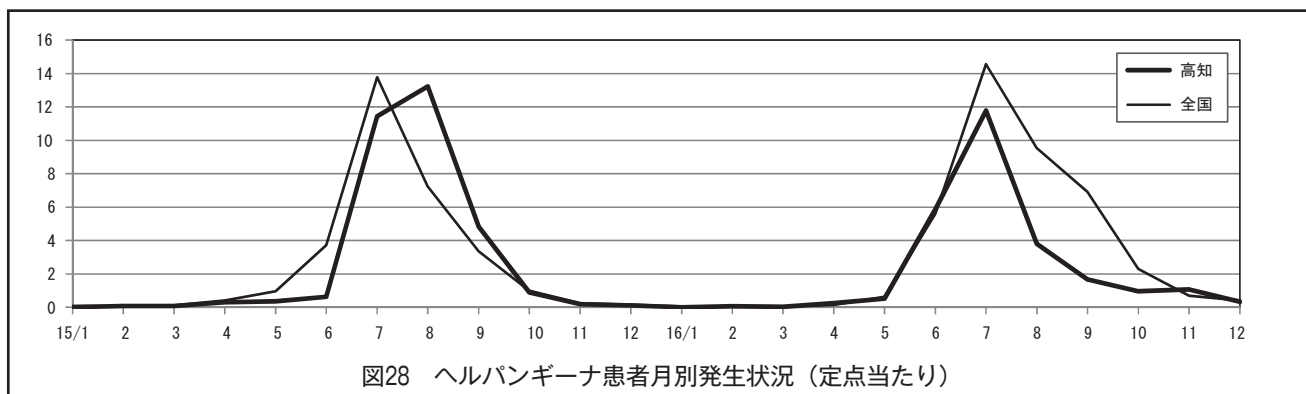
高知県の定点当たりの報告数は、15年は報告数967名と全国より僅かに多く、16年は全国の0.64倍と少ない（表12）。調査開始以来最少となった09年の668名を除き、00年以降は約800～1,500名で推移している。

全国では7月にピークとなるが、高知県では同様に7月がピークとなる年と前後する年があり、15年は8月、16年は7月である（図28）。年齢別発生分布は、毎年同様の分布を示し、1～2歳が50%以上を占めている（図29）。

地域別発生分布は、15年は高知市・中央西・須崎で増加し、安芸・幡多・中央東で減少した。16年は中央西・中央東で増加し、須崎・安芸・幡多で減少した（図30）。

表12 ヘルパンギーナの年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2015	967	32.23	31.22
2016	792	26.40	40.99



12 流行性耳下腺炎

高知県の定点当たりの報告数は、13年は、全国の2.33倍の913名、14年は、3.66倍の1,618名と全国より多い報告数で推移していたが、15年は全国の1.01倍となり、16年は0.64倍と全国を下回っている。（表13）。

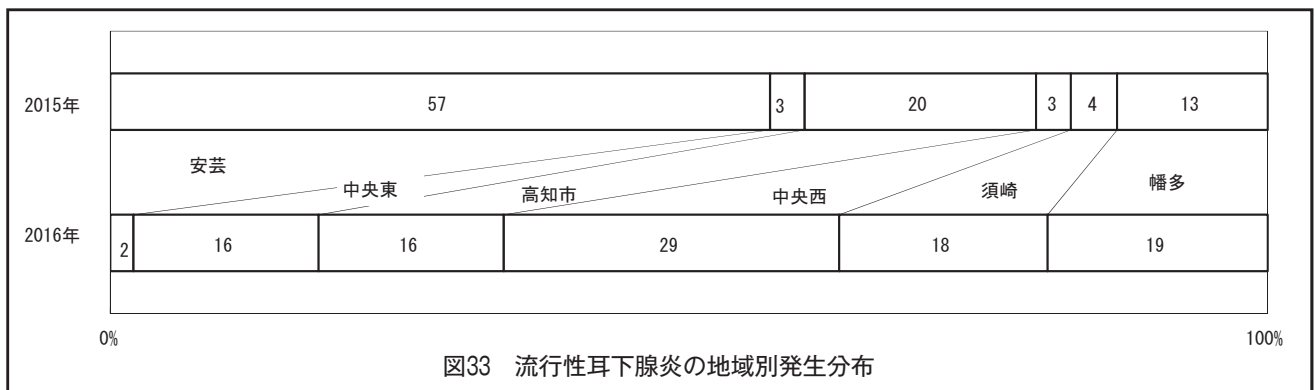
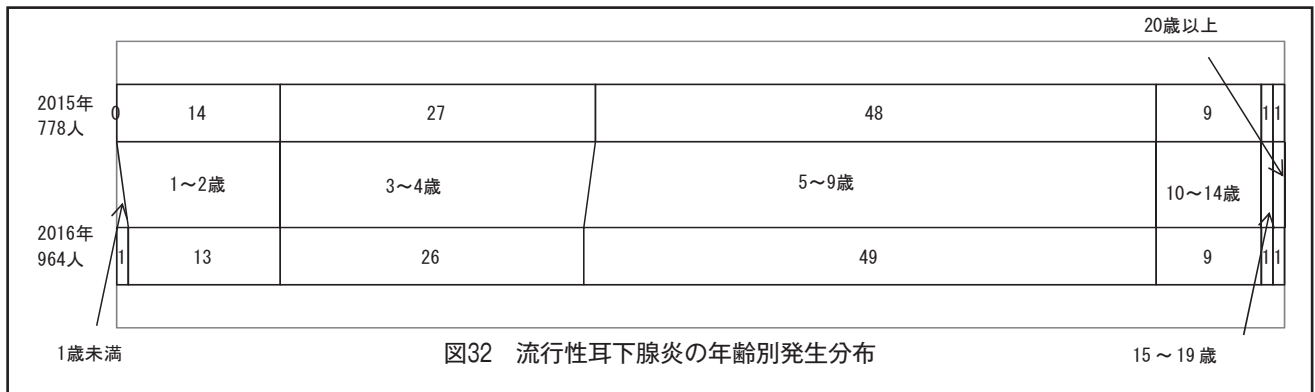
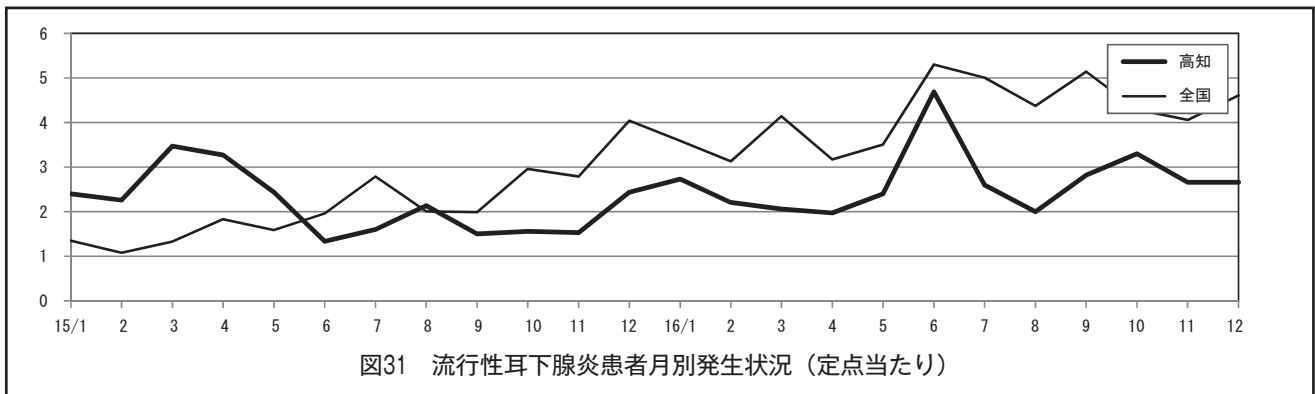
定点当たりの推移を全国と比較すると、高知県は11年後半までは全国よりかなり低い値を持続けているが、13年後半から14年前半までは全国を大きく上回っている。その後、15年6月からは再び全国を下回っている（図31）。3～5年毎に増減をくり返す疾患であり、16年は報告数が少ない周期の年である。年齢別発生分布はほとんど変動がなく、5～9歳が

48～49%で最も多く、3～4歳が26～27%程度で続いている（図32）。

地域別発生分布では、年毎に比較的大きな変動がみられ、15年は安芸・高知市で増加し、中央西・須崎・幡多・中央東で減少した。16年は中央西・須崎・中央東・幡多で増加し、安芸・高知市で減少した（図33）。

表13 流行性耳下腺炎の年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2015	778	25.93	25.76
2016	964	32.13	50.39



13 RSウイルス感染症

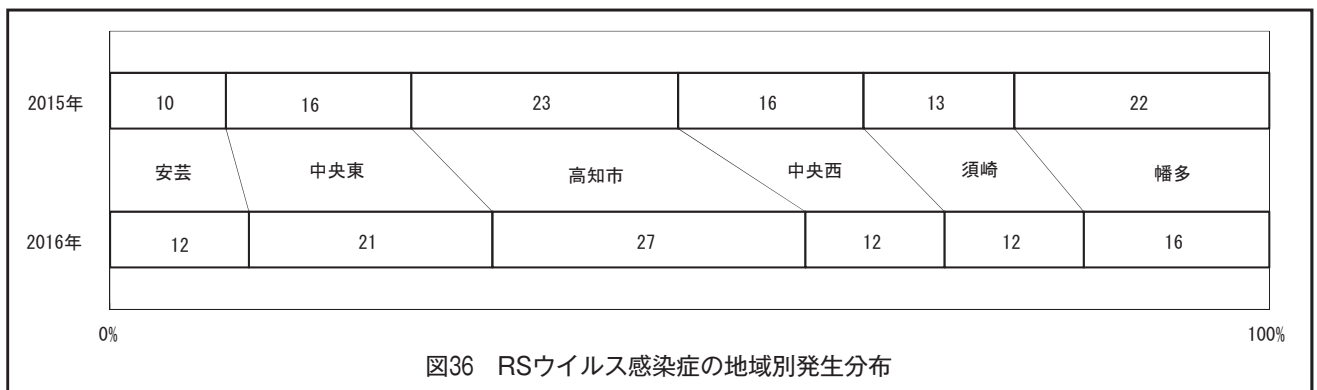
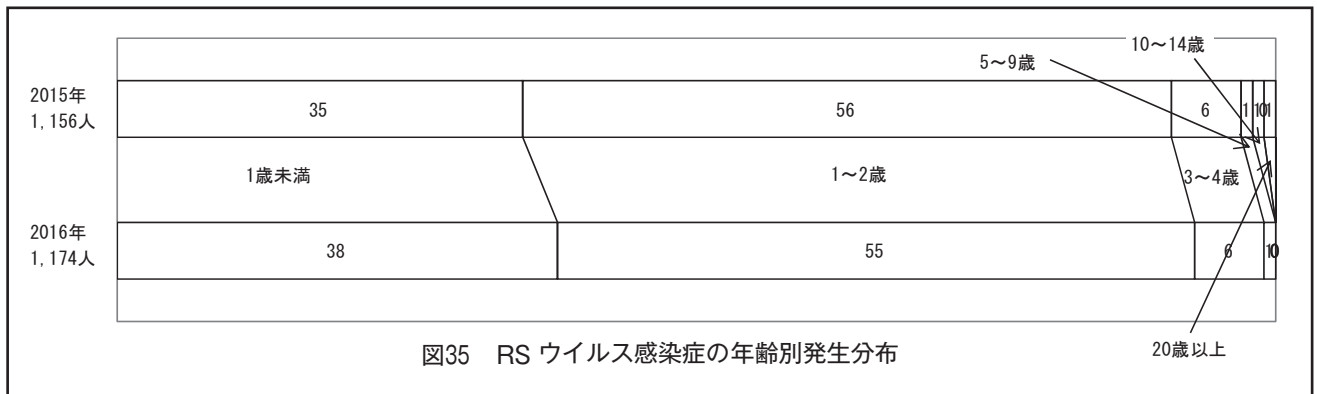
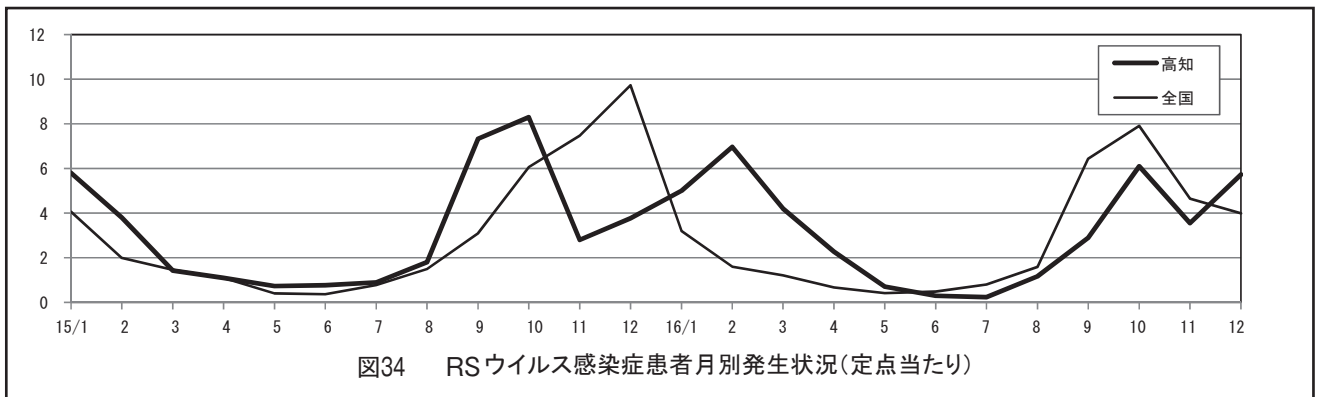
04年から調査が行われている疾患で、高知県の報告数は04年229名であったが、その後増加し11年に1,026名となり15年1,156名、16年1,174名と1,000台が続いている。定点当たりの報告数は15年、16年ともに全国を上回った（表14）。

年齢別発生分布は、2歳以下が9割以上を占めている（図35）が、それよりも上の年齢や保護者も罹患している。兄弟から、または保育所で感染し、2歳未満では喘鳴・呼吸困難のためしばしば入院する疾患である。

地域別発生分布では、15年は中央東・中央西で増加し、高知市・須崎で減少した。16年は中央東・高知市・安芸で増加し、幡多・中央西・須崎で減少した（図36）。

表14 RSウイルス感染症の年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2015	1,156	38.53	38.16
2016	1,174	39.13	33.18



14 流行性角結膜炎

高知県の定点当たりの報告数は、07年08年とも全国を上回っていたが、09年以降は全国を下回り、15年0.15倍、16年0.19倍である。15年の報告数は調査開始以来最少の16名である（表15）。

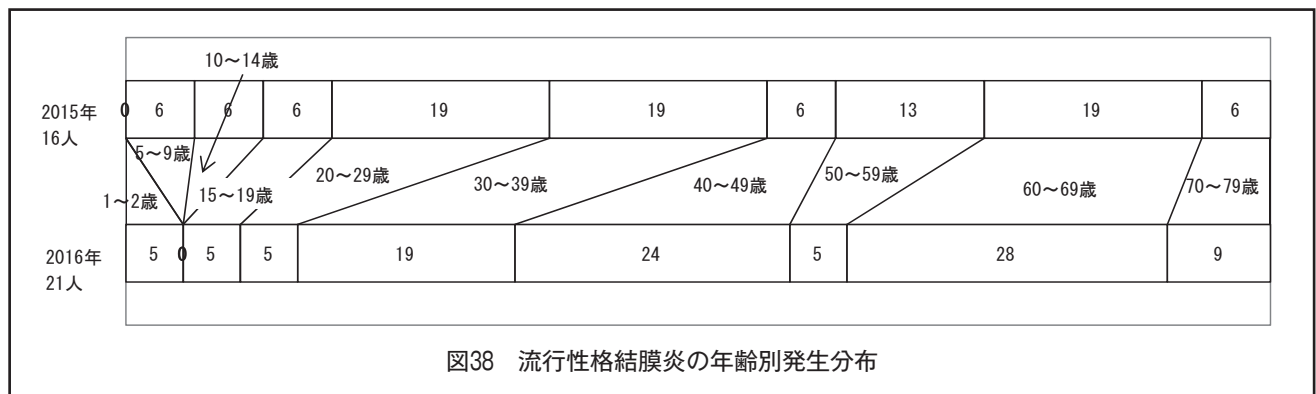
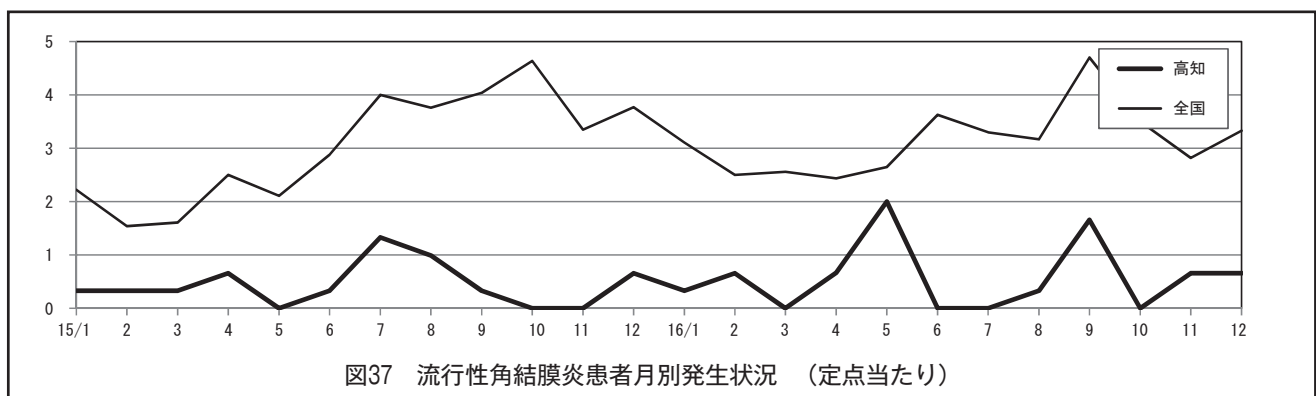
年齢別発生分布は、14年に比し15年は10～14歳（6%）、15～19歳（6%）、20～29歳（19%）、40～49歳（6%）、50～59歳（13%）、60～69歳（19%）で増加し、1～4歳（0%）、5～9歳（6%）30～39歳（19%）、70～79歳（6%）で減少しているが、16年は1～2歳（5%）、40～49歳（24%）、60～69歳（28%）、70～79歳（9%）で増加し、5～14歳（0%）、

15～19歳（5%）、20～29歳（5%）50～59歳（5%）で減少している。13年までは20歳以上が9割程度占めていたが15年は8割程度である（図38）。

地域別発生分布では、15年はすべて高知市からの報告で、16年は高知市90%、安芸10%の報告である。

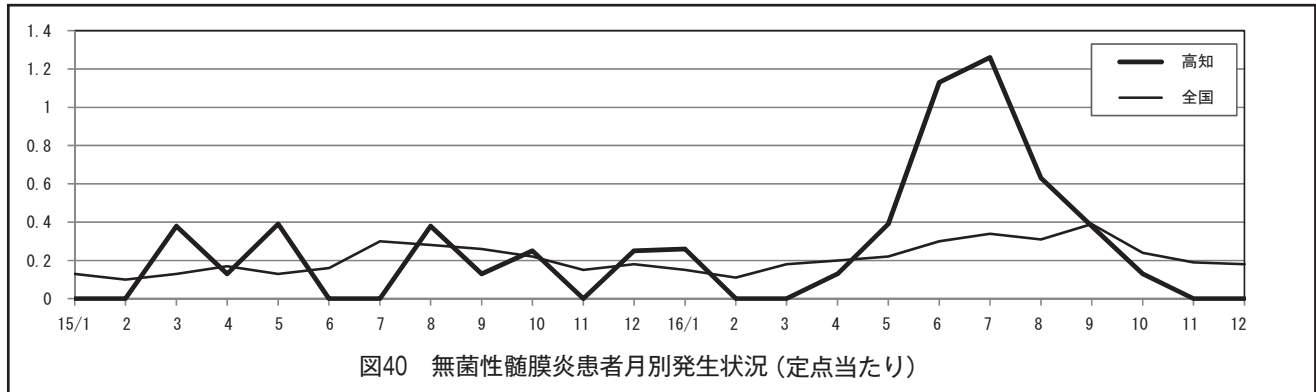
表15 流行性角結膜炎の年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2015	16	5.33	36.44
2016	21	7.00	37.72



15 無菌性髄膜炎

高知県の定点当たりの報告数は、09年以降は全国を上回っていたが、15年は全国の0.84倍と下回り、16年は再び1.47倍と上回っている。報告数は、15年は15名、16年は34名である（図40）。



16 マイコプラズマ肺炎

高知県の定点当たりの報告数は、05年以降全国より少ない報告数で推移しているが、13年、14年、15年は全国よりも多い報告数に変化している。年間報告数は15年は311名、16年は324名である。（図41）。

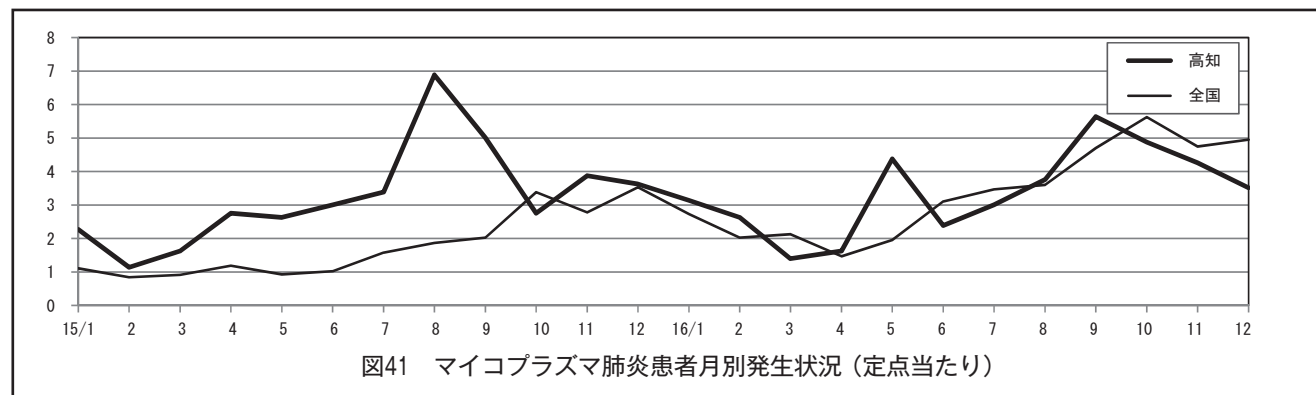


表16 施設におけるインフルエンザ様疾患年別、週別発生状況

年	1 2 月				1 月				2 月				3 月				4 月	計	型
	1 週	2 週	3 週	4 週	1 週	2 週	3 週	4 週	1 週	2 週	3 週	4 週	1 週	2 週	3 週	4 週			
1981～1982			18				42	1,406	2,181	3,457	2,063	1,072	427	49			10,715	B A 香港	
1982～1983							428	768	1,935	1,731	944	1,200	140	72			7,218	A 香港	
1983～1984						396	9,264	10,463	784		35						20,942	A ソ連	
1984～1985								628	1,376	3,015	1,663	4,057	2,822	1,051	59		14,671	B	
1985～1986	61	850	943	2,868	77		9	86	184								5,078	A 香港	
1986～1987						70	755	702	626	42		110					2,305	A ソ連	
1987～1988								12			8	1,476	412	908	1,206		74	4,096	B A 香港
1988～1989		35	338			27	624	1,009	312	117	21	66					2,549	A ソ連	
1989～1990		20	51			554	7,405	8,177	3,980	497	300	1,219	510	265	289	22	23,289	B A 香港	
1990～1991								58	12	44	55		30	43			242	B A 香港	
1991～1992							290	1,278	2,470	2,174	2,518	882	71	22			9,705	A ソ連 A 香港	
1992～1993						91	1,265	4,792	2,142	859	768	881	1,380	234			12,412	B A 香港	
1993～1994												22	20				42	A 香港	
1994～1995						569	8,977	6,622	697	129	71	85	11	19			17,180	B A 香港	
1995～1996								106	25		65	71	24			18	309	A ソ連 A 香港	
1996～1997						17	3,875	1,052	264	296	885	831	177	49	49		51	7,546	B A 香港
1997～1998						5		41	359	1,269	2,030	1,528	491	160			5,883	A 香港 B	
1998～1999	18						720	1,677	666	153	125	84	131	12		18	18	3,622	A 香港
1999～2000							378	1,955	2,184	666	348	336	126	40			6,033	A ソ連 A 香港	
2000～2001							74	20	354	661	918	1,250	671	417	193	13	4,571	B, A 香港 A ソ連	
2001～2002			49				42	214	324	446	134	512	208	21	5		1,955	B, A 香港 A ソ連	
2002～2003			38				481	2,251	1,047	929	146	386	420	98	120	91	6,007	A 香港 B	
2003～2004							115	272	195	174	58	123	46	14			997	A 香港 B	
2004～2005							36	0	8	247	389	202	357	156	78		1,473	A 香港 B	
2005～2006							72	39	307	334	1,356	1,684	866	1,282	256	38	6,234	A 香港 A ソ連, B	
2006～2007													17	98	24	31	51	221	A 香港 A ソ連, B
2007～2008							107	188	316	187	129	205	157	32		67	1,388	A ソ連, B	
2008～2009							47	443	909	355	97	40	290	85	59	23	2,348	A 香港 A ソ連, B	

年	8 月				9 月				10 月				11 月				12 月				1 月				2 月	計	型
	1 週	2 週	3 週	4 週	1 週	2 週	3 週	4 週	1 週	2 週	3 週	4 週	1 週	2 週	3 週	4 週	1 週	2 週	3 週	4 週	1 週	2 週	3 週	4 週			
2009～2010	4	32	112	167	213	63	56	203	214	645	1,852	1,826	2,589	2,265	3,072	1,277	880	846	307	3	14	94	122	100	133	17,089	Apdm09 A ソ連

年	1 2 月				1 月				2 月				3 月				4 月	計	型
	1 週	2 週	3 週	4 週	1 週	2 週	3 週	4 週	1 週	2 週	3 週	4 週	1 週	2 週	3 週	4 週			
2010～2011							50	250	193	77	72	77	54				773	B, Apdm09 A 香港	
2011～2012					14	1141	1184	574	227	56	113	40	36	32			3,417	B A 香港	
2012～2013	9		50	20		77	133	537	345	133	143	134	96	99	73		35	1,884	A 香港 B
2013～2014	16	51				10	149	101	33	64	84	96	69	98	72		67	910	A 香港 Apdm09, B
2014～2015			52	35			300	893	650	305	127	92	171	65	55	94	14	2,853	A 香港 B
2015～2016								43	57	197	185	645	556	413	124	6	94	2,320	Apdm09 B

表17 医療機関におけるインフルエンザ様疾患年別、週別発生状況

年	月、週	1 2 月				1 月				2 月				3 月				4 月	計	型	ウイルス採取月日
		1 週	2 週	3 週	4 週	1 週	2 週	3 週	4 週	1 週	2 週	3 週	4 週	1 週	2 週	3 週	4 週				
1981~1982		22	16	26	36	42	20	53	193	659	1,108	1,606	946	873	409	169	58		6,236	A 香港 B	
1982~1983		6	4	7	4	5	32	58	318	871	960	888	750	402	210	48	11		4,574	A 香港	
1983~1984		10	6	10	5	24	311	1,864	2,196	801	316	106	41	6	44	10	1		5,751	A ソ連	
1984~1985		5	2	2	1	1	7	4	33	256	802	1,461	1,789	1,836	1,034	424	214		7,871	B	60.1.29
1985~1986		194	780	1,654	1,748	609	319	184	105	72	60	12	14	2	2		5		5,760	A 香港	60.12.4
1986~1987		3	1	17	3	56	199	601	1,054	809	519	292	233	130	74	41	25		4,057	A ソ連	62.1.5
1987~1988				10	4	5	13	25	57	98	82	121	148	375	793	1,518	1,327		4,576	A 香港 B	B 型 63.1.22 A 香港 63.3.3
1988~1989		1	26	214	576	512	592	644	683	648	435	245	137	55	28	31	71		4,898	A ソ連	元.12.5
1989~1990			2	2	10	46	464	2,419	3,544	2,806	1,636	984	931	791	552	414	157		14,758	A 香港 B	A 香港元.12.20 B 型 21.24
1990~1991		16	27	23	19	17	13	23	22	60	72	59	87	99	189	253	285		1,264	A 香港 B	A 香港 3.2.27 B 型 3.4.5
1991~1992				1	4	5	12	38	240	1,135	1,854	1,718	1,313	938	529	200	65		8,052	A ソ連 A 香港	A ソ連 4.1.23 A 香港 4.1.23
1992~1993		2	3	32	55	62	394	1,598	2,741	2,238	1,572	1,537	1,377	1,334	1,154	693	337		15,129	A 香港 B	B 型 4.12.24 A 香港 5.1.7
1993~1994			3			3		4	45	80	66	52	56	49	54	14	12		438	A 香港	6.2.1
1994~1995				3	6	89	1,014	3,413	3,320	1,425	541	271	265	283	450	398	332		11,810	A 香港 B	A 香港 7.1.10 B 型 7.1.19
1995~1996		7	31	53	57	95	130	278	523	706	854	607	614	563	365	210	85	30	5,208	A ソ連 A 香港	A 香港 7.12.22 A ソ連 7.12.28
1996~1997		3	10	23	244	536	1,308	1,824	1,641	1,056	616	502	554	723	639	588	370		10,637	A 香港 B	A 香港 8.12.12 B 型 9.1.31
1997~1998		21	18	17	4	17	22	45	184	740	2,023	2,094	1,733	22	568	257	156	41	7,962	A 香港	10.1.19
1998~1999		8	2	20	39	136	777	1,856	2,075	1,233	556	433	532	212	220	169	163	115	8,546	A 香港 B	B 型 10.12.21 A 香港 11.1.4
1999~2000		8	9	9	28	108	268	1,011	1,852	2,069	1,388	891	686	468	258	122	49	21	9,245	A ソ連 A 香港	A 香港 11.12.30 A ソ連 12.1.5
2000~2001		4	3	8	7	5	7	26	36	207	527	811	1,518	1,183	1,001	980	553	245	7,121	B A 香港 A ソ連	B 型 13.1.16 A 香港 13.3.12 A ソ連 13.4.9
2001~2002		1	7	14	35	45	173	282	505	827	949	711	780	693	451	357	226	86	6,142	B A 香港 A ソ連	A 香港 13.12.14 A ソ連 13.12.18 B 型 14.1.26
2002~2003		1	9	66	131	402	887	1,738	2,325	1,908	1,542	1,083	777	855	700	614	458	305	13,801	A 香港 B	A 香港 14.12.6 B 型 14.12.20
2003~2004			3	3	4	13	56	145	344	679	962	890	1,030	719	439	269	116	24	5,696	A 香港 B	A 香港 16.1.5 B 型 16.3.18
2004~2005		2	4	12	17	15	13	44	166	387	1,003	2,040	2,780	3,083	2,695	1,857	1,031	1,391	16,540	A 香港 B	A 香港 16.12.17 B 型 17.1.19
2005~2006		1	4	22	69	119	355	506	640	784	1,022	1,548	1,915	2,170	2,046	1,289	849	524	13,863	A 香港 A ソ連 B	A ソ連 17.12.16 A 香港 17.12.9 B 型 18.1.16
2006~2007			2		1	3	5	4	5	25	108	158	213	329	382	584	836	1,983	4,638	A 香港 A ソ連 B	A 香港 19.1.23 A ソ連 19.2.14 B 型 19.3.9
2007~2008		30	57	197	289	215	351	836	1,507	1,680	1,278	704	659	449	353	268	167	284	9,324	A ソ連 B	A ソ連 19.11.27 B 型 20.1.25
2008~2009		10	12	38	29	148	346	935	1,921	2,028	1,490	1,025	689	870	750	842	825	1,042	13,000	A ソ連 A 香港 B	A ソ連 20.12.1 A 香港 21.1.9 B 型 21.1.26

年	月、週	8 月				9 月				10 月				11 月				12 月				1 月				2 月	計	型	ウイルス採取月日
		1 週	2 週	3 週	4 週	1 週	2 週	3 週	4 週	1 週	2 週	3 週	4 週	1 週	2 週	3 週	4 週	1 週	2 週	3 週	4 週	1 週	2 週	3 週	4 週				
2009~2010		107	116	144	135	180	204	152	117	228	351	798	1,293	1,538	1,863	1,910	2,204	1,551	1,347	1,216	1,067	777	610	558	298	278	19,042	Apdm09 A ソ連	Apdm09 21.8.6 A ソ連 21.8.16

年	月、週	1 2 月				1 月				2 月				3 月				4 月	計	型	ウイルス採取月日
		1 週	2 週	3 週	4 週	1 週	2 週	3 週	4 週	1 週	2 週	3 週	4 週	1 週	2 週	3 週	4 週				
2010~2011		3	1	12	26	77	226	678	1,118	1,291	937	703	640	405	545	838	738	3,463	11,701	A 香港 Apdm09 B	A 香港 22.10.4 Apdm09 22.10.28 B 型 23.2.5
2011~2012		6	0	19	53	119	937	2,847	3,201	2,602	1,749	1,056	706	406	311	291	402	1,545	16,250	A 香港 B	A 香港 23.12.10 B 型 24.1.21
2012~2013		17	61	134	156	157	350	608	986	1,533	1,413	1,216	1,090	1,210	949	621	468	425	11,394	A 香港 B	A 香港 24.10.29 B 型 24.11.5
2013~2014		96	117	188	238	312	418	645	1,003	952	631	645	859	1,034	860	913	822	1,429	11,162	A 香港 B	A 香港 25.11.16 Apdm09 26.1.8 B 型 26.1.5
2014~2015		12	24	172	451	1,034	1,479	2,383	2,452	1,791	1,121	929	826	679	475	522	542	1,076	15,968	A 香港 B	A 香港 26.9.4 B 型 27.1.6
2015~2016		7	4	2	11	21	30	86	268	789	1,148	1,596	2,247	2,372	1,944	1,478	894	2,053	14,927	A 香港 Apdm09 B	A 香港 28.1.7 Apdm09 28.1.22 B 型 28.1.28

表18 インフルエンザの年別月別患者数

	1980年 昭和55年	1981年 昭和56年	1982年 昭和57年	1983年 昭和58年	1984年 昭和59年	1985年 昭和60年	1986年 昭和61年	1987年 昭和62年	1988年 昭和63年	1989年 平成元年	1990年 平成2年	1991年 平成3年	1992年 平成4年	1993年 平成5年
1月	291	201	344	413	4,397	301	1,291	1,910	100	2,431	9,279	135	1,430	4,795
2月	3,193	692	4,444	3,687	1,275	5,888	88	1,853	449	1,465	4,342	317	5,823	6,724
3月	1,242	769	1,537	721	79	1,722	10	270	4,820	122	1,181	861	804	3,620
4月	49	35	50	2	3	31	6	37	1,199	0	55	92	12	20
5月	58	0	9	0	0	3	6	14	146	0	6	12	8	0
6月	4	0	1	0	1	0	0	5	0	1	1	0	0	20
7月	0	2	0	0	0	0	30	0	0	4	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	1	0	14	0	3	0	1	0	0	0
9月	0	0	0	1	0	0	3	2	0	0	0	0	0	0
10月	0	9	2	2	2	0	1	0	7	0	0	0	0	0
11月	0	25	6	13	10	24	8	0	0	0	58	0	0	0
12月	17	126	24	33	10	4,376	51	14	817	14	85	5	98	8
計	4,854	1,859	6,417	4,872	5,778	12,345	1,508	4,105	7,541	4,037	15,008	1,422	8,175	15,187

	1994年 平成6年	1995年 平成7年	1996年 平成8年	1997年 平成9年	1998年 平成10年	1999年 平成11年	2000年 平成12年	2001年 平成13年	2002年 平成14年	2003年 平成15年	2004年 平成16年	2005年 平成17年	2006年 平成18年	2007年 平成19年
1月	52	7,836	1,732	6,365	268	4,844	3,239	74	1,832	7,260	1,237	238	1,620	17
2月	254	2,502	2,638	2,395	6,590	2,526	5,034	3,063	3,133	4,257	3,601	6,210	5,269	504
3月	160	1,586	690	1,802	1,865	914	918	3,962	1,120	2,077	875	9,287	6,674	3,003
4月	65	154	97	205	64	476	12	187	71	137	22	546	256	1,250
5月	14	18	22	5	1	92	1	21	0	7	2		12	295
6月	0	22	0	0	7	19	0	0	0	1	0		2	22
7月	0	28	0	0	0	1	0	0	0	0	0		1	
8月	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
9月	0	23	0	0	5	0	0	0	0	0	0			
10月	2	13	0	0	8	1	0	0	1	0	0			
11月	0	3	9	9	7	14	1	2	0	0	3		3	20
12月	9	148	280	80	76	63	22	57	207	10	40		3	573
計	556	12,358	5,468	10,861	8,891	8,950	9,227	7,366	6,364	13,749	5,780	16,281	13,840	5,684

	2008年 平成20年	2009年 平成21年	2010年 平成22年	2011年 平成23年	2012年 平成24年	2013年 平成25年	2014年 平成26年	2015年 平成27年	2016年 平成28年
1月	4,589	5,378	2,241	2,098	7,103	2,101	3,330	9,139	398
2月	3,090	4,074	278	3,571	6,113	5,255	3,169	3,555	5,741
3月	908	2,852	18	3,406	1,761	3,451	3,243	1,832	7,619
4月	191	765	6	2,582	1,194	278	781	674	1,009
5月	39	102	1	630	175	113	211	54	60
6月		32	2	45	10	0	7	55	1
7月		32	0	3	0	0	0	9	0
8月		384	2	0	2		3	2	1
9月		671	4	1	0	1	56	4	0
10月	2	2,787	6	4	5	0	8	2	0
11月	5	7,515	34	4	15	50	10	31	31
12月	89	6,103	42	81	369	639	659	35	727
計	8,913	30,695	2,634	12,425	16,747	11,888	11,477	15,392	15,587

表19 月別発生状況（2015年）

単位：人

分類	疾病名	報 告 月												総計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
2類	結核	10	17	16	9	10	14	10	9	11	8	9	6	129
3類	腸管出血性大腸菌感染症							1	1					2
	腸チフス											1		1
4類	A型肝炎	1	1	1										3
	日本紅斑熱								1		1	2		4
	デング熱			1										1
	レジオネラ症						1	1	1				1	4
	重症熱性血小板減少症候群					2						1		3
5類	アメーバ赤痢		1				1					1		3
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	3	2	1	1	1	1	1	5	2		1	1	19
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症									1				1
	急性脳炎			1										1
	後天性免疫不全症候群			1	1	1		2				1		6
	侵襲性インフルエンザ菌感染症		1					1				1	2	5
	侵襲性肺炎球菌感染症	2	1		1	2	1	1		2			2	12
	水痘（入院例）				1						1			2
	破傷風			1		1	1							3
梅毒				1	1		1	1	2	1	2	2	11	
総計		16	23	22	14	18	19	18	18	18	11	19	14	210

(保健所受理日の月数で計算)

表20 保健所別発生状況（2015年）

単位：人

分類	病名	HC	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	総計
2類	結核		6	21	53	14	11	24	129
3類	腸管出血性大腸菌感染症				2				2
	腸チフス				1				1
4類	A型肝炎				3				3
	日本紅斑熱		1			1	2		4
	デング熱				1				1
	レジオネラ症				4				4
	重症熱性血小板減少症候群				1			2	3
5類	アメーバ赤痢				2		1		3
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症		1	1	14	2		1	19
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症				1				1
	急性脳炎				1				1
	後天性免疫不全症候群			4	2				6
	侵襲性インフルエンザ菌感染症				4			1	5
	侵襲性肺炎球菌感染症				12				12
	水痘（入院例）				1			1	2
	破傷風		1		2				3
梅毒				8	2		1	11	
総計			9	26	112	19	14	30	210

(保健所受理日の月数で計算)

表21 月別発生状況（2016年）

単位：人

分類	疾病名	報 告 月												総計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
2類	結核	9	8	12	11	10	9	12	17	12	9	8	6	123
3類	腸管出血性大腸菌感染症						1	4	1	28				34
4類	A型肝炎			1										1
	つつが虫病							1				2	1	4
	日本紅斑熱	1	1		2	1	2		2	1	1	2		13
	レジオネラ症					1	1					1		3
	重症熱性血小板減少症候群	2		1	1				2	1				7
5類	アメーバ赤痢					1							1	2
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1	2	1	2	2	1	2	1	2	4	2	1	21
	急性脳炎			1										1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1			1		1					3
	後天性免疫不全症候群	1	1	1	2				2		2			9
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2			1									3
	侵襲性肺炎球菌感染症	5		3	2	1	1		1		1		2	16
	水痘（入院例）					1								1
	破傷風					2				1				3
	梅毒		1	2	2		2	1	2	1			2	13
	播種性クリプトコックス症												1	1
総計		21	13	23	23	19	18	20	29	46	17	15	14	258

(保健所受理日の月数で計算)

表22 保健所別発生状況（2016年）

単位：人

分類	病名	HC	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	総計
2類	結核		9	8	12	11	10	9	123
3類	腸管出血性大腸菌感染症							1	34
4類	A型肝炎				1				1
	つつが虫病								4
	日本紅斑熱		1	1		2	1	2	13
	レジオネラ症						1	1	3
	重症熱性血小板減少症候群		2		1	1			7
5類	アメーバ赤痢						1		2
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症		1	2	1	2	2	1	21
	急性脳炎				1				1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症				1			1	3
	後天性免疫不全症候群		1	1	1	2			9
	侵襲性インフルエンザ菌感染症		2			1			3
	侵襲性肺炎球菌感染症		5		3	2	1	1	16
	水痘（入院例）						1		1
	破傷風						2		3
	梅毒			1	2	2		2	13
	播種性クリプトコックス症								1
総計			26	41	114	17	40	20	258

(保健所受理日の月数で計算)

Ⅱ 檢 査 情 報

感染症発生動向調査における病原微生物分離

前田明彦

1 月別疾患別検査数および検出件数

1) ウイルス

表1, 表2の上段の小計のとおりで, 検査件数は2015年1,000件, 2016年は756件である. 新型インフルエンザが流行した09年1,105件を除けば, 700件程度で推移していた検査件数が13年14年と900件を超え, さらに15年には1000件に到達した. 16年に減少した原因は, ウイルス感染症の減少というよりも, 業務量の増大により検体数の抑制を呼び掛けた結果であると思われる.

疾患別検査件数では, 例年通りインフルエンザと感

染性胃腸炎が多い. インフルエンザは15年84件, 16年146件で, 感染性胃腸炎は15年193件, 16年118件の依頼があった. 咽頭結膜熱は15年23件, 16年11件であった. ヘルパンギーナは15年24件, 16年22件, 手足口病は15年79件, 16年32件と流行規模より変動がある. 無菌性髄膜炎は15年39件, 16年41件で, 通常20~30件であるが時に若干増加傾向にある. その他(調査研究に係わる検体)の件数は15年554件, 16年344件である.

2) 細菌

表1, 表2の下段の小計のとおりで, 検査件数は15年101件, 16年249件で, 16年の増加は百日咳の検体増

表1 月別疾患別検査件数 (2015年)

定点区分	疾患名	計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ウイルス	咽頭結膜熱	23	3	1		6	4		2	1	1	1	2	2
	感染性胃腸炎	193	12	15	25	24	23	15	11	14	18	5	8	23
	ヘルパンギーナ	24			2		1		7	7	2	2	3	
	手足口病	79	9	5	1	4	4	9	16	16	7	6	1	1
	流行性耳下腺炎	4		1		1					2			
	インフルエンザ(小児科)	66	39	13	9	1	2			1				1
	インフルエンザ(内科)	18	7	3	5	2							1	
	無菌性髄膜炎	39	1		6	4	7	2	8	4		4	1	2
	その他	554	34	28	49	56	32	78	54	45	60	42	40	36
	小計	1,000	105	66	97	98	73	104	98	88	90	60	56	65
細菌	A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	20	1	3	6		2	2			2	2	1	1
	感染性胃腸炎	0												
	百日咳	61	8	10	4	4	5	3	6	1	4	4	7	5
	細菌性髄膜炎	2							1					1
	その他	18	1		2	1	1	1	4	1	2	2	2	1
小計	101	10	13	12	5	8	6	11	2	8	8	10	8	
合計	1,101	115	79	109	103	81	110	109	90	98	68	66	73	

表2 月別疾患別検査件数 (2016年)

定点区分	疾患名	計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ウイルス	咽頭結膜熱	11	2	2	1	2		1				1	1	1
	感染性胃腸炎	118	12	8	19	12	2	9	9	6	4	8	15	14
	水痘													
	手足口病	32				1	3	4	12	2	1	4	3	2
	伝染性紅斑	10	1	2		1		1			1	1	3	
	突発性発疹	14		2	1		2		2	2	3	1	1	
	ヘルパンギーナ	22		2					3	4	3	6	1	3
	流行性耳下腺炎	5					2	1				2		
	RSウイルス感染症	12	1	1	1		2		1	1	1	1	1	2
	インフルエンザ(小児科)	89	10	41	7	8	2	5	1	1	1	2	2	9
	インフルエンザ(内科)	57	2	28	15	5	1	1		1		2	1	1
	流行性角結膜炎	1												1
	無菌性髄膜炎	41	3	1	5	1	1	9	9	5	5	1	1	
その他	344	40	27	50	27	30	28	35	35	18	21	20	13	
小計	756	71	114	99	57	45	62	73	56	34	50	50	45	
細菌	A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	8	2				5					1		
	感染性胃腸炎	3	1			1					1			
	百日咳	212	7	21	15	13	11	22	24	11	28	17	28	15
	細菌性髄膜炎	1						1						
	その他	25	2	4	1	7	1	2	2	3		2	1	
小計	249	12	25	16	21	17	25	26	14	29	20	29	15	
合計	1,005	83	139	115	78	62	87	99	70	63	70	79	60	

加による。

百日咳は高知県衛生研究所でPCR検査が可能になった09年から11年は100件前後で推移し、12年は国立感染症研究所との共同研究と県内での流行により568件に増加したが、その後13年190件、14年69件、15年61件と減少し、16年212件と再び増加している。感染性胃腸炎は、かつては100件以上の検査が行われていたが、徐々に減少し15年0件、16年3件であった。自施設での細菌培養検査実施が原因と考えられる。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は15年20件、16年8件で03～06年は42～95件、07～16年は7～33件と徐々に減少している。原因は迅速診断キットによると考えられるが、血清型の判別と疫学の把握のためには衛生研究所での一定数の検体検査が必要である。

ウイルスと細菌の合計検査件数は、15年1,101件16年1,005件である。03年以降では12年1,769件が最高で08年597件が最低である。03～07年は839～1182件であったが、09年以降は百日咳共同研究などで変動がみられた12年を除くと989～1,369件である。今後もウイルス検査が主体となると推測される。

なお、月別ウイルス検査材料は表3、表4のとおりで、咽頭ぬぐい液が最も多く便が続く、次が鼻腔ぬぐい液または髄液の順である。冬季と夏季の検体数が多い理由はそれぞれの時期に流行するウイルス感染症のためである。便検体は1年を通して依頼が多い。

表3 ウイルス検査材料件数 (2015年)

検査材料	月												計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
咽頭ぬぐい液	79	40	55	54	39	68	56	50	40	25	31	24	561
咽頭うがい液					1	1	1		2	2			7
鼻腔ぬぐい液	3	4	5	5	2	3	13	12	19	16	7	4	93
便	16	17	27	31	25	21	18	21	24	12	12	29	253
髄液	6	3	7	5	6	10	8	2	4	4	2	4	61
穿刺液													0
鼻汁	1		1	1			1				1	3	8
喀痰等		1						3					4
尿			2	1		1	1				3	1	9
その他		1		1					1	1			4
計	105	66	97	98	73	104	98	88	90	60	56	65	1,000

検査件数は受付日に基づいて集計しています

表4 ウイルス検査材料件数 (2016年)

検査材料	月												計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
咽頭ぬぐい液	35	93	51	32	25	35	39	28	17	29	17	17	418
咽頭うがい液			1					1			3	2	7
鼻腔ぬぐい液	13	6	7	2	4	4	1	6	5	5	5	3	61
便	17	8	27	16	6	12	17	13	7	12	20	16	171
髄液	4	3	7	3	5	8	15	7	4	4	3	3	66
鼻汁	1			1	1		1				1	3	8
喀痰等	1	1				1							3
尿		2	4	1	3	2		1	1			1	15
血液											1		1
穿刺液		1											1
その他			2	2	1								5
計	71	114	99	57	45	62	73	56	34	50	50	45	756

検査件数は受付日に基づいて集計しています

2 疾患別、月別分離検出状況

1) ウイルス

疾患別、月別分離検出状況は表5、表6のとおりで、15年561件16年387件で13年656件、14年617件に比し減少した。分離検出率は、15年561/1000=56.1%、16年387/756=51.2%で13年66.4%、14年63.9%より低下した。

15年の疾患別分離検出件数(表5)は、第1位感染性胃腸炎122件、第2位インフルエンザ72件、第3位手足口病70件、第4位ヘルパンギーナ24件、第5位咽頭結膜熱9件、第6位無菌性髄膜炎8件、その他255件である。

16年の疾患別分離検出件数(表6)は、第1位インフルエンザ117件、第2位感染性胃腸炎85件、第3位手足口病25件、第4位無菌性髄膜炎15件、第5位ヘルパンギーナ11件、第6位は伝染性紅斑と突発性発疹が同数で5件、その他114件である。

さらに、以下でこれらを個別に検討する。

インフルエンザ

14～15年の流行株はAH3NTであり52件、B型はYamagata9件NT8件が検出された。時期としてはAH3NTが1月から3月まで、B型は、NTが1月から5月にかけて9件、8月に1件検出され、Yamagataが1月から3月まで検出された。1～3月にはA型1株、B型2株が同時に流行した。

15～16年の流行株はAH1pdm09が11月から4月にかけて計67件、1月にAH3NTが1件のみ検出された。B型は1月から5月にかけてYamagataが31件、Victoriaが7件検出された。6月以降の非流行期にもインフルエンザ様疾患として検体提出が促されたが、検出されたものはなかった。2016年12月にはAH3NTが8件、AH1pdm09が1件検出され、AH3NTが2017年1月以降の主たる流行株となっている。

咽頭結膜熱

15年は咽頭結膜熱検体からAdenovirus 6型2件5型1件が検出された。その他の疾患から1型8件、2型7件、5型1件、6型2件、4型1件、C型2件、NT3件の合計27件検出された。

16年は咽頭結膜熱検体からAdenovirus 1型が1件検出され、その他の疾患から、2型8件、41型3件、3型2件、4型1件、5型1件、合計16件検出された。

感染性胃腸炎

15年のNorovirusはGⅡNTが主な流行株で1月～5月に34件、12月に13件検出された。その他の株としてNoro GⅠNTが2件検出された。RotavirusはAG1が7件、AG3が3件検出された。その他では、Sapovirusが1月から9月までの長い期間にわたって計26件検出され、季節の偏りなくAstrovirusが9件、春から秋季

にかけてCoxsackievirus Aが8件、Echovirus 9件、Adenovirus 6件などが検出された。

16年のNorovirusはGⅡNTが流行株で、特徴的なことに通年性に検出され、29件検出され、その他の株は検出されなかった。Rotavirusは1-3月にAG2が4件、AG3が1件、AG8が1件、A NTが6件検出され、乳児が任意で生ワクチンが受けられるようになって、流行規模が縮小した影響か、検出数が減少している。Sapovirusが14件、Adenovirus 8件、Coxsackievirus 8件などが検出された。

ヘルパンギーナ

15年はCoxsackievirus A10型4件、A6型3件、Enterovirus NT 4件が検出された。ヘルパンギーナ以外の疾患からはA9型が15件と最も多くA10型が6件で続いている。

16年はCoxsackievirus A2型が4件と最も多く、A4型2件、A10型2件、A5型が1件検出された。ヘルパンギーナ以外の疾患からはA4型が6件、A2型が4件、A14型が2件などである。

手足口病

15年は前年から引き続きCoxsackievirus A16型が1-7月に計34件が検出され、8月からA6型に流行が移り、計13件検出された。他にEnterovirus NT 6件、Echovirus 18型2件などが検出された。

16年はEnterovirus NTが8件、Coxsackie A14が5件、A6が2件検出された。

無菌性髄膜炎

15年はEchovirus 18型が2件、Coxsackievirus A9, A10, Echo 25, HHV6, Rhinovirus, RS virus Aが各1件ずつ検出された。16年はEchovirus 6が6件とまとまった数が検出され、ほかにはMumps virus 2件、HHV7が2件、Coxsackievirus B3, Echovirus 30, Parechovirus 3, CMV, Parainfluenzavirusが各1件検出された。

その他

前述したウイルスに加えて、15年はRhinovirus 71件、RS virus 26件 (A 23件, B 3件)、HHV7 24件、HHV6 19件、Parainfluenzavirus 22件 (3型 19件, 1型 3件)、CMV 14件、EBV 11件、Human metapneumovirus 10件が検出された。16年は15年と同様に、Rhinovirus 21件、RS virus 18件 (A 9件, B 9件)、HHV7 18件、HHV6 21件、Parainfluenzavirus 8件 (3型 7件, 1型 1件)、CMV 15件、EBV 8件、Human metapneumovirus 13件、Parvovirus B19 4件、Parechovirus 3型 4件など多種のウイルスが検出された。ヘルペス群のウイルス (特にCMV, EBV, HHV6, HHV7) は生涯体内に潜伏し、病態に関与することなく再活性化することが多いので、解釈には注意を要する。

特筆すべきものとして2015年に検出されたMeasles virus A型はワクチン株と同定された。このように多種のウイルスを検出する高知県衛生研究所の技術は、新たに病原体の検出が求められる場合のみならず、病原体の由来がワクチン株によるのか野外株によるのかの鑑別等に重要である。

2) 細菌

検査総数は表7、表8の右下に示した通りで、15年101件から16年249件に増加し、その背景に百日咳の流行があった。11年389件、12年は国立感染症研究所と共同で百日咳の調査研究を行ったため、検体数の大幅な増加がみられ1,057件であったが、13年377件から14年106件に減少し、07年137件、08年102件の水準に戻っていた。病原菌分離検出状況は表のとおりで、検出率は15年 $26/101=25.7\%$ 、16年 $79/249=31.7\%$ であり、13年22.3%、14年11.3%と比較して増加した。細菌検査数の大きな比率を百日咳が占めていることから、その流行状況が検出率を左右する。そのほか、マイコプラズマの抗原検査やLAMP法、続いて百日咳のLAMP法が保険診療で認められたこと等が、検出率に影響を及ぼしている可能性がある。

疾患別分離検出率は次のとおりである。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は15年 $18/20=90.0\%$ 、16年 $7/8=87.5\%$ と13年80.0%、14年70.0%と比べて高率に検出されている。精度の高い抗原検査で陽性を確認後に検査が依頼されているからであろう。感染性胃腸炎は15年は検査依頼は0件で、その他の検体からSalmonella Thompsonが1件検出されている。16年は $3/3=100\%$ で、13年57.1% (内1件はMycoplasma pneumonia) に、14年0件と比較すると検出率は上がっている。施設内もしくは外注検査で細菌が検出されたのちに、細菌の型別等の解析目的に検査が依頼されていることを意味している。百日咳は15年 $6/61=9.8\%$ (内1件はMycoplasma pneumoniae, 2件はBordetella parapertussis)、16年 $65/212=30.7\%$ (内9件はM. pneumoniae, 1件はB. parapertussis) で、13年 $30/191=15.7\%$ 、14年 $1/69=1.4\%$ で、大きな流行がみられた12年 $207/568=36.4\%$ から年ごとに検出率が低下していたが15年から16年にかけて増加を続けていることは、百日咳の流行を反映していると考えられ、動向に注意を要する。その他は、15年 $2/18=11.1\%$ 、16年 $4/25=16\%$ 、13年24.9%、14年14.8%と小幅な増減をくりかえしている。

A群溶血性レンサ球菌は、15年は季節を問わず検出されたが2月3月が多く半数を占めた。16年は1月5月10月に検出され、特に5月に偏って多かった。13年は2-5月、14年は9-12月の検出が多かったが、年々、季節性に一定の傾向がなくなってきた。血清型は、15年はT6型8件、TB3264型3件、T12型4件、

T4型 2件, Untypable 1件の合計18件, 16年はT4型 3件, T1型 2件, TB3264型 1件, GBS (Streptococcus agalactiae) が 1件, 合計 7件が検出された。13年 (T28型 3件, T4型 2件, TB3264型, T12型, T1型 が各 1件の合計 8件), 14年 (Untypable 3件, T12型 2件, TB3264型 2件の合計 7件) と比較すると, T4型と TB3264型が継続して検出され, 他の型は登場しては消失し, 検体依頼数が少ないことも加わって, 流行型を定めることが難しい。

感染性胃腸炎は, 15年はその他の検体からSalmonella Thompsonが 1件, 16年はSalmonella enteritidis 1件, Enteropathogenic Escherichia coli O126: H27 aggR が 1件, Enteropathogenic Escherichia coli 1件が検出された。13年 (Campylobacter jejuniが 2件, Campylobacter coliが 1件), 14年 0件であったので, 年により変化している。便培養検査の多くが自施設も

しくは外注検査機関でなされるため, 統計や疫学として論ずることは難しい。

百日咳は, 15年にはBordetella pertussis 3件, 16年にはBordetella pertussis 55件が1年を通して検出され, 13年21件, 14年1件と比較して, 著増している。今後12年以内の大きな流行につながる可能性を示唆しており, 注意を要する。百日咳検体からMycoplasma pneumoniaeが多数検出されたことは, 発熱がない場合のこの2つの疾患の鑑別の困難さを示している。

感染性胃腸炎原因菌別年次推移 (表9) によると, Campylobacter jejuniが継続的に最も多く検出され, 89年から94年まではSalmonella typhimuriumが, 95年から11年まではSalmonella enteritidisが次に多く検出されている。Salmonellaがthphimuriumから enteritidisに変化した原因, およびその後徐々に検出されなくなった原因は不明である。

表7 月別件数及び病原細菌分離検出状況 (2015年)

臨床診断	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
A 群溶血性連鎖球菌咽頭炎		1/1	3/3	6/6		2/2	1/2			1/2	1/1	2/2	1/1	18/20
Streptococcus pyogenes T4				1								1		2
Streptococcus pyogenes T6			2	5		1								8
Streptococcus pyogenes T12			1				1				1		1	4
Streptococcus pyogenes TB3264		1				1				1				3
Streptococcus pyogenes Untypable												1		1
百日咳		2/8	0/10	0/4	0/4	1/5	0/3	0/6	0/1	0/4	2/4	1/7	0/5	6/61
Bordetella parapertussis		1										1		2
Bordetella pertussis		1									2			3
Mycoplasma pneumoniae						1								1
細菌性髄膜炎							0/1						0/1	0/2
その他		0/1		0/2	0/1	0/1	1/1	0/4	0/1	0/2	0/2	1/2	0/1	2/18
Mycoplasma pneumoniae												1		1
Salmonella Thompson							1							1
計		3/10	3/13	6/12	0/5	3/8	2/6	0/11	0/2	1/8	4/8	3/10	1/8	26/101

病原細菌検出数/検査件数

表8 月別件数及び病原細菌分離検出状況 (2016年)

臨床診断	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
A 群溶血性連鎖球菌咽頭炎		2/2				4/5					1/1			7/8
Streptococcus agalactiae											1			1
Streptococcus pyogenes T1		1				1								2
Streptococcus pyogenes T4		1				2								3
Streptococcus pyogenes TB3264						1								1
感染性胃腸炎		1/1			1/1					1/1				3/3
Salmonella Enteritidis										1				1
Enteropathogenic Escherichia coli		1												1
Enteropathogenic Escherichia coli O126 : H27 aggR					1									1
百日咳		2/7	7/21	4/15	4/13	5/11	9/22	4/24	5/11	11/28	6/17	6/28	2/15	65/212
Bordetella parapertussis			1											1
Bordetella pertussis		2	5	4	4	5	8	3	4	10	6	3	1	55
Mycoplasma pneumoniae			1				1	1	1	1		3	1	9
細菌性髄膜炎							0/1							0/1
その他		0/2	1/4	0/1	2/7	0/1	0/2	0/2	1/3		0/2	0/1		4/25
Bordetella pertussis					1									1
Mycoplasma pneumoniae			1		1				1					3
計		5/12	8/25	4/16	7/21	9/17	9/25	4/26	6/14	12/29	7/20	6/29	2/15	79/249

病原細菌検出数/検査件数

表9 感染性胃腸炎原因菌別年次推移

原因菌	年度	1989	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	2000	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16
	平成元年	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	26	27	
Campylobacter jejuni () は%	189 (75.2)	159 (84.5)	152 (81.2)	115 (74.6)	47 (50.8)	67 (63.2)	52 (57.1)	58 (55.7)	50 (45.5)	49 (51.6)	58 (50.8)	44 (56.4)	40 (34.5)	54 (57.4)	65 (56.0)	44 (66.7)	68 (70.1)	39 (54.9)	54 (72.0)	38 (71.7)	14 (77.8)	13 (72.2)	11 (78.6)	1 (11.1)	2 (50.0)	0	0	0	
Salmonella Enteritidis () は%	3 (1.2)	0 (3.7)	7 (1.2)	2 (1.3)	1 (1.9)	2 (4.4)	4 (12.5)	13 (38.2)	42 (31.6)	30 (20.2)	23 (16.7)	13 (40.5)	47 (17.0)	16 (30.2)	35 (12.1)	8 (8.2)	8 (12.7)	9 (6.7)	5 (7.5)	4 (5.6)	1 (11.1)	2 (14.3)	2 (14.3)	0	0	0	0	0	1 (33.3)
Enterohemorrhagic E. coli	0	0	3	2	2	3	2	1	2	1	0	0	1	0	0	3	0	1	1	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0
Salmonella Typhimurium	8	7	1	2	4	6	0	2	0	1	1	1	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎原因菌総細菌	251	188	187	154	80	106	91	104	110	95	114	78	116	94	116	66	97	71	75	53	18	18	14	9	4	0	0	3	

3 各種疾患の発生状況と病因の考察

1) インフルエンザ

患者発生状況は図1、報告人数は表10、11のとおりである。14～15年のシーズンは12月（659名）に流行が始まり、12月から6月までの報告数は計15,968名、1月がピークであった。15～16年のシーズンは1月（398名）に流行が始まり、1月から5月までの報告数は14,827名、3月がピークであった。年間報告数は、12～13年シーズン11,587名、13～14年シーズン11,430名と比べると大きな流行が続いた。03年以降で年間報告数が最も多かった年はAH1pdmが流行した09年で30,695名、最も少なかった年は翌10年2,634名であるが、この特別な2年を除くと12年16,727名が最も多く、07年5,684名が最も少ない。

月別ウイルス分離状況（表10、11）をみると、14～15年のシーズンはAH3NTとそれよりも規模は小さいが、B NTとB Yamagataが、15～16年のシーズンはAH1pdm09と、それよりもやや少ないB Yamagataと

B/Victoriaが、それぞれほぼ同時期に流行し、大規模な流行となった。2シーズンともB型ウイルスによる発症が5月まで続いた。

インフルエンザ報告人数

2015年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2016年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
	9,139	3,555	1,832	674	54	55	9	2	4	2	31	35	15,392
	398	5,741	7,619	1,009	60	1	0	1	0	0	31	727	15,587

表10 インフルエンザの月別ウイルス分離状況

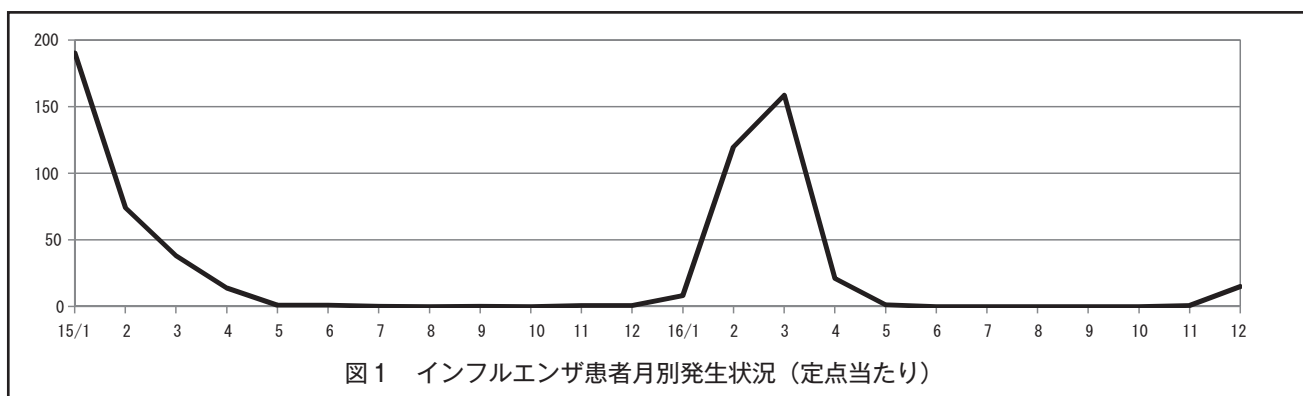
(2015年)

ウイルス	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
A H3 NT		38	10	4										52
A H1pdm09												1	1	2
B NT		2		3	1	1			1					8
B Yamagata		2	3	4										9
Rhinovirus					1									1

表11 インフルエンザの月別ウイルス分離状況

(2016年)

ウイルス	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
A H3 NT		1											8	9
A H1pdm09		7	45	10	2								1	65
B/Victoria		2	3		1	1								7
B Yamagata		1	12	8	9	1								31
Cox A4								1						1
Echo 6							1							1
HHV 6				1										1
HHV 7								1						1
RS-B							1							1



2) 咽頭結膜熱

患者発生状況は図2、報告人数は表12、13のとおりある。15年の年間報告数は165名、ピークは7月と12月の二峰性、16年の年間報告数は715名、ピークは9月である。15年は全国の疫学同様に夏と年末に2つのピークがみられたが、16年は12月のみにピークが現れ、例年の高知県のパターン（一峰性）であった。03年以降の年間報告数をみると、08年までは729～522名であるが、09～15年は473～149名と減少している。16年はひさびさの大きな流行であったことがわかる。15年の月別ウイルス分離状況（表12）ではAdenovirus 6型が2件、5型が1件検出された。16年の月別ウイルス分離状況（表13）をみると、10月にAdenovirus 1型が1件検出され流行株であったと推測される。

咽頭結膜熱報告人数

2015年	1月	10	2016年	1月	10
	2月	8	2月	10	
	3月	12	3月	12	
	4月	10	4月	16	
	5月	15	5月	31	
	6月	24	6月	48	
	7月	29	7月	70	
	8月	14	8月	82	
	9月	5	9月	153	
	10月	8	10月	128	
	11月	10	11月	97	
	12月	20	12月	58	
	合計	165		715	

表12 咽頭結膜熱の月別ウイルス分離状況

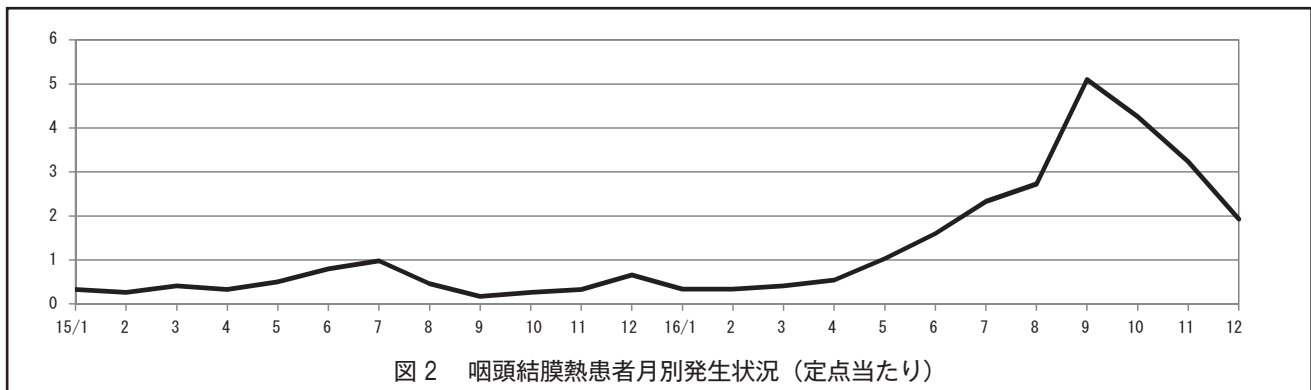
(2015年)

ウイルス	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
Adeno 5					1									1
Adeno 6		1			1									2
CMV			1											1
EBV			1											1
hMPV						1								1
Rhino		1	1				1							3

表13 咽頭結膜熱の月別ウイルス分離状況

(2016年)

ウイルス	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
Adeno 1											1			1
Cox A4							1							1
HHV 6			1											1
HHV 7			1											1



3) 感染性胃腸炎

患者発生状況は図3、報告人数は表のとおりである。14～15年のシーズンは11月371名、12月716名と流行がはじまり、1月に947名とピークを形成し、その後なだらかに減少し、9月に最小報告数となった。10月から再上昇し、12月1,052名、1月1,073名と15～16年シーズンのピークとなった。その後はなだらかに減少し、8月に232名まで減少し底を打ち、9月から再び上昇に転じた。報告数は15年が6,475名、16年が7,183名であり、いずれも比較的規模の小さな流行であったといえる。03年以降の年間報告数は、06年11,070名が最高で、03年6,123名が最低である。

感染性胃腸炎報告人数

2015年	1月	947	2016年	1月	1,073
	2月	723	2月	685	
	3月	659	3月	927	
	4月	690	4月	579	
	5月	495	5月	482	
	6月	573	6月	471	
	7月	392	7月	263	
	8月	217	8月	232	
	9月	172	9月	378	
	10月	223	10月	420	
	11月	332	11月	594	
	12月	1,052	12月	1,079	
	合計	6,475		7,183	

15年の月別ウイルス分離状況（表14）をみると、

Norovirusは、13、14年と同様にNoro GII NTが流行株で1～5月に34件検出され、他にGI NTが2件検出されている。Rotavirusの流行株としてAG1が2～5月に6件、AG3が5～6月に3件検出された。Norovirusと同じカリシウイルス属のSapovirusは1～9月に26件検出され、Norovirusに次ぐ2番目の頻度で、感染性胃腸炎の重要なウイルスである。それ以外では、Echovirusが9件（5～7月に25型8件、3型1件）、4～9月にCoxsackievirusが8件（A9 4件、A16 2件、A2 1件、A6 1件）、5～10月にAdenovirusが6件（1型 2件、2型 4型 5型NTが各

1件）、Astrovirusが通年性に9件検出された。

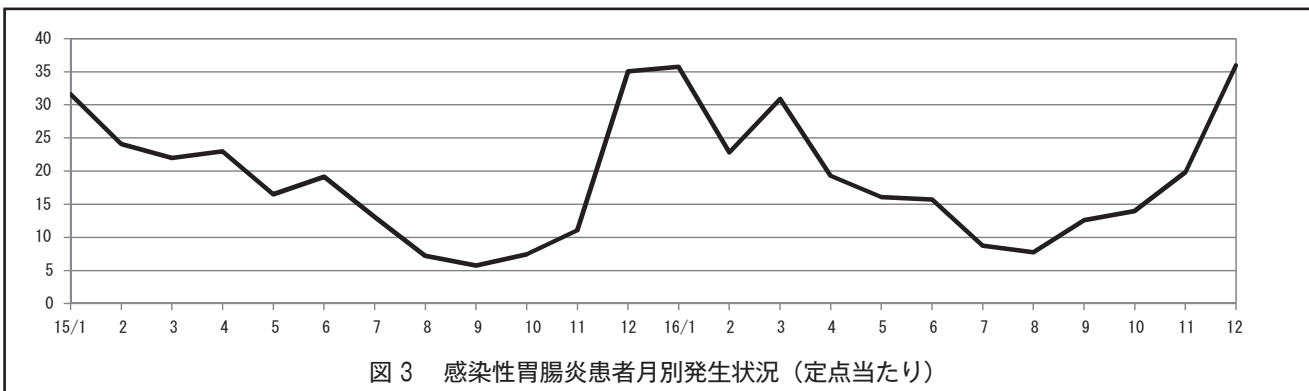
16年の月別分離状況（表15）では、NorovirusはNorovirus GIIが流行株で5、7、10月を除いて通年性に計29件が検出された。Rotavirusは1～3月に計12件（AG2が4件、AG3 1件、AG8 1件、A NT 6件）が検出された。Sapovirusは3～5月、11～12月に14件検出された。そのほかにAdenovirusが8件（2型 5件、4型 5型41型が各1件）、Echovirusが6件（6型 5件、30型 1件）、Coxsackievirusが8件（A2 4件、A4、A9、A14、B4が各1件）検出されている。

表14 感染性胃腸炎の月別ウイルス分離状況
(2015年)

ウイルス	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
Adeno 1							1	1						2
Adeno 2					1									1
Adeno 4											1			1
Adeno 5								1						1
Adeno NT						1								1
Astro NT		1				3	2		1		1		1	9
Cox A2									1					1
Cox A6											1			1
Cox A9									2	2				4
Cox A16					1		1							2
Echo 3	1													1
Echo 25						3	4	1						8
hMPV					1									1
Influ B NT				1										1
Noro GI NT					1			1						2
Noro GII NT	6	5	12	7	4								13	47
Parainfluenza 3										1				1
Rhino				1				1						2
Rota AG1		1	2		3							1		7
Rota AG3						2	1							3
Sapo	2	2	4	2	5	8	2			1				26

表15 感染性胃腸炎の月別ウイルス分離状況
(2016年)

ウイルス	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
Adeno 2				3			2							5
Adeno 4									1					1
Adeno 5												1		1
Adeno 41											1			1
Astros NT			1						1				1	3
Cox A2												2	2	4
Cox A4												1		1
Cox A9			1											1
Cox A14												1		1
Cox B4												1		1
Echo 6							1	4						5
Echo 30											1			1
EBV			1											1
HHV 6								1						1
Noros GII NT	8	1	1	3		1		2	1			6	6	29
Parechos 3									1					1
Rhino				1					1					2
Rota AG2				4										4
Rota AG3	1													1
Rota AG8	1													1
Rota A NT		4	2											6
Sapo			2	2	1							6	3	14



4) 手足口病

患者発生状況は図4、報告人数は表のとおりである。15年は前年夏には流行がみられず10月から増加し12月に368名とピークを迎えたあとだらだらと流行が続き、4月240名と7～9月に400名台の2峰性ピークがあり、年間報告数は2,479名と比較的大きな流行であった。16年は6月から流行がはじまり、同月にピークを形成し、年間報告数は359名と少なかった。03年以降の年間報告数は、11年3,345名が最高で、12年97名が最低で変動幅が大きな疾患であり、2～3年報告数が多い年の翌年は少なくなる傾向がある。15年の月別ウイルス分離状況(表16)をみると、流行株は1～7月がCoxsackievirus A16型(34件)、8～11月がCoxsackievirus A6型(13件)でほかに、Echovirus 18 2件、Coxsackievirus A9とA10が各1件、Enterovirus NT 6件が検出された。16年の月別分離状況(表17)では、Coxsackievirus A14が4～10月に

5件、10月以降にA6が2件、5～7月にEnterovirus NTが8件検出された。ここ2年間にEnterovirus 71は1件も検出されていない。

手足口病報告人数

2015年	報告人数	2016年	報告人数
1月	106	1月	2
2月	75	2月	5
3月	85	3月	0
4月	240	4月	4
5月	191	5月	12
6月	183	6月	115
7月	437	7月	79
8月	414	8月	30
9月	471	9月	27
10月	255	10月	52
11月	18	11月	17
12月	4	12月	16
合計	2,479		359

表16 手足口病の月別分離状況

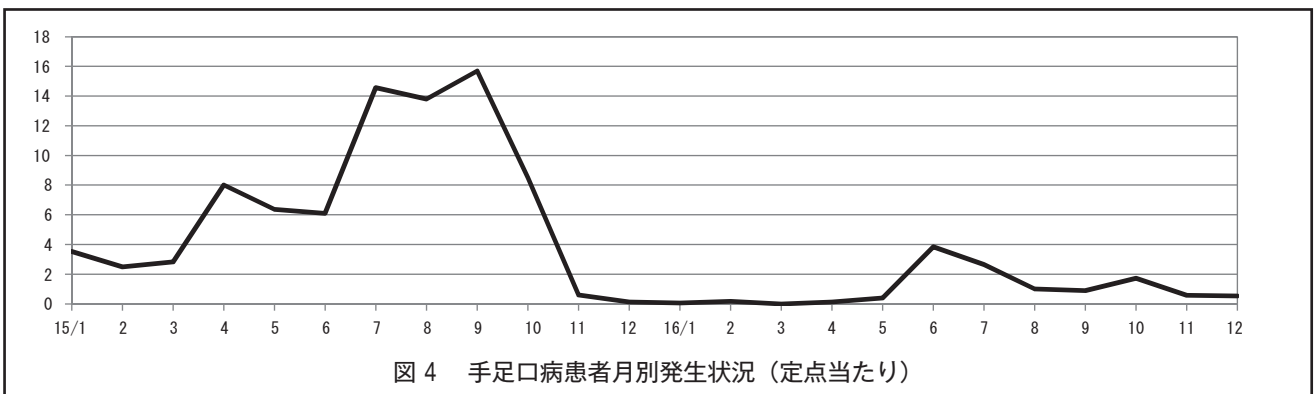
(2015年)

ウイルス	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
Adeno C						2							2
Cox A6								2	5	5	1		13
Cox A9								1					1
Cox A10							1						1
Cox A16	6	5	1	2	3	7	10						34
Echo 18								2					2
Entero NT							4	2					6
HHV6						1	1						2
HHV7				1			1	2					4
Noro GII NT	1												1
Rhino	2							1		1			4

表17 手足口病の月別分離状況

(2016年)

ウイルス	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
Adeno 3										1			1
Cox A6										1	1		2
Cox A14				1			2		1	1			5
CMV							1						1
Entero NT					2	2	4						8
HHV 6										1			1
HHV 7								1		1			2
Parecho 3								1					1
Rhino						3	1						4



5) ヘルパンギーナ

患者発生状況は図5、報告人数は表のとおりである。流行期間は、15年は7～9月で16年は6～9月であった。年間報告数はいずれも少なく、15年が967名であり、16年は792名で09年に次ぐ少なさであった。03年以降の年間報告数は、13年1,714名とAH1pdmが流行した09年668名を除くと（09年は新型インフルエンザ以外の多くの疾患の報告数が大幅に減少した）、1,319～807名で変動幅が比較的小さく、流行時期の変動も少ない疾患である。15年の月別ウイルス分離状況（表18）をみると、流行株はCoxsackievirus A10型が4件、Enterovirus NTが4件で、9～11月にCosackievirus A6が3件検出された。16年の月別ウイルス分離状況（表19）をみると、Coxsackievirus A4型が6～7月に2件、10～12月にCox.A2型が4件検出され、この2つの型が流行株である。

ヘルパンギーナ報告人数

2015年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
0	3	3	9	11	19	343	397	145	27	6	4	967	
2016年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
0	2	1	8	16	176	354	114	50	29	32	10	792	

表18 ヘルパンギーナの月別ウイルス分離状況

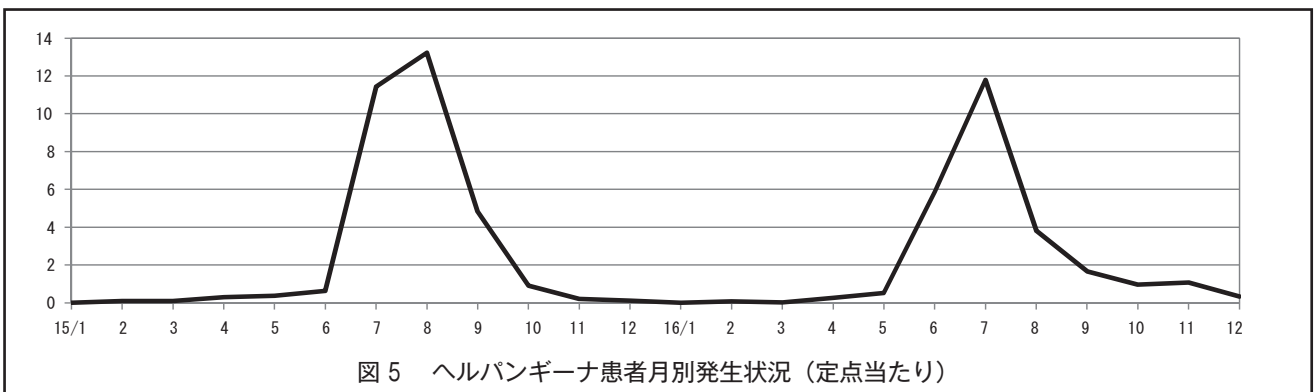
(2015年)

ウイルス	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
Adeno 2												1		1
Cox A6										1	1	1		3
Cox A10								2	2					4
Entero NT								2	1		1			4
HHV 6				1										1
HHV 7									1					1
HSV 1									1					1
Parainfluenza 3								1	1					2
RS-A											1			1
Rhino						1		2			1	1		5
Sapo												1		1

表19 ヘルパンギーナの月別ウイルス分離状況

(2016年)

ウイルス	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
Adeno 41							1							1
Cox A2											1	1	2	4
Cox A4							1	1						2
Cox A5											1			1
Cox A10			2											2
hMPV							1							1



6) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

患者発生状況は図6，報告人数は表のとおりで，基本的には夏から秋に減少し，11月頃から増加に転ずる疾患である。15年は夏季に減少傾向はみとめたものの，1年を通して多く報告され，4月，6月，12月と3つのピークを認めた。16年は2月，6月，12月にピークがあり，多い数字で推移した。年間報告数は15年2,934名，16年2,537名と03年以降では1位2位の多さであった。03年以降の年間報告数は，2498～771名と変動幅が大きい。15年のT型別検出状況（表20）は，T-6型8件，B3264型3件，T-12型4件，T-4型2件，UT1件であった。16年（表21）はT-4型3件，T-1型2件，B3264型1件であった。

表22は89年以降のT型別の推移を示している。分離件数の多い順は，1位T-12型484件，T-4型454件，T-1型362件で15～16年にも検出されている。流行の

規模に比して分離株数が減少しているのので，検査定点機関からの検体の提出をお願いしたい。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎報告人数

2015年1月	201	2016年1月	263
2月	243	2月	372
3月	278	3月	357
4月	322	4月	242
5月	259	5月	197
6月	332	6月	247
7月	287	7月	128
8月	88	8月	82
9月	139	9月	117
10月	174	10月	108
11月	228	11月	146
12月	383	12月	278
合計	2,934		2,537

表20 A群レンサ球菌T型別検出状況（患者由来） 誤

T型別	2015年 月別菌株数												計	%
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
T-4			1									1	2	11.11
6			2	5	1								8	44.44
12			1			1					1	1	4	22.2
B3264	1				1				1				3	16.7
UT												1	1	5.6
計	1	3	6		2	1			1	2	1	1	18	100

表21 A群レンサ球菌T型別検出状況（患者由来）

T型別	2016年 月別菌株数												計	%
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
T-1	1				1								2	33.3
4	1					2							3	50.0
B3264						1							1	16.7
計	2				4								6	100

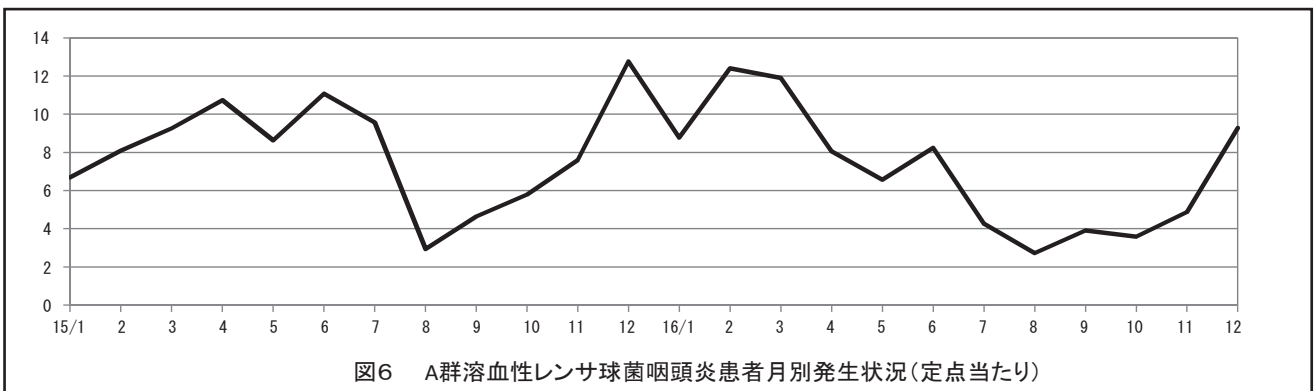


表22 T型別の年次推移

年	T型別	1	2	3	4	6	9	11	12	13	22	23	25	28	B3264	5/27/44	14/49	UT	分離株数
1989		16			12	28		2	12		2			4	10				86
1990		44			20	9	2	2	41		7			3	6			1	135
1991		32			48	1	3	1	36	3	43	1		2	2			4	176
1992		12			76			9	33	15	26			3	4	3		5	186
1993		21		46	40			2	31	24	8			1	40	1		1	215
1994		8		67	8			1	32	1	4			7	15			4	147
1995		5		11	26				34					1	7	1		5	90
1996		30		1	39			2	44	1				15	6			9	147
1997		41	2	7	17	1		1	52		2			9	11			16	159
1998		11	2	2	21	39		2	25		1		2	18	18				141
1999		11	3	2	32	45			13	1	10			18	13			5	153
2000		1	3	1	4				3	1			3		3			1	20
2001		19	1	1					22				7	11	3		1		65
2002		40	1		6	3			20				1	3	6			1	81
2003		6			27			4	4				2	2	5			3	53
2004		2			41				18				4	1	4		1	5	76
2005					10				11									2	23
2006		19			2	1	2		14									5	43
2007		17			3		1		7								1	1	30
2008		1			5								10						16
2009									1					3				1	5
2010		4			8				6				2					3	23
2011		9			1				14				1	1	3				29
2012		10			1				4				2	2				4	23
2013		1			2				1					3	1				8
2014									2						2			3	7
2015					2	8			4						3			1	18
2016		2			3										1				6
合計		362	12	138	454	135	8	26	484	46	103	1	34	107	163	5	3	80	2,161

表23 薬剤別, T型別, MIC値 (2013年1月~12月分離菌株)

(東京都健康安全研究センター)

薬剤感受性試験結果 (微量液体希釈法: ドライプレート (栄研化学) 使用)											
No.	T型別	ABPC	CEX	CDTR	CFDN	TC	CP	EM	CAM	CLDM	LCM
1	T-1	0.03 (S)	0.5 (S)	0.008 (S)	0.008 (S)	0.25 (S)	4 (S)	16 (R)	16 (R)	<=0.5 (S)	0.25
2	T-28	0.03 (S)	0.5 (S)	0.008 (S)	0.008 (S)	0.12 (S)	2 (S)	64 (R)	16 (R)	4 (R)	>64
3	T-12	0.03 (S)	0.25 (S)	0.008 (S)	0.008 (S)	64 (R)	4 (S)	64 (R)	16 (R)	4 (R)	>64
4	T-4	0.03 (S)	0.25 (S)	0.008 (S)	<=0.004 (S)	64 (R)	1 (S)	0.06 (S)	0.03 (S)	<=0.5 (S)	0.12
5	T-4	0.03 (S)	0.5 (S)	0.008 (S)	0.008 (S)	32 (R)	1 (S)	0.06 (S)	0.03 (S)	<=0.5 (S)	0.12
6	T-B3264	0.03 (S)	0.25 (S)	0.008 (S)	0.008 (S)	0.25 (S)	2 (S)	0.12 (S)	0.06 (S)	<=0.5 (S)	0.25
7	T-28	0.03 (S)	0.5 (S)	0.008 (S)	0.008 (S)	0.12 (S)	4 (S)	64 (R)	16 (R)	4 (R)	>64
8	T-28	0.03 (S)	0.5 (S)	0.008 (S)	0.008 (S)	0.12 (S)	4 (S)	64 (R)	16 (R)	4 (R)	>64

S: 感性 I: 中間 R: 耐性

表24 薬剤別, T型別, MIC値 (2014年1月~12月分離菌株)

(東京都健康安全研究センター)

薬剤感受性試験結果 (微量液体希釈法: ドライプレート (栄研化学) 使用)											
No.	T型別	ABPC	CEX	CDTR	CFDN	TC	CP	EM	CAM	CLDM	LCM
1	T-UT	0.03 (S)	0.5 (S)	0.008 (S)	0.008 (S)	64 (R)	4 (S)	64 (R)	16 (R)	>4 (R)	>64
2	T-UT	0.03 (S)	0.25 (S)	0.008 (S)	0.008 (S)	0.12 (S)	2 (S)	0.12 (S)	0.06 (S)	<=0.5 (S)	0.25
3	T-B3264	0.03 (S)	0.25 (S)	0.008 (S)	0.008 (S)	0.25 (S)	2 (S)	0.12 (S)	0.06 (S)	<=0.5 (S)	0.25
4	T-UT	0.03 (S)	0.5 (S)	0.008 (S)	0.008 (S)	0.25 (S)	2 (S)	2 (R)	1 (R)	<=0.5 (S)	0.25
5	T-12	0.03 (S)	0.5 (S)	0.008 (S)	0.008 (S)	64 (R)	4 (S)	64 (R)	16 (R)	>4 (R)	>64
6	T-12	0.03 (S)	0.25 (S)	0.008 (S)	0.008 (S)	64 (R)	4 (S)	64 (R)	16 (R)	>4 (R)	>64
7	T-B3264	0.03 (S)	0.25 (S)	0.008 (S)	<=0.004 (S)	0.25 (S)	2 (S)	0.12 (S)	0.06 (S)	<=0.5 (S)	0.12

S: 感性 I: 中間 R: 耐性

表25 薬剤別, T型別, MIC値 (2015年1月~12月分離菌株)

(東京都健康安全研究センター)

薬剤感受性試験結果 (微量液体希釈法: ドライプレート (栄研化学) 使用)											
No.	T 型別	ABPC	CEX	CDTR	CFDN	TC	CP	EM	CAM	CLDM	LCM
1	T-B3264	0.015 (S)	0.25 (S)	0.008 (S)	0.008 (S)	32 (R)	4 (S)	64 (R)	16 (R)	>4 (R)	>64
2	T-12	0.03 (S)	0.5 (S)	0.008 (S)	0.015 (S)	64 (R)	4 (S)	64 (R)	16 (R)	>4 (R)	>64
3	T-6	0.015 (S)	0.25 (S)	0.008 (S)	0.008 (S)	0.25 (S)	2 (S)	0.12 (S)	0.06 (S)	<=0.5 (S)	0.25
4	T-6	0.015 (S)	0.25 (S)	0.008 (S)	0.008 (S)	0.25 (S)	4 (S)	0.12 (S)	0.06 (S)	<=0.5 (S)	0.25
5	T-6	0.015 (S)	0.25 (S)	0.008 (S)	0.008 (S)	0.25 (S)	2 (S)	0.12 (S)	0.06 (S)	<=0.5 (S)	0.25
6	T-6	0.03 (S)	0.25 (S)	0.008 (S)	0.008 (S)	0.25 (S)	2 (S)	0.12 (S)	0.06 (S)	<=0.5 (S)	0.25
7	T-4	0.03 (S)	0.5 (S)	0.008 (S)	0.015 (S)	0.25 (S)	2 (S)	0.06 (S)	0.06 (S)	<=0.5 (S)	0.25
8	T-6	0.015 (S)	0.25 (S)	0.008 (S)	0.008 (S)	0.25 (S)	2 (S)	0.12 (S)	0.06 (S)	<=0.5 (S)	0.25
9	T-6	0.015 (S)	0.25 (S)	0.008 (S)	0.008 (S)	0.25 (S)	2 (S)	0.12 (S)	0.06 (S)	<=0.5 (S)	0.25
10	T-6	0.015 (S)	0.25 (S)	0.008 (S)	0.008 (S)	0.12 (S)	2 (S)	0.06 (S)	0.06 (S)	<=0.5 (S)	0.25
11	T-6	0.03 (S)	0.25 (S)	0.008 (S)	0.008 (S)	0.12 (S)	2 (S)	0.12 (S)	0.06 (S)	<=0.5 (S)	0.25
12	T-B3264	0.015 (S)	0.25 (S)	0.008 (S)	0.008 (S)	0.25 (S)	2 (S)	0.12 (S)	0.06 (S)	<=0.5 (S)	0.12
13	T-12	0.03 (S)	0.5 (S)	0.008 (S)	0.008 (S)	0.25 (S)	4 (S)	0.12 (S)	0.12 (S)	<=0.5 (S)	0.25
14	T-B3264	0.015 (S)	0.5 (S)	0.008 (S)	0.008 (S)	0.12 (S)	2 (S)	0.12 (S)	0.06 (S)	<=0.5 (S)	0.25
15	T-12	0.03 (S)	0.5 (S)	0.008 (S)	0.008 (S)	0.25 (S)	8 (I)	0.12 (S)	0.12 (S)	<=0.5 (S)	0.5
16	T-4	0.03 (S)	0.25 (S)	0.008 (S)	0.008 (S)	32 (R)	2 (S)	0.06 (S)	0.03 (S)	<=0.5 (S)	0.12
17	T-UT	0.03 (S)	0.5 (S)	0.008 (S)	0.008 (S)	0.25 (S)	4 (S)	0.12 (S)	0.12 (S)	<=0.5 (S)	0.25
18	T-12	0.03 (S)	0.5 (S)	0.008 (S)	0.008 (S)	0.25 (S)	4 (S)	0.12 (S)	0.12 (S)	<=0.5 (S)	0.5

S: 感性 I: 中間 R: 耐性

<参考>

* CLSI : M100-S21,Jan.2011

MIC Interpretive Standard for Streptococcus spp. β -Hemolytic Group

	S	I	R
ABPC (ampicillin)	≤ 0.25	-	-
CEX (cephalexin) I	≤ 0.5	-	-
CFDN (cefdinir) III		-	-
CDTR (cefditoren) III		-	-
TC (tetracycline)	≤ 2	4	≥ 8
CP (chloramphenicol)	≤ 4	8	≥ 16
EM (erythromycin)	≤ 0.25	0.5	≥ 1
CAM (clarithromycin)	≤ 0.25	0.5	≥ 1
CLDM (clindamycin)	≤ 0.25	0.5	≥ 1
LCM (lincomycin)	-	-	-

<参考>

* CLSI : M100-S23,Jan.2013

MIC Interpretive Standard for Streptococcus spp. β -Hemolytic Group

	S	I	R
ABPC (ampicillin)	≤ 0.25	-	-
CEX (cephalexin) I	≤ 0.5	-	-
CFDN (cefdinir) III		-	-
CDTR (cefditoren) III		-	-
TC (tetracycline)	≤ 2	4	≥ 8
CP (chloramphenicol)	≤ 4	8	≥ 16
EM (erythromycin)	≤ 0.25	0.5	≥ 1
CAM (clarithromycin)	≤ 0.25	0.5	≥ 1
CLDM (clindamycin)	≤ 0.25	0.5	≥ 1
LCM (lincomycin)	-	-	-

Ⅲ 地 域 情 報

2015年、2016年高知県須崎地域における感染症発生動向

もりはた小児科 森 畑 東洋一

はじめに

2015年2016年における須崎地域における感染症発生動向を、インフルエンザ、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、手足口病（HFMD）および2014年10月1日から始まった水痘ワクチンによる水痘の発生状況の変化、2016年流行の肺炎マイコプラズマ感染症について、2012年大きな流行のあった百日咳、その後の発生状況について報告する。

A インフルエンザ

1) 流行パターン

図1, 2はそれぞれ14-15年（以下15年）、15-16年（以下16年）シーズンにおける当地の流行パターンを県サーベイランスの発生数と比較してみた。

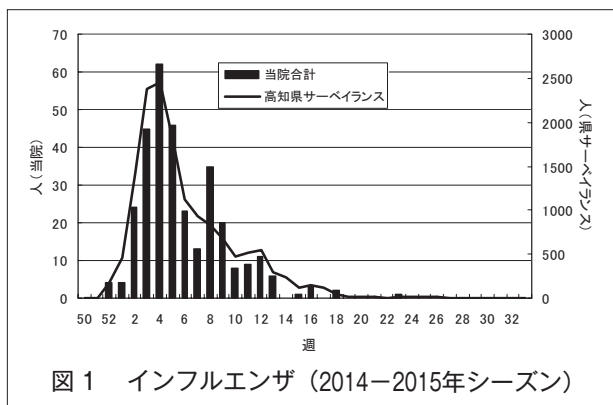


図1 インフルエンザ（2014-2015年シーズン）

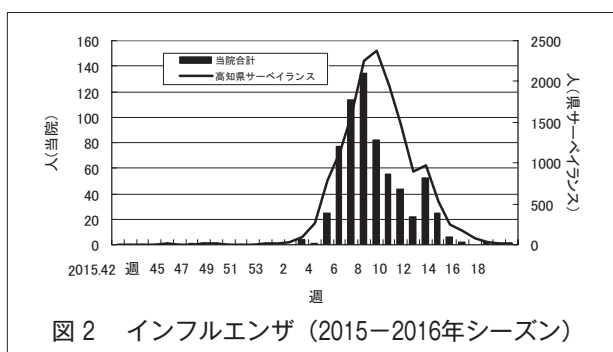


図2 インフルエンザ（2015-2016年シーズン）

2015・2016年シーズンとも当地域の患者発生パターンは県サーベイランスの発生パターンと類似し、15年シーズンは2週から、16年シーズンは8週から患者の急増がみられそれぞれ第4週と8週にピークがあり、それぞれ14週、15週に終息に向かい、患者発生数は2015年シーズン319人、2016年647人で2015年比2倍を上回る流行がみられた。

2) 年齢別患者数

図3, 図4はそれぞれのシーズンの年齢別患者数を示す。

両シーズンとも年齢別発生パターンは類似し、

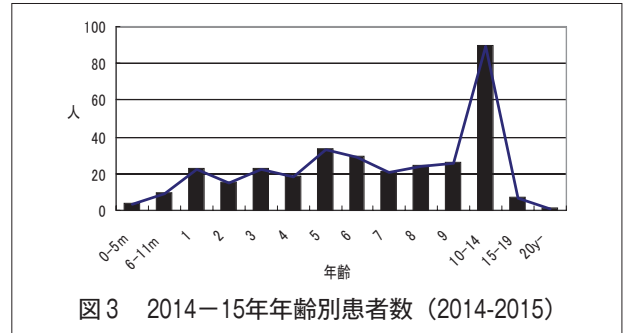


図3 2014-15年年齢別患者数（2014-2015）

5-6歳をピークになだらかな山を描く。

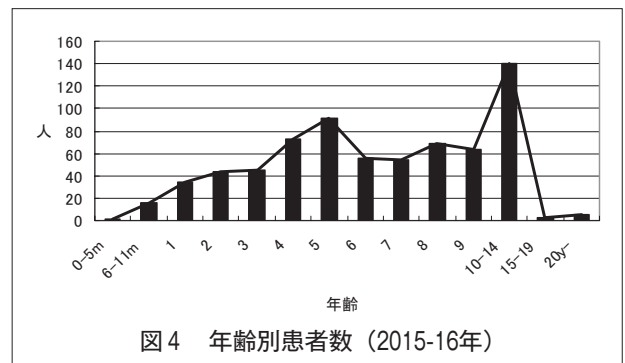


図4 年齢別患者数（2015-16年）

3) 型別発生数

週別一型別（図5, 図6）

15年シーズンは14年第52週にA型を検出。その後2週からA型を中心に急増、B型は5週に検出され、少数ながら18週まで検出され合計319名（A型244、B型70名）の患者発生をみる。

16年シーズンは第3週にA型を検出、その後5-9週にかけ急増、さらに同時期からB型が増加し19週まで検出され合計647名（A型388名、B型

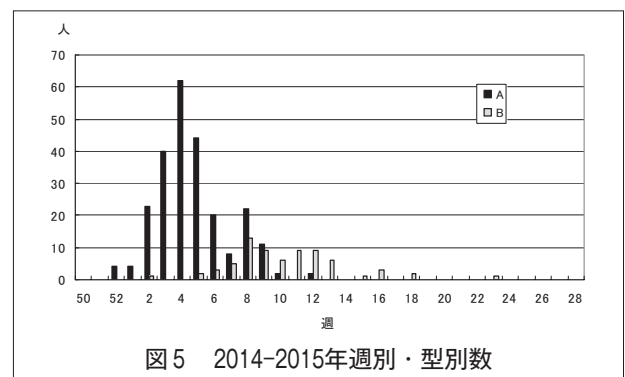
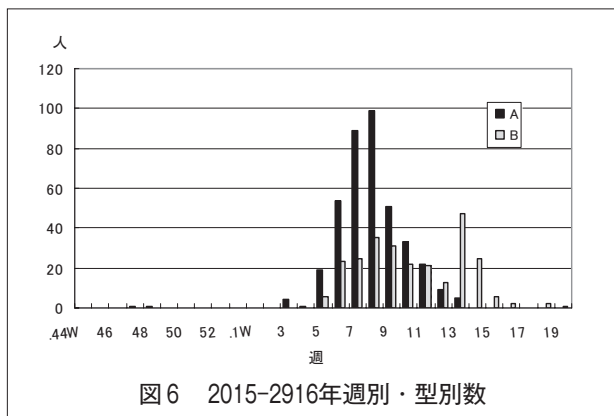


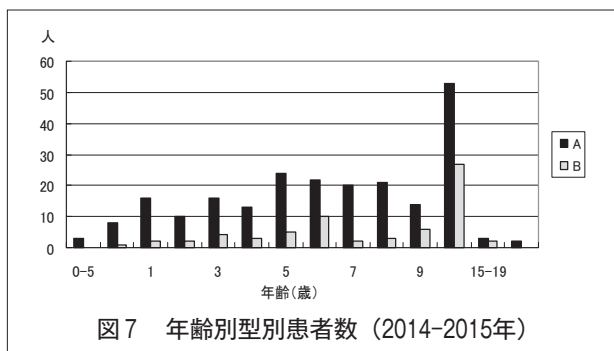
図5 2014-2015年週別・型別数

253名)とB型が多く検出された流行であった。(インフルエンザワクチンが4価になったが)

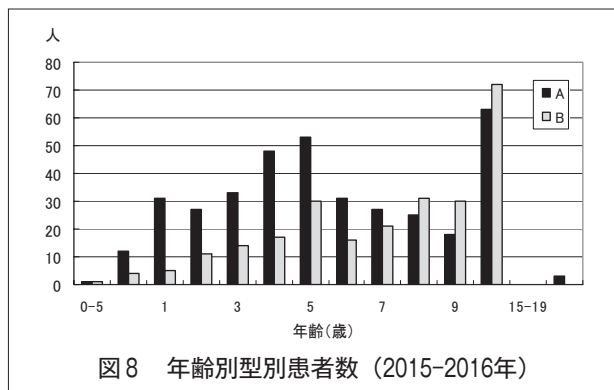


年齢別-型別 (図7, 図8)

2015年シーズンは各年齢群, A型優位にB型が少数混入するパターン (図7) を示すのに対し, 16



年シーズンもA型優位であるが, 年齢に伴ってB型が増加する傾向にあり8歳以上ではB型が逆転する (図8)。



4) 分離ウイルス (表1, 2)

衛生研究所 (衛研) で2015, 16シーズン分離されたウイルスを示す. 15シーズンはA型はAH3を中心に少数のB型を分離, B/YAMAGATA 1例分離.

16シーズンA型は主にAH1pdm09が分離され,

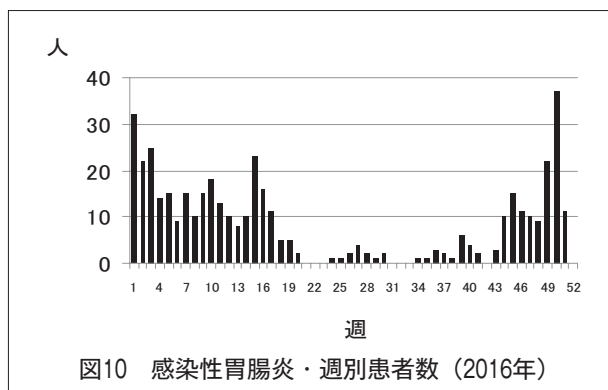
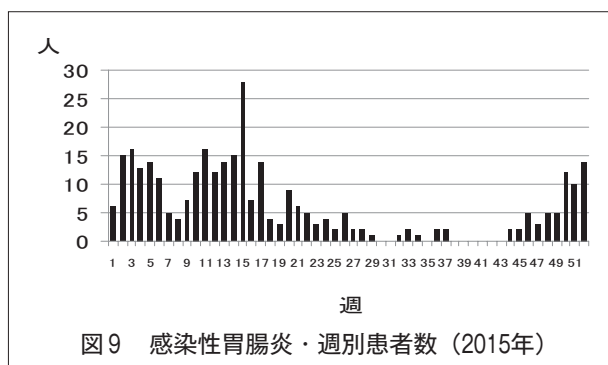
AH3が少数, B/YAMAGATA10例が6週以降に検出された.

表1 2014-2015 シーズン 表2 2015-2016シーズン

ウイルス型	2014-2015 シーズン	ウイルス型	2015-2016 シーズン
AH3	22	AH3	ND
AH3N2	3	AH3N2	ND
AH3NT	1	AH3NT	3
AH1pdm09	1	AH1pdm09	20
B NT	4	B NT	ND
B/YAMAGATA	1	B/YAMAGATA	10

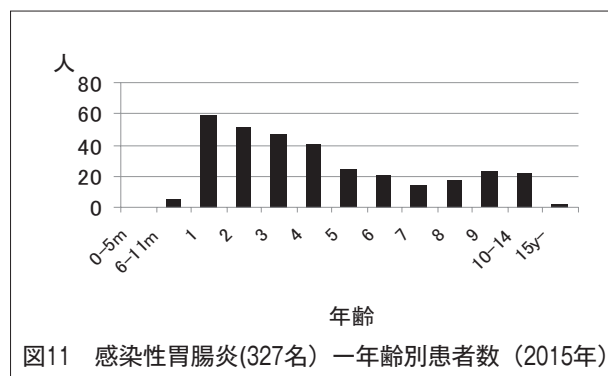
B 感染性胃腸炎

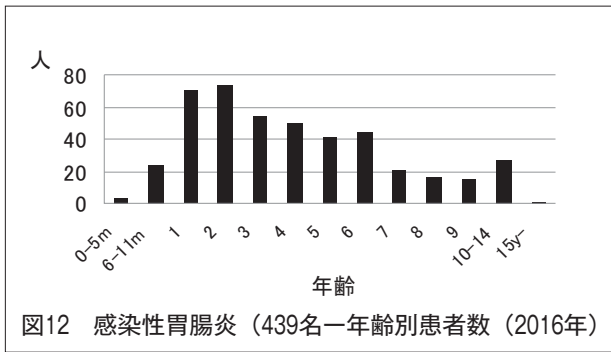
1) 週別患者数・年齢別患者数



2015, 2016年シーズンの臨床診断による週別患者数を図9, 図10に示す. 15年327名, 16年439名の発生をみる.

年齢別患者数を図11, 12に示す.





2) ロタウイルス・ノロウイルス迅速結果

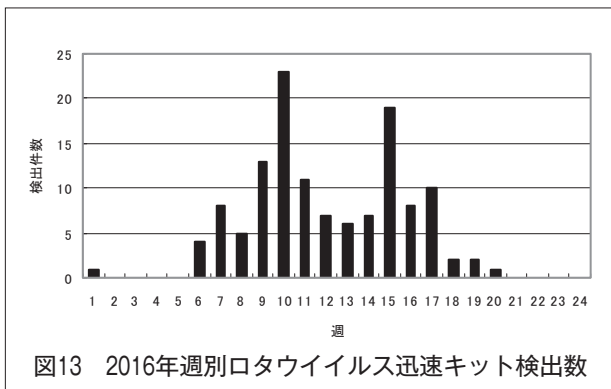
外来で迅速検査を15年247検体、16年410検体施行。ロタ検出率は15年18/62 (29.0%)、16年129/204 (63.2%)、ノロはそれぞれ93/185 (50.2%) 105/206 (50.9%) とノロの検出率はほぼ同じに対しロタは16年は63%と15年の2倍以上の検出率でロタの流行が大きかった事が推測された。

表2

外来検査 (247 検体)		検査	陽性
2015年	便ロタウイルス	62件	18件
	便ノロウイルス	185件	93件

外来検査 (410) 検体		検査	陽性
2016年	便ロタウイルス	204件	129件
	便ノロウイルス	206件	105件

流行が大きかったと思われる16年のロタウイルスの週別検出数を図13に示す。6から17週にかけての流行がみられた。



3) 衛研分離ウイルス

当院でノロ・ロタキット検査陰性の検体からアトランダムに15年40、16年28検体を衛研にウイルス分離を以来。分離されたウイルスを表3、表4に示す。ノロ、ロタウイルス少数に加え、Sapo16, Astrovirus 2件が検出された。

表3

キットノロ (-) 92 検体	衛研	
2015年 25 検体	NORO G II	8
	SAPO	8
	ASTRO	2
	ROTA	1
	未検出	6
キットノロ (-) 99 例	NORO G II	3
2016年 19 検体	SAPO	4
	ROTAgroupAG3	1

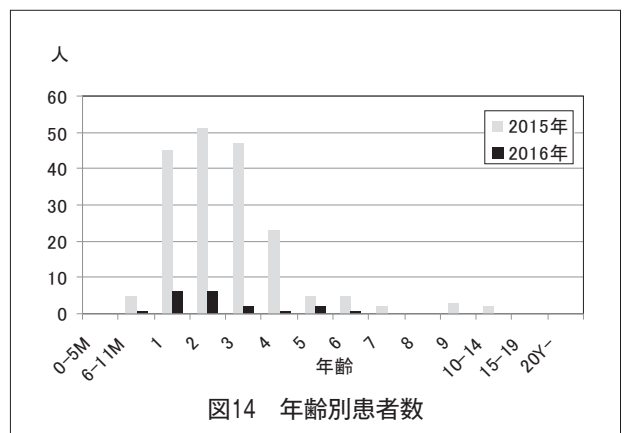
表4

キットロタ (-) 44 例	衛研	
2015年 15 検体	NORO G II	6
	NORO G I	1
	SAPO	8
キットロタ (-) 77 例	NORO G II	3
2016年 9 検体	SAPO	3
	ASTRO	3

C HFMD, ヘルパンギーナ

HFMDは15年 (188名) 16年 (19名), ヘルパンギーナは15年 (63名) 16年 (28名), 県サーベイランスでも特にHFMDが15年2,479名, 16年359名と15年にHFMDの大きな流行がみられた。

図14にHFMDの年齢別患者数を示す。図から1から3歳を中心に大きな流行がみられる。

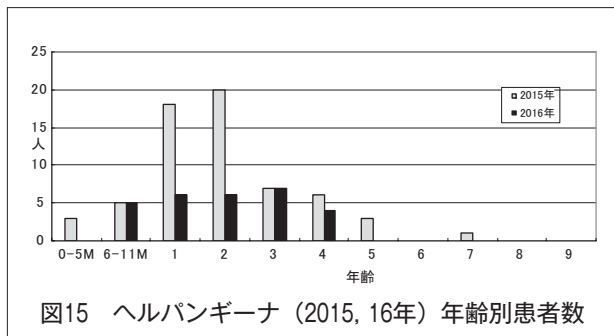


分離されたウイルスを表5に示す。

表5

2015年		2016年	
Adeno	2	Adeno3	1
CoxA16	21	CoxA14	4
CoxA6	7	EnteronT	4
CoxA9	1	Rhino	1
EnteronT	4	HHV6	1
Rhino	2	HHV7	1
HHV6	2		
HHV7	2		

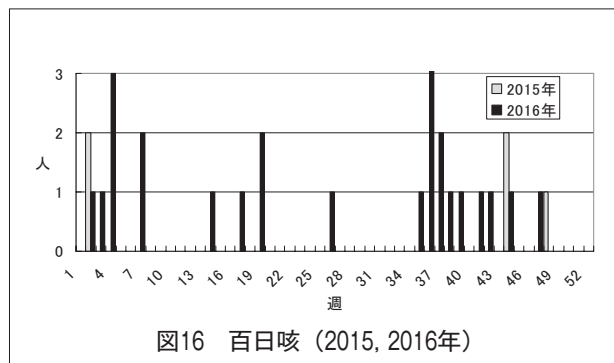
分離されたウイルスからみると15年の流行はCox16を中心としたものと思われる。図15にヘルパンギーナの年齢別患者数を示す。15年は1-4歳を中心に流行がみられ、分離ウイルスは15年CoxA10 2, EnteroNT 1件、16年CoxA2 1, A4 3, A10 2件検出されたが余りまとまったウイルスは検出されなかった。



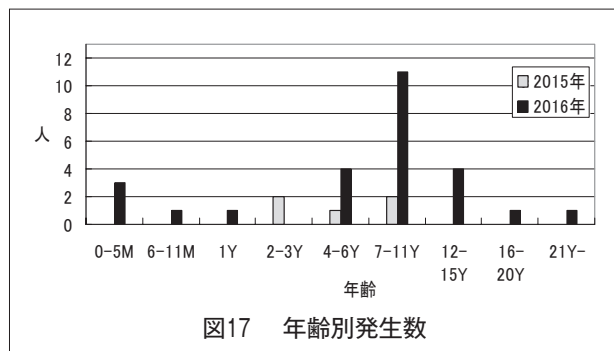
D 百日咳 (診断はLAMP検査陽性例)

2012年当地域で100例の患者発生をみた大きな流行があった。その後13年17例、14年1例と終息に向かったように思われた。

図16に15-16年週別患者発生状況を示す。15年5例と少ないも、16年26例と増加傾向あり、家族から感染

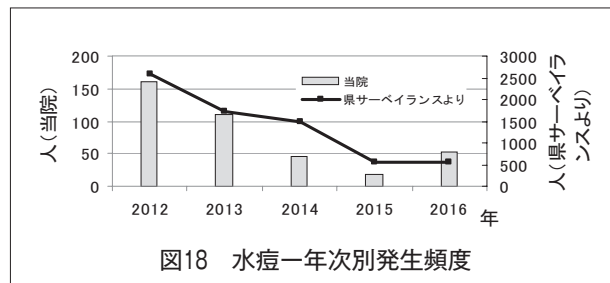


した2例の乳児 (ワクチン未接種) の入院をみた。図17に年齢別発生数を示す。乳児への感染予防対策が望まれる。



E 水痘

2014年10月1日から水痘ワクチンが定期接種化され、水痘患者数の減少が期待される場所である。2012年から2016年の患者数を当院と県サーベイランスに報告された患者数の推移を検討した。



2012年以降、当院、県サーベイランスとも右肩下がり減少傾向にあり、ワクチン接種が始まった翌年2015年には2012年比、当院11%、県21.6%まで減少、26年は県は横ばい21.2%、当院では増加32.0%をみたがこれは2保育所での集団発生によるものだった。

F 肺炎マイコプラズマ感染症

2016年はマイコプラズマ感染症の流行が全国的にみられたので、当地域について検討してみた。

当地域の流行は2015年43週始まり2016年52週までに、発熱、咳、あるいは胸部レントゲンで肺炎像を認め、肺炎マイコプラズマ感染が疑われ、咽頭塗抹でLAMP法陽性患者が81名あった。

図19に週別患者数を示す。流行は一旦10週で途切れ、その後26週から52週にかけて大きな流行となった。

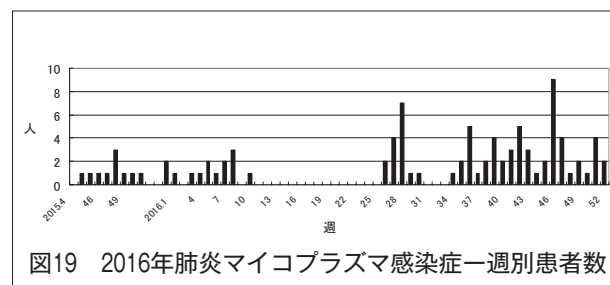
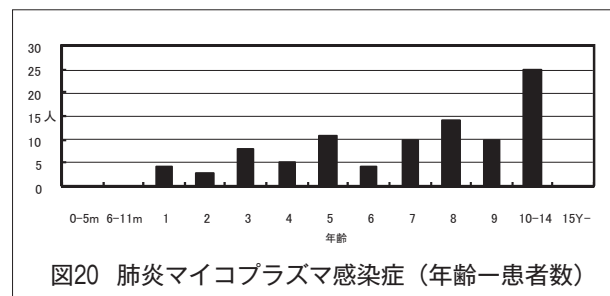


図20に年齢別患者発生数を示す。

患者は乳児を除く幅広い年齢にみられたが、5歳以上が流行の中心をなした。



受診患者の状況から、流行に地域の偏りがあるように思えたので地域別の患者発生数をみてみた。

須崎市	17
津野町	3
梶原町	7
中土佐町地区（久礼，上の加江，大野見）	16
四万十町地区	31
高知市	2
不明	5

当地域では四万十町地区を中心に流行があったと推測される。

2015/16シーズンに当院を受診したインフルエンザ患児の検討

ふないキッズクリニック 船井 守

2015/16シーズンからインフルエンザワクチン株が従来のA香港型, AHIN1pdm, B型株1種類の3価からB型がビクトリア系統株, 山形系統株の2種類になり4価になった. これは, 日本は以前, 1シーズンにビクトリア系統または山形系統のどちらか1種類のB型が流行していたが, 近年, 海外と同様に同一シーズンにビクトリア系統, 山形系統の2種類のB型が混在して流行するようになったためである. そこで, 2015/16シーズンに当院を受診した15歳以下の患児についてインフルエンザの臨床的検討を行った.

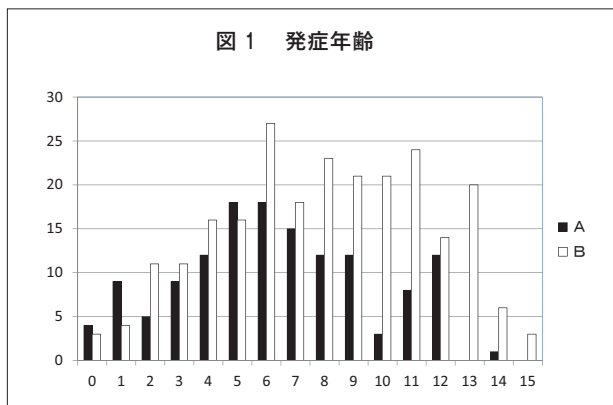
結果

1 患者数

平成28年1月29日から平成28年5月19日にインフルエンザ迅速診断検査キットでインフルエンザと診断した15歳以下の当院受診患児は延べ375例であった. A型は137例, B型は237例, A型とB型同時陽性は1例であった. このうち別の日にA型, B型両方感染例は13例であった.

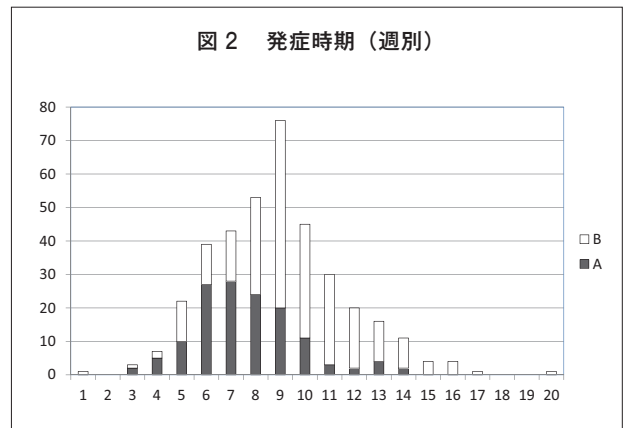
2 発症年齢 (図1)

発症年齢はA型は0歳から14歳までみられ, 5, 6歳にピークがあった. B型は0歳から15歳までみられ6歳にピークがあった.



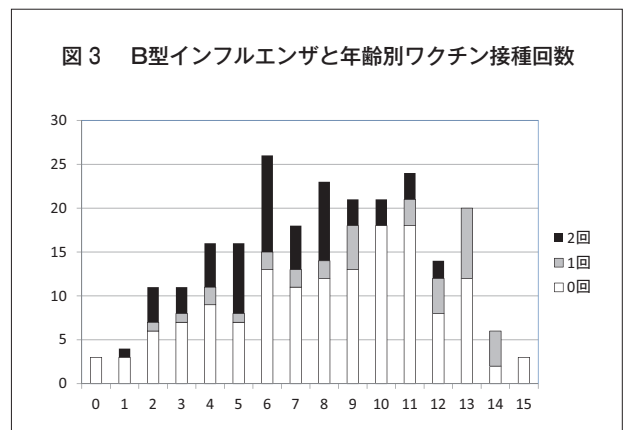
3 発症時期 (図2)

週別の発症時期ですがA型は平成28年1月21日(第3週)から平成28年4月4日(第14週)までみられた. B型は平成28年1月9日(第1週)から平成28年5月19日(第20週)までみられた. 第15週以降はB型のみ流行した.



4 B型インフルエンザ患児の年齢別ワクチン接種回数 (図3)

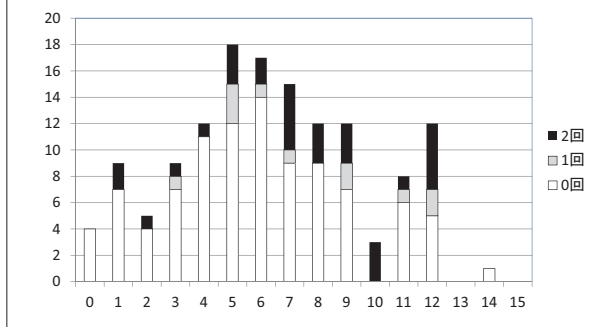
B型は238例のうち未接種が145例, 1回接種が35例, 2回接種が58例であるが, 13歳以上は1回接種で効果があるとされているので, 規定通り予防接種を受けたのは, 70例(29.7%)であった. 5歳は16例中8例(50%), 6歳は26例中11例が2回接種を受け, 13歳は20例中8例(40%), 14歳は6例中4例(66.7%)が1回接種を受けていた.



5 A型インフルエンザ患児の年齢別ワクチン接種回数 (図4)

A型は138例のうち未接種が96例, 1回接種が11例, 2回接種が31例である. 13歳以上で1回接種はなく, 規定通り予防接種を受けたのは31例(22.5%)である. 7歳は16例中6例(37.5%), 10歳は3例中3例(100%)が2回接種を受けていた.

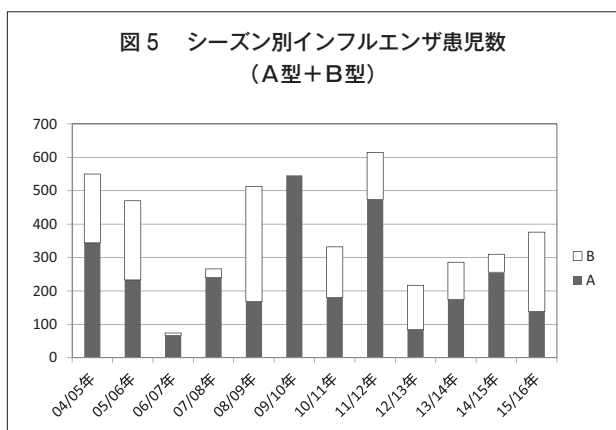
図4 A型インフルエンザと年齢別ワクチン接種回数



6 過去12シーズンのA型、B型インフルエンザの流行 (図5)

過去12シーズンでAH1N1pdmが流行した2009/10シーズン以外はB型は流行しているが、2015/16シーズンは2008/09シーズンの345例に次いで多かった。A型よりB型が多かったシーズンは2005/06シーズン、2008/09シーズン、2012/13シーズン、2015/16シーズンの4シーズンであった。

図5 シーズン別インフルエンザ患児数 (A型+B型)



考 察

2015/16シーズンからB型インフルエンザのビクトリア系統株、山形系統株の2株が予防接種に加わったことから、B型インフルエンザの予防効果が期待されていた。しかし、一般的にB型インフルエンザの流行が少なかった翌シーズンはB型インフルエンザが流行すると言われている。前シーズンの2014/15シーズンにB型流行が少なく（当院ではA型256例、B型54例）、2015/16シーズンはB型が流行することが予想されていた。高知県衛生研究所の報告では平成28年1月から5月まではビクトリア系統7例、山形系統31例がウイルス分離されている。今回の検討からは4価ワクチンが従来の3価ワクチンに比して流行阻止するまでの効果があったとは言い難い。しかし、2015/16シーズンのtest-negative case-control designを対照とした平成28年11月の第

48回小児感染症学会での5報告のうち4報告では22～40%の有効率があり、1報告のみ有効性が認められなかったとされている。従来、B型はA型に比べワクチンの効果は低いと言われている。インフルエンザシーズンでない4月以降のB型インフルエンザは迅速診断検査キットが使用されなかった場合は見過ごされ、診断が困難であり、その効果の評価は難しい。また、ワクチンが4価になって接種料金が上がり、接種率が下がるのが危惧されたが、高知市では平成27年度は中学3年生までの小児にインフルエンザワクチン接種にも使用できる子育てクーポン(4000円分)を配布したことから平成27年度の当院ではワクチン接種児の減少はなかった。また、ワクチンのB型の予防効果については全国的な規模の詳細な検討がなされていないため、今後の検討が待たれる。

ロタウイルスワクチン導入前後における腸重積発生状況（特に高知県において）

高知県立あき総合病院 小児科 佐藤 哲也
独立行政法人 国立病院機構 高知病院 小児科 寺内 芳彦
高知県立幡多けんみん病院 小児科 前田 明彦
高知大学医学部 小児思春期医学 藤枝 幹也

【はじめに】

ロタウイルス感染症は初春から初夏にかけて流行する小児嘔吐下痢症の原因の一つである。現在国内では2種類のロタウイルスワクチンがあり、感染、重症化の予防に有効であることが先行導入された諸外国で報告されている。一方で、初回接種後に腸重積症のリスクがやや高まると報告している国も認められる。

現在わが国においてロタウイルスワクチンは任意接種であり、ワクチン導入前後の腸重積症の発症率の把握は、今後のロタウイルスワクチンの定期接種化に向けて効果評価、安全性のモニタリングを実施するにあたり大変重要である。

今回高知県でワクチン導入前後の小児腸重積症の全数疫学調査を行ったので報告する。

【対象と方法】

高知県下で小児腸重積症患者の全数調査を行った。対象は日本小児救急医学会「エビデンスに基づいた小児腸重積症の診療ガイドライン」（表1）の症例定義を満たした5歳未満の腸重積症による入院患者で、ロタウイルスワクチン導入以前（2007年-2011年）のベースライン調査（後ろ向き調査）と導入後（2012年-2014年9月）のモニタリング調査（前向き調査）を行った。

表1 本研究における腸重積症の症例定義

- 日本小児救急医学会「エビデンスに基づいた小児腸重積症の診療ガイドライン」に従って以下のように定義する。
 - A項目 腹痛ないし不機嫌
 - 血便（洗腸を含む）
 - 腹部腫瘍ないし膨満
 - B項目 嘔吐
 - 顔面蒼白
 - ぐったりして不活発
 - ショック状態
 - 腹部単純X線写真で腸管ガス分布の異常
 - C項目 注腸造影、超音波、CT、MRI等の画像検査で特徴的所見
 - 「疑診」：A2つ、A1つとB1つ、ないしB3つ以上で疑診。ただし腹痛ないし不機嫌が間欠的な場合は、それだけで疑診
 - 「確診」：疑診に加え、さらにCを確認したもの
- 【研究対象】症例定義を満たした5歳未満の腸重積症による入院患者

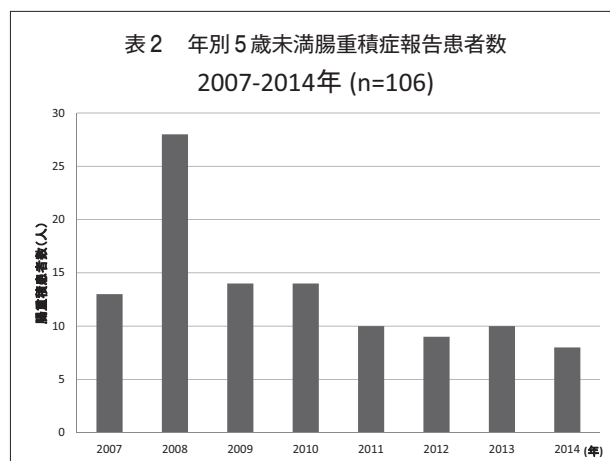
高知県下で小児入院可能な施設に、インターネット上の専用入力サイトから症例情報の入力を依頼した。厚生労働科学研究費補助金「ワクチンにより予防可

能な疾患に対する予防接種の科学的根拠の確立及び対策の向上に関する研究」（研究代表者大石和徳）の調査対象地域9道県（北海道、福島県、新潟県、千葉県、三重県、高知県、福岡県、長崎県、沖縄県）の一つとして調査研究を実施した。

【結果】

1 5歳未満腸重積患者報告数と年次推移（表2）

対象期間中に計106例の患者が報告された。年次推移では2008年に28例と報告数が多かったが、その他の年は概ね年間10例前後で推移していた。



2 性別、年齢別報告数（表3、4）

ワクチン導入前の後ろ向き調査期間（79例）と導入後の前向き調査期間（27例）で集計した。両調査期間とも男児の報告が多く認められた。ワクチン導入前期間では1歳未満が27例（34%）と最も多く認められたが、ワクチン導入後期間では1歳代が14例（52%）で過半数を占めていた。

表3 性別割合

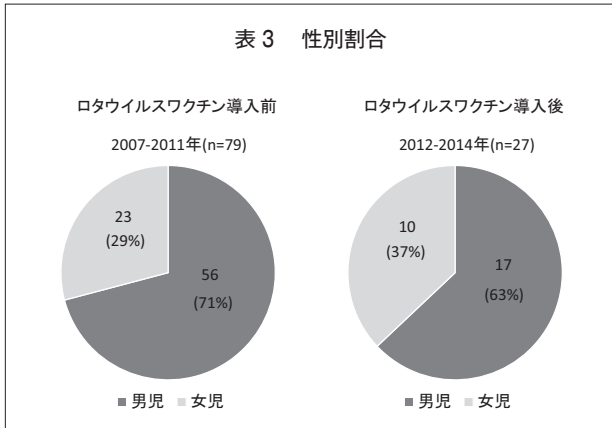
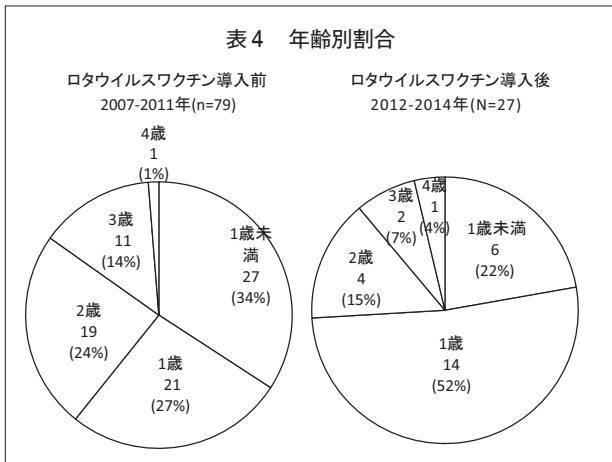
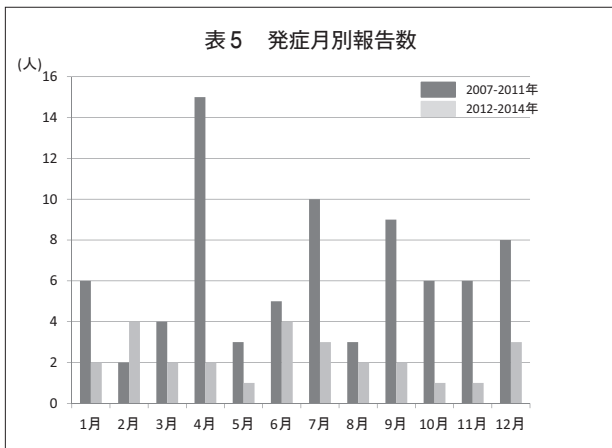


表4 年齢別割合



3 発症月別報告数 (表5)

ワクチン導入前期間では4月に突出して報告が多く認められた。ワクチン導入後期間では2月と6月に多い傾向が認められた。



4 ワクチン導入前後での乳児月例別の腸重積発症率比較 (表6)

ワクチン導入前は3か月未満の報告例はなく、概ね4か月から10か月の月齢で報告が集中していた。ワクチン導入後は4か月から6か月、9か月、10か月で各1例ずつ報告が認められ、3か月未満の報告も1例(2

か月)認められた。

ワクチン導入前後で症例数の差が大きいですが、明らかな統計学的有意差は認められなかった。

表6 ワクチン導入前後での高知における月齢ごとの腸重積症発症率の比較

月齢	導入前(観察期間=5年)		導入後(観察期間=2.75年)		Rate Ratio (95%信頼区間)
	患者数	発症率	患者数	発症率	
0m	0	0	0	0	NA
1m	0	0	0	0	NA
2m	0	0	1	81.3	NA
3m	1	44.7	0	0	NA
4m	4	178.9	1	81.3	0.5 (0.05-4.0)
5m	0	0	1	81.3	0.7 (0.2-2.0)
6m	4	178.9	1	81.3	0.5 (0.05-4.0)
7m	5	223.6	0	0	NA
8m	4	178.9	0	0	NA
9m	4	178.9	1	81.3	0.5 (0.05-4.0)
10m	4	178.9	1	81.3	0.5 (0.05-4.0)
11m	1	44.7	0	0	NA
1歳未満全体	27	100.6	6	40.7	0.4 (0.2-1.0)

5 治療法および転帰 (表7)

自然回復例はワクチン導入前後ともに報告は認めなかった。非観血的整復例はワクチン導入前67例(85%)、導入後22例(81%)でほぼ同じ割合であった。観血的整復例も同様にワクチン導入前12例(15%)、導入後5例(19%)で概ね同等であった。ワクチン導入前の報告例で、自施設で整復できず、高次機能病院へ転院した例が2例認められたが最終的には回復しており、死亡例はなく、報告例は全例回復していた。

表7 5歳未満腸重積症報告患者治療法および転帰

治療法	ワクチン導入前		ワクチン導入後	
	(n=)	%	(n=)	%
自然回復	0	0	0	0
観血的修復	12	15	5	19
非観血的修復	67	85	22	81
転帰				
回復	77	97	27	100
転院・転科	2	3	0	0
死亡	0	0	0	0

【考察】

今回高知県下で5歳未満の小児腸重積患者の全数調査を行った。ロタウイルスワクチン導入前後で比較すると、5歳未満小児人口10万人当たりの罹患患者数(罹患率)はワクチン導入前56.7で、導入後は35.2であった。またワクチン接種と関連の強い1歳未満では導入前100.6で、導入後は40.7であった。いずれも罹患率はワクチン導入後で減少していた。ロタウイルスワクチンの導入による腸重積の増加は本県では認められなかった。ロタウイルスワクチンは任意接種であるため、徐々に接種率は上昇しているものの定期接種と比較して接

種率は低く、全国平均は約60%程度と推定されている。また市販後調査では本県は他県と比較して接種率は低い傾向があるため、罹患率に影響が出なかったのかもしれない。

ただしワクチン導入前後での乳児月例別の腸重積発症率比較では、ワクチン導入前に認められなかった3か月未満の報告例が、ワクチン導入後に1例認められた。この児はロタウイルスワクチン初回接種2日後に腸重積症を発症しており、諸外国の報告ではワクチン初回接種後1週間以内に最も腸重積が発症しやすいことから、ワクチンとの関連が強く疑われ、今回1例のみであるが今後の低月齢児での腸重積増加に注意する必要がある。

またワクチン導入前後で1歳未満の罹患率が大幅に低下しているが、導入前後の調査年数が異なることや、1歳未満と1歳代をあわせた割合はワクチン導入前後であまり変化していないことから、1歳前後での報告数のばらつき等が影響しているかもしれない。

発症月別報告ではワクチン導入前で4月に突出して多く認められていた。腸重積は腸管ウイルス感染に続発する事も多く、アデノウイルス感染が最も多いと報告があり、こうした感染症の流行との関連も考慮されるが、今回の調査では大多数でウイルス検索が行われておらず、今後の検討課題である。なお本県を含めた研究班対象の9道県全体での検討では、病原体サーベイランスにより得られたロタウイルスの流行時期と腸重積症患者の増減に関連性は認められなかった。

海外ではロタウイルスワクチン導入後に低月齢の腸重積例で観血的整復の割合が増えている報告が認められるが、今回の検討では非観血的、観血的整復術の割合はワクチン導入前後でいずれもそれぞれ約80%、20%程度であり明らかな重症度の変化は認められなかった。

本研究の課題として、ロタウイルスワクチン接種歴と腸重積症発症日の情報が両方とも判明している症例が少数のため、ワクチン接種のリスクについての正確な検討ができない点が挙げられる。また任意接種であるため、調査対象地域ごとの正確なワクチン接種率が不明であり、今後はワクチンを販売している企業が収集しているデータを活用できるかどうか検討する必要がある。

【まとめ】

ロタウイルスワクチンの安全性を評価する目的で、高知県下でワクチン導入前後の小児腸重積症全数調査を行った。今回の調査で、ロタウイルスワクチン導入前後で腸重積症は有意な増加は認められなかった。ただし低月齢でワクチン接種との関連が示唆される症例

も報告されており、今後ワクチン接種率の上昇に伴い低月齢の症例数の動向に注意が必要であり、また接種との因果関係の検討のためワクチン接種日、回数と発症日、治療、転帰といった詳細な情報収集が必要である。

【謝辞】

本研究グループに参加し、サーベイランスに御協力頂いた下記の小児科医師に深謝致します。

阿部孝典、小倉英郎、新井淳一、島崎洋成、武市知己、西内律雄、宮澤真理、本淨謹士、前田賢人、石本浩市、川上浩一郎、橋詰 稔、浜渦正司、浜田文彦、船井 守、森澤 豊、脇口 宏（敬称略）

また症例データを解析、提供して頂いた国立感染症研究所感染症疫学センターの砂川富正先生、神谷元先生、舟越優先生に深謝致します。

IV 高知県感染症情報（月報）

高知県感染症情報月報 2015年1月

(65定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ	315	1,717	3,498	1,382	544	1,683	9,139	659	3,330
小児科	咽頭結膜熱		1	6			3	10	11	24
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	9	5	110	15	13	49	201	188	70
	感染性胃腸炎	75	201	380	116	75	100	947	716	2,100
	水痘	6	13	40	4		1	64	124	181
	手足口病	8	25	47	13	5	8	106	368	3
	伝染性紅斑		1	2				3	2	3
	突発性発疹	3	12	28	4	3	7	57	51	50
	百日咳			3				3	2	1
	ヘルパンギーナ								6	1
	流行性耳下腺炎	37	2	23	1	1	8	72	73	188
	RSウイルス感染症	12	41	77	8	13	23	174	233	189
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			1				1		4
STD	性器クラミジア感染症			3				3	6	1
	性器ヘルペスウイルス感染症			1				1	1	
	尖圭コンジローマ									
	淋菌感染症								2	
基幹	細菌性髄膜炎									1
	無菌性髄膜炎									2
	マイコプラズマ肺炎		2	15			1	18	16	13
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			1				1	2	2
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)		1	3			1	5	4	9
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	3	1	12			5	21	24	34
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									
	薬剤耐性緑膿菌感染症									1
計	468	2,022	4,250	1,543	654	1,889	10,826	2,488	6,207	
前月	152	562	1,117	323	124	210				
前年同月	264	988	3,056	648	376	875				
小児科定点数	2	7	11	3	2	5				

2015年1月

全国情報 (12月29日～2月1日)

第1週(12月29日～)から第5週(～2月1日)までの5週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。

1月の上位6疾患の合計は213.69で、12月153.24(5週に補正、以下同じ)から大幅に増加した。その原因は2.4倍に急増したインフルエンザ(12月1位65.84)であり、例年よりも早く第48週(1.90)に流行の指標である1を超え、8週間後の第4週(39.42)に例年よりもやや早くピークに達した。2位以下の疾患はすべて減少しているが、週毎の変動はそれぞれ特徴がある。感染性胃腸炎(同2位52.73)は第2週以降横ばい状態、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(同3位13.78)は第4・5週に増加、RSウイルス感染症(同4位11.38)・水痘(同5位6.03)・流行性角結膜炎(同8位2.85)第3週以降ほぼ横ばい状態である。水痘は過去10年間では際立って少なく定期化されたワクチンの効果が推測される。

表1 各週定点当たり報告数(全国)

No	疾病名	週	1週	2週	3週	4週	5週	計
1	インフルエンザ		21.46	33.28	37.00	39.42	29.11	160.27
2	感染性胃腸炎		3.47	8.20	7.39	8.12	7.55	34.73
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.74	1.81	1.84	2.34	2.44	9.17
4	RSウイルス感染症		0.82	1.10	0.69	0.74	0.71	4.06
5	水痘		0.57	1.10	0.52	0.61	0.44	3.24
6	流行性角結膜炎		0.22	0.73	0.46	0.42	0.39	2.22

県内情報

1. 全国との対比(定点当たり報告数)

高知県の上位6疾患の合計は240.39で、12月85.06(5週に補正、以下同じ)の2.8倍に増加し全国を上回った。インフルエンザ(12月2位17.16)は実に11倍に増加した。高知県では全国よりも3週間遅れ第51週(3.58)に流行の指標である1を超え、全国と同じ第4週(5週間後)にピークを迎えた。感染性胃腸炎(同1位29.85)は、全国とは異なり僅かに増加し第2週以降は7前後で推移している。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(同5位7.83)は概ね全国よりも少ない。RSウイルス感染症(同4位9.71)は概ね全国よりも多いが、緩やかに減少傾向にある。手足口病(同3位15.34)は大きく減少したが、全国(11位1.28)の2.8倍、流行性耳下腺炎(同7位3.04)は全国(10位1.35)の1.8倍と多い。1～4位疾患の順位は同じであるがその内容は少しずつ異なり、5・6位疾患は特に高知県で多い。

表2 各週定点当たり報告数(高知県)

No	疾病名	週	1週	2週	3週	4週	5週	計
1	インフルエンザ		21.54	30.81	49.65	51.08	37.31	190.39
2	感染性胃腸炎		3.60	6.80	7.27	6.83	7.07	31.57
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.57	1.73	1.20	1.57	1.63	6.70
4	RSウイルス感染症		0.97	1.57	0.93	1.23	1.10	5.80
5	手足口病		0.63	0.57	0.77	0.43	1.13	3.53
6	流行性耳下腺炎		0.27	0.43	0.70	0.20	0.80	2.40

2. 全体の傾向

麻疹、風しんの報告無し。

今シーズンのインフルエンザは12月に流行が始まり、1月に急増し過去10年間で2番目の報告数となったが、第4週をピークに第5週から減少に転じている。AH3が流行の主体であり、僅かにB型も検出されている。一方感染性胃腸炎は少ない。水痘ワクチンの効果か、全国と同様に高知県でも報告数が減少している。手足口病やRSウイルス感染症が減少傾向である。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 9,139名(12月659名)。約14倍に増加し、過去10年間では2005年3月9,287名に次いで2番目に多い。流行開始の第51週から4週間後の第3週49.65、5週間後の第4週51.08をピークに第5週は37.31と減少に転じた。地域別定点あたり報告数は、中央西276.4、高知市218.64、幡多210.38、中央東156.09、須崎136.00、安芸78.75の順で、年齢別では5～9歳2,152名、10～14歳1,773名、1～4歳1,371名、30～39歳720名、20～29歳603名、40～49歳568名の順で、その他の年齢層では300名台、0歳児は77名である。ウイルスはAH3 NTが38件、B NTが4件検出された。

2) 咽頭結膜熱

報告数 10名(12月11名)。全国では夏に増加し秋に減少した後、年末に再増加するが、高知県では通常夏に増加する。ウイルスはAdenovirus6型が1件検出された。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 201名(12月188名)。4か月連続で3桁であり、昨シーズンの反動のように多い。11月から6月までの報告数が多い疾患である。血清型TB3264型が1件検出された。

4) 感染性胃腸炎

報告数 947名(12月716名)。増加しているが3桁に留まっており例年よりも少なく、過去10年間の1月では12年703名に次いで少ない。ウイルスは、Norovirus GⅡNT6件、Sapovirus2件、Echovirus3型1件が検出された。2014年1年間

ではNorovirus59件, Rotavirus10件が検出された。

5) 水痘

報告数 64名 (12月124名)。通常夏に減少し11月頃から6月頃まで3桁が持続する疾患であるが、今月急に半減した。全国の1月の報告数も過去10年間ではかけ離れて少なく、昨年10月に定期接種化された水痘ワクチンの効果の可能性がある。

6) 手足口病

報告数 106名 (12月368名)。3桁が4か月連続しているが、今月は大きく減少した。流行期間は4～5か月であり、今後さらに減少すると推測される。Coxsackievirus A16型が6件検出され、今季流行の原因ウイルスである。

7) 伝染性紅斑

報告数 3名 (12月2名)。全国は過去10年間で3番目に多いが、高知県では増加傾向はみられない。

8) 突発性発疹

報告数 57名 (12月51名)。変動なし。

9) 百日咳

報告数 3名 (12月2名)。報告数は少ないが、Bordetella pertussisとBordetella parapertussisが各1件検出されている。

10) ヘルパンギーナ

報告数 0名 (12月6名)。夏の流行までは1

桁が続く。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 72名 (12月73名)。13年8月から14年9月まで3桁が続いた後、ゆっくりと減少している。

12) RSウイルス感染症

報告数 174名 (12月233名)。減少したが4か月連続で3桁である。

13) 流行性角結膜炎

報告数 1名 (12月0名)。0名から1桁が3年余り続いている。

14) マイコプラズマ肺炎 (基幹定点の報告疾患)

報告数 18名 (12月16名)。20名程度の報告が2011年6月以降継続しており、継続的に全国よりも多い。基幹定点の月報疾患

15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 21名 (12月24名)。20名前後が続いている。55歳以上が19名、そのうち70歳以上が16名である。

16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名 (12月0名)。2011年から小児への肺炎球菌ワクチンが補助されるようになり、2012年5月から激減している。

高知県感染症発生動向調査部会

会長 吉川 清志

高知県における月別全数報告疾患 (平成27年1月)

類型	病名	報告年																											総計
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27											
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	138	10	1,199										
	計									131	149	163	156	192	132	128	138	10	1,199										
3	コレラ	1					1						1						3										
	パラチフス	2																	2										
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2										25										
	腸チフス		1						1										2										
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5		155										
計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	0	187											
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1			3						29										
	Q熱	1	1	2				1											5										
	オウム病			1		1													2										
	つつが虫病		9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	3		70										
	マラリア								2					1					3										
	レジオネラ症		2		1		1				9	7	3	6	9	2	4		44										
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7		126										
	日本脳炎	1	1	1					1			1	1						6										
	レプトスピラ症											1		4	2	1			8										
	E型肝炎												1		1				2										
	デング熱												1				3	2	6										
重症熱性血小板減少症候群																3	11	14											
計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	27	1	315											
5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3				31										
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3				54										
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症																	1	1										
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3					2	3										
	ジアルジア症		1	2	1									1	1				28										
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1								1							7										
	急性脳炎								1	1	2	5	1	3	1			1	2										
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	1				1	1	2	5	1	3	1		1	15										
	後天性免疫不全症候群			2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7		10										
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2		2													1		44										
	侵襲性肺炎球菌感染症															1	4	2	1										
	髄膜炎菌性髄膜炎										1								7										
	破傷風		3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1			4	1										
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4		23										
	麻しん										5								111										
風しん											1	1						5											
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	5	16											
新型	新型インフルエンザ											34							34										
計												34							34										
動物	鳥インフルエンザ													1					1										
計														1					1										
総計		61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	210	16	2,101										

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

1月はウイルス104件，細菌10件の搬入があり，そのうちウイルス71件，細菌3件の病原体を検出した。また，平成26年12月に搬入された検体でウイルス2件を検出した。検出ウイルスの内訳は，Adenovirus 1 1件，Adenovirus 2 1件，Adenovirus 6 2件，CoxsackievirusA16 6件，Cytomegalovirus 1件，Echovirus 18 1件，Echovirus 3 2件，Epstein-Barr virus 1件，Influenza virusAH3 NT 38件，Influenza virus BNT 4件，Norovirus GII NT 7件，Respiratory syncytial virus A 2件，Rhinovirus 5件，Sapovirus genogroup unknown 2件。また，細菌の内訳は，*Bordetella parapertussis* 1件，*Bordetella pertussis* 1件，*Streptococcus pyogenes* TB3264 1件であった。

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	5	男	反復性耳下腺炎	-	ぬぐい液	12. 5	Rhinovirus
2	6	男	反復耳下腺炎	38℃，	ぬぐい液	12.15	Epstein-Barr virus
3	10	女	インフルエンザ	38℃， 咳漱， 上気道炎，	ぬぐい液	12.17	Influenza virus A H3 NT
4	3	男	気管支炎	37℃， 下気道炎， 気管支炎，	鼻咽腔	12.18	Rhinovirus
5	8ヶ月	女	咽頭結膜炎， 慢性咳嗽	咳漱，	ぬぐい液	12.19	Rhinovirus
6	3	男	手足口病	発疹， 手足口病症状，	ぬぐい液	12.19	Coxsackievirus A16
7	11ヶ月	女	川崎病の疑い	40℃，	ぬぐい液	12.19	Respiratory syncytial virus A
8	1	男	不明発疹症	発疹，	ぬぐい液	12.20	Rhinovirus
9	11	男	インフルエンザ	39℃，	ぬぐい液	12.22	Influenza virus A H3 NT
10	8ヶ月	女	不明発疹症	40℃， 嘔吐， 嘔気， 咳漱， 発疹，	ぬぐい液	12.24	Respiratory syncytial virus A
11	14	男	インフルエンザ	40℃， 咳漱，	ぬぐい液	12.25	Influenza virus A H3 NT
12	10ヶ月	男	アデノ， 肺炎	38℃， 咳漱，	ぬぐい液	12.30	Adenovirus 2
13	24	男	インフルエンザ	39℃， 咳漱， 関節痛， 筋肉痛，	ぬぐい液	1. 4	Influenza virus A H3 NT
14	38	女	インフルエンザ	39℃， 咳漱，	ぬぐい液	1. 4	Influenza virus A H3 NT
15	12	男	インフルエンザ	40℃， 上気道炎，	ぬぐい液	1. 5	Influenza virus A H3 NT
16	9ヶ月	女	インフルエンザ	38℃， 咳漱，	ぬぐい液	1. 5	Influenza virus A H3 NT
17	1ヶ月	男	急性気管支炎	40℃， 気管支炎，	ふん便	1. 5	Echovirus 3
18	8	女	インフルエンザ	38℃， 下痢， 腹痛， 咳漱， 上気道炎，	ぬぐい液	1. 6	Influenza virus A H3 NT
19	8	男	インフルエンザ	40℃， 腹痛， 咳漱，	ぬぐい液	1. 6	Influenza virus A H3 NT
20	2	男	感染性胃腸炎	嘔吐， 嘔気，	ふん便	1. 6	Norovirus GII NT Sapovirus genogroup unknown
21	7	男	百日咳	咳漱，	ぬぐい液	1. 6	<i>Bordetella pertussis</i>
22	7	女	インフルエンザ	40℃， 咳漱，	ぬぐい液	1. 7	Influenza virus A H3 NT
23	6	男	インフルエンザ	39℃，	ぬぐい液	1. 7	Influenza virus B NT
24	9	男	インフルエンザ	37℃， 嘔吐， 嘔気， 関節痛，	ぬぐい液	1. 8	Influenza virus A H3 NT
25	7	女	インフルエンザ	39℃， 咳漱， 気管支炎，	ぬぐい液	1. 8	Influenza virus A H3 NT
26	1	女	感染性胃腸炎	嘔吐， 嘔気， 中枢神経系障害，	ふん便	1. 8	Echovirus 3 Norovirus GII NT
27	5	女	感染性胃腸炎	嘔吐， 嘔気，	ふん便	1. 8	Norovirus GII NT Sapovirus genogroup unknown
28	3	男	インフルエンザ	39℃， 咳漱，	ぬぐい液	1. 9	Influenza virus A H3 NT
29	7	女	インフルエンザ	38℃， 咳漱，	ぬぐい液	1. 9	Influenza virus A H3 NT
30	67	男	インフルエンザ	咳漱， 上気道炎，	ぬぐい液	1.10	Influenza virus A H3 NT
31	1	男	手足口病	38℃， 手足口病症状，	ぬぐい液	1.10	Coxsackievirus A16
32	4	男	百日咳	咳漱，	ぬぐい液	1.10	<i>Bordetella parapertussis</i>
33	42	男	インフルエンザ	39℃， 咳漱，	鼻腔	1.11	Influenza virus A H3 NT

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス, 細菌の検出
34	10	男	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	1.13	Influenza virus A H3 NT
35	63	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	1.13	Influenza virus A H3 NT
36	13	女	インフルエンザ	40℃, 咳漱, 肺炎, 腎機能, 中枢神経系障害,	ぬぐい液	1.13	Influenza virus A H3 NT
37	2	女	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	1.13	Coxsackievirus A16
38	2ヶ月	男	I T P	-	ぬぐい液	1.14	Cytomegalovirus
39	8	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	1.14	Influenza virus A H3 NT
40	4	女	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	1.14	Influenza virus A H3 NT
41	7	男	インフルエンザ	38℃, 関節痛,	ぬぐい液	1.15	Influenza virus A H3 NT
42	8	女	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	1.15	Influenza virus A H3 NT
43	7	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱, 気管支炎,	ぬぐい液	1.15	Influenza virus A H3 NT
44	2	女	咽頭結膜熱	38℃, 循環器機能障害,	ぬぐい液	1.15	Adenovirus 6
45	1	女	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気,	ふん便	1.15	Norovirus GII NT
46	2	男	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	1.15	Coxsackievirus A16
47	9	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	37℃,	ぬぐい液	1.16	<i>Streptococcus pyogenes</i> TB3264
48	9	男	インフルエンザ	42℃, 嘔吐, 嘔気, 関節痛,	ぬぐい液	1.16	Influenza virus A H3 NT
49	2	女	渗出性扁桃炎	40℃, 咳漱,	ぬぐい液	1.16	Adenovirus 6
50	8	男	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	1.17	Influenza virus A H3 NT
51	1	男	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気, 咳漱,	ふん便	1.17	Norovirus GII NT
52	50	女	インフルエンザ	39℃, 嘔気, 咳漱, 関節痛,	ぬぐい液	1.18	Influenza virus A H3 NT
53	2	女	インフルエンザ	39℃, 嘔吐, 嘔気, 腹痛, 咳漱,	ぬぐい液	1.19	Influenza virus A H3 NT
54	4	男	インフルエンザ	38℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気,	ぬぐい液	1.19	Influenza virus A H3 NT
55	5	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	1.19	Influenza virus A H3 NT
56	5	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱, 気管支炎,	ぬぐい液	1.19	Influenza virus A H3 NT
57	3	男	手足口病 疑い	38℃, 嘔吐, 嘔気, 手足口病症状,	ぬぐい液	1.19	Rhinovirus
58	2	女	渗出性扁桃炎	40℃, 咳漱,	ぬぐい液	1.19	Adenovirus 1
59	3	男	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	1.20	Influenza virus A H3 NT
60	14	男	インフルエンザ	38℃, 咳漱, 上気道炎, 筋肉痛,	ぬぐい液	1.20	Influenza virus B NT
61	10ヶ月	男	手足口病	下痢, 嘔吐, 嘔気, 手足口病症状,	ふん便	1.20	Norovirus GII NT
62	1	男	手足口病	40℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	1.21	Coxsackievirus A16
63	11	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱, 気管支炎,	ぬぐい液	1.22	Influenza virus A H3 NT
64	13	男	インフルエンザ	咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	1.22	Influenza virus B NT
65	6	男	インフルエンザ	39℃, 上気道炎,	ぬぐい液	1.23	Influenza virus A H3 NT
66	1	男	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気,	ふん便	1.23	Norovirus GII NT
67	2ヶ月	女	急性気管支炎	40℃, 下痢, 気管支炎,	ふん便	1.23	Echovirus 18
68	15	女	インフルエンザ疑い	40℃, 嘔吐, 嘔気, 咳漱,	ぬぐい液	1.24	Influenza virus A H3 NT
69	4	男	手足口病様	39℃, 口内炎,	ぬぐい液	1.24	Coxsackievirus A16
70	42	女	インフルエンザ	38℃, 関節痛,	ぬぐい液	1.25	Influenza virus A H3 NT
71	5	女	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	1.26	Influenza virus A H3 NT
72	34	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱, 関節痛,	ぬぐい液	1.26	Influenza virus A H3 NT
73	6	男	インフルエンザ	40℃,	ぬぐい液	1.26	Influenza virus B NT

高知県感染症情報月報 2015年2月

(65定点医療機関)

定点名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
	疾病名									
内科・小児科	インフルエンザ	115	872	1,392	579	193	404	3,555	9,139	3,169
小児科	咽頭結膜熱		1	3		2	2	8	10	23
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	16	6	106	19	21	75	243	201	73
	感染性胃腸炎	52	169	253	78	27	144	723	947	1,017
	水痘	1	16	21	12			50	64	114
	手足口病	8	10	42	8	3	4	75	106	8
	伝染性紅斑			5			2	7	3	4
	突発性発疹	6	4	12		1	6	29	57	37
	百日咳								3	
	ヘルパンギーナ		1	2					3	
	流行性耳下腺炎	22	1	24			21	68	72	188
	RSウイルス感染症	16	23	47	8	10	10	114	174	51
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			1				1	1	
STD	性器クラミジア感染症								3	1
	性器ヘルペスウイルス感染症								1	
	尖圭コンジローマ									
	淋菌感染症									
基幹	細菌性髄膜炎			1				1		1
	無菌性髄膜炎									2
	マイコプラズマ肺炎			7			2	9	18	8
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			2				2	1	
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)			5				5	5	5
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	7	3	11			1	22	21	23
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									
	薬剤耐性緑膿菌感染症									
計		243	1,106	1,934	704	257	671	4,915	10,826	4,724
前月		468	2,022	4,250	1,543	654	1,889			
前年同月		168	757	2,262	569	236	732			
小児科定点数		2	7	11	3	2	5			

2015年2月

全国情報（2月2日～3月1日）

第6週（2月2日～）から第9週（～3月1日）までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。

2月の上位6疾患の合計は91.22で、1月170.95（4週に補正，以下同じ）の約1/2に減少した。インフルエンザ（1月1位128.22）がその原因で、第4週39.42をピークに週ごとに減少し1月の約1/3の報告数である。09年を除くと、過去10年間では第50週～4週までは最も多く8・9週は最も少ない。即ち、例年よりも早期に流行が始まり、早期に終息に向かっている。感染性胃腸炎（同2位27.78）は横ばいで週ごとの変動も少ない。A群溶血性連鎖球菌咽頭炎（同3位7.34）は増加し過去10年間の同時期では最も多い。RSウイルス感染症（同4位3.25）はゆっくりと減少しているが、10年に次いで多い。水痘（同5位2.59）は過去10年間で最も少なく、14年の約1/2の値で推移しており予防接種の効果の可能性が高い。突発性発疹（同7位1.47）はこれから夏に向かって少しずつ増加する。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	6週	7週	8週	9週	計
1	インフルエンザ		19.03	12.15	8.26	5.88	45.32
2	感染性胃腸炎		7.22	6.75	7.54	7.81	29.32
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.57	2.49	2.88	3.01	10.95
4	RSウイルス感染症		0.60	0.50	0.45	0.44	1.99
5	水痘		0.51	0.47	0.50	0.45	1.93
6	突発性発疹		0.40	0.42	0.43	0.46	1.71

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の2月の上位6疾患の合計は114.82で、1月192.31（4週に補正，以下同じ）の約6割に減少したが全国よりも多い。6疾患の順位は1月と全く同じで、インフルエンザ（1月1位152.31）は第4週51.08をピークに週ごとに減少しているが全国の1.6倍で、福井84.37，新潟81.2，大分78.82に次いで全国4位である。感染性胃腸炎（同2位25.25），A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（同3位5.36）は1月に続き全国よりも少なく，逆にRSウイルス感染症（同4位4.64）は1月に続き全国よりも多く，特に大阪以西で多い。手足口病（同5位2.82）やや減少したものの，全国8位1.33の約2倍で九州四国からの報告が多い。流行性耳下腺炎（同6位1.92）は全国11位1.08の約2倍で，佐賀県5.61，福井県3.78に次いで全国3位である。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	6週	7週	8週	9週	計
1	インフルエンザ		23.35	19.35	17.21	14.15	74.06
2	感染性胃腸炎		6.40	5.73	5.30	6.67	24.10
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.87	2.03	2.27	1.93	8.10
4	RSウイルス感染症		1.17	0.87	0.83	0.93	3.80
5	手足口病		0.60	0.70	0.83	0.37	2.50
6	流行性耳下腺炎		0.63	0.43	0.53	0.67	2.26

2. 全体の傾向

麻疹，風しんの報告無し。

インフルエンザの流行規模は大きかったが徐々に減少している。今後は，B型インフルエンザの流行程度により終息のスピードが左右されるであろう。RSウイルス感染症と手足口病も減少している。今シーズンは感染性胃腸炎が少ない。水痘は全国と同様に大きく減少しておりワクチンの効果が推測される。一方，A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は3シーズンぶりに多い。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 3,555名（1月9,139名）。第6週に警報値30を下回った後も週ごとに減少しているが，緩やかな減少であり第9週でも注意報値10を上回っている。09年を除くと，過去10年間では12年，05年に次ぐ流行となりそうである。週報によるとB型の割合が増加しているため，急激には減少しない可能性がある。定点あたり報告数は，中央西115.8，高知市87.01，中央東79.27，幡多50.51，須崎48.25，安芸28.75と地域差が大きい。年齢別では，5～9歳994名，10～14歳684名，1～4歳573名，30～39歳266名，40～49歳205名の順で，小中学生とその親の世代が多い。ウイルスは，AH3 NTが10件，B Yamagataが2件，B NTが1件検出された。

2) 咽頭結膜熱

報告数 8名（1月10名）。増加傾向はみられない。Adenovirusは検出されなかった。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 243名（1月201名）。冬に増加する疾患で，12～13年と13～14年は2シーズン連続で少なかったが，14～15年のシーズンは報告数が多い。過去10年間の2月では05年356名，12年252名に次いで多い。血清型T12が1件検出された。

4) 感染性胃腸炎

報告数 723名（1月947名）。過去10シーズンでは4桁の報告が2～5か月みられたが，今シーズンはまだ無く非常に少ない。ロタウイルスワクチンの任意接種は行われているが，ノロウイルス

には無関係と考えられ、たまたまの現象であろうか。全国は中程度の報告数である。ウイルスは、Norovirus GII NTが5件、Rotavirus AGIが1件、Sapovirusが2件検出された。

5) 水痘

報告数 50名(1月64名)。過去10年間の1月・2月は100~300名台の報告数であり、全国も約1/2に減少しておりワクチンの効果が推測される。

6) 手足口病

報告数 75名(1月106名)。今シーズンは流行のピークが12月と遅かったが終息に向かっている。ウイルスはCoxsackievirus A16が4件検出され、昨年から合計36件検出されている。

7) 伝染性紅斑

報告数 7名(1月3名)。全国は過去10年間では07年・11年に次いで多いが、高知県では増加傾向は明らかでない。

8) 突発性発疹

報告数 29名(1月57名)。14年5月から50名以上の比較的多い報告数が続いていたが急に減少した。

9) 百日咳

報告数 0名(1月3名)。13年4月13名以降、1桁の報告が続いている。

10) ヘルパンギーナ

報告数 3名(1月0名)。夏に増加する疾患であり、通常の経過である。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 68名(1月72名)。14年10月以降2桁の報告数であるが、急激な減少はみられない。

12) RSウイルス感染症

報告数 114名(1月174名)。12月233名をピークに徐々に減少している。3シーズン連続で9月から増加し、合計報告数も3シーズン連続で1,000名を超えそうである。

13) 流行性角結膜炎

報告数 1名(1月1名)。引き続き報告数は少ない。

14) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 9名(1月18名)。14年2月8名以来の1桁に減少した。

基幹定点の月報疾患

15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 22名(1月21名)。変化なし。

16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名(1月0名)。4か月連続0名で、昨年1年間の報告総数は4名のみである。

高知県感染症発生動向調査部会

会長 吉川 清志

高知県における月別全数報告疾患(平成27年2月)

類型	病名	報告年												総計					
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		23	24	25	26	27
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	138	27	1,216
	計									131	149	163	156	192	132	128	138	27	1,216
3	コレラ	1					1						1						3
	バラチフス	2																	2
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2										25
	腸チフス		1						1										2
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5		155
計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	0	187	
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1		3						2	30
	Q熱	1	1	2				1											5
	オウム病			1		1													2
	つつが虫病		9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	3		70
	マラリア								2					1					3
	レジオネラ症		2		1		1				9	7	3	6	9	2	4		44
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7		126
	日本脳炎	1	1	1					1			1	1						6
	レプトスピラ症											1		4	2	1			8
	E型肝炎												1		1				2
	デング熱												1				3	2	6
重症熱性血小板減少症候群																3	11	14	
計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	27	2	316	
5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		7	1	32
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3		1		54
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症																		12
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3				2	5	28
	ジアルジア症		1	2	1							1			1	1			7
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1								1							2
	急性脳炎								1	1	2	5	1	3	1			1	15
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	1			1	1		1	1	1	3			1	10
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7		44
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																1	1	2
	侵襲性肺炎球菌感染症															1	4	3	8
	髄膜炎菌性髄膜炎											1							1
	破傷風		3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		4		23
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4		111
	麻疹										5								5
風しん										1	1			4	9	1		16	
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	10	370	
新型	新型インフルエンザ										34								34
計											34								34
動物	鳥インフルエンザ												1						1
計													1						1
総計		61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	210	39	2,124

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

2月はウイルス66件，細菌13件の搬入があり，そのうちウイルス40件，細菌1件を検出し，また，平成27年1月に搬入された検体でウイルス7件を検出した。検出ウイルスの内訳は，Astrovirus NT 1件，Coxsackievirus A16 4件，Coxsackievirus A4 1件，Cytomegalovirus 2件，Epstein-Barr virus 3件，Human metapneumo virus 2件，Influenza virusA H3 NT 11件，Influenza virusB NT 1件，Influenza virusB/Yamagata 4件，Norovirus G II NT 5件，Parainfluenza virus1 1件，Parainfluenza virus 3 1件，Rhinovirus 6件，Respiratory syncytial virusA 2件，Rotavirus group A G1 1件，Sapovirus genogroup unknown 2件，また，細菌の内訳はStreptococcus pyogenes T12 1件であった。（※印のInfluenza virusB/Yamagataは1月にPCR検査で検出した後ウイルスを分離培養したものです。）

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	3	男	-	咳漱，	ぬぐい液	1. 5	Coxsackievirus A4
2	1	女	不明熱	40℃，	ぬぐい液	1. 9	Parainfluenza virus 3
3	1	女	手足口病様	発疹，	ぬぐい液	1.14	Rhinovirus
4	7ヶ月	女	不明発疹症	39℃， 発疹，	ぬぐい液	1.20	Rhinovirus
5	13	男	インフルエンザ	咳漱， 上気道炎，	ぬぐい液	1.22	Influenza virus B/Yamagata ※
6	4	女	インフルエンザ脳症	咳漱， 中枢神経系障害，	ぬぐい液	1.24	Influenza virus A H3 NT
7	6	男	インフルエンザ	40℃，	ぬぐい液	1.26	Influenza virus B/Yamagata ※
8	5	男	インフルエンザ	38℃， 気管支炎，	ぬぐい液	1.27	Influenza virus A H3 NT
9	5ヶ月	男	感染性胃腸炎	下痢， 嘔吐， 嘔気，	ふん便	1.27	Sapovirus genogroup unknown
10	10	女	インフルエンザ， クループ症候群	38℃， 上気道炎，	鼻腔ぬぐい液	1.28	Influenza virus A H3 NT
11	4	女	感染性胃腸炎	38℃， 嘔吐， 嘔気，	ふん便	1.28	Astrovirus NT
12	4	男	インフルエンザ	39℃， 上気道炎，	ぬぐい液	1.29	Influenza virus A H3 NT
13	4	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	37℃，	ぬぐい液	1.30	Streptococcus pyogenes T12
14	1	女	感染性胃腸炎	-	ふん便	1.30	Norovirus GII NT
15	1	男	手足口病	手足口病症状，	ぬぐい液	1.30	Coxsackievirus A16
16	1	男	肺炎	40℃， 咳漱， 肺炎，	ぬぐい液	1.30	Human metapneumovirus
17	32	男	インフルエンザ	38℃， 咳漱， 関節痛，	ぬぐい液	1.31	Influenza virus A H3 NT
18	2	女	感染性胃腸炎	下痢， 嘔吐， 嘔気，	ふん便	1.31	Norovirus GII NT
19	7	男	感染性胃腸炎	38℃， 嘔吐， 嘔気，	ふん便	1.31	Norovirus GII NT
20	10ヶ月	男	不明発疹症	発疹，	ぬぐい液	2. 2	Cytomegalovirus
21	3	男	インフルエンザ	40℃， 咳漱，	ぬぐい液	2. 3	Influenza virus A H3 NT
22	12	男	インフルエンザ	39℃， 咳漱，	ぬぐい液	2. 3	Influenza virus B/Yamagata
23	2	男	咽頭結膜熱	38℃， 腹痛， 上気道炎， 発疹， リンパ節浮腫，	ぬぐい液	2. 3	Cytomegalovirus Epstein-Barr virus Rhinovirus
24	2	男	手足口病	38℃， 口内炎， 手足口病症状，	ぬぐい液	2. 6	Coxsackievirus A16
25	1	女	不明熱	40℃， 下痢， 咳漱，	ぬぐい液	2. 7	Human metapneumovirus
26	51	女	インフルエンザ	38℃，	ぬぐい液	2. 8	Influenza virus A H3 NT
27	3	男	インフルエンザ	40℃， 気管支炎，	ぬぐい液	2. 9	Influenza virus A H3 NT
28	4	女	インフルエンザ	39℃， 咳漱， 上気道炎，	ぬぐい液	2. 9	Influenza virus A H3 NT
29	2	男	手足口病	手足口病症状，	ぬぐい液	2. 9	Coxsackievirus A16
30	8	男	流行性耳下腺炎	38℃， 咳漱， 上気道炎， リンパ節浮腫，	ぬぐい液	2. 9	Epstein-Barr virus
31	1	男	感染性胃腸炎	下痢， 嘔吐，	ふん便	2. 9	Sapovirus genogroup unknown
32	10ヶ月	男	クループ症候群	40℃， 咳漱，	鼻咽腔	2.10	Parainfluenza virus 1
33	1	男	不明熱	39℃， 咳漱，	ぬぐい液	2.10	Respiratory syncytial virus A

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス, 細菌の検出
34	3	女	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	2.12	Coxsackievirus A16
35	4	女	不明熱	40℃, 咳漱,	ぬぐい液	2.12	Respiratory syncytial virus A
36	1	男	不明熱	39℃,	ぬぐい液	2.13	Rhinovirus
37	15	男	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	2.14	Influenza virus A H3 NT
38	10	女	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	2.16	Influenza virus A H3 NT
39	2	男	インフルエンザ	38℃, 上気道炎,	ぬぐい液	2.16	Influenza virus B/Yamagata
40	7	女	不明熱	38℃,	ぬぐい液	2.17	Epstein-Barr virus
41	3ヶ月	男	感染性胃腸炎	39℃, 咳漱, 気管支炎,	ふん便	2.18	Norovirus GII NT
42	1ヶ月	男	急性気管支炎	39℃, 上気道炎, 気管支炎,	ふん便	2.18	Rhinovirus
43	3	男	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	2.20	Norovirus GII NT
44	3	女	感染性胃腸炎	39℃, 嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	2.20	Rotavirus group A G1
45	16	女	インフルエンザ	38℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	2.23	Influenza virus B NT
46	2	男	気管支炎	38℃, 上気道炎, 気管支炎, 肺炎,	鼻腔ぬぐい液	2.23	Rhinovirus

高知県感染症情報月報 2015年3月

(65定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ	111	312	759	394	82	174	1,832	3,555	3,243
小児科	咽頭結膜熱		1	7		2	2	12	8	21
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	16	11	93	14	24	120	278	243	84
	感染性胃腸炎	49	243	199	32	53	83	659	723	750
	水痘		7	16	24	2	2	51	50	101
	手足口病	12	3	60	1		9	85	75	1
	伝染性紅斑			6			3	9	7	3
	突発性発疹	1	4	24	2	3	6	40	29	43
	百日咳			1				1		1
	ヘルパンギーナ	1				1	1	3	3	
	流行性耳下腺炎	39	2	48	2	1	12	104	68	220
	RSウイルス感染症	8	13	10	2	3	7	43	114	25
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			1				1	1	2
STD	性器クラミジア感染症			1				1		2
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ									
	淋菌感染症			1				1		1
基幹	細菌性髄膜炎			1				1	1	1
	無菌性髄膜炎			3				3		1
	マイコプラズマ肺炎		2	11				13	9	16
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			3				3	2	2
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)		1	5			2	8	5	7
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	7	3	13			1	24	22	21
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									
	薬剤耐性緑膿菌感染症									
計		244	602	1,262	471	171	422	3,172	4,915	4,545
前月		243	1,106	1,934	704	257	671			
前年同月		227	664	1,981	574	246	853			
小児科定点数		2	7	11	3	2	5			

2015年3月

全国情報（3月2日～3月29日）

第10週（3月2日～）から第13週（～3月29日）までの4週間に多く報告された疾患は表1のとおりである。

3月の上位6疾患の合計は62.51で、2月91.22の約2/3に減少した。インフルエンザ（2月1位45.32）がその原因である。第4週をピークに週ごとに減少し2月は1月の1/3、3月は2月の1/3と順調に減っている。例年よりも早期に流行し、早期に終息に向かっている。感染性胃腸炎の報告数は、3月30.19と横ばい（同2位29.32）であるが、インフルエンザを超え、1位になった。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（同3位10.95）は微増し、過去10年間の同時期では最も多い。水痘（同5位1.93）、突発性発疹（同6位1.71）は横ばいである。RSウイルス感染症（同4位1.99）は1.46と減少し、それにかわってロタウイルス胃腸炎が1.81に増加し6位に入った。

4月の保育入園者増にともない、今後ロタウイルスの流行季を迎え、ワクチンの抑制効果が期待されるところである。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	10週	11週	12週	13週	計
1	感染性胃腸炎	8.07	8.22	7.30	6.60	30.19
2	インフルエンザ	4.32	3.99	3.85	2.63	14.79
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.11	3.12	2.94	2.69	11.86
4	水痘	0.51	0.51	0.48	0.53	2.03
5	突発性発疹	0.46	0.45	0.44	0.48	1.83
6	感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）	0.42	0.40	0.50	0.49	1.81

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の3月の上位6疾患の合計は77.40で、2月114.82の2/3に減少したが全国よりも多い（表2）。

上位3疾患は2月と同じでインフルエンザ（2月1位74.06）は第4週51.07をピークに週ごとに減少していたが、第11・12週に再び増加しかけ、春休み入りした第13週に減少に転じた。インフルエンザは全国の2.7倍の報告数で県別では1位であった。感染性胃腸炎（同2位24.10）、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（同3位9.26）は全国よりも少なく、逆に2月に比べて増加した流行性耳下腺炎（同6位2.26）と手足口病（同5位2.50）が全国よりも多く報告された。RSウイルス（同4位3.80）は1.43に減少し8位になった。水痘は横ばいであるが他の減少にともない6位に上がった。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	10週	11週	12週	13週	計
1	インフルエンザ	9.90	10.88	11.29	6.10	38.17
2	感染性胃腸炎	5.97	5.93	5.00	5.07	21.97
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.13	2.63	2.33	2.17	9.26
4	流行性耳下腺炎	0.97	0.80	1.03	0.67	3.47
5	手足口病	0.47	0.57	0.93	0.87	2.84
6	水痘	0.63	0.30	0.43	0.33	1.69

2. 全体の傾向

麻疹、風しんの報告無し。

インフルエンザは減少してきているが、全国と比べて高いレベルで推移している。感染性胃腸炎とRSウイルスは減少したが、一方、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、流行性耳下腺炎が増加し、手足口病、ロタウイルス胃腸炎も増加する傾向にある。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 1,832名（2月3,555名）。第6週に警報値30を、第10週に9.90と注意報値10を下回ったが、第11、12週に再び10.88、11.29と注意報値を上回り、第13週に6.10と再び減少した。3月の高知県での定点あたりの報告数は全国第1位であり、流行規模も過去10年間では12年、05年に次ぐ流行となりそうである。地域差があり、中央西78.80、高知市47.44と高く、中央東28.36、安芸27.75、幡多21.76、須崎20.50であった。年齢別では、5～9歳591名、10～14歳456名、1～4歳200名、30～39歳と40～49歳がともに101名で、小中学生とその親の世代が多い。ウイルスはAH3 NTが3件、B NTが4件、B Yamagataが2件検出された。A型にかわってB型の流行が優勢となったことが第11・12週の再増加に結び付いたものと推測される。過去10年間の分析で、B型の流行はゴールデンウィーク頃まで持続することが多く、終息まで今少し時間がかかりそうである。

2) 咽頭結膜熱

報告数 12名（2月8名）。やや増加したが、アデノウイルスは検出されていない

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 278名（2月243名）。2014年10月から増加の一途をたどっている。地域別では幡多、高知市、須崎からの報告が多い。血清型はT6が5件、T4が1件検出されている。

4) 感染性胃腸炎

報告数 659名（2月723名）。過去の同時期に比べて少ない。Norovirus G II NTが7件、Sapovirusが2件、Rotavirus AG1が2件検出さ

れている。

5) 水痘

報告数 51名(2月50名)。過去10年間の2月・3月は100~400名の報告数であり、ワクチン定期化の効果と推測される。

6) 手足口病

報告数 85名(2月75名)。過去10年間の2月・3月は数名~40名であり、きわだって多い数で推移している。Coxsackievirus A16が1件検出され、2015年は計12例とも同ウイルスで、2014年10月以降Enterovirus 71は1件も検出されていない。

7) 伝染性紅斑

報告数 9名(2月7名)。第9週以降、石川県、東京都、埼玉県で報告数が増加しているが、本県では増加は顕著ではない。

8) 突発性発疹

報告数 40名(2月29名)。14年5月から50名以上の比較的多い報告数が続いていたが、15年2月は29名と急減していた。3月は40名と増加している。

9) 百日咳

報告数 1名(2月0名)。4歳児例が1名報告された。13年4月の13名以降、1桁の報告が続いている。

10) ヘルパンギーナ

報告数 3名(2月3名)。夏に増加する疾患であり、通常の経過である。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 104名(2月68名)。大幅に増加し、安芸、高知市、幡多からの報告が多い。

12) RSウイルス感染症

報告数 43名(2月114名)。今季は8月に流行が始まり12月233名をピークに徐々に減少し、終息に向かっているようである。

13) 流行性角結膜炎

報告数 1名(2月1名)。ここ3年間は一桁で推移している。

14) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 13名(2月9名)。10名~20名台で推移している。

基幹定点の月報疾患

15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 24名(2月22名)。20名前後で推移し変化はない。

16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名(2月0名)。5か月連続で報告はゼロで、2014年は計4例の報告のみである。

高知県感染症発生動向調査部会

前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患(平成27年3月)

類型	病名	報告年																											総計																														
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27																																									
2	結核																											131	149	163	156	192	132	128	138	43	1,232																						
	計																											131	149	163	156	192	132	128	138	43	1,232																						
3	コレラ	1																										1																											3				
	バラチフス	2																																																					2				
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2																											25																							
	腸チフス		1																										1																											2			
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5			155																																							
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	0	187																																								
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1			3					3	31																																								
	Q熱	1	1	2																										1																											5		
	オウム病			1																										1																											2		
	つつが虫病			9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	3			70																																						
	マラリア					1																										2																											3
	レジオネラ症			2		1																										1		9	7	3	6	9	2	4			44																
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7			126																																							
	日本脳炎	1	1	1																										1	1	1																											6
	レプトスピラ症					1																										1			4	2	1			8																			
	E型肝炎							1																										1			1			2																			
	デング熱									1																										1			3	2	1	7																	
	重症熱性血小板減少症候群											3			11			14																																									
		計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	27	4	318																																							
5	アメーバ赤痢			2	2	2	1	2	2	2	1			3	2	2	3	7	1	32																																							
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3			3			54																																								
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症			1	1	4			4	3	3			6			1	3	2	28																																							
	クロイツフェルト・ヤコブ病			1	2	1																										1																											7
	ジアルジア症			1																										1																											2		
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1																										1																											2		
	急性脳炎							1	1	2	5	1	3	1			1	1	16																																								
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	1																										1			1	3			10																				
	後天性免疫不全症候群	2			2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	1	1	45																																								
	侵襲性インフルエンザ菌感染症															1	1	1	2																																								
	侵襲性肺炎球菌感染症															1	4	3	8																																								
	髄膜炎菌性髄膜炎															1			1																																								
	破傷風			3	2	2	1	1	1	2	3	1	1	1	1			4	1	24																																							
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4			111																																							
	麻疹															5			5																																								
	風しん															1	1			16																																							
	計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	14	374																																								
新型	新型インフルエンザ																											34																											34				
	計																											34																											34				
動物	鳥インフルエンザ																											1																											1				
	計																											1																											1				
	総計	61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	210	61	2,146																																								

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

3月はウイルス97件，細菌12件の搬入があり，そのうちウイルス38件，細菌6件の病原体を検出し，また，平成26年2月に搬入された検体でウイルス5件，細菌2件を検出した。検出ウイルスの内訳は，Adenovirus 1 1件，Adenovirus 6 1件，Coxsackievirus A16 2件，Cytomegalovirus 1件，Echovirus 18 1件，Epstein-Barr virus 2件，Human herpes virus 7 2件，Human metapneumovirus 1件，Influenza virus AH3 NT 4件，Influenza virus B NT 5件，Influenza virus B/Yamagata 3件，Norovirus GII NT 7件，Respiratory syncytial virus A 3件，Rhinovirus 6件，Rotavirus group AG1 2件，Sapovirus genogroup unknown 2件，また，細菌の内訳は，Streptococcus pyogenes T4 1件，Streptococcus pyogenes T6 7件であった。（※印のInfluenza virus B/Yamagataは2月にPCR検査で検出した後ウイルスを分離培養したものです。）

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	8	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃，上気道炎，	ぬぐい液	2.12	Streptococcus pyogenes T6
2	5	女	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	37℃，発疹，	ぬぐい液	2.17	Streptococcus pyogenes T6
3	3ヶ月	男	急性気管支炎	39℃，咳漱，気管支炎，	ぬぐい液	2.18	Respiratory syncytial virus A
4	5	男	急性気管支炎，喘息	40℃，咳漱，気管支炎，肺炎，	喀痰	2.21	Adenovirus 1 Respiratory syncytial virus A
5	16	女	インフルエンザ	38℃，咳漱，上気道炎，	ぬぐい液	2.23	Influenza virus B/Yamagata ※
6	3ヶ月	男	手足口病	手足口病症状，	ぬぐい液	2.23	Coxsackievirus A16
7	15	男	不明熱	39℃，咳漱，	ぬぐい液	2.24	Epstein-Barr virus
8	8	男	不明発疹症	下痢，発疹，	ぬぐい液	2.25	Human herpes virus 7
9	3	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃，	ぬぐい液	2.26	Streptococcus pyogenes T6
10	8	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39℃，上気道炎，	ぬぐい液	2.26	Streptococcus pyogenes T6
11	12	女	上気道炎	39℃，上気道炎，	ぬぐい液	2.27	Influenza virus A H3 NT
12	5	男	インフルエンザ	39℃，	ぬぐい液	2.28	Influenza virus B/Yamagata
13	1	男	肺炎	42℃，嘔吐，嘔気，咳漱，肺炎，	ぬぐい液	2.28	Human metapneumovirus
14	4	女	不明発疹症	38℃，発疹，	ぬぐい液	2.28	Human herpes virus 7
15	55	男	インフルエンザ	38℃，下痢，咳漱，関節痛，	ぬぐい液	3. 2	Influenza virus B NT
16	2	男	感染性胃腸炎	39℃，下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	3. 2	Rotavirus group A G1
17	3	女	感染性胃腸炎・無菌性髄膜炎	39℃，嘔吐，嘔気，咳漱，	鼻腔ぬぐい液	3. 2	Respiratory syncytial virus A
18	2ヶ月	女	急性肺炎	肺炎，	ぬぐい液	3. 2	Rhinovirus
19	7	男	けいれん重積，急性気管支炎	40℃，気管支炎，	ぬぐい液	3. 4	Rhinovirus
20	10ヶ月	女	不明発疹症	38℃，咳漱，発疹，	ぬぐい液	3. 4	Rhinovirus
21	5	女	インフルエンザ	38℃，咳漱，	ぬぐい液	3. 5	Influenza virus A H3 NT
22	3	男	急性咽頭扁桃炎	39℃，	ぬぐい液	3. 5	Echovirus 18
23	7	女	感染性胃腸炎	39℃，下痢，腹痛，上気道炎，	ぬぐい液	3. 6	Influenza virus B NT
24	3	男	感染性胃腸炎	39℃，下痢，嘔吐，嘔気，腹痛，咳漱，関節痛，	ふん便	3. 6	Norovirus GII NT
25	2	男	感染性胃腸炎	37℃，下痢，嘔吐，嘔気，咳漱，	ふん便	3. 6	Norovirus GII NT
26	2	男	感染性胃腸炎	嘔吐，嘔気，	ふん便	3. 6	Norovirus GII NT
27	43	女	インフルエンザ	37℃，咳漱，	ぬぐい液	3. 7	Influenza virus B NT
28	1	女	伝染性単核症	40℃，	ぬぐい液	3. 9	Cytomegalovirus Epstein-Barr virus
29	1	女	不明熱	39℃，咳漱，	ぬぐい液	3. 9	Rhinovirus
30	1	男	不明発疹症	39℃，発疹，	ぬぐい液	3. 9	Adenovirus 6
31	1	女	感染性胃腸炎	-	ふん便	3.11	Norovirus GII NT
32	7	男	感染性胃腸炎	38℃，嘔吐，嘔気，	ふん便	3.12	Norovirus GII NT
33	3	女	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	3.12	Norovirus GII NT
34	3	女	感染性胃腸炎	嘔吐，嘔気，	ふん便	3.12	Sapovirus genogroup unknown

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス, 細菌の検出
35	13	男	感染性胃腸炎	40℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	3.12	Sapovirus genogroup unknown
36	61	女	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	3.13	Influenza virus B/Yamagata
37	1	女	不明発疹症	39℃, 発疹,	ぬぐい液	3.13	Rhinovirus
38	5	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃,	ぬぐい液	3.14	<i>Streptococcus pyogenes T6</i>
39	1	男	上気道炎	38℃, 上気道炎,	鼻汁	3.16	Rhinovirus
40	5	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃, 発疹,	ぬぐい液	3.16	<i>Streptococcus pyogenes T4</i>
41	3	女	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	3.16	Norovirus GII NT
42	1	男	感染性胃腸炎	39℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	3.16	Rotavirus group A G1
43	5	女	手足口病	38℃, 口内炎, 手足口病症状,	ぬぐい液	3.17	Coxsackievirus A16
44	6	男	インフルエンザ	38℃,	ぬぐい液	3.20	Influenza virus A H3 NT
45	1	女	インフルエンザ	39℃, 気管支炎,	ぬぐい液	3.20	Influenza virus B NT
46	49	女	インフルエンザ	38℃, 咳漱, 筋肉痛,	ぬぐい液	3.22	Influenza virus A H3 NT
47	11	女	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39℃, 腹痛,	ぬぐい液	3.23	<i>Streptococcus pyogenes T6</i>
48	7	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	3.23	Influenza virus B NT
49	6	女	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39℃, 嘔吐, 嘔気,	ぬぐい液	3.24	<i>Streptococcus pyogenes T6</i>

高知県感染症情報月報 2015年4月

(65定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ	24	162	264	99	19	106	674	1,832	781
小児科	咽頭結膜熱		1	5		1	3	10	12	15
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5	24	193	11	27	62	322	278	57
	感染性胃腸炎	78	176	250	74	67	45	690	659	1,167
	水痘	1	12	13	14	2	6	48	51	154
	手足口病	12	34	64	3	1	126	240	85	
	伝染性紅斑		3	6	2	1	1	13	9	3
	突発性発疹	4	13	35	5	6	8	71	40	48
	百日咳			3				3	1	3
	ヘルパンギーナ	1		4				4	9	2
	流行性耳下腺炎	33	4	33	2	1	25	98	104	171
	RSウイルス感染症	1	6	13		1	12	33	43	16
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			2				2	1	6
STD	性器クラミジア感染症			2				2	1	1
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ									
	淋菌感染症								1	
基幹	細菌性髄膜炎		2	1				3	1	1
	無菌性髄膜炎			1				1	3	
	マイコプラズマ肺炎	1	1	17			3	22	13	22
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			6				6	3	1
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)		1	12			1	14	8	31
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5	4	12			1	22	24	24
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									2
	薬剤耐性緑膿菌感染症			1				1		
計		165	443	937	210	126	403	2,284	3,172	2,505
前月		244	602	1,262	471	171	422			
前年同月		136	437	1,163	330	131	308			
小児科定点数		2	7	11	3	2	5			

2015年4月

全国情報（3月30日～5月3日）

第14週（3月30日～）から第18週（～5月3日）までの5週間に報告（以下は4週間に換算した数値を示す）の多かった疾患は表1のとおりである。

4月の上位6疾患の合計は52.17（5週間の実数は65.21）で、3月62.51よりも減少した。

インフルエンザと感染性胃腸炎の減少がその主因である。インフルエンザは第4週をピークに毎月順調に減少し、終息に向かっている。報告数第1位の感染性胃腸炎も、4月26.04（3月1位32.58）と減少した。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は2位に順位を上げたが10.73（同3位11.86）とわずかに減少、それでも過去10年間の同時期では最多である。手足口病が3.18（同7位1.7）と増加し4位に、伝染性紅斑が2.57（同9位1.61）と増加して5位になり、今後の動向が注目される。ロタウイルス胃腸炎は、近年の流行シーズンにあたっており、順位を7位に下げたが2.08（同6位1.81）とまだ増加傾向にあり引き続き注意が必要である。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	14週	15週	16週	17週	18週	計
1	感染性胃腸炎		6.13	5.82	6.84	7.19	6.60	32.58
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.13	2.20	2.87	3.18	3.03	13.41
3	インフルエンザ		2.14	1.57	2.06	2.02	1.43	9.22
4	手足口病		0.45	0.54	0.77	1.06	1.15	3.97
5	伝染性紅斑		0.46	0.45	0.73	0.78	0.79	3.21
6	突発性発疹		0.48	0.54	0.57	0.62	0.61	2.82

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の3月の上位6疾患の合計は61.74、比較のため4週間に換算すると49.39で、3月77.4から減少し、全国よりもやや少なくなった（表2）。上位3疾患はインフルエンザが減少し、1位2位が入れ替わり、感染性胃腸炎が1位になった。インフルエンザは、3月は38.17と全国都道府県別で最多の報告であったが、波打ちながら減少し、まだ全国よりも多めではあるが、ようやく終息に向かいそうである。

感染性胃腸炎（3月2位21.97）、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（同3位9.26）は全国よりも少ない。手足口病は大幅に増加し（同5位2.84）、全国よりも多く報告された。流行性耳下腺炎はわずかに減った（同4位3.47）が全国よりも多い。水痘は横ばいであるが他の減少にともない6位に上がった。マイコプラズマ肺炎が増加し（同7位1.63）、全国よりも多い。RSウイルス（同8位1.43）は0.88に減少し10位になった。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	14週	15週	16週	17週	18週	計
1	感染性胃腸炎		4.53	4.70	4.77	4.53	4.40	22.93
2	インフルエンザ		4.92	2.46	3.23	2.48	0.96	14.05
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.63	1.83	2.47	2.10	2.70	10.73
4	手足口病		1.17	0.60	1.73	2.23	2.27	8.00
5	流行性耳下腺炎		0.63	0.60	0.70	0.47	0.87	3.27
6	マイコプラズマ肺炎		0.75	0.50	0.63	0.38	0.50	2.76

2. 全体の傾向

インフルエンザは減少し終息に向かっている。第1位の感染性胃腸炎、2位のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎は減少傾向にあるものの依然多く報告されている。手足口病の増加が顕著で、マイコプラズマ肺炎の増加も注目される。全国的に増加が注目されている伝染性紅斑は高知県では3月0.29から4月0.34と増加はゆるやかである。ロタウイルス胃腸炎は3月1.02、4月1.41と増加し引き続き注目される。

麻疹、風しんの報告なし。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 674名（3月1,832名）。第6週に警報値30を、第10週に9.90と注意報値10を下回ったが、第11、12週に再び10.88、11.29と注意報値を上回り、第13週に6.10と再び減少し次第に終息に向かっている。高知県での定点あたりの報告数は、3月は全国第1位だったが4月は9位に下がり他に上位を譲った。県下での流行規模も過去10年間では12年、05年に次ぐ流行となりそうである。地域差があり、中央西19.80、高知市16.50と高く、中央東14.73、幡多13.27、安芸6.00、須崎4.75であった。年齢別では、5～9歳201名、10～14歳121名、1～4歳99名、30～39歳58名と40～49歳が56名で、小中学生とその親の世代が多い。ウイルスはB型NTの1件のみが検出された。A型にかわってB型の流行が優勢となったことが第11・12週の再増加に結び付いたものと推測される。過去10年間の分析で、B型の流行はゴールデンウィーク頃まで持続することが多く終息しそうな兆しがある。

2) 咽頭結膜熱

報告数 10名（3月12名）。Adenovirus 5型と6型が検出されている。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 322名（3月278名）。2014年10月からつづいた増加が減少に転じた。高知市、須崎、幡多からの報告が多い。細菌は検出されていない。

4) 感染性胃腸炎

報告数 690名（3月659名）。報告数は1位だが報告数は減少している。安芸、須崎、中

中央東，中央西，高知市の順に多い。ウイルスはNorovirus II NTが7件，Sapovirusが2件検出されている。

5) 水痘

報告数 48名(3月51名)。過去10年間3月4月の報告数100~400名に比べると，本年の報告数は少ない。ワクチン定期化の効果であろう。

6) 手足口病

報告数 240名(3月85名)。6月7月から流行が始まる年が多いが，春の流行としては過去10年間で最大のものとなっている。幡多，安芸，高知市，中央東で多い。ウイルスは発疹症の1歳児からCoxsackievirus A16が1件検出され，手足口病例から2015年は計12件同ウイルスが検出されている。脳幹脳炎に関連するEnterovirus 71は1例も検出されていない。

7) 伝染性紅斑

報告数 13名(3月9名)。全国では過去5年間の同時期と比較してかなり多く，上位3位は滋賀県，福島県，埼玉県である。3月末の検体からParvovirus B19が1件検出された。流行年では春から夏にかけて増加するので今後の動向が注目される。

8) 突発性発疹

報告数 71名(3月40名)。想定内の変動である。

9) 百日咳

報告数 3名(3月1名)。0歳，9歳児，成人例が各1例，高知市から報告された。13年4月の13名以降，1桁の報告が続いている。

10) ヘルパンギーナ

報告数 9名(3月3名)。毎年夏に向けて流行が予測される。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 98名(3月104名)。安芸，幡多，高知市で多い。3月に大幅に増加したが，4月は減少に転じた。

12) RSウイルス感染症

報告数 33名(3月43名)。今季は8月に流行が始まり12月233名をピークに徐々に減少してはいるものの，完全に終息していない。幡多，高知市，中央東からの報告が多い。

13) 流行性角結膜炎

報告数 2名(3月1名)。ここ3年間は一桁で推移している。

14) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 22名(3月13名)。高知市，幡多で多い。10名~20名代で推移しているが，増加の傾向にある。

基幹定点の月報疾患

15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 22名(3月24名)。20名前後で推移し変化はない。

16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 1名(3月0名)。高知市の60歳代患者が報告された。2014年は計4例，2015年は初例の報告である。

高知県感染症発生動向調査部会

前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患(平成27年4月)

類型	病名	報告年																	総計
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	138	52	1241
	計									131	149	163	156	192	132	128	138	52	1241
3	コレラ																		3
	パラチフス																		2
	細菌性赤痢																		25
	腸チフス																		2
	腸管出血性大腸菌感染症																		155
	計																		187
4	A型肝炎																		3
	Q熱																		5
	オウム病																		2
	つつが虫病																		70
	マラリア																		3
	レジオネラ症																		44
	日本紅斑熱																		126
	日本脳炎																		6
	レプトスピラ症																		8
	E型肝炎																		2
	デング熱																		7
	重症熱性血小板減少症候群																		14
		計																	
5	アメーバ赤痢																		32
	ウイルス性肝炎																		54
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症																		14
	クロイツフェルト・ヤコブ病																		28
	ジアルジア症																		2
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症																		2
	急性脳炎																		16
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症																		10
	後天性免疫不全症候群																		46
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																		2
	侵襲性肺炎球菌感染症																		9
	髄膜炎菌性髄膜炎																		1
	破傷風																		24
	梅毒																		112
	麻疹																		5
	風しん																		16
		水痘(入院例に限る)																	
	計																		379
新型	新型インフルエンザ																		34
	計																		34
動物	鳥インフルエンザ																		1
	計																		1
	総計																		2,160

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

4月はウイルス98件，細菌5件の搬入があり，そのうちウイルス28件の病原体を検出した．また，平成26年3月に搬入された検体でウイルス15件を検出した．検出ウイルスの内訳は，Adenovirus 5 1件，Adenovirus 6 1件，B19 virus 1件，Coxsackievirus A16 1件，Cytomegalovirus 2件，Echovirus 18 1件，Human herpes virus 6 1件，Human herpes virus 7 4件，Human metapneumovirus 4件，Influenza virus AH3 NT 1件，Influenza virusB NT 1件，Influenza virusB/Yamagata 2件，Norovirus G II NT 12件，Rhinovirus 7件，Sapovirus genogroup unknown 4件であった．（※印のInfluenza virusB/Yamagataは3月にPCR検査で検出した後ウイルスを分離培養したものです．）

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	14	男	不明発疹症	38℃，発疹，	ぬぐい液	3. 3	Human herpes virus 7
2	7	女	インフルエンザ	39℃，咳漱，上気道炎，	ぬぐい液	3.23	Influenza virus B/Yamagata ※
3	2	男	不明発疹症	発疹，	ぬぐい液	3.23	Cytomegalovirus
4	1	女	感染性胃腸炎	38℃，下痢，	ふん便	3.24	Sapovirus genogroup unknown
5	6	男	インフルエンザ	38℃，下痢，	ぬぐい液	3.26	Influenza virus A H3 NT
6	5	女	感染性胃腸炎	38℃，下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	3.26	Norovirus GII NT
7	1	女	不明発疹症	発疹，	ぬぐい液	3.26	Human herpes virus 6
8	3	男	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	3.27	Norovirus GII NT
9	13	男	急性脳炎脳症	40℃，中枢神経系障害，	髄液	3.27	Human herpes virus 7
10	1	女	不明熱	40℃，咳漱，	ぬぐい液	3.27	Human metapneumovirus
11	10	女	感染性胃腸炎	嘔吐，嘔気，腹痛，	ふん便	3.28	Norovirus GII NT
12	36	男	インフルエンザ	38℃，関節痛，	ぬぐい液	3.29	Influenza virus B/Yamagata
13	6	男	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	3.30	Norovirus GII NT
14	6	男	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	3.30	Norovirus GII NT Sapovirus genogroup unknown
15	5	男	伝染性紅斑	38℃，嘔吐，嘔気，腹痛，咳漱， 発疹，	ぬぐい液	3.30	B19 virus
16	2	男	感染性胃腸炎	38℃，嘔吐，	ふん便	3.31	Norovirus GII NT
17	3	女	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	4. 1	Norovirus GII NT
18	3	男	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	4. 1	Norovirus GII NT Sapovirus genogroup unknown
19	2ヶ月	男	百日咳疑い 気管支炎 肺炎	咳漱，上気道炎，	鼻腔ぬぐい	4. 1	Rhinovirus
20	5	女	不明熱	40℃，下痢，	ぬぐい液	4. 1	Human metapneumovirus
21	2	女	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	4. 2	Norovirus GII NT
22	73	男	インフルエンザ	38℃，咳漱，	ぬぐい液	4. 4	Influenza virus B NT
23	1	男	咽頭結膜熱	40℃，嘔吐，嘔気，	ぬぐい液	4. 6	Adenovirus 5
24	2	女	咽頭結膜熱	40℃，腹痛，	ぬぐい液	4. 6	Adenovirus 6
25	1	男	不明発疹症	発疹，	ぬぐい液	4. 6	Echovirus 18
26	1	男	不明発疹症	39℃，咳漱，発疹，	ぬぐい液	4. 6	Human herpes virus 7
27	9ヶ月	女	不明発疹症	40℃，下痢，発疹，	ぬぐい液	4. 7	Cytomegalovirus
28	2	女	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	4. 7	Norovirus GII NT
29	2ヶ月	女	無菌性髄膜炎の疑い	38℃，咳漱，発疹，	ぬぐい液	4. 7	Rhinovirus
30	4	男	感染性胃腸炎	38℃，嘔吐，嘔気，	ふん便	4.10	Norovirus GII NT
31	2	女	発疹症	-	ぬぐい液	4.10	Rhinovirus
32	1	女	感染性胃腸炎	嘔吐，嘔気，	ふん便	4.12	Norovirus GII NT
33	4	男	急性気管支炎	咳漱，	鼻咽腔ぬぐい液	4.13	Rhinovirus
34	2	男	急性気管支炎	38℃，咳漱，気管支炎，	鼻汁吸引液	4.13	Rhinovirus
35	11ヶ月	男	咽頭結膜熱	40℃，	ぬぐい液	4.13	Human metapneumovirus

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス, 細菌の検出
36	2	男	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	4.13	Human herpes virus 7
37	1	男	発疹症	-	ぬぐい液	4.13	Coxsackievirus A16
38	10ヶ月	男	不明発疹症	40℃, 嘔吐, 嘔気, 咳漱, 発疹,	ぬぐい液	4.13	Rhinovirus
39	1	男	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	4.14	Sapovirus genogroup unknown
40	3	男	伝染性紅斑	咳漱, 発疹,	ぬぐい液	4.15	Rhinovirus
41	1	男	急性気管支炎	40℃, 咳漱,	ぬぐい液	4.20	Human metapneumovirus

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2015年				2015年 総計
		1	2	3	4	
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes</i> T4			1		1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T6		2	5		7
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T12		1			1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> TB3264	1				1
	計	1	3	6		10
インフルエンザ	Influenza virus A H3 NT	38	10	4		52
	Influenza virus B NT	2		3	1	6
	Influenza virus B Yamagata	2	3	4		9
	計	42	13	11	1	67
咽頭結膜熱	Adenovirus 5				1	1
	Adenovirus 6	1			1	2
	Cytomegalovirus		1			1
	Epstein-Barr virus		1			1
	Human metapneumovirus				1	1
	Rhinovirus	1	1			2
計	2	3		3	8	
感染性胃腸炎	Astrovirus NT		1			1
	Echovirus 3	1				1
	Influenza virus B NT			1		1
	Norovirus GII NT	6	5	12	7	30
	Rotavirus group AG1		1	2		3
	Sapovirus genogroup unknown	2	2	4	2	10
	計	9	9	19	9	46
手足口病	Coxsackievirus A16	6	5	1		12
	Human herpes virus 7				1	1
	Norovirus GII NT	1				1
	Rhinovirus	2				2
	計	9	5	1	1	16
百日咳	<i>Bordetella parapertussis</i>	1				1
	<i>Bordetella pertussis</i>	1				1
	Rhinovirus				1	1
	計	2			1	3
流行性耳下腺炎	Epstein-Barr virus		1			1
	計		1			1
無菌性髄膜炎	Rhinovirus				1	1
	Respiratory syncytial virus A			1		1
	計			1	1	2
その他	Adenovirus 1	1	1			2
	Adenovirus 2	1				1
	Adenovirus 6	1		1		2
	B19virus			1		1
	Coxsackievirus A4	1				1
	Coxsackievirus A16				1	1
	Cytomegalovirus	1	1	1	2	5
	Echovirus 3	1				1
	Echovirus 18	1		1	1	3
	Epstein-Barr virus		1	2		3
	Human herpes virus 6			1		1
	Human herpes virus 7			4	1	5
	Human metapneumovirus		2	2	2	6
	Influenza virus A H3 NT	1		1		2
	Parainfluenza virus 1		1			1
	Parainfluenza virus 3	1				1
	Respiratory syncytial virus A	2	4			6
	Rhinovirus	3	3	6	5	17
計	14	13	20	12	59	
総計	79	47	58	28	212	

高知県感染症情報月報 2015年5月

(65定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ	3	4	17	3		27	54	674	211
小児科	咽頭結膜熱		2	10	1		2	15	10	40
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	24	150	13	19	50	259	322	95
	感染性胃腸炎	31	108	201	43	23	89	495	690	1,236
	水痘		12	22	2	3	12	51	48	233
	手足口病	13	36	25	24	9	84	191	240	6
	伝染性紅斑	1	5	1	1			8	13	7
	突発性発疹	4	10	30	5	6	9	64	71	83
	百日咳			1				1	3	
	ヘルパンギーナ	1	4	2		1	3	11	9	19
	流行性耳下腺炎	29	2	29			13	73	98	158
	RSウイルス感染症		2	6	12		2	22	33	7
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎								2	7
STD	性器クラミジア感染症			1				1	2	3
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ									
	淋菌感染症									
基幹	細菌性髄膜炎		1				1	2	3	1
	無菌性髄膜炎	1		2				3	1	2
	マイコプラズマ肺炎		2	15			4	21	22	26
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			7				7	6	
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)		2	14			3	19	14	64
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		5	10			1	16	22	33
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									
	薬剤耐性緑膿菌感染症								1	2
計		86	219	543	104	61	300	1,313	2,284	2,233
前月		165	443	937	210	126	403			
前年同月		96	322	1,064	274	147	330			
小児科定点数		2	7	11	3	2	5			

2015年5月

全国情報（5月4日～5月31日）

第19週（5月4日～）から第22週（～5月31日）までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。5月の上位6疾患の合計は50.01で4月の4週間換算値52.17よりも減少し、目立った感染症の流行はなかった。インフルエンザが終息に向かっている。

報告数第1位の感染性胃腸炎は横ばいで5月25.00（4月1位26.04）であった。2位も順位かわらずA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で12.07（同2位10.73）とわずかに増加し、過去10年間の同時期では最多である。手足口病が5.52（同4位3.18）と増加し3位に、伝染性紅斑が2.68（同5位2.57）と横ばいで4位になり、流行が危惧されたが頭打ちとなったかにみえる。インフルエンザは第4週をピークに月ごとに減少し、4月の3位7.38から5月は7位2.21となった。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	19週	20週	21週	22週	計
1	感染性胃腸炎	4.07	6.76	7.00	7.17	25.00
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.64	3.43	3.40	3.60	12.07
3	手足口病	0.76	1.08	1.67	2.01	5.52
4	伝染性紅斑	0.36	0.72	0.74	0.86	2.68
5	突発性発疹	0.42	0.64	0.66	0.66	2.38
6	咽頭結膜熱	0.37	0.56	0.64	0.79	2.36

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の5月の上位6疾患の合計は39.0、4月が4週間に換算すると49.39で、3月77.4から減少し続けており、全国よりも少なかった（表2）。上位3疾患は、1位が感染性胃腸炎で4月とかわらず、インフルエンザが2位11.24から9位1.13に減少し終息に向かっている。

感染性胃腸炎（4月1位18.34）、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（同3位8.58）は全国よりも少ない。手足口病は横ばいで（同4位6.4）、全国よりも多く報告された。マイコプラズマ肺炎が増加し（同6位2.21）、全国よりも多い。流行性耳下腺炎はわずかに減った（同4位2.62）が全国よりも多い。ロタウイルス胃腸炎は微増（同7位2.08）し全国1.39よりも多い。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	19週	20週	21週	22週	計
1	感染性胃腸炎	3.43	4.13	4.50	4.43	16.49
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.20	2.77	2.00	2.67	8.64
3	手足口病	0.77	1.20	2.40	2.00	6.37
4	マイコプラズマ肺炎	0.50	0.63	1.00	0.50	2.63
5	流行性耳下腺炎	0.60	0.77	0.40	0.67	2.44
6	感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）	1.13	0.50	0.38	0.38	2.39

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

4月に比べ、第1位の感染性胃腸炎は減少したが、2位のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎、3位の手足口病、5位の流行性耳下腺炎、6位のロタウイルス胃腸炎は横ばいである。マイコプラズマ肺炎の増加が注目される。ロタウイルス胃腸炎は3月1.02、4月1.41、5月2.39と増加し引き続き注目される。全国的に増加が注目されている伝染性紅斑は高知県では4月0.34から5月0.43と増加はゆるやかである。インフルエンザは減少し終息に向かっている。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 54名（4月674名）。第6週に警報値30を、第10週に9.90と注意報値10を下回ったが、第11、12週に再び10.88、11.29と注意報値を上回り、第13週に6.10と減少に転じ以後終息に向かっている。県下での流行規模も過去10年間では12年、05年に次ぐ流行となりそうである。ウイルスはB型NTの1件のみが検出された。

2) 咽頭結膜熱

報告数 15名（4月10名）。例年通りの報告数で、ウイルスは検出されていない。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 259名（4月322名）。2014年10月からつづいた増加が4月から減少に転じているが、過去10年の同時期と比べ依然多めで推移している。高知市、幡多、須崎からの報告が多い。細菌はT6とTB3264が1件ずつ検出されている。

4) 感染性胃腸炎

報告数 495名（4月690名）。報告数は1位だが報告数は減少している。地域的な偏りはみられない。年齢別では1～3歳の幼児例が多い。ウイルスは多種にわたり、Sapovirusが5件、NorovirusG II NTが4件、Rotavirusが5件、Astrovirusが3件、Adenovirus、Echovirus 25がそれぞれ1件検出されている。

5) 水痘

報告数 51名（4月48名）。過去10年間5月の

報告数200～400名に比べると、本年の報告数は少なく、ワクチン定期化の効果と思われる。幡多、高知市、中央東、須崎の順に多く報告された。

6) 手足口病

報告数 191名 (4月240名)。6月7月から流行が始まる年が多いが、5月としては過去10年間で2010年に次ぐ大きな流行となっている。幡多が多い。ウイルスはCoxsackievirus A16が2件検出され、手足口病例から2015年は計16件同ウイルスが検出されている。脳幹脳炎に関連するEnterovirus 71は1例も検出されていない。

7) 伝染性紅斑

報告数 8名 (4月13名)。全国では過去5年間の同時期と比較してかなり多く、上位3位は徳島県、香川県、鳥取県で流行地域が四国に移動しており、本県では減少したもののまだ油断できない。流行年では春から夏にかけて増加するので今後の動向が注目される。3月末の検体からParvovirus B19が1件検出されている。

8) 突発性発疹

報告数 64名 (4月71名)。大きな変動はない。

9) 百日咳

報告数 1名 (4月3名)。高知市の6カ月齢以降の乳児1例が報告された。13年4月の13名以降、1桁の報告が続いている。

10) ヘルパンギーナ

報告数 11名 (4月9名)。毎年夏に向けて流行が予測される。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 73名 (4月98名)。安芸からの報告が多く、高知市、幡多も多い。

12) RSウイルス感染症

報告数 22名 (4月33名)。本来は冬季の感染症であるが、過去10年と比較して5月の報告数としては最大で、だらだらと報告が続いている。中央西の報告が多い。

13) 流行性角結膜炎

報告数 0名 (4月2名)。ここ3年間は一桁で推移している。

14) マイコプラズマ肺炎 (基幹定点の報告疾患)

報告数 21名 (4月22名)。幡多、高知市、中央東の順に多い。

基幹定点の月報疾患

15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 16名 (4月22名)。20名前後で推移し変化はない。

16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名 (4月1名)。2014年は計4例、2015年は1例のみ報告されている。

高知県感染症発生動向調査部会

前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患 (平成27年5月)

類型	病名	報告年																											総計
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27											
2	結核																												1,251
	計																												1,251
3	コレラ																												3
	バラチフス																												2
	細菌性赤痢																												25
	腸チフス																												2
	腸管出血性大腸菌感染症																												155
計																												187	
4	A型肝炎																												31
	Q熱																												5
	オウム病																												2
	つつが虫病																												70
	マラリア																												3
	レジオネラ症																												44
	日本紅斑熱																												126
	日本脳炎																												6
	レプトスピラ症																												8
	E型肝炎																												2
	デング熱																												7
	重症熱性血小板減少症候群																												16
	計																												320
5	アメーバ赤痢																												32
	ウイルス性肝炎																												54
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症																												15
	クロイツフェルト・ヤコブ病																												28
	ジアルジア症																												7
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症																												2
	急性脳炎																												16
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症																												10
	後天性免疫不全症候群																												47
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																												2
	侵襲性肺炎球菌感染症																												11
	髄膜炎菌性髄膜炎																												1
	破傷風																												25
	梅毒																												113
	麻疹																												5
	風しん																												16
	水痘 (入院例に限る)																												1
計																												385	
新型	新型インフルエンザ																												34
計																												34	
動物	鳥インフルエンザ																												1
計																												1	
総計																												2,178	

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

5月はウイルス73件，細菌8件の搬入があり，そのうちウイルス36件，細菌3件の病原体を検出した。また，平成26年4月に搬入された検体でウイルス17件を検出した。検出ウイルスの内訳は，Adenovirus NT 3件，Astrovirus NT 3件，Coxsackievirus A16 5件，Echovirus 18 3件，Echovirus 25 3件，Epstein-Barr virus 1件，Human herpes virus 6 4件，Human herpes virus 7 2件，Human metapneumovirus 1件，Influenza virus B NT 1件，Norovirus GI NT 1件，Norovirus GII NT 5件，Rhinovirus 10件，Rotavirus group A G1 3件，Rotavirus group A G3 2件，Sapovirus genogroup unknown 6件，また，細菌の内訳は*Mycoplasma pneumoniae* 1件，*Streptococcus pyogenes* T6 1件，*Streptococcus pyogenes* TB3264 1件であった。

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	2	男	手足口病	手足口病症状，	ぬぐい液	4.15	Coxsackievirus A16
2	1	女	不明発疹症	40℃，発疹，	ぬぐい液	4.17	Human herpes virus 6
3	1	男	急性脳症の疑い，無菌性髄膜炎	40℃，中枢神経系障害，	ぬぐい液	4.18	Echovirus 25
4	1	男	不明発疹症	発疹，	ぬぐい液	4.18	Human herpes virus 6
5	4	女	ヘルパンギーナ	39℃，嘔吐，嘔気，	ぬぐい液	4.20	Human herpes virus 6
6	1	男	手足口病	40℃，手足口病症状，	ぬぐい液	4.20	Coxsackievirus A16
7	1	男	不明発疹症	39℃，発疹，	ぬぐい液	4.20	Echovirus 18
8	4	女	無菌性髄膜炎	39℃，嘔吐，嘔気，	ぬぐい液	4.20	Human herpes virus 6
9	9ヵ月	男	感染性胃腸炎	40℃，咳漱，	ぬぐい液	4.21	Human metapneumovirus
10	1	女	感染性胃腸炎	嘔吐，嘔気，	-	4.21	Norovirus GI NT
11	11ヵ月	女	新生児発熱	38℃，	ふん便	4.21	Echovirus 25
12	4	女	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	4.22	Coxsackievirus A16
13	3	女	感染性胃腸炎	38℃，嘔吐，嘔気，腹痛，	ふん便	4.22	Rhinovirus
14	1ヵ月	男	急性気管支炎	上気道炎，	鼻腔ぬぐい	4.22	Rhinovirus
15	4	女	急性膵炎	嘔吐，嘔気，腹痛，	ふん便	4.22	Norovirus GII NT
16	11	男	インフルエンザ	40℃，上気道炎，	ぬぐい液	4.24	Rhinovirus
17	5ヵ月	男	急性肺炎，喘息様気管支炎	咳漱，上気道炎，	ぬぐい液	4.26	Rhinovirus
18	1	男	不明発疹症	38℃，発疹，	ぬぐい液	4.27	Adenovirus NT
19	7ヵ月	女	急性肺炎	咳漱，肺炎，	ぬぐい液	4.30	Rhinovirus
20	5	女	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，腹痛，	ふん便	4.30	Norovirus GII NT
21	2	女	肺炎 白血病治療中	38℃，咳漱，肺炎，	ぬぐい液	4.30	Rhinovirus
22	1	男	不明熱	39℃，	ぬぐい液	4.30	Adenovirus NT
23	2	男	不明発疹症	39℃，発疹，	ぬぐい液	4.30	Human herpes virus 7
24	3	女	不明発疹症	38℃，咳漱，発疹，	ぬぐい液	4.30	Human herpes virus 7
25	3	女	咽頭結膜熱	40℃，	ぬぐい液	5. 2	Rhinovirus
26	2	女	感染性胃腸炎	38℃，嘔吐，嘔気，	ふん便	5. 2	Rotavirus group A G1
27	10ヵ月	女	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	5. 3	Sapovirus genogroup unknown
28	10	男	無菌性髄膜炎	38℃，	-	5. 4	Echovirus 18
29	1	女	不明発疹症	38℃，発疹，	ぬぐい液	5. 7	Echovirus 18
30	7	男	感染性胃腸炎	39℃，	ふん便	5. 8	Astrovirus NT
31	3	男	感染性胃腸炎，急性膵炎	38℃，下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	5. 9	Rotavirus group A G3
32	1	男	感染性胃腸炎	40℃，下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	5.11	Adenovirus NT
33	5	男	感染性胃腸炎	38℃，嘔吐，嘔気，	ふん便	5.11	Norovirus GII NT
34	1	男	感染性胃腸炎	40℃，下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	5.11	Rotavirus group A G3
35	4	男	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	5.11	Sapovirus genogroup unknown
36	10	女	インフルエンザ	39℃，咳漱，	ぬぐい液	5.12	Influenza virus B NT
37	1	女	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	5.12	Norovirus GII NT

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス, 細菌の検出
38	11ヵ月	女	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	5.13	Echovirus 25
							Sapovirus genogroup unknown
39	1	男	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	5.13	Coxsackievirus A16
40	9	女	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃, 上気道炎,	ぬぐい液	5.14	<i>Streptococcus pyogenes T6</i>
41	5	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃, 上気道炎,	ぬぐい液	5.14	<i>Streptococcus pyogenes TB3264</i>
42	1	女	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気,	ふん便	5.14	Sapovirus genogroup unknown
43	1	女	不明発疹症	38℃, 発疹,	ぬぐい液	5.14	Epstein-Barr virus
44	1	男	不明発疹症	38℃, 発疹,	ぬぐい液	5.15	Rhinovirus
45	1	女	ヘルパンギーナ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	5.18	Rhinovirus
46	1	女	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気, 咳漱,	ふん便	5.18	Norovirus GII NT
47	2	女	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	5.18	Coxsackievirus A16
48	6	女	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	5.19	Rotavirus group A G1
49	5	男	百日咳	咳漱,	ぬぐい液	5.19	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
50	4	女	感染性胃腸炎	38℃,	ふん便	5.20	Rotavirus group A G1
51	3	男	急性気管支炎・ロタウイルス腸炎・アデノウイルス感染	40℃,	ふん便	5.21	Sapovirus genogroup unknown
52	11ヵ月	女	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気,	ふん便	5.23	Sapovirus genogroup unknown
53	10ヵ月	男	咽頭炎	38℃,	ぬぐい液	5.25	Rhinovirus
54	1	女	感染性胃腸炎	下痢, 発疹,	ふん便	5.26	Astrovirus NT
55	2	女	感染性胃腸炎	36℃, 下痢,	ふん便	5.26	Astrovirus NT

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2015年					2015年 総計
		1	2	3	4	5	
A群溶血性 連鎖球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes</i> T4			1			1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T6		2	5		1	8
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T12		1				1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> TB3264	1				1	2
	計	1	3	6		2	12
インフルエンザ	Influenza virus A H3 NT	38	10	4			52
	Influenza virus B NT	2		3	1	1	7
	Influenza virus B Yamagata	2	3	4			9
	Rhinovirus				1		1
	計	42	13	11	2	1	69
咽頭結膜熱	Adenovirus 5				1		1
	Adenovirus 6	1			1		2
	Cytomegalovirus		1				1
	Epstein-Barr virus		1				1
	Human metapneumovirus				1		1
	Rhinovirus	1	1			1	3
計	2	3		3	1	9	
感染性胃腸炎	Adenovirus NT					1	1
	Astrovirus NT		1			3	4
	Coxsackievirus A16				1		1
	Echovirus 3	1					1
	Echovirus 25					1	1
	Human metapneumovirus				1		1
	Influenza virus B NT			1			1
	Norovirus GI NT				1		1
	Norovirus GII NT	6	5	12	7	4	34
	Rhinovirus				1		1
	Rotavirus group AG1		1	2		3	6
	Rotavirus group AG3					2	2
	Sapovirus genogroup unknown	2	2	4	2	5	15
計	9	9	19	13	19	69	
ヘルパンギーナ	Human herpes virus 6				1		1
	Rhinovirus					1	1
	計				1	1	2
手足口病	Coxsackievirus A16	6	5	1	2	2	16
	Human herpes virus 7				1		1
	Norovirus GII NT	1					1
	Rhinovirus	2					2
	計	9	5	1	3	2	20
百日咳	<i>Bordetella parapertussis</i>	1					1
	<i>Bordetella pertussis</i>	1					1
	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>					1	1
	Rhinovirus				1		1
	計	2			1	1	4
流行性耳下腺炎	Epstein-Barr virus		1				1
	計		1				1
無菌性髄膜炎	Echovirus 18					1	1
	Echovirus 25				1		1
	Human herpes virus 6				1		1
	Rhinovirus				1		1
	Respiratory syncytial virus A			1			1
	計			1	3	1	5
その他	Adenovirus NT					2	2
	Adenovirus 1	1	1				2
	Adenovirus 2	1					1
	Adenovirus 6	1		1			2
	B19virus			1			1
	Coxsackievirus A4	1					1
	Coxsackievirus A16				1		1
	Cytomegalovirus	1	1	1	2		5
	Echovirus 3	1					1
	Echovirus 18	1		1	2	1	5
	Echovirus 25				1		1
	Epstein-Barr virus		1	2		1	4
	Human herpes virus 6			1	2		3
	Human herpes virus 7			4	1	2	7
	Human metapneumovirus		2	2	2		6
	Influenza virus A H3 NT	1		1			2
	Norovirus GII NT				1		1
	Parainfluenza virus 1		1				1
	Parainfluenza virus 3	1					1
	Respiratory syncytial virus A	2	4				6
	Rhinovirus	3	3	6	7	4	23
	Sapovirus genogroup unknown					1	1
	計	14	13	20	19	11	77
総計	79	47	58	45	39	268	

高知県感染症情報月報 2015年6月

(65定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ			2		2	51	55	54	7
小児科	咽頭結膜熱		2	19	1		2	24	15	25
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7	16	229	25	18	37	332	259	128
	感染性胃腸炎	40	179	202	72	14	66	573	495	460
	水痘		6	19	1	2	10	38	51	153
	手足口病	6	21	38	43	33	42	183	191	10
	伝染性紅斑		6	3				9	8	1
	突発性発疹	1	12	33	10	5	9	70	64	60
	百日咳				1			1	1	1
	ヘルパンギーナ		3	7	3		6	19	11	120
	流行性耳下腺炎	10	3	21		2	4	40	73	129
	RSウイルス感染症		1	7	8		7	23	22	8
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			1				1		2
STD	性器クラミジア感染症			1			1	2	1	2
	性器ヘルペスウイルス感染症			1				1		
	尖圭コンジローマ									
	淋菌感染症			1				1		1
基幹	細菌性髄膜炎								1	2
	無菌性髄膜炎								3	2
	マイコプラズマ肺炎	1	1	18			4	24	21	28
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			6				6	7	3
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)		1	11				12	20	16
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	2	5	11			1	19	16	32
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									
	薬剤耐性緑膿菌感染症									
計	67	256	630	164	76	240	1,433	1,313	1,190	
前月	86	219	543	104	61	300				
前年同月	109	195	485	178	80	143				
小児科定点数	2	7	11	3	2	5				

2015年6月

全国情報（6月1日～6月28日）

第23週（6月1日～）から第26週（～6月28日）までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。6月の上位6疾患の合計は61.80で5月の50.01よりも増加した。報告数第1位の感染性胃腸炎は横ばいで6月25.59（5月1位25.00）であった。2位も順位変わらずA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で13.19（同2位12.07）とほぼ横ばいで、過去10年間の同時期では2011年に次いで多い。3位も順位変わらず手足口病であるが12.59（同3位5.52）と急増した。ヘルパンギーナが3.73（同12位0.96）と著増し4位に、5位は伝染性紅斑で3.58（同4位2.68）と微増した。6位は順位変わらず、咽頭結膜熱が3.12（同6位2.36）と増加した。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	23週	24週	25週	26週	計
1	感染性胃腸炎		6.50	7.10	6.19	5.80	25.59
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		3.39	3.64	3.13	3.03	13.19
3	手足口病		1.87	2.67	3.49	4.56	12.59
4	ヘルパンギーナ		0.46	0.68	1.10	1.49	3.73
5	伝染性紅斑		0.65	0.92	0.89	1.12	3.58
6	咽頭結膜熱		0.79	0.77	0.82	0.74	3.12

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の6月の上位6疾患の合計は43.13で5月38.96より増加したが、全国よりも少なかった（表2）。上位疾患は、1位から4位と6位は5月とかわらなかったが、5位が突発性発疹となっている。感染性胃腸炎（5月1位16.49）は全国より少なく、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（同2位8.64）は全国よりもやや少ない。手足口病（同4位6.37）はほぼ横ばいで全国より少ない。マイコプラズマ（同4位2.63）は増加し、全国よりも多く報告されている。突発性発疹（同7位2.13）は微増し、全国よりも多い。感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）（同6位2.39）は減少したが、全国よりも多い。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	23週	24週	25週	26週	計
1	感染性胃腸炎		4.57	5.27	4.80	4.47	19.11
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.70	3.37	2.43	2.57	11.07
3	手足口病		1.17	0.93	1.57	2.43	6.10
4	マイコプラズマ肺炎		1.38	0.63	0.50	0.50	3.01
5	突発性発疹		0.70	0.47	0.63	0.53	2.33
6	感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）		0.25	0.88	0.38	0.00	1.51

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 55名（5月54名）。第6週に警報値30を、第10週に9.90と注意報値10を下回ったが、第11、12週に再び10.88、11.29と注意報値を上回り、第13週に6.10と減少に転じ以後終息に向かっている。しかし、6月に四万十市ではB型の再流行がみられ学級閉鎖となった中学校があった。県下での流行規模は過去10年間では2012年に次ぐ流行となった。特に1月の発生数は1カ月の報告数としては最大で短期に集中した爆発的な流行であった。6月はウイルスが検出されなかった。

2) 咽頭結膜熱

報告数 24名（5月15名）。例年並みの報告数である。Adenovirusとしては急性気管支炎から1型が1件検出された。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 332名（5月259名）。2014年10月以降多く報告されており過去10年間で最も大きな流行である。高知市、須崎、中央西、幡多からの報告が多い。細菌はT12が1件検出されている。

4) 感染性胃腸炎

報告数 573名（5月495名）。報告数が1位で再び増加に転じた。中央東、中央西、安芸、高知市からの報告が多い。ウイルスはSapovirusが7件、Echovirus 25が3件、Astrovirus NTが2件検出された。

5) 水痘

報告数 38名（5月51名）。過去10年間6月の報告数150～400名に比べると、本年の報告数は少なく、ワクチン定期化の効果と思われる。年齢の内訳は、ワクチン対象者でない0歳児が7名、5歳以上の年長児が12名と半数を占めていた。幡多、高知市、須崎の順に多く報告された。

6) 手足口病

報告数 183名（5月191名）。6月7月から流行が始まる年が多いが、今季は流行の立ち上がり

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

6月はウイルス98件，細菌6件の搬入があり，そのうちウイルス33件，細菌2件の病原体を検出し，また，平成27年5月に搬入された検体でウイルス5件を検出した。検出ウイルスの内訳は，Adenovirus 1 1件，Adenovirus 2 1件，Astrovirus NT 2件，Coxsackievirus A9 2件，Coxsackievirus A16 3件，Echovirus 18 2件，Echovirus 25 5件，Human herpes virus 6 4件，Human herpes virus 7 2件，Human metapneumovirus 1件，Norovirus GII NT 1件，Parainfluenza virus 3 2件，Respiratory syncytial virus 1件，Rhinovirus 3件，Sapovirus genogroup unknown 7件，また，細菌の内訳は*Salmonella Thompson* 1件，*Streptococcus pyogenes* T12 1件であった。

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	2	男	手足口病	手足口病症状，	ぬぐい液	5.19	Coxsackievirus A16
2	4	女	感染性胃腸炎	38℃，	ふん便	5.20	Echovirus 25
3	8ヶ月	女	不明発疹症	39℃，下痢，発疹，	ぬぐい液	5.22	Human herpes virus 6
4	11ヶ月	女	感染性胃腸炎	嘔吐，嘔気，	ふん便	5.23	Echovirus 25
5	1	女	感染性胃腸炎	下痢，発疹，	ふん便	5.26	Adenovirus 2
6	2	女	感染性胃腸炎	36℃，下痢，	ふん便	5.26	Echovirus 25
7	1	女	不明発疹症	40℃，咳漱，発疹，	ぬぐい液	5.29	Parainfluenza virus 3
8	1	女	不明熱	38℃，肝機能，	ふん便	5.30	Norovirus GII NT
9	6	男	感染性胃腸炎	39℃，下痢，嘔吐，嘔気，腹痛，	ふん便	5.30	Echovirus 25
10	6	男	感染性胃腸炎	39℃，下痢，嘔吐，嘔気，腹痛，	ふん便	5.30	Sapovirus genogroup unknown
11	2	女	不明発疹症	発疹，	ぬぐい液	5.30	Coxsackievirus A9
12	7ヶ月	女	不明発疹症	40℃，発疹，	ぬぐい液	5.30	Human herpes virus 6
13	2	女	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，	ふん便	6. 1	Sapovirus genogroup unknown
14	1	男	手足口病	40℃，発疹，	ぬぐい液	6. 1	Human herpes virus 6
15	1	男	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	6. 2	Echovirus 25
16	1	男	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	6. 2	Sapovirus genogroup unknown
17	4ヶ月	女	急性気管支炎	39℃，嘔吐，嘔気，咳漱，	ぬぐい液	6. 3	Adenovirus 1
18	1	女	不明発疹症(四肢中心にみる)	39℃，咳漱，上気道炎，	ぬぐい液	6. 3	Human herpes virus 7
19	6	男	喘息	咳漱	ぬぐい液	6. 5	Rhinovirus
20	1	女	急性気管支炎	39℃，咳漱，下気道炎，気管支炎，	鼻咽頭ぬぐい液	6. 5	Rhinovirus
21	4ヶ月	男	急性発疹症	発疹，	ぬぐい液	6. 5	Coxsackievirus A16
22	8	女	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃，上気道炎，	ぬぐい液	6. 8	<i>Streptococcus pyogenes</i> T12
23	11ヶ月	女	ウイルス性発疹症	40℃，発疹，	ぬぐい液	6. 8	Coxsackievirus A9
24	2	男	感染性胃腸炎，軽症胃腸炎関連 連けいれん	40℃，下痢，腹痛，咳漱，	ふん便	6. 9	Astrovirus NT
25	1	女	乳児喘息	39℃，咳漱，	ぬぐい液	6. 9	Human metapneumovirus
26	11ヶ月	男	急性気管支炎	39℃，咳漱，上気道炎，気管 支炎，	ぬぐい液	6.10	Echovirus 18
27	2	女	不明発疹症	40℃，下痢，	ぬぐい液	6.10	Human herpes virus 6
28	1	男	発疹症	39℃，発疹，	ぬぐい液	6.11	Echovirus 18
29	1	女	感染性胃腸炎	37℃，嘔吐，嘔気，咳漱，	ふん便	6.12	Sapovirus genogroup unknown
30	1	男	手足口病	38℃，手足口病症状，	ぬぐい液	6.15	Coxsackievirus A16
31	13	男	不明発疹症	38℃，発疹，	ぬぐい液	6.15	Human herpes virus 7
32	7	男	腸炎	40℃，下痢，腹痛，	ふん便	6.17	<i>Salmonella Thompson</i>
33	1	女	不明発疹症	38℃，咳漱，発疹，	ぬぐい液	6.17	Parainfluenza virus 3
34	1	女	RSウイルス肺炎，不明発疹症	38℃，咳漱，肺炎，発疹，	ぬぐい液	6.19	Respiratory syncytial virus
35	13	男	不明発疹症	発疹，	ぬぐい液	6.19	Rhinovirus
36	3	女	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，腹痛，	ふん便	6.22	Sapovirus genogroup unknown
37	2	女	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	6.22	Sapovirus genogroup unknown

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス, 細菌の検出
38	4	男	感染性胃腸炎	38℃, 下痢,	ふん便	6.27	Astrovirus NT
39	4	男	感染性胃腸炎	38℃, 下痢,	ふん便	6.27	Sapovirus genogroup unknown

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2015年						2015年 総計	
		1	2	3	4	5	6		
A群溶血性 レン球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes</i> T4			1				1	
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T6		2	5		1		8	
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T12		1				1	2	
	<i>Streptococcus pyogenes</i> TB3264	1				1		2	
	計	1	3	6		2	1	13	
インフルエンザ	Influenza virus A H3 NT	38	10	4				52	
	Influenza virus B NT	2		3	1	1		7	
	Influenza virus B Yamagata	2	3	4				9	
	Rhinovirus				1			1	
	計	42	13	11	2	1		69	
咽頭結膜熱	Adenovirus 5				1			1	
	Adenovirus 6	1			1			2	
	Cytomegalovirus		1					1	
	Epstein-Barr virus		1					1	
	Human metapneumovirus				1			1	
	Rhinovirus	1	1			1		3	
	計	2	3		3	1		9	
感染性胃腸炎	Adenovirus 2					1		1	
	Adenovirus NT					1		1	
	Astrovirus NT		1			3	2	6	
	Coxsackievirus A16				1			1	
	Echovirus 3	1						1	
	Echovirus 25					3	3	6	
	Human metapneumovirus				1			1	
	Influenza virus B NT			1				1	
	Norovirus GI NT				1			1	
	Norovirus GII NT	6	5	12	7	4		34	
	Rhinovirus				1			1	
	Rotavirus group AG1		1	2		3		6	
	Rotavirus group AG3					2		2	
	Sapovirus genogroup unknown	2	2	4	2	5	7	22	
	計	9	9	19	13	22	12	84	
ヘルパンギーナ	Human herpes virus 6				1			1	
	Rhinovirus					1		1	
	計				1	1		2	
手足口病	Coxsackievirus A16	6	5	1	2	3	1	18	
	Human herpes virus 6						1	1	
	Human herpes virus 7				1			1	
	Norovirus GII NT	1						1	
	Rhinovirus	2						2	
	計	9	5	1	3	3	2	23	
百日咳	<i>Bordetella parapertussis</i>	1						1	
	<i>Bordetella pertussis</i>	1						1	
	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>					1		1	
	Rhinovirus				1			1	
	計	2			1	1		4	
流行性耳下腺炎	Epstein-Barr virus		1					1	
	計		1					1	
無菌性髄膜炎	Echovirus 18					1		1	
	Echovirus 25				1			1	
	Human herpes virus 6				1			1	
	Rhinovirus				1			1	
	Respiratory syncytial virus A			1				1	
	計			1	3	1		5	
その他	Adenovirus NT					2		2	
	Adenovirus 1	1	1				1	3	
	Adenovirus 2	1						1	
	Adenovirus 6	1		1				2	
	B19virus			1				1	
	Coxsackievirus A4	1						1	
	Coxsackievirus A9						2	2	
	Coxsackievirus A16				1		1	2	
	Cytomegalovirus	1	1	1	2			5	
	Echovirus 3	1						1	
	Echovirus 18	1		1	2	1	2	7	
	Echovirus 25				2			2	
	Epstein-Barr virus		1	2		1		4	
	Human herpes virus 6			1	2	1	2	6	
	Human herpes virus 7			4	1	2	2	9	
	Human metapneumovirus		2	2	2		1	7	
	Influenza virus A H3 NT	1		1				2	
	Norovirus GII NT				1		1	2	
	Parainfluenza virus 1		1					1	
	Parainfluenza virus 3	1					2	3	
	Respiratory syncytial virus A	2	4				1	7	
	Rhinovirus	3	3	6	7	4	3	26	
	Sapovirus genogroup unknown					1		1	
	<i>Salmonella Thompson</i>						1	1	
		計	14	13	20	20	12	19	98
	総計		79	47	58	46	44	34	308

高知県感染症情報月報 2015年7月

(65定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ			2			7	9	55	
小児科	咽頭結膜熱		3	16	3		7	29	24	67
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	31	183	19	15	37	287	332	76
	感染性胃腸炎	39	107	163	33	5	45	392	573	301
	水痘		10	19	2	8	12	51	38	122
	手足口病	65	65	155	18	108	26	437	183	18
	伝染性紅斑		19	19	2			40	9	2
	突発性発疹	2	22	35	4	2	9	74	70	72
	百日咳			1				1	1	2
	ヘルパンギーナ	20	48	163	63	18	31	343	19	320
	流行性耳下腺炎	12	6	20		1	9	48	40	132
	RSウイルス感染症		3	13	11			27	23	1
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			4				4	1	
STD	性器クラミジア感染症		2	1				3	2	2
	性器ヘルペスウイルス感染症						1	1	1	
	尖圭コンジローマ									1
	淋菌感染症								1	
基幹	細菌性髄膜炎		2					2		1
	無菌性髄膜炎									2
	マイコプラズマ肺炎		2	12			13	27	24	26
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			3				3	6	
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)								12	5
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	2	5	8			4	19	19	23
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									
	薬剤耐性緑膿菌感染症									
計		142	325	817	155	157	201	1,797	1,433	1,173
前月		67	256	630	164	76	240			
前年同月		136	437	1,163	330	131	308			
小児科定点数		2	7	11	3	2	5			

2015年7月

全国情報（6月29日～8月2日）

第27週（6月29日～）から第31週（～8月2日）までの5週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。7月の4週間換算値は79.16で6月の61.80よりも増加し、その原因は手足口病とヘルパンギーナの増加である。報告数第1位の手足口病は4週間換算で34.14（6月3位12.59）と3倍弱に著増した。2位の感染性胃腸炎は17.41（同1位25.59）と減少した。3位がヘルパンギーナで11.02（同4位3.73）と3倍に増加した。4位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で9.45（同2位13.19）に減少、5位は伝染性紅斑で3.90（同5位3.58）と横ばいであった。流行性角結膜炎が6位で3.20（同7位2.88）に増加した。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	27週	28週	29週	30週	31週	計
1	手足口病		5.48	7.39	10.16	9.38	10.26	42.67
2	感染性胃腸炎		5.28	5.08	4.40	3.42	3.58	21.76
3	ヘルパンギーナ		1.92	2.65	3.34	2.82	3.05	13.78
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.97	2.99	2.48	1.73	1.70	11.87
5	伝染性紅斑		1.00	1.21	1.16	0.79	0.71	4.87
6	流行性角結膜炎		0.84	0.71	0.75	0.84	0.86	4.00

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の7月の上位6疾患の合計は4週間に換算すると43.59で6月43.13と比べ横ばいで、全国よりも少なかった（表2）。上位疾患は手足口病が1位11.66（6月3位6.10）と約2倍に増加、ヘルパンギーナが3位9.15（同13位0.64）と15倍に著増したが全国よりも少ない。2位は感染性胃腸炎で10.46（同1位19.11）と半数に減少した。4位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で7.65（同2位11.07）に減少し、全国と差はない。5位がマイコプラズマ肺炎で2.71（同4位3.01）と横ばいで全国の1.02と比べて多く報告された。6位は突発性発疹で1.97（同5位2.33）変動は少ない。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	27週	28週	29週	30週	31週	計
1	手足口病		2.10	2.27	2.43	3.20	4.57	14.57
2	感染性胃腸炎		3.13	3.17	2.10	2.07	2.60	13.07
3	ヘルパンギーナ		0.87	0.93	1.97	2.60	5.07	11.44
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.63	2.57	2.00	1.43	0.93	9.56
5	マイコプラズマ肺炎		0.63	0.63	0.75	0.63	0.75	3.39
6	突発性発疹		0.50	0.63	0.43	0.47	0.43	2.46

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 9名（6月55名）。第6週に警報値30を、第10週に9.90と注意報値10を下回ったが、第11、12週に再び10.88、11.29と注意報値を上回り、第13週に6.10と減少に転じた。6月に四万十市でB型の再流行があったが、ようやく終息しそうである。6月以降はウイルスは検出されていない。

2) 咽頭結膜熱

報告数 29名（6月24名）。例年並みの報告数である。Adenovirusとしては感染性胃腸炎から1型と5型（後者は腸重積を合併）、不明熱から2型が検出された。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 287名（6月332名）。2014年10月以降多く報告されており過去10年間で最も大きな流行である。高知市、須崎、幡多からの報告が多い。7月に細菌は検出されていない。

4) 感染性胃腸炎

報告数 392名（6月573名）。安芸、中央東、高知市からの報告が多い。ウイルスはSapovirusが2件、Adenovirus 1, Adenovirus 5, Norovirus G1, Echovirus 25がそれぞれ1件検出された。

5) 水痘

報告数 51名（6月38名）。過去10年間6月の報告数200～400名に比べると、本年の報告数は少なく、ワクチン定期化の効果と思われる。年齢の内訳は、ワクチン対象者でない0歳児が1名、5歳以上の年長児が18名であった。須崎、幡多、高知市、中央東の順に多く報告された。

6) 手足口病

報告数 437名（6月183名）。6月7月から流行が始まる年が多いが、今季は流行の立ち上がりがあったが7月としては2010年以降では標準的な流行規模となっている。須崎、安芸、高知市、中央東で多い。ウイルスはCoxsackievirus A16が7件検出され、手足口病例から2015年は計31件同

ウイルスが検出されている。脳幹脳炎に関連する Enterovirus 71は1例も検出されていない。

7) 伝染性紅斑

報告数 40名(6月9名)。増加し、中央東、高知市で多い。ウイルスは検出されていない。

8) 突発性発疹

報告数 74名(6月70名)。大きな変動はない。

9) 百日咳

報告数 1名(6月1名)。高知市から2歳の例が報告された。13年4月の13名以降、1桁の報告が続いている。

10) ヘルパンギーナ

報告数 343名(6月19名)。一気に増加し、7月として平年並みの流行規模となった。県下全域で流行しているが、特に多いのは、中央西、高知市、安芸、須崎の順に多い。Coxsackievirus A10が2件検出された。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 48名(6月40名)。安芸、高知市、幡多で多い。

12) RSウイルス感染症

報告数 27名(6月23名)。本来は冬季の感染症であるが、過去10年と比較して6月7月の報告数としては最大で、ただらと報告が続いている。中央西、高知市の報告が多い。

13) 流行性角結膜炎

報告数 4名(6月1名)。ここ3年間は1桁で推移している。

14) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 27名(6月24名)。幡多(特に宿毛市)、高知市、中央東から報告されている。

基幹定点の月報疾患

15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 19名(6月19名)。20名前後で推移し変化はない。

16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名(6月0名)。2014年は計4例、2015年は1例のみ報告されている。

高知県感染症発生動向調査部会

前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患(平成27年7月)

類型	病名	報告年																総計	
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26		27
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	138	86	1,275
	計									131	149	163	156	192	132	128	138	86	1,275
3	コレラ	1					1						1						3
	パラチフス	2																	2
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2										25
	腸チフス		1						1										2
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	1	156
計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	1	188	
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1			3						31
	Q熱	1	1	2					1										5
	オウム病			1		1													2
	つつが虫病			9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	3	70
	マラリア								2					1					3
	レジオネラ症		2		1		1				9	7	3	6	9	2	4	2	46
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7		126
	日本脳炎	1	1	1					1			1	1						6
	レプトスピラ症											1		4	2	1			8
	E型肝炎												1		1				2
	デング熱												1				3	2	7
	重症熱性血小板減少症候群																3	11	2
	計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	27	8	322
5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3			7	2
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3			1	54
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症																	7	10
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3					2	28
	ジアルジア症		1	2	1						1			1	1				7
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1							1								2
	急性脳炎								1	1	2	5	1	3	1			1	16
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	1				1		1		1	3			1	10
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	5	49
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																	1	2
	侵襲性肺炎球菌感染症															1	4	8	13
	髄膜炎菌性髄膜炎										1								1
	破傷風		3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		4	3	26
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	3	114
	麻疹										5								5
風しん										1	1			4	9	1		16	
水痘(入院例に限る)																		1	
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	35	395	
新型	新型インフルエンザ											34							34
計												34							34
動物	鳥インフルエンザ												1						1
計													1						1
総計		61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	210	130	2,215

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

7月はウイルス98件，細菌11件の搬入があり，そのうちウイルス46件の病原体を検出し，また，平成27年6月に搬入された検体でウイルス36件を検出した。検出ウイルスの内訳は，Adenovirus 1 4件，Adenovirus 2 1件，Adenovirus 5 1件，Adenovirus C 2件，Coxsackievirus A9 3件，Coxsackievirus A10 2件，Coxsackievirus A16 15件，Cytomegalovirus 5件，Echovirus 7 1件，Echovirus 18 13件，Echovirus 25 3件，Epstein-Barr virus 1件，Herpes simplex virus 1 1件，Human herpes virus 6 3件，Human herpes virus 7 3件，Human metapneumovirus 1件，Norovirus G I NT 1件，Parainfluenza virus 1 2件，Parainfluenza virus 3 10件，Respiratory syncytial virus A 2件，Rhinovirus 3件，Rotavirus group A G3 1件，Sapovirus genogroup unknown 4件であった。

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	1	男	上気道炎	38℃，発疹，	ぬぐい液	6.16	Coxsackievirus A9
2	5	女	手足口病	手足口病症状，	ぬぐい液	6.17	Coxsackievirus A16 Adenovirus C
3	1	女	不明発疹症	38℃，咳漱，発疹，	ぬぐい液	6.17	Adenovirus 1
4	7	男	感染性胃腸炎	39℃，腹痛，	ふん便	6.17	Echovirus 25
5	3	女	急性気管支炎	38℃，咳漱，上気道炎，	鼻腔	6.18	Parainfluenza virus 3
6	3	女	手足口病	手足口病症状，	ぬぐい液	6.18	Coxsackievirus A16
7	1	女	手足口病	手足口病症状，	ぬぐい液	6.19	Coxsackievirus A16
8	9ヶ月	女	不明発疹症	39℃，下痢，咳漱，発疹，	ぬぐい液	6.19	Echovirus 18
9	2	女	手足口病	38℃，手足口病症状，	ぬぐい液	6.22	Coxsackievirus A16 Adenovirus C
10	3	女	手足口病	手足口病症状，	ぬぐい液	6.22	Coxsackievirus A16
11	1	女	不明発疹症	38℃，発疹，	ぬぐい液	6.22	Echovirus 18
12	8ヶ月	男	脳炎	41℃，中枢神経系障害，	ぬぐい液	6.22	Human herpes virus 6
13	1	女	感染性胃腸炎	嘔吐，嘔気，	ふん便	6.23	Adenovirus 1 Coxsackievirus A16 Sapovirus genogroup unknown
14	1	女	感染性胃腸炎	39℃，下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	6.24	Rotavirus group A G3
15	0ヶ月	女	新生児発熱	39℃，	ふん便	6.24	Echovirus 18
16	1	女	不明発疹症	上気道炎，発疹，	ぬぐい液	6.24	Human herpes virus 6
17	9	男	不明発疹症	発疹，	ぬぐい液	6.24	Epstein-Barr virus Rhinovirus
18	8ヶ月	女	不明発疹症	39℃，	ぬぐい液	6.25	Cytomegalovirus
19	4	女	不明発疹症	発疹，	ぬぐい液	6.25	Human herpes virus 7
20	1	男	手足口病	手足口病症状，	ぬぐい液	6.25	Coxsackievirus A16
21	18	男	脳炎	中枢神経系障害，	髄液	6.25	Herpes simplex virus 1
22	2	男	不明発疹症	38℃，発疹，	-	6.25	Echovirus 18
23	7	男	反復性耳下腺炎	38℃，	ぬぐい液	6.26	Rhinovirus
24	4	女	滲出性扁桃炎	-	ぬぐい液	6.27	Adenovirus 1
25	4	女	不明熱	39℃，咳漱，	ぬぐい液	6.27	Parainfluenza virus 3
26	10ヶ月	男	不明発疹症	発疹，	ぬぐい液	6.27	Coxsackievirus A16
27	5ヶ月	女	サイトメガロ肝炎	38℃，咳漱，上気道炎，肝機能，	尿	6.29	Cytomegalovirus
28	1	男	急性上気道炎	38℃，咳漱，上気道炎，	ぬぐい液	6.29	Parainfluenza virus 3
29	1	男	乳児喘息	38℃，	ぬぐい液	6.29	Parainfluenza virus 3
30	3	男	不明発疹症	発疹，	ぬぐい液	6.29	Echovirus 18
31	2	女	不明発疹症	発疹，	ぬぐい液	6.30	Cytomegalovirus
32	10ヶ月	男	不明発疹症	39℃，発疹，	ふん便	6.30	Echovirus 18

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
33	1	男	急性上気道炎	39℃, 嘔吐, 嘔気, 咳漱,	ぬぐい液	6.30	Parainfluenza virus 3
34	3	男	手足口病	手足口病症状,	口腔内ぬぐい液	6.30	Human herpes virus 6 Human herpes virus 7
35	5ヶ月	女	喘息性気管支炎	38℃, 咳漱, 気管支炎,	鼻汁	7. 1	Parainfluenza virus 3
36	1	男	ヘルパンギーナ	39℃, 上気道炎,	ぬぐい液	7. 1	Coxsackievirus A10
37	0ヶ月	男	無菌性髄膜炎		髄液	7. 1	Echovirus 18
38	1	女	不明発疹症	38℃, 下痢, 発疹,	ぬぐい液	7. 2	Echovirus 18
39	6	男	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	7. 2	Sapovirus genogroup unknown
40	1	男	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	7. 2	Coxsackievirus A16
41	1	女	無菌性髄膜炎	39℃, 中枢神経系障害,	ふん便	7. 3	Coxsackievirus A9
42	6	女	下気道炎	下気道炎,	ぬぐい液	7. 3	Human herpes virus 7
43	1	女	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	7. 3	Sapovirus genogroup unknown
44	3	男	感染性胃腸炎	腹痛,	ふん便	7. 3	Rhinovirus
45	9	男	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	7. 3	Coxsackievirus A16
46	2	女	手足口病	38℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	7. 4	Coxsackievirus A16
47	3	男	感染性胃腸炎・腸重積症	38℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	7. 4	Adenovirus 5
48	3	男	不明発疹症	38℃, 嘔吐, 嘔気, 発疹,	ぬぐい液	7. 6	Echovirus 18
49	1	女	感冒性消化不良症(夏カゼ)	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	7. 7	Sapovirus genogroup unknown
50	1	女	急性気管支炎・肺炎	40℃, 咳漱, 上気道炎, 気管支炎, 肺炎,	鼻咽腔ぬぐい液	7. 8	Parainfluenza virus 1 Respiratory syncytial virus A
51	6ヶ月	男	ウイルス性発疹症	40℃, 咳漱, 発疹, 手足口病症状,	ぬぐい液	7. 9	Cytomegalovirus
52	9	男	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	7. 9	Coxsackievirus A16
53	8ヶ月	女	ヘルパンギーナ	39℃,	ぬぐい液	7.10	Parainfluenza virus 3
54	1	男	不明発疹症(口にはないが手足口病様で全身に小丘疹)	37℃, 発疹,	ぬぐい液	7.10	Coxsackievirus A9
55	10ヶ月	女	不明発疹症	38℃, 発疹,	ぬぐい液	7.11	Cytomegalovirus Echovirus 25
56	1	男	急性肺炎	39℃, 咳漱, 肺炎,	ぬぐい液	7.11	Parainfluenza virus 1
57	1	女	急性気管支炎	40℃, 咳漱, 上気道炎, 肺炎,	ぬぐい液	7.12	Parainfluenza virus 3
58	7ヶ月	女	発疹症	39℃, 発疹,	ぬぐい液	7.13	Echovirus 7
59	2	女	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	7.13	Coxsackievirus A16
60	5ヶ月	女	ウイルス性発疹症	39℃, 発疹,	ぬぐい液	7.14	Echovirus 18
61	7ヶ月	男	感染性胃腸炎・川崎病疑い	39℃, 下痢, 発疹, 結膜炎,	ふん便	7.14	Adenovirus 1
62	3	男	手足口病	発疹, 口内炎,	ぬぐい液	7.14	Coxsackievirus A16
63	1	女	不明発疹症	39℃, 発疹,	ぬぐい液	7.15	Echovirus 18
64	9ヶ月	男	ヘルパンギーナ・感染性胃腸炎	39℃, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	7.15	Coxsackievirus A10
65	10ヶ月	男	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	7.15	Coxsackievirus A16
66	1	男	感染性胃腸炎	下痢, 咳漱,	ふん便	7.16	Echovirus 25
67	4	男	不明発疹症	39℃, 発疹,	ぬぐい液	7.16	Echovirus 18
68	10ヶ月	女	不明熱	40℃, 咳漱, 発疹,	ぬぐい液	7.17	Adenovirus 2
69	5	男	感染性胃腸炎	38℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	7.21	Norovirus GI NT
70	10ヶ月	男	急性気管支炎	38℃, 咳漱, 気管支炎,	ぬぐい液	7.21	Human metapneumovirus Parainfluenza virus 3
71	1	男	急性気管支炎	39℃, 咳漱, 上気道炎, 中枢神経系障害,	鼻腔	7.27	Parainfluenza virus 3 Respiratory syncytial virus A
72	10ヶ月	女	不明発疹症	38℃, 発疹,	ぬぐい液	7. 2	Echovirus 18

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2015年							2015年 総計
		1	2	3	4	5	6	7	
A群溶血性 レン球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes</i> T4			1					1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T6		2	5		1			8
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T12		1				1		2
	<i>Streptococcus pyogenes</i> TB3264	1				1			2
	計	1	3	6		2	1		13
インフルエンザ	Influenza virus A H3 NT	38	10	4					52
	Influenza virus B NT	2		3	1	1			7
	Influenza virus B Yamagata	2	3	4					9
	Rhinovirus				1				1
	計	42	13	11	2	1			69
咽頭結膜熱	Adenovirus 5				1				1
	Adenovirus 6	1			1				2
	Cytomegalovirus		1						1
	Epstein-Barr virus		1						1
	Human metapneumovirus				1				1
	Rhinovirus	1	1			1			3
	計	2	3		3	1			9
感染性胃腸炎	Adenovirus 1					1	1	1	2
	Adenovirus 2								1
	Adenovirus 5							1	1
	Adenovirus NT					1			1
	Astrovirus NT		1			3	2		6
	Coxsackievirus A16				1		1		2
	Echovirus 3	1							1
	Echovirus 25					3	4	1	8
	Human metapneumovirus				1				1
	Influenza virus B NT			1					1
	Norovirus GI NT				1			1	2
	Norovirus GII NT	6	5	12	7	4			34
	Rhinovirus				1			1	2
	Rotavirus group AG1		1	2		3			6
Rotavirus group AG3					2	1		3	
Sapovirus genogroup unknown	2	2	4	2	5	8	2	25	
	計	9	9	19	13	22	17	7	96
ヘルパンギーナ	Coxsackievirus A10							2	2
	Human herpes virus 6				1				1
	Parainfluenza virus 3							1	1
	Rhinovirus						1		1
	計				1	1		3	5
手足口病	Adenovirus C						2		2
	Coxsackievirus A16	6	5	1	2	3	7	7	31
	Human herpes virus 6						1	1	2
	Human herpes virus 7				1			1	2
	Rhinovirus	1							1
	計	9	5	1	3	3	10	9	40
百日咳	<i>Bordetella parapertussis</i>	1							1
	<i>Bordetella pertussis</i>	1							1
	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>					1			1
	Rhinovirus				1				1
	計	2			1	1			4
流行性耳下腺炎	Epstein-Barr virus		1						1
	計		1						1
無菌性髄膜炎	Coxsackievirus A9							1	1
	Echovirus 18					1		1	2
	Echovirus 25				1				1
	Human herpes virus 6				1				1
	Rhinovirus				1				1
	Respiratory syncytial virus A			1					1
	計			1	3	1		2	7
その他	Adenovirus NT					2			2
	Adenovirus 1	1	1				3		5
	Adenovirus 2	1						1	2
	Adenovirus 6	1		1					2
	B19virus			1					1
	Coxsackievirus A4	1							1
	Coxsackievirus A9						3	1	4
	Coxsackievirus A16				1		2		3
	Cytomegalovirus	1	1	1	2		3	2	10
	Echovirus 3	1							1
	Echovirus 7							1	1
	Echovirus 18	1		1	2	1	7	7	19
	Echovirus 25				2			1	3
	Epstein-Barr virus		1	2		1	1		5
	Herpes simplex virus 1						1		1
	Human herpes virus 6			1	2	1	4		8
	Human herpes virus 7			4	1		3	1	11
	Human metapneumovirus		2	2	2		1	1	8
	Influenza virus A H3 NT	1		1					2
	Norovirus GII NT				1		1		2
	Parainfluenza virus 1		1					2	3
	Parainfluenza virus 3	1					6	5	12
	Respiratory syncytial virus A	2	4				1	2	9
Rhinovirus	3	3	6	7	4	5		28	
Sapovirus genogroup unknown					1		1	2	
<i>Salmonella Thompson</i>								1	
	計	14	13	20	20	12	42	25	146
総計		79	47	58	46	44	70	46	390

高知県感染症情報月報 2015年 8 月

(65定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ	1					1	2	9	3
小児科	咽頭結膜熱	1	3	5	2		3	14	29	37
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	4	50	7	12	13	88	287	35
	感染性胃腸炎	22	48	109	16	4	18	217	392	357
	水痘		6	10		2	6	24	51	65
	手足口病	31	122	189	8	27	37	414	437	27
	伝染性紅斑		7	18	1			26	40	6
	突発性発疹	7	13	28	5	6	2	61	74	73
	百日咳			1				1	1	
	ヘルパンギーナ	19	81	157	40	31	69	397	343	282
	流行性耳下腺炎	7	4	38	1	2	12	64	48	117
	RSウイルス感染症		6	34	7		7	54	27	6
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			3				3	4	
STD	性器クラミジア感染症			1			1	2	3	1
	性器ヘルペスウイルス感染症								1	
	尖圭コンジローマ									1
	淋菌感染症									
基幹	細菌性髄膜炎								2	
	無菌性髄膜炎			2			1	3		2
	マイコプラズマ肺炎		1	22			32	55	27	14
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			5				5	3	3
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)									
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5	3	15			1	24	19	22
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									
	薬剤耐性緑膿菌感染症									1
計		95	298	687	87	84	203	1,454	1,797	1,052
前月		142	325	817	155	157	201			
前年同月		109	195	485	178	80	143			
小児科定点数		2	7	11	3	2	5			

2015年8月

全国情報（8月3日～8月30日）

第32週（8月3日～）から第35週（～8月30日）までの4週間に報告が多かった疾患は表1のとおりである。上位6疾患は8月が56.31で7月の4週間換算値79.16よりも減少し、その原因は、夏季に流行する上位4疾患が軒並み減少したことである。報告数第1位の手足口病は26.15（7月1位4週間換算で34.14）、2位の感染性胃腸炎は12.07（同2位17.41）、3位ヘルパンギーナが7.23（同3位11.02）、4位A群溶血性レンサ球菌咽頭炎が4.89（同4位9.45）といずれも同順位ながらも減少した。5位は流行性角結膜炎で3.76（同6位3.2）と微増した。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	32週	33週	34週	35週	計
1	手足口病		8.95	5.90	5.64	5.66	26.15
2	感染性胃腸炎		3.40	2.47	3.13	3.07	12.07
3	ヘルパンギーナ		2.61	1.70	1.47	1.45	7.23
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.46	1.03	1.16	1.24	4.89
5	流行性角結膜炎		0.88	0.64	1.15	1.09	3.76
6	突発性発疹		0.60	0.44	0.56	0.61	2.21

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の8月の上位6疾患の合計は46.22で7月の4週間換算値43.59と比べ増加したものの、全国よりも少なかった（表2）。上位疾患は手足口病が1位13.80（7月1位11.66）、ヘルパンギーナが2位13.23（同3位9.15）と増加したが全国よりも少ない。3位は感染性胃腸炎で7.23（同2位10.46）と減少した。4位はマイコプラズマ肺炎で6.89（同5位2.71）と約3倍に増加し、全国の1.87よりも多かった。5位がA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で2.93（同4位7.65）と減少し、全国よりも少ない。6位が流行性耳下腺炎で2.14（同8位1.28）に増加し全国の2.01と同等であった。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	32週	33週	34週	35週	計
1	手足口病		3.43	3.47	3.13	3.77	13.80
2	ヘルパンギーナ		5.67	2.63	2.53	2.40	13.23
3	感染性胃腸炎		1.97	1.83	1.73	1.70	7.23
4	マイコプラズマ肺炎		1.38	2.13	2.13	1.25	6.89
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.83	0.70	0.57	0.83	2.93
6	流行性耳下腺炎		0.87	0.50	0.40	0.37	2.14

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 2名（7月9名）。第6週に警報値30を、第10週に9.90と注意報値10を下回ったが、第11、12週に再び10.88、11.29と注意報値を上回り、第13週に6.10と減少に転じた。6月に四万十市でB型の再流行があったが、ほぼ終息としてよい。ただし、B型NTが1件検出されている。

2) 咽頭結膜熱

報告数 14名（7月29名）。例年の8月と比べ報告は少ない。Adenovirusは1件も検出されなかった。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 88名（7月287名）。2014年10月以降多く報告されており過去10年間で最も大きな流行である。8月はようやく減少し例年並みの報告数になった。高知市、幡多、須崎からの報告が多い。8月に細菌は検出されていない。

4) 感染性胃腸炎

報告数 216名（7月392名）。高知市、中央東、安芸からの報告が多い。ウイルスはAstrovirus, Coxsackievirus A2, Parainfluenzavirus 3がそれぞれ1件検出された。

5) 水痘

報告数 24名（7月51名）。夏季に水痘は減少する。過去10年間8月の報告数80～300名に比べると、本年の報告数は少なく、ワクチン定期化の効果と思われる。年齢の内訳は、ワクチン対象者でない0歳児が3名、5歳以上の年長児が6名、成人が1名であった。高知市、中央東、幡多、須崎の順に多く報告された。

6) 手足口病

報告数 414名（7月437名）。6月7月から流行が始まる年が多いが、今季は流行の立ち上がりがあったが8月としては2010年以降では比較的大きな流行規模となっている。高知市、中央東で多い。ウイルスはCoxsackievirus A6, Echovirus 18, Enterovirus NTがそれぞれ2件検出された。今季の流行株であるCoxsackievirus A16は8月は1件も検出されなかったが、典型的な臨床所見ゆえに検査に提出されなかったためと推測される。脳幹膜炎に関連するEnterovirus 71は1例も検出されていない。

7) 伝染性紅斑

報告数 26名（7月40名）。再び減少に転じ、高知市、中央東、中央西から報告された。ウイル

- スは検出されていない。
- 8) 突発性発疹
報告数 61名 (7月74名)。大きな変動はない。
- 9) 百日咳
報告数 1名 (7月1名)。高知市から10~14歳の例が報告された。13年4月の13名以降、1桁の報告が続いている。
- 10) ヘルパンギーナ
報告数 397名 (7月343名)。7月に一気に増加したが横ばいとなり、8月として平年並みの流行規模となった。県下全域で流行している。Coxsackievirus A10が2件、Enterovirus NTが1件検出された。
- 11) 流行性耳下腺炎
報告数 64名 (7月48名)。高知市、幡多、安芸からの報告が多い。
- 12) RSウイルス感染症
報告数 54名 (7月27名)。本来は冬季の感染症であるが、過去10年と比較して6月7月の報告数としては最大でただらと報告が続いていたが早くも増加に転じた。過去10年で8月の報告数として最大であり、今後も増加が見込まれ、入院例も急速に増えてきている。高知市、中央西、幡多、

- 中央東から報告された。RS virus Aが3件、Bが1件検出された。
- 13) 流行性角結膜炎
報告数 3名 (7月4名)。ここ3年間は一桁で推移している。
- 14) マイコプラズマ肺炎 (基幹定点の報告疾患)
報告数 55名 (7月27名)。幡多、高知市、中央東から報告されている。幡多では、宿毛市の流行が最大で、大月町、土佐清水市、黒潮町と相次いで流行し、四万十市にも波及し、幡多地域全体の流行になっているが、臨床的にマクロライド系抗菌薬に耐性であり注意が必要である。
- 基幹定点の月報疾患
- 15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
報告数 24名 (7月19名)。20名前後で推移し変化はない。
- 16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
報告数 0名 (7月0名)。2014年は計4例、2015年は1例のみ報告されている。

高知県感染症発生動向調査部会
前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患 (平成27年8月)

類型	病名	報告年												総計					
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		23	24	25	26	27
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	138	95	1,284
	計									131	149	163	156	192	132	128	138	95	1,284
3	コレラ	1					1						1						3
	パラチフス	2																	2
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2										25
	腸チフス	1							1										2
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	157
計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	2	189	
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1			3						31
	Q熱	1	1	2				1											5
	オウム病			1		1													2
	つづが虫病		9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	3		70
	マラリア								2					1					3
	レジオネラ症		2		1		1				9	7	3	6	9	2	4	3	47
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	1	127
	日本脳炎	1	1	1					1			1	1						6
	レプトスピラ症											1		4	2	1			8
	E型肝炎												1		1				2
	デング熱												1				3	2	7
	重症熱性血小板減少症候群																3	11	2
	計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	27	10	324
	5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		7	2
ウイルス性肝炎		11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3		1		54
カルバペネム耐性腸内細菌感染症																		7	15
クロイツフェルト・ヤコブ病		1	1	4		4	3	3		6		1	3					2	28
ジアルジア症			1	2	1							1			1	1			7
バンコマイシン耐性腸球菌感染症				1								1							2
急性脳炎									1	1	2	5	1	3	1		1	1	16
劇症型溶血性レンサ球菌感染症				1	1	1				1		1		1	3		1		10
後天性免疫不全症候群		2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	5	49
侵襲性インフルエンザ菌感染症																	1	2	3
侵襲性肺炎球菌感染症																1	4	8	13
髄膜炎菌性髄膜炎											1								1
破傷風			3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		4	3	26
梅毒		2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	4	115
麻しん										5									5
風しん										1	1				4	9	1		16
水痘 (入院例に限る)																			1
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	41	401	
新型	新型インフルエンザ											34							34
計												34							34
動物	鳥インフルエンザ													1					1
	計													1					1
総計		61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	210	148	2,233

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

8月はウイルス88件，細菌2件の搬入があり，そのうちウイルス46件の病原体を検出し，また，平成27年7月に搬入された検体でウイルス20件を検出した．検出ウイルスの内訳は，Astrovirus NT 1件，Coxsackievirus A10 8件，Coxsackievirus A16 3件，Coxsackievirus A2 1件，Coxsackievirus A6 2件，Coxsackievirus A9 3件，Cytomegalovirus 1件，Echovirus 18 5件，Echovirus 7 1件，Enterovirus NT 14件，Epstein-Barr virus 1件，Herpes simplex virus 1 2件，Human herpes virus 6 2件，Human herpes virus 7 2件，Influenza virus B NT 1件，Parainfluenza virus 3 5件，Respiratory syncytial virus A 3件，Respiratory syncytial virus B 1件，Rhinovirus 8件，Sapovirus genogroup unknown 2件であった．

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	1	女	急性肺炎	39℃，咳漱，肺炎，発疹，	鼻腔	7.15	Cytomegalovirus
2	7	女	頸部リンパ節炎	-	ぬぐい液	7.15	Epstein-Barr virus
3	8ヶ月	女	手足口病	40℃，手足口病症状，	ぬぐい液	7.20	Enterovirus NT
4	1	女	手足口病？ヘルパンギーナ？	40℃，口内炎，	ぬぐい液	7.21	Coxsackievirus A10
5	1	男	手足口病	39℃，下痢，手足口病症状，	ぬぐい液	7.22	Enterovirus NT
6	2	男	不明発疹症	発疹，	ぬぐい液	7.22	Rhinovirus
7	9ヶ月	男	ヘルパンギーナ	40℃，嘔吐，嘔気，水疱，	ぬぐい液	7.22	Enterovirus NT
8	1ヶ月	男	エンテロウイルス感染症(疑)	39℃，咳漱，上気道炎，発疹，	ぬぐい液	7.23	Enterovirus NT
9	1ヶ月	男	咽頭炎	39℃，発疹，	-	7.23	Enterovirus NT
10	1	男	クループ症候群	39℃，咳漱，上気道炎，	鼻腔ぬぐい	7.24	Rhinovirus
11	2ヶ月	女	不明熱	40℃，下痢，	ぬぐい液	7.25	Echovirus 7
12	1	女	不明発疹症	40℃，発疹，	ぬぐい液	7.25	Coxsackievirus A9
13	1ヶ月	男	ヘルパンギーナ	40℃，	ぬぐい液	7.25	Enterovirus NT
14	1	女	ヘルパンギーナ	40℃，下痢，嘔吐，嘔気，	ぬぐい液	7.27	Rhinovirus
15	1	男	手足口病	38℃，手足口病症状，	ぬぐい液	7.27	Coxsackievirus A16
16	2	男	ヘルパンギーナ	40℃，咳漱，	ぬぐい液	7.27	Rhinovirus
17	2	男	手足口病	37℃，手足口病症状，	ぬぐい液	7.27	Enterovirus NT
18	2	男	手足口病2回目	37℃，手足口病症状，	ぬぐい液	7.27	Enterovirus NT
19	4	男	手足口病	手足口病症状，	ぬぐい液	7.27	Coxsackievirus A16
20	10ヶ月	男	手足口病	38℃，手足口病症状，	ぬぐい液	7.27	Coxsackievirus A16
21	1	男	複雑型熱性けいれん，上気道炎	40℃，咳漱，上気道炎，	ぬぐい液	7.28	Parainfluenza virus 3 Respiratory syncytial virus A
22	2	男	ヘルパンギーナ？手足口病？	38℃，手足口病症状，	ぬぐい液	7.28	Coxsackievirus A10
23	0ヶ月	女	不明熱	39℃，	ぬぐい液	7.28	Coxsackievirus A10
24	11ヶ月	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎， ウイルス性呼吸器疾病疑い	39℃，咳漱，	ぬぐい液	7.28	Enterovirus NT
25	1	女	不明発疹症	発疹，	ぬぐい液	7.29	Enterovirus NT Human herpes virus 6
26	3	男	ヘルパンギーナ？手足口病？	40℃，口内炎，手足口病症状，	ぬぐい液	7.29	Enterovirus NT
27	3	女	手足口病	39℃，口内炎，手足口病症状，	ぬぐい液	7.29	Enterovirus NT
28	3	男	ヘルパンギーナ	38℃，上気道炎，口内炎，	ぬぐい液	7.30	Herpes simplex virus 1
29	13	男	手足口病	手足口病症状，	ぬぐい液	7.30	Coxsackievirus A6 Human herpes virus 7
30	3	男	感染性胃腸炎	41℃，下痢，	ふん便	7.31	Astrovirus NT
31	3	女	口内炎	39℃，口内炎，	ぬぐい液	7.31	Enterovirus NT
32	4	男	ウイルス性肺炎	39℃，咳漱，肺炎，	喀痰	7.31	Coxsackievirus A9
33	7	男	手足口病	口内炎，	ぬぐい液	7.31	Rhinovirus

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス, 細菌の検出
34	1	男	D I C	39℃, 中枢神経系障害,	ふん便	8. 1	Coxsackievirus A10
35	1	女	不明熱	40℃, 嘔吐, 嘔気, 咳漱,	ぬぐい液	8. 1	Parainfluenza virus 3
36	2	男	不明発疹症	39℃, 発疹,	ぬぐい液	8. 1	Echovirus 18
37	10ヶ月	女	不明熱	39℃, 発疹,	ぬぐい液	8. 3	Coxsackievirus A10
38	1	男	ヘルパンギーナ	39℃, 咳漱, 上気道炎, 発疹,	ふん便	8. 3	Coxsackievirus A10
					ぬぐい液		Sapovirus genogroup unknown Parainfluenza virus 3
39	4	女	喘息	40℃,	ぬぐい液	8. 3	Rhinovirus
40	7	男	手足口病?	口内炎,	ぬぐい液	8. 3	Enterovirus NT
41	3	女	不明熱	39℃,	ふん便ぬぐい液	8. 4	Coxsackievirus A10
42	2ヶ月	女	手足口病	39℃, 手足口病症状,	ふん便	8. 4	Echovirus 18
43	1	女	不明発疹症	40℃, 下痢, 発疹,	ぬぐい液	8. 5	Human herpes virus 6
44	1	女	複雑型熱性けいれん, てんかん疑い, 咽頭炎	39℃,	ぬぐい液	8. 6	Parainfluenza virus 3
45	8	女	川崎病の疑い	38℃, 発疹,	ぬぐい液	8. 7	Human herpes virus 7
46	1	女	感染性胃腸炎	40℃, 咳漱, 肺炎,	鼻咽頭	8. 9	Parainfluenza virus 3
47	1	男	肝炎, けいれん重積発作	39℃, 肺炎, 中枢神経系障害,	ぬぐい液	8. 9	Herpes simplex virus 1
48	1	男	無菌性髄膜炎 疑い	40℃, 下痢, 中枢神経系障害,	ふん便	8. 9	Coxsackievirus A10
49	9ヶ月	女	手足口病	発疹,	ふん便	8.10	Echovirus 18
50	1	女	感染性胃腸炎	38℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	8.11	Coxsackievirus A2
51	1	男	不明発疹症	36℃,	ぬぐい液	8.11	Echovirus 18
52	3	男	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	8.11	Coxsackievirus A6
53	1	男	肺炎, けいれん重積発作	39℃, 肺炎, 肝機能, 中枢神経系障害,	ふん便	8.12	Sapovirus genogroup unknown
54	4	女	ウイルス性肺炎	39℃, 咳漱, 肺炎,	ふん便	8.13	Coxsackievirus A9
							Rhinovirus
55	3ヶ月	男	不明発疹症	36℃, 発疹,	ぬぐい液	8.17	Echovirus 18
56	2	女	急性上気道炎	41℃, 下痢, 咳漱, 上気道炎, 気管支炎,	ぬぐい液	8.17	Respiratory syncytial virus A
57	9ヶ月	女	不明発疹症	41℃, 発疹, 肝機能,	鼻咽腔ぬぐい液	8.19	Rhinovirus
58	2	男	不明熱	39℃, 嘔吐, 嘔気, 咳漱, 上気道炎, 下気道炎,	鼻咽腔ぬぐい液	8.21	Respiratory syncytial virus A
59	15	男	インフルエンザB	40℃, 咳漱,	鼻腔ぬぐい	8.24	Influenza virus B NT
60	2ヶ月	男	RSウイルス細気管支炎	38℃, 嘔吐, 嘔気, 咳漱, 気管支炎,	ぬぐい液	8.24	Respiratory syncytial virus B

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2015年								2015年 総計	
		1	2	3	4	5	6	7	8		
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	Enterovirus NT								1	1	
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T4			1						1	
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T6		2	5		1				8	
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T12 <i>Streptococcus pyogenes</i> TB3264		1				1	1		2	
	計	1	3	6		2	1		1	14	
インフルエンザ	Influenza virus A H3 NT	38	10	4						52	
	Influenza virus B NT	2		3	1	1			1	8	
	Influenza virus B Yamagata Rhinovirus	2	3	4						9	
	計	42	13	11	2	1			1	70	
咽頭結膜熱	Adenovirus 5				1					1	
	Adenovirus 6	1			1					2	
	Cytomegalovirus		1							1	
	Epstein-Barr virus		1							1	
	Human metapneumovirus				1					1	
	Rhinovirus	1	1			1				3	
	計	2	3		3	1				9	
感染性胃腸炎	Adenovirus 1					1	1	1		2	
	Adenovirus 2									1	
	Adenovirus 5							1		1	
	Adenovirus NT					1				1	
	Astrovirus NT		1			3	2		1	7	
	Coxsackievirus A2								1	1	
	Coxsackievirus A16				1		1			2	
	Echovirus 3	1								1	
	Echovirus 25					3	4	1		8	
	Human metapneumovirus				1					1	
	Influenza virus B NT			1						1	
	Norovirus GI NT				1			1		2	
	Norovirus GII NT	6	5	12	7	4				34	
	Parainfluenza virus 3								1	1	
	Rhinovirus				1			1		2	
	Rotavirus group AG1		1	2		3				6	
Rotavirus group AG3					2	1			3		
Sapovirus genogroup unknown	2	2	4	2	5	8	2		25		
	計	9	9	19	13	22	17	7	3	99	
ヘルパンギーナ	Coxsackievirus A10							2	2	4	
	Enterovirus NT							2	1	3	
	Human herpes virus 6				1					1	
	Herpes simplex virus 1								1	1	
	Parainfluenza virus 3							1	1	2	
	Rhinovirus					1		2		3	
	Sapovirus genogroup unknown								1	1	
	計				1	1		7	6	15	
手足口病	Adenovirus C						2			2	
	Coxsackievirus A6							2		2	
	Coxsackievirus A10							1		1	
	Coxsackievirus A16	6	5	1	2	3	7	10		34	
	Echovirus 18							2		2	
	Enterovirus NT							4	2	6	
	Human herpes virus 6						1	1		2	
	Human herpes virus 7				1			1	1	3	
	Norovirus GII NT	1								1	
	Rhinovirus	2							1	3	
	計	9	5	1	3	3	10	17	8	56	
百日咳	<i>Bordetella paraptussis</i>	1								1	
	<i>Bordetella pertussis</i>	1								1	
	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>						1			1	
	Rhinovirus				1					1	
	計	2			1	1				4	
流行性耳下腺炎	Epstein-Barr virus		1							1	
	計		1							1	
無菌性髄膜炎	Coxsackievirus A9							1		1	
	Coxsackievirus A10								1	1	
	Echovirus 18					1		1		2	
	Echovirus 25				1					1	
	Human herpes virus 6				1					1	
	Rhinovirus				1					1	
	Respiratory syncytial virus A			1						1	
	計			1	3	1		2	1	8	
その他	Adenovirus NT					2				2	
	Adenovirus 1	1	1				3			5	
	Adenovirus 2	1						1		2	
	Adenovirus 6	1		1						2	
	B19virus			1						1	
	Coxsackievirus A4	1								1	
	Coxsackievirus A9						3	2		7	
	Coxsackievirus A10								4	4	
	Coxsackievirus A16				1		2			3	
	Cytomegalovirus	1	1	1	2		3	3		11	
	Echovirus 3	1								1	
	Echovirus 7							2		2	
	Echovirus 18	1		1	2	1	7	7	3	22	
	Echovirus 25				2			1		3	
	Enterovirus NT							2	2	4	
	Epstein-Barr virus		1	2		1	1	1		6	
	Herpes simplex virus 1						1		1	2	
	Human herpes virus 6			1	2	1	4		2	10	
	Human herpes virus 7			4	1	2	3	1	1	12	
	Human metapneumovirus		2	2	2		1	1		8	
	Influenza virus A H3 NT	1		1						2	
	Norovirus GII NT				1		1			2	
	Parainfluenza virus 1		1					2		3	
	Parainfluenza virus 3	1					6	5	3	15	
	Respiratory syncytial virus A	2	4				1	2	3	12	
	Respiratory syncytial virus B								1	1	
	Rhinovirus	3	3	6	7	4	5	2	3	33	
	Sapovirus genogroup unknown					1		1		3	
	<i>Salmonella</i> Thompson						1			1	
		計	14	13	20	20	12	42	33	26	180
	総計		79	47	58	46	44	70	66	46	456

高知県感染症情報月報 2015年9月

(65定点医療機関)

定点名	保健所		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
	疾病名										
内科・小児科	インフルエンザ			3	1				4	2	56
小児科	咽頭結膜熱				3	2			5	14	27
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	9	13	87	11	6	13	139	88	60	
	感染性胃腸炎	18	51	71	17	5	10	172	217	295	
	水痘	4	7	15		1	18	45	24	54	
	手足口病	18	123	284	18	7	21	471	414	49	
	伝染性紅斑		5	17	1			23	26	1	
	突発性発疹		11	18	4	2	3	38	61	61	
	百日咳		1					1	1		
	ヘルパンギーナ	10	18	34	15	18	50	145	397	117	
	流行性耳下腺炎	3	9	23	1	2	7	45	64	115	
	RSウイルス感染症	2	22	129	9		58	220	54	93	
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎			1				1	3	4	
STD	性器クラミジア感染症									2	3
	性器ヘルペスウイルス感染症										
	尖圭コンジローマ										2
	淋菌感染症										
基幹	細菌性髄膜炎										
	無菌性髄膜炎			1				1	3	1	
	マイコプラズマ肺炎	1	4	17			18	40	55	21	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			2				2	5	3	
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)									1	
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	4		19				23	24	24	
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									1	
	薬剤耐性緑膿菌感染症		5					5			
計			69	272	722	78	41	198	1,380	1,454	988
前月			95	298	687	87	84	203			
前年同月			63	168	461	57	51	188			
小児科定点数			2	7	11	3	2	5			

2015年9月

全国情報（8月31日～9月27日）

第36週（8月31日～）から第39週（～9月27日）までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。上位6疾患は9月が45.07で8月の56.31よりも減少し、その原因は、夏季に流行する手足口病とヘルパンギーナが減少したことである。一方で比較的重症で入院治療を要することも多いRSウイルス感染症が増加し、小児科外来を賑わしはじめた。報告数第1位の手足口病は16.98（8月1位26.15）と減少した。2位の感染性胃腸炎は11.90（同2位12.07）で横ばい、3位のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎が5.68（同4位4.89）と再び増加に転じた。4位は流行性角結膜炎で4.04（同5位3.76）とわずかに増加、5位がヘルパンギーナで3.37（同3位7.23）と半減した。6位に冬季に流行することの多いRSウイルス感染症が早々に登場し、3.10（同11位1.50）と前月に比べて倍増した。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	36週	37週	38週	39週	計
1	手足口病		5.10	4.99	4.48	2.41	16.98
2	感染性胃腸炎		3.40	3.32	3.17	2.01	11.90
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.45	1.60	1.69	0.94	5.68
4	流行性角結膜炎		1.08	1.08	1.04	0.84	4.04
5	ヘルパンギーナ		1.20	1.02	0.81	0.34	3.37
6	RSウイルス感染症		0.66	0.84	0.96	0.64	3.10

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の9月の上位6疾患の合計は43.24で8月46.22と比べわずかに減少し全国並みであった（表2）。上位疾患は手足口病が1位15.70（8月1位13.80）と増加が続き全国に肩を並べた。特筆すべきことに、RSウイルス感染症が7.33（8月8位1.80）と一気に増加し、全国よりも多くなった。3位の感染性胃腸炎は5.73（同3位7.23）、4位マイコプラズマ肺炎は5.01（同4位6.89）と減少に転じたが、後者は依然全国（1.87）よりも多い。ヘルパンギーナが5位4.83（同2位13.23）と減少したが全国よりも多い。6位のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎は4.64（同5位2.93）と再び増加したが全国よりも少ない。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	36週	37週	38週	39週	計
1	手足口病		4.10	4.90	3.67	3.03	15.70
2	RSウイルス感染症		1.37	1.50	3.03	1.43	7.33
3	感染性胃腸炎		2.20	1.67	0.83	1.03	5.73
4	マイコプラズマ肺炎		1.88	1.63	1.25	0.25	5.01
5	ヘルパンギーナ		2.20	1.63	0.80	0.20	4.83
6	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.37	1.30	1.17	0.80	4.64

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 4名（8月2名）。ほぼ終息していたが、少数ながら増加した。毎年のように夏に流行がみられる沖縄県を除けば、東京都と愛知県で約90名の報告があり、既に学級閉鎖が出たことが報じられた。県下でもこのまま増加していくのか散發で終わるのか見守る必要がある。3例が中央東、1例が高知市から報告されたが、ウイルスは検出されていない。

2) 咽頭結膜熱

報告数 5名（8月14名）。例年の9月と比べ報告は少なく、終息しそうである。Adenovirusは1件も検出されなかった。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 139名（8月88名）。2014年10月以降多く報告されており過去10年間で最も大きな流行であった。8月は減少し例年並みの報告数になっていたが、再び増加に転じ、本来、年末に向けて増加する傾向がある病原体なので、今後さらに増加が予想され注意が必要である。高知市、安芸、中央西からの報告が多い。TB3264が1件検出された。

4) 感染性胃腸炎

報告数 172名（8月217名）。安芸、中央東、高知市の順に多い。ウイルスはSapovirus、Coxsackievirus A9がそれぞれ1件検出された。

5) 水痘

報告数 45名（8月24名）。倍増したが、過去10年間の同月と比べると最小数である。幡多、安芸、高知市の順に多い。

6) 手足口病

報告数 471名（8月414名）。6月7月から流行が始まる年が多いが、今季は流行の立ち上がりがあったが9月としては過去10年間では2013年に次ぐ多い報告数だった。高知市、中央東、安芸で多い。ウイルスはCoxsackievirus A6が4件検出

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

9月はウイルス90件，細菌8件の搬入があり，そのうちウイルス14件，細菌1件の病原体を検出し，また，平成27年8月に搬入された検体でウイルス9件を検出した。検出ウイルスの内訳は，Coxsackievirus A6 6件，Coxsackievirus A9 6件，Epstein-Barr virus 1件，Human herpes virus 7 3件，Parainfluenza virus 3 1件，Respiratory syncytial virus A 2件，Respiratory syncytial virus B 1件，Rhinovirus 2件，Sapovirus genogroup unknown 1件，*Streptococcus pyogenes* TB3264 1件であった。

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	2	男	ヘルパンギーナ	39℃，	ぬぐい液	8.8	Human herpes virus 7
2	2	女	手足口病？	37℃，発疹，	ぬぐい液	8.8	Human herpes virus 7
3	11ヶ月	男	感染性胃腸炎	下痢，	ふん便	8.17	Coxsackievirus A9
4	9ヶ月	女	不明発疹症	41℃，発疹，肝機能，	鼻咽腔ぬぐい液	8.19	Coxsackievirus A9
5	1	女	急性上気道炎	40℃，咳漱，上気道炎，	ぬぐい液	8.19	Coxsackievirus A9
6	2	女	下気道炎	40℃，咳漱，下気道炎，気管支炎，	喀痰	8.21	Coxsackievirus A6
7	3	女	不明発疹症	37℃，下痢，発疹，	ぬぐい液	8.22	Epstein-Barr virus
8	1	女	感染性胃腸炎	39℃，咳漱，	ふん便	8.24	Coxsackievirus A9
9	8ヶ月	女	手足口病	37℃，発疹，	ぬぐい液	8.24	Coxsackievirus A9
10	7	男	急性気管支炎	38℃，咳漱，	ぬぐい液	8.26	Parainfluenza virus 3
11	9ヶ月	女	不明発疹症	38℃，発疹，口内炎，	ぬぐい液	8.31	Rhinovirus
12	2	男	手足口病	39℃，手足口病症状，	ぬぐい液	9.2	Coxsackievirus A6
13	2	女	R S ウイルス感染症，ヘルパンギーナ	40℃，下痢，咳漱，下気道炎，肺炎，	ぬぐい液	9.3	Respiratory syncytial virus A
14	8	男	不明熱	39℃，発疹，	ぬぐい液	9.3	Human herpes virus 7
15	1	男	気管支炎	39℃，咳漱，上気道炎，	鼻腔	9.4	Respiratory syncytial virus B
16	2ヶ月	男	下気道炎 R S V 疑い	38℃，下気道炎，	うがい液	9.5	Rhinovirus Respiratory syncytial virus A
17	7	女	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	37℃，上気道炎，	ぬぐい液	9.7	<i>Streptococcus pyogenes</i> TB3264
18	0ヶ月	男	感染性胃腸炎	39℃，	鼻咽腔ぬぐい液	9.8	Coxsackievirus A9
19	4ヶ月	男	手足口病	38℃，手足口病症状，	ふん便	9.8	Coxsackievirus A6
20	13	女	手足口病	39℃，嘔吐，嘔気，手足口病症状，	ぬぐい液	9.9	Coxsackievirus A6
21	8ヶ月	男	E B 疑い	40℃，嘔吐，咳漱，	ぬぐい液	9.11	Coxsackievirus A6
22	1	男	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	9.12	Sapovirus genogroup unknown
23	2	男	手足口病	39℃，嘔吐，嘔気，水疱，発疹，口内炎，手足口病症状，	ぬぐい液	9.12	Coxsackievirus A6

高知県感染症情報月報 2015年10月

(65定点医療機関)

定点名	保健所		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
	疾病名										
内科・小児科	インフルエンザ				1	1			2	4	8
小児科	咽頭結膜熱			4	4				8	5	17
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	21	15	85	13	2	38	174	139	101	
	感染性胃腸炎	14	93	79	18	2	17	223	172	282	
	水痘	5	7	13	3	1	19	48	45	85	
	手足口病	13	44	135	38	9	16	255	471	122	
	伝染性紅斑	1	2	16				19	23	4	
	突発性発疹	1	7	32	5	3	2	50	38	69	
	百日咳			2		2		4	1		
	ヘルパンギーナ	1	2	12	4	3	5	27	145	43	
	流行性耳下腺炎	3	2	39			3	47	45	84	
	RSウイルス感染症		51	109	19	7	63	249	220	216	
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎									1	2
STD	性器クラミジア感染症										1
	性器ヘルペスウイルス感染症										
	尖圭コンジローマ										
	淋菌感染症										
基幹	細菌性髄膜炎		1					1			1
	無菌性髄膜炎			2				2	1	1	
	マイコプラズマ肺炎		3	11			8	22	40	21	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			7				7	2	3	
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)			1			2	3			
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症			11			1	12	23	14	
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症										1
	薬剤耐性緑膿菌感染症		2					2	5		
計			59	233	559	101	29	174	1,155	1,380	1,075
前月			69	272	722	78	41	198			
前年同月			34	239	533	66	61	142			
小児科定点数			2	7	11	3	2	5			

2015年10月

全国情報（9月28日～11月1日）

第40週（9月28日～）から第44週（～11月1日）までの5週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。

全国の10月の上位6疾患の合計は4週間換算では39.44で、9月の45.07よりも減少し、その原因は、夏季に流行する手足口病とヘルパンギーナが9月に続き減少したためである。一方で感染性胃腸炎が増加し、入院治療を要することの多いRSウイルス感染症も増加した。

報告数第1位の感染性胃腸炎は4週間換算で15.25（9月2位11.90）と増加し、第2位は溶血性レンサ球菌咽頭炎で7.69（同3位5.68）と増加した。手足口病が第3位で5.24（同1位16.98）と激減した。第4位がRSウイルス感染症で4.85（同6位3.10）と増加、第5位流行性角結膜炎は3.71（同4位4.04）とわずかに減少、第6位にはマイコプラズマ肺炎が入り2.70（同8位2.03）と増加した。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	40週	41週	42週	43週	44週	計
1	感染性胃腸炎		3.12	3.25	3.30	4.33	5.06	19.06
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.61	1.80	1.72	2.20	2.28	9.61
3	手足口病		2.25	1.73	1.09	0.84	0.64	6.55
4	RSウイルス感染症		0.84	1.18	1.22	1.31	1.51	6.06
5	流行性角結膜炎		1.09	0.91	0.81	0.95	0.88	4.64
6	マイコプラズマ肺炎		0.70	0.68	0.61	0.75	0.64	3.38

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の10月の上位6疾患の合計は4週間換算で27.56と9月43.24と比べわずかに減り全国よりも少なかった（表2）。上位疾患は手足口病が1位、4週間換算で6.80（9月1位15.70）と減少に転じ全国よりも少なかった。RSウイルス感染症が2位で6.64（9月2位7.33）と9月よりもわずかに減少したが、まだ全国よりも多い。3位の感染性胃腸炎は5.94（同3位5.73）と横ばいで全国よりも少ない。4位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で4.64（同6位4.64）と横ばいで全国よりも少ない。5位がマイコプラズマ肺炎で2.21（同4位5.01）と半減し、全国を下回った。6位は突発性発疹で1.33（同9位1.26）と横ばいだった。

喘息体質をもつ宿主に重症の呼吸不全をきたしたり、ポリオ様の急性弛緩性麻痺（AFP）を生ずる、エンテロウイルスD68（EVD68）が、話題となっているが、今年が高知県では1件も検出例はなかった。

しかし、後方視的には2013年に高知県で4件検出されており、今後の動向が注目される。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	40週	41週	42週	43週	44週	計
1	手足口病		2.63	2.67	1.13	1.20	0.87	8.50
2	RSウイルス感染症		1.47	2.03	2.00	1.23	1.57	8.30
3	感染性胃腸炎		1.20	1.23	1.43	1.77	1.80	7.43
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.53	1.00	0.93	1.07	1.27	5.80
5	マイコプラズマ肺炎		0.50	0.25	0.38	0.50	1.13	2.76
6	突発性発疹		0.37	0.50	0.23	0.23	0.33	1.66

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 2名（9月4名）。9月に引き続き散発的に報告されたが、まとまった流行はなく、ウイルスは検出されていない。毎夏流行のある沖縄県で300例以上が報告された。東京都と愛知県では200例超、神奈川県、千葉県、福岡県で100例以上の報告があり、9月に比べ増加しているが、本格的な流行には至っていない。

2) 咽頭結膜熱

報告数 8名（9月5名）。咽頭結膜熱からのウイルス検出はないが、急性気管支炎からAdenovirus 2型が1件、感染性胃腸炎から4型が1件検出された。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 174名（9月139名）。2014年10月以降多く報告されており過去10年間で最も大きな流行であった。8月は減少し例年並みの報告数になっていたが、9月に増加に転じ、10月はさらに増加した。安芸、高知市、幡多からの報告が多い。T12が1件検出された。

4) 感染性胃腸炎

報告数 223名（9月172名）。中央東、高知市、安芸、中央西の順に多い。ウイルスはAdenovirus 4型、Astrovirus NTが各1件検出された。変異により猛威が警戒されているNorovirusはまだ検出されていない。

5) 水痘

報告数 48名（9月45名）。依然10月としては少ない報告数である。全域から報告があり、幡多、安芸に多い。

6) 手足口病

報告数 255名（9月471名）。6月7月から流行が始まる年が多いが、今季は流行の立ち上がり早く、だらだらと報告が続いた。中央西、高知

市、安芸、中央東で多い。ウイルスはCoxsackievirus A6が2件検出された。脳幹脳炎に関連するEnterovirus 71は1件も検出されていない。

7) 伝染性紅斑

報告数 19名(9月23名)。高知市、安芸、中央東から報告された。ウイルスは検出されていない。

8) 突発性発疹

報告数 50名(9月38名)。想定内の変動である。

9) 百日咳

報告数 4名(9月1名)。高知市と須崎から各2例報告された。年齢の内訳は1歳, 3歳, 9歳, 成人例である。13年4月の13名以降, 1桁の報告が続いている。2名以上の患者報告は6カ月ぶりである。今後, 百日咳を含む4種混合ワクチンの供給不足が起きると推測されており, 患者数の動向が注目される。

10) ヘルパンギーナ

報告数 27名(9月145名)。激減したが, Enterovirus NTとRhinovirusが各1件検出された。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 47名(9月45名)。高知市、安芸、幡多、中央東の順に多い。例年並みの数である。

12) RSウイルス感染症

報告数 249名(9月220名)。本来は冬季の感染症であるが、過去10年と比較して6月～8月の報告数としては最大でただらだと報告が続いていたが9月に一気に増加し、依然最大の報告数である。安芸以外の全域から報告されたが、とくに幡多、高知市、中央東、中央西、須崎の順に多い。RS virus Aが4件検出された。

13) 流行性角結膜炎

報告数 0名(9月1名)。ここ3年間は一桁で推移している。

14) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 22名(9月40名)。幡多、中央東、高知市の順に多く報告されている。大きな流行となった幡多では臨床的にマクロライド系抗菌薬に耐性の菌である。

基幹定点の月報疾患

15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 12名(9月23名)。20名前後で推移し変化はない。

16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名(9月0名)。2014年は計4例, 2015年は1例のみ報告されている。

高知県感染症発生動向調査部会

前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患(平成27年10月)

類型	病名	報告年																	総計
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	
2	結核																		1,303
	計																		1,303
3	コレラ																		3
	パラチフス																		2
	細菌性赤痢																		25
	腸チフス																		2
	腸管出血性大腸菌感染症																		157
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	2	189
4	A型肝炎																		31
	Q熱																		5
	オウム病																		2
	つつが虫病																		70
	マラリア																		3
	レジオネラ症																		47
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	2	128
	日本脳炎																		6
	レプトスピラ症																		8
	E型肝炎																		2
	デング熱																		7
	重症熱性血小板減少症候群																		16
	計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	27	11	325
5	アメーバ赤痢																		33
	ウイルス性肝炎																		54
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症																		24
	クロイツフェルト・ヤコブ病																		28
	ジアルジア症																		7
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症																		3
	急性脳炎																		16
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症																		10
	後天性免疫不全症候群																		49
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																		3
	侵襲性肺炎球菌感染症																		15
	髄膜炎菌性髄膜炎																		1
	破傷風																		26
	梅毒																		118
	麻しん																		5
	風しん																		16
	水痘(入院例に限る)																		2
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	50	410	
新型	新型インフルエンザ																		34
動物	鳥インフルエンザ																		1
計																		1	
総計																		2,262	

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

10月はウイルス60件，細菌8件の搬入があり，そのうちウイルス21件，細菌3件の病原体を検出し，また，平成27年9月に搬入された検体でウイルス16件を検出した。検出ウイルスの内訳は，Adenovirus 2 1件，Adenovirus 4 1件，Astrovirus NT 1件，Coxsackievirus A10 1件，Coxsackievirus A6 6件，Coxsackievirus A9 1件，Cytomegalovirus 1件，Echovirus 18 1件，Enterovirus NT 5件，Human herpes virus 6 2件，Parachovirus 1 1件，Respiratory syncytial virus A 7件，Rhinovirus 8件，Varicella-zoster virus 1件，であった。また，細菌の内訳は，*Bordetella pertussis* 2件，*Streptococcus pyogenes T12* 1件であった。

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	2	女	不明発疹症	41℃，肺炎，発疹，	ぬぐい液	8.20	Human herpes virus 6
2	1	女	感染性胃腸炎	40℃，	ふん便	9.14	Coxsackievirus A6
3	1	男	不明熱	39℃，下痢，咳漱，上気道炎， 下気道炎，気管支炎，	鼻咽腔ぬぐい液	9.16	Respiratory syncytial virus A
4	2ヶ月	女	ウイルス性気管支炎	39℃，咳漱，上気道炎，	鼻腔ぬぐい	9.16	Rhinovirus
5	4	女	若年性皮フ筋炎 疑い	39℃，発疹，関節痛，筋肉痛，	ふん便	9.16	Coxsackievirus A10
6	1	男	喘息性気管支炎	38℃，咳漱，気管支炎，	ぬぐい液	9.16	Rhinovirus
7	1ヶ月	女	急性上気道炎	39℃，咳漱，上気道炎，	ふん便	9.17	Rhinovirus
8	2	男	痙攣重積	39℃，中枢神経系障害，	ぬぐい液	9.17	Coxsackievirus A6
9	1	男	R S V肺炎	38℃，咳漱，	ぬぐい液	9.19	Respiratory syncytial virus A
10	1	女	手足口病	39℃，嘔吐，咳漱，手足口病 症状，	ぬぐい液	9.19	Coxsackievirus A6
11	0ヶ月	男	急性肺炎	39℃，肺炎，	ぬぐい液	9.20	Respiratory syncytial virus A
12	7	男	帯状疱疹	発疹，	皮疹部採取	9.20	Varicella-zoster virus
13	3ヶ月	男	ヘルパンギーナ	咳漱，水疱，発疹，	ぬぐい液	9.21	Coxsackievirus A6
14	5	女	喘息	咳漱，上気道炎，肺炎，	鼻腔	9.21	Rhinovirus
15	3	男	感染性胃腸炎	38℃，嘔吐，嘔気，	ふん便	9.22	Coxsackievirus A9
16	4	男	ウイルス性気管支炎，喘息	咳漱，上気道炎，気管支炎， 肺炎，	-	9.24	Rhinovirus
17	2	女	気管支炎	39℃，咳漱，気管支炎，	鼻咽腔	9.27	Respiratory syncytial virus A
18	1	女	気管支炎	40℃，咳漱，上気道炎，下気 道炎，気管支炎，	鼻咽頭ぬぐい液	9.30	Rhinovirus
19	1	男	急性気管支炎	39℃，気管支炎，	ふん便	9.30	Enterovirus NT
20	5	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39℃，上気道炎，	ぬぐい液	10. 1	<i>Streptococcus pyogenes T12</i>
21	1	女	咽頭炎	40℃，上気道炎，中枢神経系 障害，	ふん便	10. 1	Parachovirus 1
22	4	女	手足口病	発疹，	ぬぐい液	10. 1	Coxsackievirus A6
23	1	男	気管支炎	38℃，咳漱，上気道炎，気管 支炎，	ぬぐい液	10. 2	Rhinovirus
24	9ヶ月	女	急性気管支炎	39℃，咳漱，上気道炎，	ぬぐい液	10. 2	Adenovirus 2
25	4	男	急性気管支炎	39℃，気管支炎，	ぬぐい液	10. 2	Enterovirus NT
26	7ヶ月	女	R S ウイルス肺炎	40℃，咳漱，下気道炎，気管 支炎，肺炎，	ぬぐい液	10. 8	Respiratory syncytial virus A
27	2ヶ月	男	不明熱	39℃，	ふん便	10. 9	Echovirus 18
28	4	女	手足口病	手足口病症状，	ぬぐい液	10. 9	Coxsackievirus A6
29	9ヶ月	男	急性喉頭炎	39℃，咳漱，上気道炎，	鼻咽腔	10.11	Respiratory syncytial virus A
30	4	男	ヘルパンギーナ	39℃，中枢神経系障害，	ぬぐい液	10.13	Enterovirus NT
31	6	男	気管支喘息	咳漱，肺炎，	鼻咽腔ぬぐい液	10.13	Enterovirus NT
32	4	男	熱性けいれん	39℃，中枢神経系障害，	ぬぐい液	10.13	Enterovirus NT
33	2	女	感染性胃腸炎	40℃，下痢，嘔吐，嘔気，腹痛，	ふん便	10.14	Astrovirus NT
34	4	男	不明発疹症	発疹，	うがい液	10.15	Cytomegalovirus
35	9	女	感染性胃腸炎	嘔吐，嘔気，腹痛，	ふん便	10.15	Adenovirus 4
36	4	男	熱性けいれん，急性咽頭炎	40℃，上気道炎，結膜炎，	ぬぐい液	10.15	Human herpes virus 6
37	5ヶ月	女	肺炎	38℃，嘔吐，嘔気，咳漱，肺炎，	鼻腔	10.16	Respiratory syncytial virus A
38	2	女	ヘルパンギーナ	39℃，水疱，口内炎，	ぬぐい液	10.22	Rhinovirus
39	9	男	百日咳	37℃，咳漱，	ぬぐい液	10.26	<i>Bordetella pertussis</i>
40	3	男	百日咳	咳漱，	ぬぐい液	10.26	<i>Bordetella pertussis</i>

高知県感染症情報月報 2015年11月

(65定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ		1	17	10	3		31	2	10
小児科	咽頭結膜熱		2	7			1	10	8	13
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	29	27	84	31	35	22	228	174	152
	感染性胃腸炎	22	88	129	26	17	50	332	223	371
	水痘		5	10	1	2	39	57	48	105
	手足口病			11	3	3	1	18	255	224
	伝染性紅斑		5	13	1	4		23	19	6
	突発性発疹		14	25	3	4	4	50	50	57
	百日咳		3	4		1		8	4	5
	ヘルパンギーナ			1	1	1	3	6	27	7
	流行性耳下腺炎		3	41	1		1	46	47	43
	RSウイルス感染症	1	26	27	2	3	25	84	249	161
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎									1
STD	性器クラミジア感染症			2				2		1
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ									
	淋菌感染症									
基幹	細菌性髄膜炎								1	
	無菌性髄膜炎								2	3
	マイコプラズマ肺炎		3	21			7	31	22	18
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			8				8	7	4
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)			6			9	15	3	1
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1	1	11			1	14	12	18
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									
	薬剤耐性緑膿菌感染症								2	
計		53	178	417	79	73	163	963	1,155	1,200
前月		59	233	559	101	29	174			
前年同月		38	264	581	80	92	145			
小児科定点数		2	7	11	3	2	5			

2015年11月

全国情報 (11月2日～11月29日)

第45週 (11月2日～) から第48週 (～11月29日) までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。

上位6疾患は11月が52.58で、10月の4週間に換算値39.44よりも増加し、その原因は、感染性胃腸炎、溶血性レンサ球菌咽頭炎とRSウイルス感染症の増加である。既に報道された通り、RSウイルスの流行はサーベイランス開始後、秋季としては最大規模の流行になった。

報告数第1位の感染性胃腸炎は26.20 (10月1位4週間換算で15.25) と増加し、第2位は溶血性レンサ球菌咽頭炎で9.99 (同2位7.69)、第3位はRSウイルス感染症で7.47 (同4位4.85) と増加した。第4位が流行性角結膜炎で3.35 (同5位3.71)、第5位が流行性耳下腺炎で2.79 (同7位2.39)、第6位はマイコプラズマ肺炎で2.78 (同2.70) とほぼ横ばいであった。

表1 各週定点当たり報告数 (全国)

No	疾病名	週	45週	46週	47週	48週	計
1	感染性胃腸炎		5.72	6.88	7.18	6.42	26.20
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.29	2.59	2.76	2.35	9.99
3	RSウイルス感染症		1.50	1.73	2.13	2.11	7.47
4	流行性角結膜炎		0.76	0.83	0.90	0.86	3.35
5	流行性耳下腺炎		0.65	0.70	0.67	0.77	2.79
6	マイコプラズマ肺炎		0.68	0.76	0.68	0.66	2.78

県内情報

1. 全国との対比 (定点当たり報告数)

高知県の11月の上位6疾患の合計は29.11と10月の4週換算値27.56と比べわずかに増加し、全国よりも少なかった (表2)。上位疾患は感染性胃腸炎が1位で11.06 (10月3位4週換算で5.94) と倍増し、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎が2位7.59 (同4位4.64) と増加したが全国よりも少なかった。マイコプラズマ肺炎が3位で3.88 (同5位2.21) と増加し、全国よりも多い。秋季としては史上最も大規模な流行を示したRSウイルス感染症は4位で2.80 (同2位6.64) と減少に転じ、全国レベルを下回った。5位が水痘で1.90 (同7位1.28) と増加したが全国よりも少ない。6位はロタウイルス胃腸炎で1.88 (同12位0.30) と急増し、全国より多く報告された。

喘息体質をもつ宿主に重症の呼吸不全をきたしたり、ポリオ様の急性弛緩性麻痺 (AFP) を生ずる、エンテロウイルスD68 (EV-D68) が話題となっているが、今年が高知県では1件も検出例はなかった。しかし、後方視的には2013年に高知県で4件検出されており、今後の動向が注目される。

表2 各週定点当たり報告数 (高知県)

No	疾病名	週	45週	46週	47週	48週	計
1	感染性胃腸炎		2.20	3.73	2.33	2.80	11.06
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.83	1.53	2.30	1.93	7.59
3	マイコプラズマ肺炎		0.75	0.75	1.13	1.25	3.88
4	RSウイルス感染症		0.50	0.73	0.80	0.77	2.80
5	水痘		0.33	0.67	0.67	0.23	1.90
6	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		1.25	0.00	0.38	0.25	1.88

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 31名 (10月2名)。今季としては、はじめてまとまった数が報告され、施設内流行も報告された。このまま流行に突入するとすれば、昨年が続いての年内の流行開始となり、例年よりも早い流行となる。今季初めてウイルスも1件検出され、AH1pdm09であった。この株が流行の主流となるかどうかについては経過を注視する必要がある。中央西、高知市、須崎、中央東の順に多く、安芸と幡多からは報告されていない。

0-4歳、5-9歳が各7名、20歳代が3名、30歳代、40歳代が各6名、80歳以上2名と広い年齢層であった。

2) 咽頭結膜熱

報告数 10名 (10月8名)。咽頭結膜熱からのウイルス検出はないが、ヘルパンギーナと診断された患者からAdenovirus 2型が1件検出された。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 228名 (10月174名)。2014年10月以降多く報告されており過去10年間で最も大きな流行であった。8月は減少し例年並みの報告数になっていたが、9月に増加に転じて以降増加を続けている。11月としては過去10年間では2006年に次いで2番目に多い報告数であった。県下全域から報告されており、須崎、安芸、中央西、高知市からの報告が多い。1-4歳が43名、5-9歳が145名で、10歳未満が87%を占めている。T4とUntypableがそれぞれ1件検出された。

4) 感染性胃腸炎

報告数 332名 (10月223名)。県下全域から報告があるが、中央東、高知市、安芸、幡多の順に多い。ウイルスはRotavirus group AG1が1件検出されている。ロタウイルス腸炎の報告例は全国で84名しか報告されていないが、そのうち高知県が15名と全国で1位であった。本県における任意ワクチンの低接種率が関連しているかもしれない。

い。

5) 水痘

報告数 57名(10月48名)。幡多からの報告が多い。増加したものの11月の報告数としては過去10年間でもっとも少なく、ワクチンの定期接種化の効果と思われる。

6) 手足口病

報告数 18名(10月255名)。6月7月から流行が始まる年が多いが、今季は流行の立ち上がりが早く、10月までだらだらと報告が続いたが、ようやく終息した。ウイルスはCoxsackievirus A6が1件検出された。

7) 伝染性紅斑

報告数 23名(10月19名)。今年は全国的に例年に比べて多い傾向で推移している。須崎、高知市、安芸、中央西から報告された。ウイルスは5歳の臨床診断名「リンゴ病」から1件、3歳の不明発疹症から1件、human parvovirus B19が検出された。今年、高知県でウイルスが検出されたのは3月の1名以来で11月の2名を含めて計3名のみである。

8) 突発性発疹

報告数 50名(10月50名)。2カ月続けて同数だったが、想定内の変動で推移している。

9) 百日咳

報告数 8名(10月4名)。2014年以降で最も多い報告数となった。高知市から4名、中央東から3名、須崎から1名報告された。年齢の内訳は0歳前半の乳児が1名(*Bordetella parapertussis*が検出された)、1歳児が2名、2歳児が1名、9歳児が1名、10歳代前半が2名、成人が1名と、重症化が予想される乳児や年少幼児例が複数報告された。13年4月の13名以降、1桁の報告が続いているとはいえ、今後の増加が危惧される。

特に乳児の百日咳は重症なことが多く、脳症などの合併症も少なくない。某製薬メーカーの血液製剤に続くワクチン製剤のトラブルで百日咳を含む4種混合ワクチンの供給不足が危惧されていたが、解消される見込みが立った。規定の推奨接種時期にきちんと予防接種を実施することが極めて

重要である。

10) ヘルパンギーナ

報告数 6名(10月27名)。終息とみてよい。Coxsackievirus A6, Adenovirus 2, Rhinovirusが各1件検出された。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 46名(10月47名)。高知市で多く、中央東、中央西、幡多からも報告がある。

12) RSウイルス感染症

報告数 84名(10月249名)。本来は冬季の感染症であるが、過去10年と比較して本年は6月～8月の報告数としては最大でだらだらと報告が続いていたが、9月に一気に増加し10月まで最大の報告数で推移した。11月はようやく1/3に減少し、例年の同月に比べ少ない数になった。RSウイルス感染症は同一宿主でも毎年罹患することは日常的で、さらには、3カ月間隔で再罹患することも経験される。冬季に向かって、今年度二度目の流行が起きる可能性は残っており、気を抜くことなく動向を注視したい。全域から報告されたが、とくに幡多、中央東、高知市で多い。RS virus Bが1件検出された。

13) 流行性角結膜炎

報告数 0名(10月0名)。ここ3年間は一桁で推移している。

14) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 31名(10月22名)。幡多、中央東、高知市の順に多く報告されている。大きな流行となった幡多では臨床的にマクロライド系抗菌薬に耐性の菌である。同細菌が1件検出されている。

基幹定点の月報疾患

15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 14名(10月12名)。20名前後で推移しており、変化はない。

16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名(10月0名)。2014年は計4例、2015年は1例のみ報告されている。

高知県感染症発生動向調査部会

前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患（平成27年11月）

類型	病名	報告年												総計												
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		23	24	25	26	27							
2	結核	131 149 163 156 192 132 128 138 123																1,312								
	計	131 149 163 156 192 132 128 138 123																1,312								
3	コレラ	1																1	3							
	バラチフス	2																	2							
	細菌性赤痢	11	4	2				3	1	2	2											25				
	腸チフス	1																1	3							
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	157							
計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	190								
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1											3	31				
	Q熱	1	1	2											1	5										
	オウム病	1																2								
	つつが虫病			9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	3	70							
	マラリア	2																3								
	レジオネラ症			2				1				1	9	7	3	6	9	2	4	3	47					
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	4	130							
	日本脳炎	1	1	1											1	6										
	レプトスピラ症	1																1	8							
	E型肝炎	1																1	2							
	デング熱	1																3	2	1	7					
	重症熱性血小板減少症候群	3																11	3	17						
	計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	27	14	328							
5	アเมอร์バ赤痢	2 2 2 1 2 2 2 1 3 2 2 3 7 3																34								
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3				3	1	54							
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	7																18	25							
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4				4	3	3				6			1	3	28							
	ジアルジア症			1	2	1											1	1	7							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1																1	3							
	急性脳炎	1																1	2	5	1	3	1	1	1	16
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1																1	1	1	3				1	10
	後天性免疫不全症候群	2			2				2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	50				
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1																1	3	4						
	侵襲性肺炎球菌感染症	1																4	10	15						
	髄膜炎菌性髄膜炎	1																1	1							
	破傷風			3	2	2	1			1	1	2	3	1	1	1	1			4	3	26				
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	9	120							
	麻しん	5																5								
風しん	1																1	4	9	1	16					
水痘（入院例に限る）	2																2									
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	56	416								
新型	新型インフルエンザ	34																34								
	計	34																34								
動物	鳥インフルエンザ	1																1								
	計	1																1								
総計	61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	210	196	2,281								

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

11月はウイルス56件，細菌10件の搬入があり，そのうちウイルス22件，細菌4件の病原体を検出し，また，平成27年10月に搬入された検体でウイルス8件を検出した。検出ウイルスの内訳は，Adenovirus 2 2件，Coxsackievirus A6 6件，Cytomegalovirus 1件，Enterovirus NT 1件，Epstein-Barr virus 2件，Human herpes virus 6 3件，Human herpes virus 7 4件，Human parvovirus B19 virus 2件，Influenza virus A H1pdm09 1件，Respiratory syncytial virus B 1件，Rhinovirus 6件，Rotavirus group A G1 1件，また，細菌の内訳は，*Bordetella parapertussis* 1件，*Mycoplasma pneumoniae* 1件，*Streptococcus pyogenes T4* 1件，*Streptococcus pyogenes Untypable* 1件であった。

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	1	女	突発性発疹症，急性気管支炎	40℃，咳漱，下気道炎，気管支炎，発疹，	ぬぐい液	10.11	Human herpes virus 6
2	16日	女	手足口病	39℃，手足口病症状，	鼻咽腔	10.17	Rhinovirus
3	1	男	不明発疹症	39℃，上気道炎，発疹，	鼻咽頭ぬぐい液	10.21	Human herpes virus 7
4	1	女	手足口病	手足口病症状，	ぬぐい液	10.21	Coxsackievirus A6
5	2	女	ヘルパンギーナ	39℃，水疱，口内炎，	ぬぐい液	10.22	Coxsackievirus A6
6	1	男	不明発疹症	36℃，発疹，	ぬぐい液	10.26	Human herpes virus 7
7	2	男	手足口病	37℃，発疹，	ぬぐい液	10.26	Coxsackievirus A6
8	2	男	手足口病疑い	発疹，	ぬぐい液	10.26	Coxsackievirus A6
9	3	男	ヘルパンギーナ	40℃，上気道炎，口内炎，	ぬぐい液	10.28	Adenovirus 2
10	10ヶ月	男	感染性胃腸炎	40℃，下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	10.28	Rotavirus group A G1
11	3ヶ月	男	R S V気管支炎	咳漱，上気道炎，気管支炎，	鼻腔ぬぐい液	10.29	Respiratory syncytial virus B
12	5ヶ月	男	右上肢弛緩性麻痺		髄液	10.29	Enterovirus NT
13	3ヶ月	男	ヘルパンギーナ	39℃，	ふん便	10.30	Coxsackievirus A6 Rhinovirus
14	1	男	手足口病	咳漱，発疹，手足口病症状，	ぬぐい液	11. 2	Coxsackievirus A6
15	41	男	インフルエンザ	39℃，咳漱，関節痛，	ぬぐい液	11. 3	Influenza virus A H1pdm09
16	1	女	不明発疹症	39℃，咳漱，発疹，	ぬぐい液	11. 5	Human herpes virus 6
17	9	女	マイコプラズマ	40℃，咳漱，関節痛，	ぬぐい液	11. 5	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
18	4	女	上気道炎	38℃，咳漱，	鼻腔	11. 5	Rhinovirus
19	2	男	けいれん重積	41℃，上気道炎，	ぬぐい液	11. 6	Human herpes virus 6
20	5	女	咽頭炎	嘔吐，嘔気，	ぬぐい液	11. 6	Adenovirus 2
21	8	女	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃，	ぬぐい液	11. 7	<i>Streptococcus pyogenes Untypable</i>
22	5	女	じんましん	発疹，	ぬぐい液	11. 7	Rhinovirus
23	4ヶ月	男	百日咳	咳漱，	ぬぐい液	11. 7	<i>Bordetella parapertussis</i>
24	1	女	不明発疹症	気管支炎，発疹，	ぬぐい液	11. 9	Cytomegalovirus
25	2	女	急性上気道炎	38℃，嘔吐，嘔気，上気道炎，	鼻腔	11.12	Rhinovirus
26	3	男	不明発疹症	37℃，発疹，	ぬぐい液	11.12	human parvovirus B19 virus Epstein-Barr virus Rhinovirus
27	7	男	不明発疹症（リンゴ病？）	41℃，咳漱，発疹，	ぬぐい液	11.17	Human herpes virus 7
28	5	男	リンゴ病	咳漱，	ぬぐい液	11.18	human parvovirus B19 virus
29	2	女	川崎病	40℃，発疹，	ぬぐい液	11.18	Human herpes virus 7
30	3	男	不明発疹症	40℃，嘔吐，嘔気，	鼻咽頭	11.19	Epstein-Barr virus
31	6	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃，上気道炎，	ぬぐい液	-	<i>Streptococcus pyogenes T4</i>

高知県感染症情報月報 2015年12月

(65定点医療機関)

定点名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
	疾病名									
内科・小児科	インフルエンザ	1	1	14	12	1	6	35	31	659
小児科	咽頭結膜熱		4	12			4	20	10	11
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	14	62	190	37	38	42	383	228	188
	感染性胃腸炎	59	267	507	60	51	108	1,052	332	716
	水痘		7	13	1		11	32	57	124
	手足口病			3			1	4	18	368
	伝染性紅斑		5	23	5	5		38	23	2
	突発性発疹	6	10	15	7	3	10	51	50	51
	百日咳		1	1	1			3	8	2
	ヘルパンギーナ		1	1			2	4	6	6
	流行性耳下腺炎	8	2	52	6	3	2	73	46	73
	RSウイルス感染症	1	30	46	9	15	12	113	84	233
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			2				2		
STD	性器クラミジア感染症			1				1	2	6
	性器ヘルpesウイルス感染症									1
	尖圭コンジローマ									
	淋菌感染症									2
基幹	細菌性髄膜炎		2					2		
	無菌性髄膜炎			2				2		
	マイコプラズマ肺炎	1	2	21			5	29	31	16
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			10				10	8	2
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)		1	5			1	7	15	4
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1	3	17			3	24	14	24
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									
	薬剤耐性緑膿菌感染症									
計		91	398	935	138	116	207	1,885	963	2,488
前月		53	178	417	79	73	163			
前年同月		152	562	1,117	323	124	210			
小児科定点数		2	7	11	3	2	5			

2015年12月

全国情報 (11月30日～1月3日)

第49週 (11月30日～) から第53週 (～1月3日) までの5週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。

12月の上位6疾患は4週に換算すると63.66で、11月の52.58よりも増加し、その原因は、感染性胃腸炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の増加である。とくにノロウイルス胃腸炎が増加しており、遺伝子変異 (G II・17) による重症化、流行拡大がかねてより危惧されており、今後の動向が注目される。

上位3疾患の順位は11月と同じだった。報告数第1位の感染性胃腸炎は4週換算で35.26 (11月1位26.20) と増加し、第2位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で11.53 (同2位9.99) と増加、第3位はRSウイルス感染症で7.78 (同3位7.47) と微増した。第4位が流行性耳下腺炎で3.23 (同5位2.79) と微増、第5位が流行性角結膜炎で3.02 (同4位3.35) と微減であった。第6位は水痘で2.85 (同8位2.24) と増加した。

表1 各週定点当たり報告数 (全国)

No	疾病名	週	49週	50週	51週	52週	53週	計
1	感染性胃腸炎		8.66	10.14	10.67	10.11	4.49	44.07
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		3.12	3.34	3.54	3.12	1.29	14.41
3	RSウイルス感染症		2.32	2.36	2.19	1.83	1.03	9.73
4	流行性耳下腺炎		0.81	0.85	0.94	0.88	0.56	4.04
5	流行性角結膜炎		0.85	0.81	0.85	0.87	0.39	3.77
6	水痘		0.74	0.70	0.87	0.78	0.47	3.56

県内情報

1. 全国との対比 (定点当たり報告数)

高知県の12月の上位6疾患の合計は4週換算値47.50で11月の29.11と比べて約1.5倍に増加したが全国よりも少なかった (表2)。上位2疾患の順位は11月と同じだった。感染性胃腸炎が1位で4か月換算が28.06 (11月1位11.06) と2.5倍に激増し、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎が2位で10.21 (同2位7.59) と増加したが全国よりも少なかった。ノロウイルスG IIが12月になって多数検出されており、感染性胃腸炎の急増の原因と推測され、今後の動向が注目される。秋季としては史上最も大規模な流行を示したRSウイルス感染症は3位で3.02 (同4位2.80) と横ばいで、全国レベルを下回った。マイコプラズマ肺炎が4位で2.90 (同3位3.88) と減少したが、全国よりも少し多い。5位が流行性耳下腺炎で1.95 (同8位1.53) と増加し、6位は突発性発疹で1.35 (同7位1.67) であった。

11月は6位1.88だったロタウイルス胃腸炎は0.71と早くも減少に転じた。インフルエンザは11位0.58 (同11位0.64) でまだ流行は本格的とはいえない。

表2 各週定点当たり報告数 (高知県)

No	疾病名	週	49週	50週	51週	52週	53週	計
1	感染性胃腸炎		4.47	6.37	8.20	9.97	6.07	35.08
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		3.17	2.93	2.43	3.03	1.20	12.76
3	RSウイルス感染症		0.70	0.73	0.70	0.97	0.67	3.77
4	マイコプラズマ肺炎		0.88	1.25	1.00	0.25	0.25	3.63
5	流行性耳下腺炎		0.50	0.40	0.37	0.90	0.27	2.44
6	突発性発疹		0.43	0.40	0.23	0.43	0.20	1.69

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 35名 (11月31名)。今季は、11月にはじめてまとまった数が報告され、施設内流行も報告されたが、4週に換算すれば増加しておらず本格的な流行には至っていない。

検出されたウイルスは11月報告の1件と同じく、AH1pdm09であった。この株が流行の主流となるかどうかについては引き続き経過を注視する必要がある。県下の全域から報告があり、中央西、高知市、幡多の順に多い。年齢的な偏りはなく広い年齢層で少数ずつ報告された。

2) 咽頭結膜熱

報告数 20名 (11月10名)。すべて4歳までの乳幼児であり、高知市、幡多、中央東から報告された。咽頭結膜熱の患者からウイルスは検出されていないが、喘息性気管支炎と不明熱性疾患患者からAdenovirus 1型と2型が各1件検出された。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 383名 (11月228名)。2014年10月以降多く報告されており過去10年間で最も大きな流行であった。8月は減少し例年並みの報告数になっていたが、9月以降増加して、12月としては過去10年間では最多の報告数であった。県下全域から報告されており、須崎、高知市、中央西からの報告が多い。1 - 4歳が95名、5 - 9歳が208名で、10歳未満が79.1%を占めている。T12が1件検出された。

4) 感染性胃腸炎

報告数 1,052名 (11月332名)。県下全域から報告が多いが、とくに高知市、中央東で多い。Norovirus G IIが今季はじめてだったが一気に13件検出され、Astrovirusが1件検出された増加

したNorovirus胃腸炎は、遺伝子変異（GⅡ・17）による重症化、流行拡大がかねてより危惧されており要注意である。11月に報告されたRotavirusは1件も検出されなかった。

5) 水痘

報告数 32名（11月57名）。幡多、高知市、中央東、中央西の順に報告が多い。12月の報告数としては過去10年間（100～300名台）でもっとも少なく、ワクチンの定期接種化の効果と思われる。

6) 手足口病

報告数 4名（11月18名）。6月7月から流行が始まる年が多いが、今季は流行の立ち上がりが早く、10月までだらだらと報告が続いたが、11月に激減し、ようやく終息したといえる。

7) 伝染性紅斑

報告数 38名（11月23名）。2015年は全国的に例年に比べて多い傾向で推移している。須崎、高知市、中央西、中央東の順に多く報告された。ウイルスは6歳児から1件human parvovirus B19が検出された。本年、高知県でウイルスが検出されたのは計5名であった。

8) 突発性発疹

報告数 51名（11月50名）。想定内の変動で推移している。

9) 百日咳

報告数 3名（11月8名）。中央西、中央東、高知市から各1名報告された。年齢の内訳は、3歳児が1名、成人が2名報告された。13年4月の13名以降、1桁の報告が続いている。細菌は検出されていない。

11月にまとまった数が報告されたので、油断せず、規定の推奨接種時期にきちんと予防接種を実施することが重要である。

10) ヘルパンギーナ

報告数 4名（11月6名）。終息とみてよい。ウイルスは1件も検出されなかった。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 73名（11月46名）。県下全域から報告があり、高知市、安芸、中央西、須崎の順に報告が多かった。11月に比べ1.5倍に増加しており動向に注目したい。

12) RSウイルス感染症

報告数 113名（11月84名）。冬季の感染症であるが、過去10年と比較して本年は6月～8月の報告数としては最大でだらだらと報告が続いた。9月に一気に増加し10月まで最大の報告数で推移した。11月は減少に転じたものの12月は再び増加した。11月・12月は例年の同月に比べ少ない数だった。RSウイルス感染症は同一宿主でも毎年罹患することは日常的で、さらに、3カ月間隔で再罹患することも経験される。冬季に、今年度二度目の流行が起きる可能性は残っており、動向を注視したい。全域から報告されたが、とくに須崎、中央東、高知市、中央西、幡多で多い。RS virus Aが1件検出された。

13) 流行性角結膜炎

報告数 2名（11月0名）。ここ3年間は一桁で推移している。

14) マイコプラズマ肺炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 29名（11月31名）。幡多、高知市、中央東、安芸から表記の順に多く報告された。大きな流行となった幡多では臨床的にマクロライド系抗菌薬に耐性の菌である。

基幹定点の月報疾患

15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 24名（11月14名）。増加しており注意が必要である。

16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名（11月0名）。2014年は計4例、2015年は1例のみ報告された。

高知県感染症発生動向調査部会
前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患（平成27年12月）

類型	病名	報告年												総計						
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		23	24	25	26	27	
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	138	129	1,318	
	計									131	149	163	156	192	132	128	138	129	1,318	
3	コレラ	1					1					1							3	
	バラチフス	2																	2	
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2										25	
	腸チフス		1						1										1	3
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2		157
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	190	
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1			3						3	31
	Q熱	1	1	2				1												5
	オウム病			1		1														2
	つつが虫病			9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	3		70
	マラリア								2						1					3
	レジオネラ症		2		1		1				9	7	3	6	9	2	4	4		48
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	4		130
	日本脳炎	1	1	1					1			1	1							6
	レプトスピラ症											1		4	2	1				8
	E型肝炎												1		1					2
	デング熱												1				3	2	1	7
	重症熱性血小板減少症候群																3	11	3	17
		計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	27	15	329
5	アเมอร์バ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		7	3		34
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3		1			54
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症																	7	19	26
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3					2		28
	ジアルジア症		1	2	1						1			1	1					7
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1							1								1	3
	急性脳炎								1	1	2	5	1	3	1		1	1		16
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	1				1		1		1	3		1			10
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6		50
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																	1	5	6
	侵襲性肺炎球菌感染症															1	4	12		17
	水痘（入院例に限る）																			2
	髄膜炎性髄膜炎									1										1
	破傷風		3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		4	3		26
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11		122
麻しん										5									5	
風しん										1	1			4	9	1			16	
	計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	423	
新型	新型インフルエンザ											34							34	
	計											34							34	
動物	鳥インフルエンザ												1						1	
	計												1						1	
	総計	61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	210	210	2,295	

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

12月はウイルス65件，細菌8件の搬入があり，そのうちウイルス29件，細菌1件の病原体を検出し，また，平成27年11月に搬入された検体でウイルス3件を検出した。検出ウイルスの内訳は，Adenovirus 1 1件，Adenovirus 2 1件，Astrovirus NT 1件，Coxsackievirus A9 1件，Human herpes virus 7 2件，human parvovirus B19 virus 2件，Influenza virus A H1pdm09 1件，Measles virus genotype A（ワクチン株）1件，Norovirus GII NT 13件，Respiratory syncytial virus A 1件，Rhinovirus 8件，また，細菌の内訳は，*Streptococcus pyogenes T12* 1件であった。

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	3	男	リンゴ病	発疹，	ぬぐい液	11. 7	human parvovirus B19 virus
2	1	女	不明発疹症	39℃， 咳漱，	ぬぐい液	11.20	Rhinovirus
3	1ヶ月	男	上気道炎	39℃， 咳漱， 上気道炎，	鼻腔	11.21	Rhinovirus
4	5	男	気道感染症	咳漱，	鼻咽腔ぬぐい液	11.24	Rhinovirus
5	6	男	気道感染症	咳漱，	鼻咽腔ぬぐい液	11.24	Rhinovirus
6	1	女	-	40℃，	ふん便	11.25	Adenovirus 2
7	8	女	インフルエンザ	40℃，	ぬぐい液	11.26	Influenza virus A H1pdm09
8	5	男	感染性胃腸炎	39℃， 嘔吐， 嘔気， 腹痛，	ふん便	11.26	Astrovirus NT
9	9	女	感染性胃腸炎	下痢， 嘔吐， 嘔気，	ふん便	11.26	Norovirus GII NT
10	1	女	感染性胃腸炎		ふん便	11.26	Norovirus GII NT
11	3	女	感染性胃腸炎	37℃， 嘔吐， 嘔気，	ふん便	11.27	Norovirus GII NT
12	24	女	感染性胃腸炎疑い	嘔吐， 嘔気，	ふん便	11.27	Norovirus GII NT
13	7ヶ月	女	感染性胃腸炎	嘔吐， 嘔気，	ふん便	12. 1	Norovirus GII NT
14	1	男	けいれん群発	40℃， 発疹， 中枢神経系障害，	ふん便	12. 2	Coxsackievirus A9
15	3	女	感染性胃腸炎	38℃， 下痢， 嘔吐， 嘔気，	ふん便	12. 2	Norovirus GII NT
16	6ヶ月	女	喘息性気管支炎	咳漱， 下気道炎， 気管支炎，	ぬぐい液	12. 2	Respiratory syncytial virus A
17	2	女	感染性胃腸炎	37℃， 下痢， 嘔吐， 嘔気，	ふん便	12. 3	Norovirus GII NT
18	5ヶ月	女	喘息性気管支炎	咳漱， 肺炎，	吸引鼻汁	12. 3	Adenovirus 1
19	7ヶ月	女	不明発疹症	37℃， 発疹，	ぬぐい液	12. 4	Rhinovirus
20	10	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39℃， 上気道炎，	ぬぐい液	12. 7	<i>Streptococcus pyogenes T12</i>
21	5	男	感染性胃腸炎	36℃， 嘔吐， 嘔気，	ふん便	12. 8	Norovirus GII NT
22	6	男	リンゴ病	37℃， 発疹，	ぬぐい液	12.10	human parvovirus B19 virus Human herpes virus 7 Rhinovirus
23	2	女	感染性胃腸炎	38℃， 嘔吐， 嘔気， 咳漱，	ふん便	12.10	Norovirus GII NT
24	3	男	感染性胃腸炎	37℃， 下痢， 嘔吐， 嘔気，	ふん便	12.11	Norovirus GII NT
25	8	男	伝染性紅斑	発疹，	ぬぐい液	12.14	Human herpes virus 7
26	1	女	感染性胃腸炎	下痢， 嘔吐， 嘔気，	ふん便	12.16	Norovirus GII NT
27	2	女	肺炎	咳漱， 肺炎，	鼻汁ぬぐい	12.16	Rhinovirus
28	1	女	不明の発疹症	39℃， 発疹，	ぬぐい液	12.17	Measles virus genotype A (ワクチン株) Rhinovirus
29	1	男	感染性胃腸炎	下痢，	-	12.21	Norovirus GII NT
30	4	男	感染性胃腸炎	39℃， 下痢， 嘔吐， 嘔気，	ふん便	12.21	Norovirus GII NT

高知県感染症情報月報 2016年1月

(65定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ	11	90	240	19	14	24	398	35	9,139
小児科	咽頭結膜熱		4	4			2	10	20	10
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	16	21	139	26	9	52	263	383	201
	感染性胃腸炎	46	194	393	76	100	264	1,073	1,052	947
	水痘	1	4	19	2	5	11	42	32	64
	手足口病			1	1			2	4	106
	伝染性紅斑		7	8	8	3	1	27	38	3
	突発性発疹	1	7	16	3	4	3	34	51	57
	百日咳			2		7		9	3	3
	ヘルパンギーナ								4	
	流行性耳下腺炎	3	11	49	17	2		82	73	72
	RSウイルス感染症	5	55	70	5	5	10	150	113	174
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎	1						1	2	1
STD	性器クラミジア感染症			1				1	1	3
	性器ヘルペスウイルス感染症									1
	尖圭コンジローマ									
	淋菌感染症									
基幹	細菌性髄膜炎								2	
	無菌性髄膜炎			2				2	2	
	マイコプラズマ肺炎		4	14			7	25	29	18
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			9				9	10	1
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)	1	3	26				30	7	5
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	3	2	17			1	23	24	21
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									
	薬剤耐性緑膿菌症									
計		88	402	1,010	157	149	375	2,181	1,885	10,826
前月		91	398	935	138	116	207			
前年同月		468	2,022	4,250	1,543	654	1,889			
小児科定点数		2	7	11	3	2	5			

2016年1月

全国情報（1月4日～1月31日）

第1週（1月4日～）から第4週（～1月31日）までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国の1月の上位6疾患の合計は91.42で12月の4週換算値63.66の約1.5倍に増加し、その原因はインフルエンザの増加である。インフルエンザが1位39.26となり、12月10位、4週間換算で2.13だったのが約20倍に激増し、流行期が到来した。2位が感染性胃腸炎で31.31（12月1位4週間換算で35.26）と少し減少した。3位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で10.90（同2位11.53）と微減、4位が流行性耳下腺炎で3.59（同4位3.23）と微増、5位がRSウイルス感染症で3.20（同3位7.78）に半減した。6位は伝染性紅斑で3.16（同8位2.77）と微増した。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	1週	2週	3週	4週	計
1	インフルエンザ	2.02	4.11	10.56	22.57	39.26
2	感染性胃腸炎	7.74	7.71	8.09	7.77	31.31
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.16	2.35	3.03	3.36	10.90
4	流行性耳下腺炎	1.20	0.88	0.66	0.85	3.59
5	RSウイルス感染症	1.16	0.73	0.70	0.61	3.20
6	伝染性紅斑	0.83	0.80	0.77	0.76	3.16

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の1月の上位6疾患の合計は64.73で12月の4週換算値47.50に比べて増加したが、全国よりも少なかった（表2）。1位は12月同様に感染性胃腸炎で35.77（12月4週換算値28.06）と2割増加し、全国よりも多かった。2位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で8.77（同2位10.21）と減少し全国よりも少なかった。3位にインフルエンザが登場し8.29（12月11位4週換算値0.58）と著増した。本県は全国で最も流行が遅く始まっており、全国よりも報告数は少ない。4位はRSウイルス感染症で5.00（同3位3.02）、5位はロタウイルス胃腸炎で3.76（同10位0.71）、6位はマイコプラズマ肺炎で3.14（同4位2.90）といずれも増加しており、全国よりも多い。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	1週	2週	3週	4週	計
1	感染性胃腸炎	9.97	9.03	9.60	7.17	35.77
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.77	1.93	2.67	2.40	8.77
3	インフルエンザ	0.44	0.60	1.77	5.48	8.29
4	RSウイルス感染症	0.93	0.70	1.87	1.50	5.00
5	感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）	0.38	0.88	1.75	0.75	3.76
6	マイコプラズマ肺炎	0.75	0.63	0.88	0.88	3.14

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 398名（12月35名）。2015/16シーズンは、11月にはじめてまとまった数が報告され、施設内流行も報告されたが、12月は増加せず経過した。1月は報告数が増え、本格的な流行期を迎えたものの、全国集計で1月としては過去10年間で2007年に次ぐ少なさである。また、高知県からの1月の報告数は全国で最低であり、流行開始が他県よりも遅れている。ウイルスはAH1pdm09が7件、AH3が1件、B/Victoriaが2件、B/Yamagataが1件と多様な株が検出された。AH1pdm09が優位な流行を示しており、同時にB型の流行も始まった。県下からの報告があり、高知市、中央東からの報告が多いが、他の地域では定点あたり2～3人程度と少ない。広い年齢層の報告がなされたが、中でも5～9歳、1～4歳、10～14歳の順に多い。

2) 咽頭結膜熱

報告数 10名（12月20名）。すべて小児例であり、中央東、幡多、高知市から報告された。咽頭結膜熱の患者からウイルスは検出されていないが、腸重積の1歳児の糞便からAdenovirus 2型が1件検出された。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 263名（12月383名）。2014年10月以降多く報告されており、8月は減少し例年並みの報告数になっていたが、9月以降に再び増加して、12月、1月は同時期としては過去10年間では最大の流行であった。県下全域から報告されており、高知市、幡多、中央西、安芸からの報告が多い。1～4歳が64名、5～9歳が139名で、10歳未満が77.2%を占めている。T1とT4が各1件検出された。

4) 感染性胃腸炎

報告数 1073名（12月1,052名）。1月としては例年並みの報告数である。県下全域から多く報告されたが、とくに幡多、須崎で多く、次いで高知市、

中央東，中央西，安芸の順に多い。Norovirus GⅡが8件検出され，Rotavirus A G3，A G8，病原体大腸菌が各1件検出された。Norovirus胃腸炎は，遺伝子変異（GⅡ・17）による重症化，流行拡大がかねてより危惧されており注意が必要である。

5) 水痘

報告数 42名（12月32名）。県下全域から報告があるが，須崎，幡多，高知市の順に報告が多い。増加したものの12月の報告数としては過去10年間（100～300名台）でもっとも少なく，ワクチンの定期接種化の効果と思われる。

6) 手足口病

報告数 2名（12月4名）。2015年は流行の立ち上がりが早く，10月までだらだらと報告が続いたが，11月に激減し終息した。

7) 伝染性紅斑

報告数 27名（12月38名）。2015年以降，全国的に例年に比べて多い傾向で推移した。高知県からの報告は全国に比べて少ない。中央西，須崎，中央東，中央西，幡多の順の頻度で報告された。ウイルスは10歳児から1件human parvovirus B19が検出された。

8) 突発性発疹

報告数 34名（12月51名）。想定内の変動で推移している。

9) 百日咳

報告数 9名（12月3名）。2014年以降で最も多い報告数となった。高知市と須崎から報告された。年齢の内訳は5～9歳が4名，10歳代が4名，成人例が1名で乳児例はなかった。2013年4月の13名以降，1桁の報告が続いている。細菌は2件検出されている。

10) ヘルパンギーナ

報告数 0名（12月4名）。終息した。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 82名（12月73名）。幡多以外から報告があり，中央西，高知市で多かった。11月以降は増加の傾向にあり，動向に注目したい。

12) RSウイルス感染症

報告数 150名（12月113名）。冬季の感染症であるが，過去10年と比較して2015年は6月～8月の報告数としては最大で夏季にだらだらと報告が続いた。9月に一気に増加し10月まで最大の報告数で推移した。11月は減少に転じたものの12月，1月と再び増加した（ただし11月以降は例年の同月に比べて少ない）。RSウイルス感染症は同一宿主でも毎年罹患することは日常的で，さらに，3カ月間隔で再罹患することも経験される。冬季に，2度目の流行が起きる可能性は残る。全域から報告されたが，とくに中央東，高知市で多い。RS virus Aが2件，Bが1件検出された。

13) 流行性角結膜炎

報告数 1名（12月2名）。ここ3年間は一桁で推移している。

14) マイコプラズマ肺炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 25名（12月29名）。幡多，中央東，高知市から表記の順に多く報告された。2015年に大きな流行をみとめた幡多では臨床的にマクロライド系抗菌薬に耐性の菌であった。

基幹定点の月報疾患

15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 23名（12月24名）。12月に増加したが1月は横ばいであった。

16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名（12月0名）。2014年は計4例，2015年は1例のみ報告された。

高知県感染症発生動向調査部会

前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患（平成28年1月）

類型	病名	報告年																												総計	
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28												
2	結核																		131	149	163	156	192	132	128	138	129	9	1,327		
	計																		131	149	163	156	192	132	128	138	129	9	1,327		
3	コレラ	1																		1											3
	バラチフス	2																												2	
	細菌性赤痢	11	4	2				3	1	2	2											25									
	腸チフス	1																		1											3
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2			157										
計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3			190											
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1											3			31							
	Q熱	1	1	2																		5									
	オウム病			1				1																		2					
	つつが虫病			9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	3				70									
	マラリア																		2											3	
	レジオネラ症			2				1				9	7	3	6	9	2	4	4			48									
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	7	3	6	9	4	1	7	4	1	131										
	日本脳炎	1	1	1																		6									
	レプトスピラ症																		1			4	2	1				8			
	E型肝炎																		1			1				2					
	デング熱																		1			3	2	1			7				
	重症熱性血小板減少症候群																				3	11	3	2	19						
	計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	27	15	3	332											
5	アメーバ赤痢			2	2	2	1	2	2	2	1				3	2	2	3	7	3	34										
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3				3			1	54										
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症																				7	19	26								
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4				4	3	3				6			1	3			28										
	ジアルジア症			1	2	1																		7							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					1																		3							
	急性脳炎																		1	1	2	5	1	3	1			1	1	16	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	1																		10							
	後天性免疫不全症候群	2			2	2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	1	51											
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																				1	5	2	8							
	侵襲性肺炎球菌感染症																				1	4	12	4	21						
	水痘（入院例に限る）																						2	2							
	髄膜炎菌性髄膜炎																		1											1	
	破傷風			3	2	2	1				1	1	2	3	1	1	1	1	4	3	26										
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11			122										
	麻疹																		5											5	
	風しん																		1	1											16
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	7	430												
新型	新型インフルエンザ																													34	34
	計																													34	34
動物	鳥インフルエンザ																													1	1
	計																													1	1
	総計	61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	210	210	19	2,314											

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

1月はウイルス72件，細菌12件の搬入があり，そのうちウイルス41件，細菌5件の病原体を検出し，また，平成27年12月に搬入された検体でウイルス1件を検出した。検出ウイルスの内訳は，Adenovirus 2 1件，Coxsackievirus A14 1件，Cytomegalovirus 4件，Epstein-Barr virus 4件，Human herpes virus 6 2件，Human herpes virus 7 4件，human parvovirus B19 virus 1件，Influenza virus A H1pdm09 7件，Influenza virus A H3 NT 1件，Influenza virus B/Victoria 2件，Influenza virus B/Yamagata 1件，Norovirus G II NT 8件，Respiratory syncytial virus A 2件，Respiratory syncytial virus B 1件，Rhinovirus 1件，Rotavirus group A G3 1件，Rotavirus group A G8 1件，また，細菌の内訳は，*Bordetella pertussis* 2件，*Enteropathogenic Escherichia coli* 1件，*Streptococcus pyogenes* T1 1件，*Streptococcus pyogenes* T4 1件であった。

※Epstein-Barr virus 2件，検出情報一覧のNo17及びNo35については同一患者が誕生日を挟んで2病原体定点医療機関を受診したものです。

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	1	男	腸重積		ふん便	12.15	Adenovirus 2
2	2	女	咽頭結膜熱	39℃，咳漱，発疹，	ぬぐい液	12.16	Human herpes virus 7
3	1	女	上気道炎，	上気道炎，	鼻咽頭ぬぐい液	12.17	Cytomegalovirus Epstein-Barr virus
4	1	女	感染性胃腸炎	39℃，下痢，	ふん便	12.18	Norovirus GII NT
5	6	女	血小板減少性紫斑病	—	鼻咽頭ぬぐい液	12.19	Cytomegalovirus
6	2	男	川崎病疑い，蕁麻疹	38℃，咳漱，上気道炎，発疹，	鼻咽頭ぬぐい液	12.19	Coxsackievirus A14
7	7か月	女	気管支炎	38℃，咳漱，	鼻腔	12.23	Respiratory syncytial virus A
8	3	男	不明発疹症	39℃，発疹，	ぬぐい液	12.24	Human herpes virus 7
9	2	女	RSV 細気管支炎	39℃，咳漱，上気道炎，気管支炎，	鼻腔ぬぐい液	12.25	Respiratory syncytial virus A
10	2	男	不明発疹症	38℃，発疹，	ぬぐい液	12.25	Human herpes virus 7
11	9	女	インフルエンザ	39℃，咳漱，	ぬぐい液	1. 4	Influenza virus A H3 NT
12	1	男	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	1. 4	Norovirus GII NT
13	4か月	女	感染性胃腸炎	下痢，	ふん便	1. 5	<i>Enteropathogenic Escherichia coli</i>
14	11	男	感染性胃腸炎	39℃，下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	1. 6	Norovirus GII NT
15	4	男	感染性胃腸炎	38℃，下痢，嘔吐，嘔気，腹痛，	ふん便	1. 6	Rotavirus group A G3
16	1か月	男	急性気管支炎	咳漱，下気道炎，	ぬぐい液	1. 6	Rhinovirus
17	11か月	男	不明発疹症	41℃，下痢，発疹，	ぬぐい液	1. 8	Epstein-Barr virus ※
18	7か月	男	上気道炎	上気道炎，中枢神経系障害，	ぬぐい液	1.10	Cytomegalovirus
19	59	女	インフルエンザ	40℃，	ぬぐい液	1.11	Influenza virus A H1pdm09
20	1	女	感染性胃腸炎	嘔吐，嘔気，	ふん便	1.11	Norovirus GII NT
21	8	男	無菌性髄膜炎	38℃，中枢神経系障害，	ぬぐい液	1.11	Human herpes virus 7
22	2	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃，上気道炎，	ぬぐい液	1.12	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1
23	6	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39℃，上気道炎，発疹，	ぬぐい液	1.12	<i>Streptococcus pyogenes</i> T4
24	1	女	感染性胃腸炎	39℃，下痢，	ふん便	1.12	Rotavirus group A G8
25	1	男	上気道炎	40℃，咳漱，上気道炎，中枢神経系障害，	鼻腔	1.12	Cytomegalovirus Human herpes virus 6
26	70	女	インフルエンザ	38℃，咳漱，	ぬぐい液	1.13	Influenza virus A H1pdm09
27	5	男	感染性胃腸炎	37℃，嘔吐，嘔気，腹痛，	ふん便	1.13	Norovirus GII NT
28	1	女	感染性胃腸炎	嘔吐，嘔気，中枢神経系障害，	ふん便	1.13	Norovirus GII NT
29	10	女	百日咳	38℃，嘔吐，嘔気，咳漱，	ぬぐい液	1.13	<i>Bordetella pertussis</i>
30	3	男	感染性胃腸炎	37℃，嘔吐，嘔気，腹痛，	ふん便	1.16	Norovirus GII NT
31	2	女	不明熱	38℃，嘔吐，嘔気，	ぬぐい液	1.16	Human herpes virus 6

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス, 細菌の検出
32	1	女	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	1. 18	Norovirus GII NT
33	10	女	伝染性紅斑	発疹,	ぬぐい液	1. 18	human parvovirus B19 virus
34	43	女	百日咳	咳漱,	ぬぐい液	1. 18	<i>Bordetella pertussis</i>
35	1	男	急性肝炎	41℃, 肝機能,	ぬぐい液	1. 19	Epstein-Barr virus ※
36	12	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	1. 21	Influenza virus A H1pdm09
37	1か月	男	上気道炎	嘔吐, 嘔気, 咳漱, 上気道炎,	鼻腔	1. 21	Respiratory syncytial virus B
38	11	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎, 伝染性単核症疑い	-	ぬぐい液	1. 22	Epstein-Barr virus
39	12	男	インフルエンザ	39℃, 嘔吐, 嘔気, 咳漱,	ぬぐい液	1. 22	Influenza virus B/Yamagata
40	12	女	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	1. 23	Influenza virus A H1pdm09
41	3	女	インフルエンザ	39℃, 腹痛,	ぬぐい液	1. 23	Influenza virus B/Victoria
42	8	男	インフルエンザ	38℃, 上気道炎,	ぬぐい液	1. 25	Influenza virus A H1pdm09
43	3	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	1. 25	Influenza virus A H1pdm09
44	7	男	インフルエンザ	40℃,	ぬぐい液	1. 25	Influenza virus A H1pdm09
45	6	女	インフルエンザ	40℃, 上気道炎,	ぬぐい液	1. 25	Influenza virus B/Victoria

高知県感染症情報月報 2016年2月

(65定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ	115	1,208	2,421	594	642	761	5,741	398	3,555
小児科	咽頭結膜熱		3	5			2	10	10	8
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	40	170	45	4	105	372	263	243
	感染性胃腸炎	15	186	270	79	49	86	685	1,073	723
	水痘		3	5	4	4	6	22	42	50
	手足口病		1	1	3			5	2	75
	伝染性紅斑	1	7	13	3	1	1	26	27	7
	突発性発疹	2	7	20	4	2		35	34	29
	百日咳			7		5		12	9	
	ヘルパンギーナ					1	1	2		3
	流行性耳下腺炎	2	3	38	15	5	3	66	82	68
	RSウイルス感染症	9	63	96	18	7	16	209	150	114
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎	1		1				2	1	1
STD	性器クラミジア感染症			1				1	1	
	性器ヘルペスウイルス感染症			1				1		
	尖圭コンジローマ									
	淋菌感染症			1				1		
基幹	細菌性髄膜炎									1
	無菌性髄膜炎								2	
	マイコプラズマ肺炎		2	15			4	21	25	9
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			7				7	9	2
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)		2	34			13	49	30	5
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	3	3	26			1	33	23	22
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									
	薬剤耐性緑膿菌感染症									
計		156	1,528	3,132	765	720	999	7,300	2,181	4,915
前月		88	402	1,010	157	149	375			
前年同月		243	1,106	1,934	704	257	671			
小児科定点数		2	7	11	3	2	5			

2016年2月

全国情報（2月1日～2月28日）

第5週（2月1日～）から第8週（～2月28日）までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国の2月の上位6疾患の合計は196.23で1月の91.42から倍増し、その原因はインフルエンザの増加である。インフルエンザが1位147.91となり、1月1位、39.26だったのが約3.5倍に増加し流行が続いており、まだピークに至っていない。2位が感染性胃腸炎で27.24（1月2位31.31）と少し減少した。3位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で13.42（同3位10.90）と再び増加、4位が流行性耳下腺炎で3.13（同4位3.59）と微減、5位が流行性角結膜炎で2.50（同7位3.11）にわずかに減少した。6位はマイコプラズマ肺炎で2.03（同8位2.73）と減少した。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	5週	6週	7週	8週	計
1	インフルエンザ	34.66	39.97	37.16	36.12	147.91
2	感染性胃腸炎	7.55	6.72	6.66	6.31	27.24
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.63	3.31	3.27	3.21	13.42
4	流行性耳下腺炎	0.75	0.73	0.85	0.80	3.13
5	流行性角結膜炎	0.72	0.61	0.60	0.57	2.50
6	マイコプラズマ肺炎	0.55	0.48	0.52	0.48	2.03

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の2月の上位6疾患の合計は170.57で1月の64.73に比べて約2.5倍に増加したが、全国よりも少なかった（表2）。高知県下のインフルエンザは、流行開始が全国で最も遅かったものの、2月はインフルエンザが1位で119.60（1月3位8.29）と15倍に増加した。2位は感染性胃腸炎で22.83（1月1位35.77）と2/3に減り、3位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で12.40（同2位8.77）と再び増加し、いずれも全国並であった。4位はRSウイルス感染症で6.97（同4位5.00）と増加し、5位がロタウイルス胃腸炎で6.14（同5位3.76）と増加し、いずれも全国よりも多かった。6位はマイコプラズマ肺炎で2.63（同8位3.14）と減少し、全国並であった。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	5週	6週	7週	8週	計
1	インフルエンザ	16.31	23.75	33.02	46.52	119.60
2	感染性胃腸炎	6.53	5.57	5.20	5.53	22.83
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.50	2.63	3.30	2.97	12.40
4	RSウイルス感染症	1.57	1.93	1.90	1.57	6.97
5	感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）	1.13	2.00	1.38	1.63	6.14
6	マイコプラズマ肺炎	0.75	0.63	0.50	0.75	2.63

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 5,741名（1月398名）。2015/16シーズンは、11月にはじめてまとまった数が報告され、施設内流行も報告されたが、12月は増加せず経過した。1月は報告数が増え、本格的な流行期を迎えたものの、全国集計で1月としては過去10年間で2007年に次ぐ少なさであった。また、高知県からの1月の報告数は全国で最低であり、流行開始が他県よりも遅れていた。2月になって一気に流行が拡大した。2月としては過去10年間で2012年に次ぐ2番目に多い報告数だった。また、1カ月の報告数としては過去10年間で7番目に多い報告数であり、流行開始は遅かったが爆発的流行になっていることがうかがわれる。ウイルスはAH1pdm09が45件、B/Yamagataが12件、B/Victoriaが3件検出された。A型はAH1pdm09が優位な流行を示しており、ほぼ同時にB型の流行も始まったことが今季の特徴の1つである。県下全域からの報告があり、特に須崎、高知市からの報告が多い。広い年齢層の報告がなされたが、中でも5～9歳、1～4歳、10～14歳の順に多い。

2) 咽頭結膜熱

報告数 10名（1月10名）。すべて小児例であり、高知市、中央東、幡多から報告された。咽頭結膜熱の患者からアデノウイルスは検出されていない。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 372名（1月263名）。2014年10月以降多く報告されており、8月は減少し例年並みの報告数になっていたが、9月以降に再び増加して、12月以降は同時期として過去10年間では最大の流行である。県下全域から報告されており、とくに幡多、高知市、中央西からの報告が多い。1～4歳が123名、5～9歳が186名で、10歳未満が83%を占めている。2月に細菌は検出されていない。

4) 感染性胃腸炎

報告数 685名（1月1,073名）。2月としては例年並みの報告数である。県下全域から多く報告されたが、とくに中央東、中央西、高知市、須崎が多い。Norovirus GⅡが1件検出され、Rotavirus group A NTが4件検出された。

5) 水痘

報告数 22名（1月42名）。安芸以外の全域から報告があるが、須崎、中央西、幡多の順に報告が多い。2月の報告数として過去10年間でもっとも少なく、ワクチンの定期接種化の効果と思われる。

6) 手足口病

報告数 5名（1月2名）。目立った流行はない。

7) 伝染性紅斑

報告数 26名（1月27名）。2015年以降、全国的に例年に比べて多い傾向で推移した。高知県からの報告は全国に比べて少ない。県下全域から報告があり、高知市、中央東、中央西で多く報告された。ウイルスは3歳児から1件human parvovirus B19が検出された。

8) 突発性発疹

報告数 35名（1月36名）。想定内の変動で推移している。

9) 百日咳

報告数 12名（1月9名）。2014年以降で最も多い報告数となった。須崎と高知市から報告された。年齢の内訳は乳児例1名、成人例1名を含んでいる。細菌はBordetella pertussisが5件、Bordetella parapertussisが1件検出されている。

10) ヘルパンギーナ

報告数 2名（1月0名）。終息している。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 66名（1月82名）。県下全地域から報告があり、中央西、高知市、須崎が多かった。11月

以降は増加の傾向にあり、動向が注目される。

12) RSウイルス感染症

報告数 209名（1月150名）。冬季の感染症であるが、過去10年と比較して2015年は6月～8月の報告数としては最大で夏季にだらだらと報告が続いた。9月に一気に増加し10月まで最大の報告数で推移した。11月は減少に転じたものの12月以降に再度増加に転じて増加を続けている（ただし11月以降は例年の同月に比べて少ない）。RSウイルス感染症は同一宿主でも毎年罹患することは日常的で、さらに、3カ月間隔で再罹患することも経験される。冬季に、2度目の流行が起きる可能性は残る。全域から報告されたが、とくに中央東、高知市、中央西が多い。RS virus Aが5件検出された。

13) 流行性角結膜炎

報告数 2名（1月1名）。ここ3年間は一桁で推移している。

14) マイコプラズマ肺炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 21名（1月25名）。幡多、高知市、中央東から表記の順に多く報告された。2015年に大きな流行をみとめた幡多では臨床的にマクロライド系抗菌薬に耐性の菌であった。

基幹定点の月報疾患

15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 33名（1月23名）。12月に次いで増加した。

16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名（1月0名）。2014年は計4例、2015年は1例のみ報告された。

高知県感染症発生動向調査部会

前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患（平成28年2月）

類型	病名	報告年																												総計																	
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28																												
2	結核																		131	149	163	156	192	132	128	138	129	16	1,334																		
	計																		131	149	163	156	192	132	128	138	129	16	1,334																		
3	コレラ	1																		1											3																
	バラチフス	2																												2																	
	細菌性赤痢	11	4	2				3	1	2	2											25																									
	腸チフス	1																		1											3																
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2			157																										
計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	0	190																												
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1											3			31																							
	Q熱	1	1	2																		5																									
	オウム病			1																		2																									
	つつが虫病			9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	3			70																										
	マラリア																		2											3																	
	レジオネラ症			2				1			1											48																									
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	7	3	6	9	2	4	4			132																										
	日本脳炎	1	1	1																		6																									
	レプトスピラ症																		1			4	2	1				8																			
	E型肝炎																		1											2																	
	デング熱																		1											7																	
	重症熱性血小板減少症候群																				3	11	3	2	1			19																			
	計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	27	15	4	333																											
5	アメーバ赤痢			2	2	2	1	2	2	2	1											34																									
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3				1			54																											
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症																				7	19	3			29																					
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4				4	3	3			6			1	3			28																											
	ジアルジア症			1	2	1																		7																							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症				1																		3																								
	急性脳炎																		1	1	2	5	1	3	1			16																			
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症				1	1	1											1	1	3	1			10																							
	後天性免疫不全症候群	2			2			2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	2	52																									
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																				1	5	2			8																					
	侵襲性肺炎球菌感染症																				1	4	12	5			22																				
	水痘（入院例に限る）																						2			2																					
	髄膜炎菌性髄膜炎																		1											1																	
	破傷風			3	2	2	1			1	1	2	3	1	1	1	1			26																											
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	1	123																											
	麻疹																		5											5																	
風しん																		1	1											16																	
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	13	436																												
新型	新型インフルエンザ																													34	34																
動物	鳥インフルエンザ																													1	1																
計																													1	1																	
総計																													61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	210	210	33	2,328

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

2月はウイルス114件，細菌25件の搬入があり，そのうちウイルス80件，細菌8件の病原体を検出し，また，平成28年1月に搬入された検体でウイルス3件を検出した。検出ウイルスの内訳は，Coxsackievirus A10 1件，Herpes simplex virus 1 1件，Human herpes virus 6 5件，Human herpes virus 7 3件，human parvovirus B19 virus 1件，Influenza virus A H1pdm09 45件，Influenza virus B/Victoria 3件，Influenza virus B/Yamagata 12件，Norovirus GII NT 1件，Respiratory syncytial virus A 5件，Rhinovirus 2件，Rotavirus group A NT 4件，また，細菌の内訳は，*Bordetella parapertussis* 1件，*Bordetella pertussis* 5件，*Mycoplasma pneumoniae* 2件であった。

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	11	女	ヘルペス歯肉周囲炎	39℃，リンパ節浮腫，	ぬぐい液	1. 8	Herpes simplex virus 1
2	3	女	気管支炎	咳漱，上気道炎，気管支炎，	鼻腔ぬぐい液	1.19	Rhinovirus
3	9ヶ月	男	不明発疹症	38℃，発疹，	ぬぐい液	1.20	Human herpes virus 7
4	3ヶ月	女	気管支炎	39℃，咳漱，上気道炎，下気道炎， 気管支炎，	鼻咽腔	1.26	Respiratory syncytial virus A
5	1ヶ月	女	R S細気管炎	38℃，咳漱，上気道炎，	鼻腔ぬぐい液	1.26	Respiratory syncytial virus A
6	6	男	インフルエンザ	40℃，上気道炎，	ぬぐい液	1.26	Influenza virus A H1pdm09
7	10	男	インフルエンザ	咳漱，	ぬぐい液	1.26	Influenza virus B/Victoria
8	4	男	インフルエンザ	38℃，咳漱，	ぬぐい液	1.26	Influenza virus B/Victoria
9	3	女	伝染性紅斑	39℃，	ぬぐい液	1.26	human parvovirus B19 virus
10	9	女	百日咳	咳漱，	ぬぐい液	1.26	<i>Bordetella parapertussis</i>
11	2	男	不明発疹症	37℃，発疹，	ぬぐい液	1.26	Human herpes virus 6
12	5	女	百日咳	咳漱，	ぬぐい液	1.27	<i>Bordetella pertussis</i>
13	8	女	百日咳	咳漱，	ぬぐい液	1.27	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
14	5	男	インフルエンザ	38℃，上気道炎，	ぬぐい液	1.28	Influenza virus A H1pdm09
15	2	男	咽頭結膜熱	40℃，	ぬぐい液	1.28	Human herpes virus 6 Human herpes virus 7
16	3	男	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	1.29	Rotavirus group A NT
17	6	女	伝染性紅斑	38℃，咳漱，発疹，	ぬぐい液	1.29	Respiratory syncytial virus A
18	3	女	-	40℃，嘔吐，嘔気，咳漱，	ぬぐい液	1.30	Respiratory syncytial virus A
19	13	女	インフルエンザ	39℃，上気道炎，	ぬぐい液	1.30	Influenza virus B/Yamagata
20	7	女	百日咳	咳漱，	ぬぐい液	1.30	<i>Bordetella pertussis</i>
21	2	女	インフルエンザ	39℃，咳漱，上気道炎，	ぬぐい液	2. 1	Influenza virus A H1pdm09
22	14	男	インフルエンザ	38℃，咳漱，上気道炎，	ぬぐい液	2. 2	Influenza virus B/Yamagata
23	1	男	感染性胃腸炎	40℃，	ふん便	2. 2	Rotavirus group A NT
24	1	女	感染性胃腸炎	40℃，下痢，上気道炎，	ふん便	2. 2	Rotavirus group A NT
25	40	男	インフルエンザ	38℃，	ぬぐい液	2. 3	Influenza virus A H1pdm09
26	8	男	インフルエンザ	39℃，咳漱，	ぬぐい液	2. 3	Influenza virus A H1pdm09
27	8	男	インフルエンザ	38℃，咳漱，	ぬぐい液	2. 3	Influenza virus A H1pdm09
28	7	女	インフルエンザ	39℃，	ぬぐい液	2. 3	Influenza virus A H1pdm09
29	6	女	インフルエンザ	38℃，	ぬぐい液	2. 3	Influenza virus B/Victoria
30	4	女	インフルエンザ	39℃，	ぬぐい液	2. 3	Influenza virus B/Yamagata
31	8	男	インフルエンザ	38℃，咳漱，筋肉痛，	ぬぐい液	2. 3	Influenza virus B/Yamagata
32	2	女	遷延性発熱	39℃，	ぬぐい液	2. 3	Human herpes virus 6
33	39	男	インフルエンザ	39℃，咳漱，	ぬぐい液	2. 4	Influenza virus A H1pdm09
34	62	男	インフルエンザ	38℃，咳漱，関節痛，	ぬぐい液	2. 4	Influenza virus A H1pdm09
35	12	女	インフルエンザ	38℃，	ぬぐい液	2. 4	Influenza virus A H1pdm09
36	4	男	インフルエンザ	40℃，腹痛，	ぬぐい液	2. 4	Influenza virus A H1pdm09
37	5	男	インフルエンザ	39℃，腹痛，咳漱，	ぬぐい液	2. 4	Influenza virus A H1pdm09
38	5	男	インフルエンザ	39℃，腹痛，咳漱，	ぬぐい液	2. 4	Influenza virus A H1pdm09
39	31	男	インフルエンザ	38℃，咳漱，関節痛，	ぬぐい液	2. 4	Influenza virus A H1pdm09
40	6	男	インフルエンザ	38℃，咳漱，	ぬぐい液	2. 4	Influenza virus B/Yamagata

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス, 細菌の検出
41	1	女	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	2. 4	Rotavirus group A NT
42	4ヶ月	男	急性気管支炎	39℃, 咳漱, 上気道炎,	ふん便	2. 4	Rhinovirus
43	2	女	不明熱	41℃, 嘔吐, 咳漱,	ぬぐい液	2. 4	Respiratory syncytial virus A
44	38	女	インフルエンザ	38℃, 咳漱, 関節痛,	ぬぐい液	2. 5	Influenza virus A H1pdm09
45	27	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	2. 5	Influenza virus A H1pdm09
46	9	男	インフルエンザ	38℃, 嘔吐, 嘔気,	ぬぐい液	2. 5	Influenza virus A H1pdm09
47	3	女	ヘルパンギーナ	38℃,	ぬぐい液	2. 5	Coxsackievirus A10
48	86	女	インフルエンザ	38℃, 肺炎,	ぬぐい液	2. 6	Influenza virus A H1pdm09
49	9	女	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	2. 6	Influenza virus A H1pdm09
50	5	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	2. 6	Influenza virus B/Yamagata
51	5	男	インフルエンザ	40℃, 咳漱,	ぬぐい液	2. 6	Influenza virus B/Yamagata
52	17	男	インフルエンザ	40℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	2. 7	Influenza virus A H1pdm09
53	17	男	インフルエンザ	40℃, 咳漱,	ぬぐい液	2. 7	Influenza virus A H1pdm09
54	43	男	インフルエンザ	38℃, 咳漱, 気管支炎, 関節痛, 筋肉痛,	ぬぐい液	2. 7	Influenza virus A H1pdm09
55	59	男	インフルエンザ	38℃, 嘔気, 咳漱, 関節痛, 筋肉痛,	ぬぐい液	2. 7	Influenza virus A H1pdm09
56	47	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱, 上気道炎, 関節痛, 筋肉痛,	ぬぐい液	2. 7	Influenza virus A H1pdm09
57	53	女	インフルエンザ	38℃, 咳漱, 関節痛, 筋肉痛,	ぬぐい液	2. 7	Influenza virus A H1pdm09
58	47	女	インフルエンザ	38℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	2. 7	Influenza virus A H1pdm09
59	16	男	インフルエンザ	40℃, 咳漱, 上気道炎, 関節痛, 筋肉痛,	ぬぐい液	2. 7	Influenza virus A H1pdm09
60	8	女	インフルエンザ	40℃,	ぬぐい液	2. 8	Influenza virus B/Yamagata
61	13	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	2. 9	Influenza virus A H1pdm09
62	10	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	2. 9	Influenza virus A H1pdm09
63	6	女	インフルエンザ	39℃, 腹痛,	ぬぐい液	2. 9	Influenza virus A H1pdm09
64	13	女	インフルエンザ	39℃, 関節痛,	ぬぐい液	2. 10	Influenza virus A H1pdm09
65	48	女	インフルエンザ	38℃, 上気道炎,	ぬぐい液	2. 10	Influenza virus A H1pdm09
66	27	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱, 関節痛,	ぬぐい液	2. 10	Influenza virus A H1pdm09
67	51	女	インフルエンザ	38℃, 咳漱, 関節痛,	ぬぐい液	2. 11	Influenza virus A H1pdm09
68	33	男	インフルエンザ	38℃,	ぬぐい液	2. 11	Influenza virus A H1pdm09
69	56	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	2. 11	Influenza virus A H1pdm09
70	23	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	2. 11	Influenza virus A H1pdm09
71	16	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	2. 11	Influenza virus A H1pdm09
72	43	男	インフルエンザ	咳漱,	ぬぐい液	2. 11	Influenza virus A H1pdm09
73	30	男	インフルエンザ	40℃, 咳漱,	ぬぐい液	2. 11	Influenza virus A H1pdm09
74	11	男	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	2. 13	Influenza virus B/Yamagata
75	9ヶ月	男	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	2. 13	Norovirus GII NT
76	56	女	インフルエンザ	38℃, 嘔吐, 嘔気, 咳漱,	ぬぐい液	2. 14	Influenza virus B/Yamagata
77	7	女	-	39℃, 咳漱, 筋肉痛,	ぬぐい液	2. 15	Human herpes virus 6 Human herpes virus 7
78	10ヶ月	女	突発性発疹	40℃, 発疹,	ぬぐい液	2. 15	Human herpes virus 6
79	8	女	マイコプラズマ	39℃, 咳漱, 肺炎,	ぬぐい液	2. 16	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
80	66	女	インフルエンザ	38℃, 咳漱, 関節痛,	ぬぐい液	2. 17	Influenza virus A H1pdm09
81	11	男	インフルエンザ	38℃,	ぬぐい液	2. 17	Influenza virus A H1pdm09
82	12	男	百日咳	咳漱,	ぬぐい液	2. 17	<i>Bordetella pertussis</i>
83	11	男	インフルエンザ	39℃, 筋肉痛,	ぬぐい液	2. 18	Influenza virus A H1pdm09
84	6	男	インフルエンザ	40℃, 咳漱,	ぬぐい液	2. 18	Influenza virus A H1pdm09
85	42	女	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	2. 18	Influenza virus A H1pdm09
86	9	男	百日咳	咳漱,	ぬぐい液	2. 18	<i>Bordetella pertussis</i>
87	2	男	インフルエンザ	40℃, 咳漱,	ぬぐい液	2. 19	Influenza virus B/Yamagata
88	71	女	インフルエンザ	38℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	2. 19	Influenza virus B/Yamagata
89	9	男	百日咳	咳漱,	ぬぐい液	2. 19	<i>Bordetella pertussis</i>

高知県感染症情報月報 2016年3月

(65定点医療機関)

定点名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
	疾病名									
内科・小児科	インフルエンザ	280	2,005	2,516	850	534	1,434	7,619	5,741	1,832
小児科	咽頭結膜熱		5	5			2	12	10	12
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	60	170	19	6	101	357	372	278
	感染性胃腸炎	35	289	349	65	68	121	927	685	659
	水痘		4	12	2	11	5	34	22	51
	手足口病								5	85
	伝染性紅斑	6	6	9	3	1	1	26	26	9
	突発性発疹		8	10	5			7	30	40
	百日咳		1	5			1	7	12	1
	ヘルパンギーナ						1	1	2	3
	流行性耳下腺炎		1	41	7	9	4	62	66	104
	RSウイルス感染症	5	31	61	9	1	19	126	209	43
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎								2	1
STD	性器クラミジア感染症								1	1
	性器ヘルペスウイルス感染症								1	
	尖圭コンジローマ		1					1		
	淋菌感染症								1	1
基幹	細菌性髄膜炎									1
	無菌性髄膜炎									3
	マイコプラズマ肺炎		3	7			1	11	21	13
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			5				5	7	3
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)		7	87			7	101	49	8
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1	2	4			2	9	33	24
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									
	薬剤耐性緑膿菌感染症									
計		328	2,423	3,281	960	632	1,704	9,328	7,300	3,172
前月		156	1,528	3,132	765	720	999			
前年同月		244	602	1,262	471	171	422			
小児科定点数		2	7	11	3	2	5			

2016年3月

全国情報（2月29日～4月3日）

第9週（2月29日～）から第13週（～4月3日）までの5週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国の3月の上位6疾患の合計は4週間に換算すると128.73で2月の196.23から約2/3に減少し、その主因はインフルエンザの減少であり、他の上位2疾患、感染性胃腸炎とA群溶血性レンサ球菌咽頭炎も減少した。1位はインフルエンザで4週間換算で87.75となり、2月1位、147.91から減少した。2位は感染性胃腸炎で23.28（2月2位27.24）、3位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で9.99（同3位13.42）と減少した、4位が流行性耳下腺炎で3.31（同4位3.13）とわずかに増加した。5位が、近年は冬ではなく春に流行するロタウイルス胃腸炎で、2.34（同8位1.70）と増加した。6位は流行性角結膜炎で2.05（同5位2.50）と減少した。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	9週	10週	11週	12週	13週	計
1	インフルエンザ	35.35	28.20	21.13	13.81	11.20	109.69
2	感染性胃腸炎	6.49	6.27	5.95	4.88	5.51	29.10
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.99	2.82	2.71	2.00	1.97	12.49
4	流行性耳下腺炎	0.79	0.86	0.79	0.80	0.90	4.14
5	感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）	0.57	0.57	0.56	0.55	0.68	2.93
6	流行性角結膜炎	0.55	0.57	0.46	0.47	0.51	2.56

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の3月の上位6疾患の合計は4週間に換算すると176.35で2月の170.57と比較して微増し、全国よりも多かった（表2）。1位はインフルエンザで4週間換算で126.99と2月の119.60に比べて増加し、全国よりも多かった。高知県下のインフルエンザは、流行開始が全国で最も遅かったが、都道府県別で2月の38位から3月は2位（1位は愛媛県）となるなど、流行が続いている。2位は感染性胃腸炎で24.72（2月2位22.83）と増加、3位はロタウイルス胃腸炎で10.11（同5位6.14）と増加し、いずれも全国よりも多かった。4位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で9.52（同3位12.40）と減少し、全国並だった。5位はRSウイルス感染症で3.36（同4位6.97）と減少し全国よりも多かった。6位は流行性耳下腺炎で1.65（同7位2.21）に減少し、全国よりも少なかった。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	9週	10週	11週	12週	13週	計
1	インフルエンザ	49.17	40.25	30.65	18.50	20.17	158.74
2	感染性胃腸炎	5.90	7.07	8.03	4.67	5.23	30.90
3	感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）	1.63	3.00	5.38	1.50	1.13	12.64
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.87	2.60	2.53	1.83	2.07	11.90
5	RSウイルス感染症	1.17	0.80	0.93	0.63	0.67	4.20
6	流行性耳下腺炎	0.53	0.40	0.40	0.33	0.40	2.06

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 7,619名（2月5741名）。2015/16シーズンは、11月にはじめてまとまった数が報告され、施設内流行も報告されたが、12月は増加せず経過した。1月は報告数が増え、本格的な流行期を迎えたものの、全国集計で1月としては過去10年間で2007年に次ぐ少なさであった。また、高知県からの1月の報告数は全国で最低であり、流行開始が他県よりも遅れた。2月になって一気に流行が拡大した。過去10年間でみると、2月としては2012年に次いで2番目に多く、3月としては最多の報告数となった。都道府県別にみると、高知県は2月の38位から、3月が愛媛県に次いで2位となるなど流行が続いている。また、2月は1カ月の報告数としては過去10年間で7番目に多い報告数であった。ウイルスはAH1pdm09が9件、B/Yamagataが6件検出された。A型はAH1pdm09が優位な流行を示しており、ほぼ同時にB型の流行も始まったことが今季の特徴の1つである。県下全域から多数の報告があり、特に中央東、幡多、中央西、高知市からの報告が多い。広い年齢層の報告がなされたが、中でも5～9歳、1～4歳、10～14歳、の順に多い。

2) 咽頭結膜熱

報告数 12名（2月10名）。すべて小児例であり、中央東、高知市、幡多から報告された。咽頭結膜熱の患者からウイルスは検出されなかったが、感染性胃腸炎の幼児の便からAdenovirus 2型が3件検出された。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 357名（2月372名）。2014年10月以降多く報告されており、2015年8月は減少し例年並みの報告数になっていたが、9月以降に再び増加して、12月以降は2016年3月に至るまで、同時期として過去10年間では最大の流行が続いている。県下全域から報告されており、とくに幡多、高知

市，中央東，中央西の順に報告が多い。1 - 4歳が88名，5 - 9歳が179名で，10歳未満が76%を占めている。3月に細菌は検出されていない。

4) 感染性胃腸炎

報告数 927名(2月685名)。3月としては例年並みの報告数である。県下全域から多く報告されたが，とくに中央東，須崎，高知市で多い。ロタウイルスは2011年11月に任意ワクチンが導入されて2013年11月からサーベイランス調査が開始された。ロタウイルス胃腸炎が増加しており，2013年11月以降では最多の患者数(101名)が報告された。Adenovirus 2型が3件，Rotavirus group A G2が2件，Rotavirus group A NTが2件，Coxsackievirus A9が1件，Sapovirusが1件検出された。

5) 水痘

報告数 34名(2月22名)。安芸以外の全域から報告があるが，須崎，高知市，幡多の順に報告が多い。3月の報告数として過去10年間でもっとも少なく，ワクチンの定期接種化の効果と思われる。

6) 手足口病

報告数 0名(2月5名)。流行はない。

7) 伝染性紅斑

報告数 26名(2月26名)。2015年以降，全国的に例年に比べて多い傾向で推移した。高知県からの報告は全国に比べて少ない。県下全域から報告があり，安芸，中央西，中央東，高知市で多く報告された。ウイルスは検出されていない。

8) 突発性発疹

報告数 30名(2月35名)。想定内の変動で推移している。

9) 百日咳

報告数 7名(2月12名)。須崎，高知市，中央東から報告された。2月に比べて減少したものの，必ず重症化する6カ月以下の乳児が3例報告された。改めて百日咳を含む4種混合ワクチンの早期

接種を励行したい。細菌はBordetella pertussisが4件検出されている。

10) ヘルパンギーナ

報告数 1名(2月2名)。目立った流行はない。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 62名(2月66名)。安芸を除く地域から報告があり，須崎，高知市，中央西で多かった。2015年11月以降は増加の傾向にあったが，減少に転じた。

12) RSウイルス感染症

報告数 126名(2月209名)。冬季の感染症であるが，過去10年と比較して2015年は6月～8月の報告数としては最大で夏季にだらだらと報告が続いた。9月に一気に増加し10月まで最大の報告数で推移した。11月は減少に転じたものの12月以降に再度増加に転じて増加を続けていた(ただし11月以降は例年の同月に比べて少ない)が，3月に減少に転じた。全域から報告されたが，とくに高知市，中央東，幡多で多い。RS virus Bが1件検出された。

13) 流行性角結膜炎

報告数 0名(2月2名)。ここ3年間は一桁で推移している。

14) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 11名(2月21名)。中央東，高知市，幡多から表記の順に多く報告された。2015年に大きな流行をみとめた幡多では臨床的にマクロライド系抗菌薬に耐性の菌であった。

基幹定点の月報疾患

15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 9名(2月33名)。2016年12月から増加が続いていたが，3月は減少した。

16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名(2月0名)。2014年は計4例，2015年は1例のみ報告された。

高知県感染症発生動向調査部会
前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患（平成28年3月）

類型	病名	報告年																											総計																												
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28																																						
2	結核																		131	149	163	156	192	132	128	138	129	29	1,347																												
	計																		131	149	163	156	192	132	128	138	129	29	1,347																												
3	コレラ	1																	1											3																											
	パラチフス	2																											2																												
	細菌性赤痢	11	4	2				3	1	2	2																	25																													
	腸チフス	1																											1																												
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2					157																																		
計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	0					190																																		
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1											3	1	32																																		
	Q熱	1	1	2																											1																										
	オウム病																											1																													
	つつが虫病			9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	3							70																																
	マラリア																											2																													
	レジオネラ症			2				1	1											9	7	3	6	9	2	4	4	48																													
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	7	15	4	1	7	4	2					132																																		
	日本脳炎	1	1	1																											1																										
	レプトスピラ症											1			4	2	1							8																																	
	E型肝炎											1											1																																		
	デング熱											1						3	2	1					7																																
	重症熱性血小板減少症候群																3	11	3	3					20																																
	計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	27	15	6					335																																	
5	アメーバ赤痢																											2	2	2	1	2	2	2	1											3	2	3	7	3	34						
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3				3					54																																			
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症																											1	1	4				4	3	3							6			1	3	4	30								
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4				4	3	3							6			1	3					28																															
	ジアルジア症																											1	2	1																											1
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症																											1																													
	急性脳炎											1	1	2	5	1	3	1				1	1	1	17																																
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症				1	1	1											1	1	3	1	1					11																														
	後天性免疫不全症候群	2																											2																												
	侵襲性インフルエンザ菌感染症											2				4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	3	53																												
	侵襲性肺炎球菌感染症																1	4	12	8					25																																
	水痘（入院例に限る）																											2																													
	髄膜炎菌性髄膜炎																1											1																													
	破傷風			3	2	2	1				1	1	2	3	1	1	1	1				4	3	26																																	
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	3					125																																	
	麻疹																											5																													
	風しん																1	1											16																												
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	22					445																																		
新型	新型インフルエンザ																															34					34																				
動物	鳥インフルエンザ																															1					1																				
計																															1					1																					
総計	61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	210	210	57					2,352																																		

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

3月はウイルス99件，細菌16件の搬入があり，そのうちウイルス 30件，細菌 4件の病原体を検出し，また，平成28年2月に搬入された検体でウイルス1件を検出した。検出ウイルスの内訳は，Adenovirus 2 3件，Astrovirus NT 1件，Coxsackievirus A9 1件，Coxsackievirus A10 1件，Cytomegalovirus 2件，Epstein-Barr virus 1件，Influenza virus A H1pdm09 9件，Influenza virus B/Yamagata 6件，Respiratory syncytial virus B 1件，Rotavirus group A G2 3件，Rotavirus group A NT 2件，Sapovirus genogroup unknown 1件，また，細菌の内訳は，*Bordetella pertussis* 4件であった。

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	1	女	ヘルパンギーナ	39℃，	ぬぐい液	2.10	Coxsackievirus A10
2	3	男	感染性胃腸炎	38℃，下痢，嘔吐，嘔気，腹痛，	ふん便	2.22	Astrovirus NT
3	65	女	インフルエンザ	38℃，咳漱，	ぬぐい液	2.23	Influenza virus A H1pdm09
4	25	女	インフルエンザ	38℃，咳漱，	ぬぐい液	2.23	Influenza virus A H1pdm09
5	4	女	感染性胃腸炎	37℃，下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	2.25	Coxsackievirus A9 Rotavirus group A G2
6	2ヶ月	男	百日咳	咳漱，	ぬぐい液	2.26	<i>Bordetella pertussis</i>
7	14	女	百日咳	咳漱，	ぬぐい液	2.26	<i>Bordetella pertussis</i>
8	33	女	百日咳 疑い	—	ぬぐい液	2.26	<i>Bordetella pertussis</i>
9	9	女	インフルエンザ	38℃，気管支炎，	ぬぐい液	2.29	Influenza virus A H1pdm09
10	1	男	細気管支炎，熱性痙攣（15～20分）	40℃，咳漱，下気道炎，	ぬぐい液	2.29	Respiratory syncytial virus B
11	59	女	インフルエンザ	39℃，嘔吐，咳漱，関節痛，	ぬぐい液	3. 1	Influenza virus A H1pdm09
12	9	女	インフルエンザ	38℃，咳漱，	ぬぐい液	3. 1	Influenza virus B/Yamagata
13	1	男	感染性胃腸炎	40℃，下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	3. 1	Adenovirus 2
14	0ヶ月	男	急性気管支炎	40℃，	ふん便	3. 1	Rotavirus group A G2
15	23	男	インフルエンザ	38℃，咳漱，上気道炎，	ぬぐい液	3. 2	Influenza virus B/Yamagata
16	39	女	インフルエンザ	38℃，関節痛，	ぬぐい液	3. 3	Influenza virus A H1pdm09
17	6	男	感染性胃腸炎	嘔吐，嘔気，	ふん便	3. 4	Adenovirus 2
18	1	女	感染性胃腸炎，不明発疹	下痢，発疹，	ぬぐい液	3. 4	Epstein-Barr virus
19	12	男	インフルエンザ	39℃，咳漱，	ぬぐい液	3. 8	Influenza virus B/Yamagata
20	53	女	インフルエンザ	38℃，咳漱，	ぬぐい液	3. 8	Influenza virus B/Yamagata
21	7	男	感染性胃腸炎	下痢，腹痛，	ふん便	3. 9	Sapovirus genogroup unknown Adenovirus 2
22	31	男	百日咳	下痢，嘔吐，嘔気，咳漱，	ぬぐい液	3.11	<i>Bordetella pertussis</i>
23	46	女	インフルエンザ	38℃，咳漱，関節痛，	ぬぐい液	3.12	Influenza virus A H1pdm09
24	5	男	感染性胃腸炎	40℃，下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	3.14	Rotavirus group A NT
25	1	男	不明発疹症	37℃，下痢，発疹，	ぬぐい液	3.14	Cytomegalovirus
26	77	男	インフルエンザ	37℃，咳漱，	ぬぐい液	3.16	Influenza virus B/Yamagata
27	4	女	インフルエンザ	40℃，	ぬぐい液	3.18	Influenza virus A H1pdm09
28	6	男	インフルエンザ	39℃，下痢，上気道炎，	ぬぐい液	3.18	Influenza virus B/Yamagata
29	2	男	感染性胃腸炎	嘔吐，嘔気，	ふん便	3.19	Rotavirus group A NT
30	30	男	インフルエンザ	39℃，	ぬぐい液	3.20	Influenza virus A H1pdm09
31	40	男	インフルエンザ	39℃，咳漱，関節痛，	ぬぐい液	3.20	Influenza virus A H1pdm09
32	5	男	ウイルス性筋炎疑い	40℃，嘔吐，嘔気，中枢神経系障害，	尿	3.20	Cytomegalovirus
33	2	男	感染性胃腸炎	39℃，嘔吐，嘔気，中枢神経系障害，	ふん便	3.20	Rotavirus group A G2

高知県感染症情報月報 2016年4月

(65定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ	59	208	335	90	81	236	1,009	7,619	674
小児科	咽頭結膜熱	1	1	9			5	16	12	10
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4	48	114	23	7	46	242	357	322
	感染性胃腸炎	29	155	217	69	61	48	579	927	690
	水痘			4	2	4	3	13	34	48
	手足口病		1	3				4		240
	伝染性紅斑	6	5	4	6	1		22	26	13
	突発性発疹	1	12	12	7	3	7	42	30	71
	百日咳		2	4		2		8	7	3
	ヘルパンギーナ		7	1				8	1	9
	流行性耳下腺炎	1	1	23	12	12	10	59	62	98
	RSウイルス感染症	1	8	27	1		31	68	126	33
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			2				2		2
STD	性器クラミジア感染症		1	1				2		2
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ								1	
	淋菌感染症									
基幹	細菌性髄膜炎									3
	無菌性髄膜炎			1				1		1
	マイコプラズマ肺炎		1	12				13	11	22
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			2				2	5	6
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)			26			10	36	101	14
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	4	5	11				20	9	22
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症			1				1		
	薬剤耐性緑膿菌症									1
計	106	455	809	210	171	396	2,147	9,328	2,284	
前月	328	2,423	3,281	960	632	1,704				
前年同月	165	443	937	210	126	403				
小児科定点数	2	7	11	3	2	5				

2016年4月

全国情報（4月4日～5月1日）

第14週（4月4日～）から第17週（～5月1日）までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国の4月の上位6疾患の合計は59.91で3月の4週間換算値128.72から半減したが、その主因は前月に比べて約1/5に減少したインフルエンザである。1位と2位が入れ替わったが、3位～6位は3月と同様だった。1位は感染性胃腸炎で23.66と、3月2位4週間換算値23.28から微増した。2位はインフルエンザで18.81（同1位87.75）、3位がA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で9.19（同3位9.99）、4位が流行性耳下腺炎で3.17（同4位3.31）でいずれも減少した。5位がロタウイルス胃腸炎で2.64（同5位2.34）、6位は流行性角結膜炎で2.44（同6位2.05）とともにわずかに増加した。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	14週	15週	16週	17週	計
1	感染性胃腸炎		5.35	5.79	6.54	5.98	23.66
2	インフルエンザ		7.02	5.06	4.22	2.51	18.81
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.85	2.30	2.63	2.41	9.19
4	流行性耳下腺炎		0.81	0.82	0.74	0.80	3.17
5	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		0.68	0.72	0.63	0.61	2.64
6	流行性角結膜炎		0.57	0.55	0.64	0.68	2.44

県内情報

全国との対比（定点当たり報告数）高知県の4月の上位6疾患の合計は57.14で3月の4週間換算値176.35と比較して減少し、全国よりも少なかった（表2）。1位はインフルエンザで21.03と3月の4週換算値126.99と比べて1/6に減少したが全国よりも多かった。2位は感染性胃腸炎で19.30（3月2位24.72）、3位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で8.06（同4位9.52）、4位はロタウイルス胃腸炎で4.51（同3位10.11）、5位はRSウイルス感染症で2.27（同5位3.36）といずれも減少し、6位は流行性耳下腺炎で1.97（同6位1.65）と増加した。感染性胃腸炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、流行性耳下腺炎は全国よりも少なく、ロタウイルス胃腸炎とRSウイルス感染症は全国よりも多かった。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	14週	15週	16週	17週	計
1	インフルエンザ		10.71	5.23	3.38	1.71	21.03
2	感染性胃腸炎		5.20	4.50	4.87	4.73	19.30
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.30	2.73	2.00	2.03	8.06
4	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		1.63	1.50	0.63	0.75	4.51
5	RSウイルス感染症		0.50	0.97	0.33	0.47	2.27
6	流行性耳下腺炎		0.33	0.47	0.47	0.70	1.97

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 1009名（3月 7,619名）。2015/16シーズンは、11月にはじめてまとまった数が報告され、施設内流行も報告されたが、12月は増加せず経過した。1月は報告数が増え、本格的な流行期を迎えたものの、全国集計で1月としては過去10年間で2007年に次ぐ少なさであった。また、高知県からの1月の報告数は全国で最低で、流行開始が他県よりも遅れた。2月になって一気に流行が拡大した。過去10年間でみると、2月としては2012年に次いで2番目に多く、3月としては最多の報告数となった。4月は減少に転じ、ようやく流行の終息がみえてきた。

ウイルスはB/Yamagataが6件、AH1pdm09が2件、B/Victoriaが1件検出された。A型はAH1pdm09が優位な流行を示しており、ほぼ同時にB型の流行も始まったことが今季の特徴の1つである。県下全域から多数の報告があり、特に幡多、高知市、須崎からの報告が多い。広い年齢層の報告がなされたが、中でも5～9歳、1～4歳、10～14歳の順に多い。

2) 咽頭結膜熱

報告数 16名（3月 12名）。すべて小児例であり、幡多、高知市、安芸、中央東の順に多く報告された。咽頭結膜熱の患者からウイルスは検出されなかった。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 242名（3月 357名）。2014年10月以降多く報告されており、2015年8月は減少し例年並みの報告数になっていたが、9月以降に再び増加して、12月以降は2016年3月に至るまで、同時期として過去10年間では最大で、4月は2015年に次ぐ2番目と、大きな流行が続いている。県下全域から報告されており、とくに高知市、幡多、中央西、中央東の順に報告が多い。1～4歳が73名、5～9歳が125名と多かった。4月に細菌は検出され

- ていない。
- 4) 感染性胃腸炎
報告数 579名 (3月 927名)。
4月としては過去10年間で最も少ない報告数である。県下全域から報告されたが、とくに須崎、中央西、中央東、高知市で多い。ロタウイルスは2011年11月に任意ワクチンが導入されて2013年11月からサーベイランス調査が開始された。ロタウイルス胃腸炎は、3月に増加し、2013年11月以降では最多の患者数(101名)が報告されたが、4月は、36名と減少に転じた。Norovirus GⅡが3件、Sapovirusが2件検出された。
- 5) 水痘
報告数 13名(3月 34名)。須崎、中央西、幡多、高知市の順に報告が多い。4月の報告数として過去10年間で最も少なく、ワクチンの定期接種化の効果と思われる。
- 6) 手足口病
報告数 4名(3月 0名)。高知市、中央東から報告された。例年、初夏に向けて流行するので、今後の動向が注目される。
- 7) 伝染性紅斑
報告数 22名(3月 26名)。2015年以降、全国的に例年に比べて多い傾向で推移した。高知県からの報告は全国に比べて少ない。幡多以外から報告があり、安芸、中央西、中央東で多く報告された。ウイルスは検出されていない。
- 8) 突発性発疹
報告数 42名(3月 30名)。想定内の変動で推移している。
- 9) 百日咳
報告数 8名(3月 7名)。須崎、高知市、中

- 中央東から報告された。重症化する6カ月以下の乳児が1例報告された。細菌はBordetella pertussisが4件検出された。
- 10) ヘルパンギーナ
報告数 8名(3月 1名)。例年6-7月から流行がみられ、今後の増加が見込まれる。
- 11) 流行性耳下腺炎
報告数 59名(3月 62名)。県下全域から報告があり、須崎、中央西、高知市、幡多の順に多かった。
- 12) RSウイルス感染症
報告数 68名(3月 126名)。3月に比べて減少したものの、同時期としては過去10年間で最も多い報告数だった。須崎以外の全域から報告され、幡多、高知市、中央東で多かった。
- 13) 流行性角結膜炎
報告数 2名(3月 0名)。ここ3年間は一桁で推移している。
- 14) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)
報告数 13名(3月 11名)。高知市、中央東から報告があった。

基幹定点の月報疾患

- 15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
報告数 20名(3月 9名)。2015年12月から増加が続き、3月は減少したが再び増加に転じた。
- 16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
報告数 1名(3月 0名)。2014年は計4例、2015年は1例のみであった。本年初の例(70歳以上)が高知市から報告された。

高知県感染症発生動向調査部会
前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患（平成28年4月）

類型	病名	報告年																												総計																																
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20		21	22	23	24	25	26	27	28																								
2	結核																													131	149	163	156	192	132	128	138	129	39	1,357																						
	計																													131	149	163	156	192	132	128	138	129	39	1,357																						
3	コレラ	1																												1																													3			
	バラチフス	2																												2																													2			
	細菌性赤痢	11	4	2	3		1	2	2																					25																																
	腸チフス	1																												1																													3			
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2											157																																	
計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	0											190																																	
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1											3					3	1	32																																		
	Q熱	1	1	2																												1																													5	
	オウム病																												1																													2				
	つつが虫病	9		5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	3											70																																		
	マラリア																												2																													3				
	レジオネラ症	2		1		1																					9	7	3	6	9	2	4	4											48																	
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	7	3	6	7	15	4	1	7	4	4											134																														
	日本脳炎	1	1	1																												1																													6	
	レプトスピラ症																												1																													8				
	E型肝炎																												1																													2				
	デング熱																												1																													7				
	重症熱性血小板減少症候群																												3	11	3	4																									21					
	計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	27	15	9											338																																
5	アメーバ赤痢	2		2	2	1	2	2	2	1											3	2	2	3					7	3	34																															
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3					3					1					54																																		
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症																												7	19	6																									32						
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4	4		3	3											6			1	3					2					28																													
	ジアルジア症	1		2	1																												1																													7
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症																												1																													3				
	急性脳炎																												1	1	2	5	1	3	1					1	1	1					17															
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症																												1	1	3					1	3					1					11															
	後天性免疫不全症候群	2	2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	5					55																																							
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																												1	5	3																									9						
	侵襲性肺炎球菌感染症																												1	4	12	10																									27					
	水痘（入院例に限る）																												2																													2				
	髄膜炎菌性髄膜炎																												1																													1				
	破傷風	3		2	2	1	1		1	2	3	1	1	1	1					4	3					26																																				
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	5											127																																
	麻疹																												5																													5				
	風しん																												1	1																									16							
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	31											454																																	
新型	新型インフルエンザ																													34																													34			
	計																													34																													34			
動物	鳥インフルエンザ																												1																													1				
	計																												1																													1				
	総計	61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	210	210	79											2,374																																

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

4月はウイルス57件，細菌21件の搬入があり，そのうちウイルス15件，細菌6件の病原体を検出した。また，平成28年3月に搬入された検体でウイルス16件を検出した。検出ウイルスの内訳は，Coxsackievirus A14 1件，Cytomegalovirus 2件，Human herpes virus 6 1件，Human herpes virus 7 2件，Influenza virus A H1pdm09 3件，Influenza virus B/Victoria 1件，Influenza virus B/Yamagata 8件，Norovirus GII NT 4件，Respiratory syncytial virus B 1件，Rhinovirus 3件，Rotavirus group A G2 2件，Sapovirus genogroup unknown 3件，また，細菌の内訳は，*Bordetella pertussis* 5件，*Mycoplasma pneumoniae* 1件であった。

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	7ヶ月	女	急性細気管支炎	38℃，咳漱，下気道炎，	ぬぐい液	3. 7	Rhinovirus
2	1	男	インフルエンザ，熱性けいれん，中耳炎	40℃，咳漱，気管支炎，発疹，	鼻腔ぬぐい	3. 10	Human herpes virus 6
			急性気管支炎，突発性発疹症				
3	2	女	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	3. 17	Sapovirus genogroup unknown
4	4	女	不明発疹症	発疹，	ぬぐい液	3. 17	Human herpes virus 7
5	1	男	R S V細気管支炎	38℃，咳漱，下気道炎，	ぬぐい液	3. 18	Respiratory syncytial virus B
6	15	男	急性気管支炎	40℃，	ぬぐい液	3. 18	<i>Bordetella pertussis</i>
7	1	女	不明熱	40℃，咳漱，	ぬぐい液	3. 22	Rhinovirus
8	10ヶ月	女	不明発疹症	38℃，咳漱，発疹，	ぬぐい液	3. 22	Cytomegalovirus
9	1	女	感染性胃腸炎	39℃，嘔吐，嘔気，	ふん便	3. 23	Rotavirus group A G2
10	38	女	インフルエンザ	咳漱，関節痛，	ぬぐい液	3. 24	Influenza virus B/Yamagata
11	8	男	急性弛緩性まひ（AFP）	中枢神経系障害，	うがい液	3. 24	Rhinovirus
12	2	女	-	40℃，発疹，	鼻咽頭	3. 25	Cytomegalovirus
13	39	女	インフルエンザ	39℃，咳漱，関節痛，筋肉痛，	ぬぐい液	3. 25	Influenza virus A H1pdm09
14	2	女	感染性胃腸炎	38℃，嘔吐，嘔気，咳漱，	ふん便	3. 25	Rotavirus group A G2
15	11	男	不明発疹症	発疹，	ぬぐい液	3. 26	Human herpes virus 7
16	10	男	インフルエンザ	40℃，	ぬぐい液	3. 28	Influenza virus B/Yamagata
17	4	男	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	3. 28	Norovirus GII NT
18	9	女	インフルエンザ	38℃，咳漱，気管支炎，	ぬぐい液	3. 29	Influenza virus B/Yamagata
19	52	男	インフルエンザ	39℃，咳漱，関節痛，	ぬぐい液	3. 29	Influenza virus B/Yamagata
20	5	男	インフルエンザ	40℃，筋肉痛，	ぬぐい液	3. 30	Influenza virus B/Yamagata
21	4	女	感染性胃腸炎	38℃，下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	3. 30	Norovirus GII NT
22	2ヶ月	女	百日咳	咳漱，	ぬぐい液	4. 2	<i>Bordetella pertussis</i>
23	64	女	インフルエンザ	38℃，咳漱，関節痛，	ぬぐい液	4. 5	Influenza virus A H1pdm09
24	61	女	インフルエンザ	38℃，咳漱，	ぬぐい液	4. 5	Influenza virus A H1pdm09
25	2ヶ月	男	百日咳	咳漱，	ぬぐい液	4. 5	<i>Bordetella pertussis</i>
26	4	男	インフルエンザ	40℃，	ぬぐい液	4. 6	Influenza virus B/Yamagata
27	9	女	百日咳 疑い	咳漱，	ぬぐい液	4. 7	<i>Bordetella pertussis</i>
28	8	女	インフルエンザ	39℃，嘔吐，嘔気，上気道炎，	ぬぐい液	4. 11	Influenza virus B/Yamagata
29	8	女	感染性胃腸炎	36℃，嘔吐，嘔気，腹痛，	ふん便	4. 11	Sapovirus genogroup unknown
30	59	女	インフルエンザ	38℃，咳漱，	ぬぐい液	4. 12	Influenza virus B/Yamagata
31	4	男	感染性胃腸炎	嘔吐，嘔気，	ふん便	4. 12	Norovirus GII NT
32	1	男	手足口病	手足口病症状，	ぬぐい液	4. 12	Coxsackievirus A14
33	8	女	感染性胃腸炎	下痢，腹痛，	ふん便	4. 14	Sapovirus genogroup unknown
34	12	女	百日咳	37℃，咳漱，	ぬぐい液	4. 17	<i>Bordetella pertussis</i>
35	12	女	インフルエンザ	39℃，咳漱，上気道炎，	ぬぐい液	4. 18	Influenza virus B/Victoria
36	11	女	マイコプラズマ感染疑い	39℃，肺炎，	ぬぐい液	4. 19	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
37	3	男	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	4. 19	Norovirus GII NT

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2016年				2016年 総計
		1	2	3	4	
A群溶血性 レン球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes T1</i>	1				1
	<i>Streptococcus pyogenes T4</i>	1				1
	Epstein-Barr virus	1				1
	計	3				3
インフルエンザ	Influenza virus A H3 NT	1				1
	Influenza virus A H1pdm09	7	45	10	2	64
	Influenza virus B /Victoria	2	3		1	6
	Influenza virus B Yamagata	1	12	8	6	27
	Human herpes virus 6			1		1
計	11	60	19	9	99	
咽頭結膜熱	Human herpes virus 6		1			1
	Human herpes virus 7		1			1
	計		2			2
感染性胃腸炎	Adenovirus 2			3		3
	Astrovirus NT			1		1
	Coxsackievirus A9			1		1
	Epstein-Barr virus			1		1
	Norovirus GII NT	8	1	1	3	13
	Rotavirus group A G2			4		4
	Rotavirus group AG3	1				1
	Rotavirus group AG8	1				1
	Rotavirus group A NT		4	2		6
	Sapovirus genogroup unknown			2	2	4
	<i>Enteropathogenic Escherichia coli</i>	1				1
計	11	5	15	5	36	
ヘルパンギーナ	Coxsackievirus A10		2			2
	計		2			2
手足口病	Coxsackievirus A14				1	1
	計				1	1
伝染性紅斑	human parvovirus B19 virus	1	1			2
	Respiratory syncytial virus A		1			1
	計	1	2			3
百日咳	<i>Bordetella parapertussis</i>		1			1
	<i>Bordetella pertussis</i>	2	5	4	4	15
	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>		1			1
	計	2	7	4	4	17
流行性耳下腺炎	Epstein-Barr virus					
	計					
無菌性髄膜炎	Human herpes virus 7	1				1
	計	1				1
マイコプラズマ肺炎	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>		1		1	2
	計		1		1	2
その他	Adenovirus 2	1				1
	Coxsackievirus A14	1				1
	Cytomegalovirus	4		4		8
	Epstein-Barr virus	3				3
	Herpes simplex virus 1	1				1
	Human herpes virus 6	2	4			6
	Human herpes virus 7	3	1	2		6
	Respiratory syncytial virus A	2	4			6
	Respiratory syncytial virus B	1		2		3
	Rhinovirus	2	1	3		6
	Rotavirus group A G2			1		1
	<i>Bordetella pertussis</i>				1	1
	計	20	10	12	1	43
総計	49	89	50	21	209	

高知県感染症情報月報 2016年5月

(65定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ	4	7	26	5	13	5	60	1,009	54
小児科	咽頭結膜熱		5	16	3		7	31	16	15
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	47	64	40	4	40	197	242	259
	感染性胃腸炎	48	151	185	39	13	46	482	579	495
	水痘		2	10	4	8	10	34	13	51
	手足口病		4	8				12	4	191
	伝染性紅斑	2	4	22	4	1	6	39	22	8
	突発性発疹	2	9	21	3	1	4	40	42	64
	百日咳		1	4	1	1	2	9	8	1
	ヘルパンギーナ		1	8	2		5	16	8	11
	流行性耳下腺炎	1	2	19	16	10	24	72	59	73
	RSウイルス感染症		5	10			6	21	68	22
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			6				6	2	
STD	性器クラミジア感染症								2	1
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ									
	淋菌感染症									
基幹	細菌性髄膜炎		1					1		2
	無菌性髄膜炎			3				3	1	3
	マイコプラズマ肺炎		3	29			3	35	13	21
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			1				1	2	7
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)		2	11				13	36	19
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1	2	21				24	20	16
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症								1	
	薬剤耐性緑膿菌感染症									
計		60	246	464	117	51	158	1,096	2,147	1,313
前月		106	455	809	210	171	396			
前年同月		86	219	543	104	61	300			
小児科定点数		2	7	11	3	2	5			

2016年5月

全国情報（5月2日～5月29日）

第18週（5月2日～）から第21週（～5月29日）までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。

全国の5月の上位6疾患の合計は46.04で4月の59.91から3/4に減少したが、その主因はインフルエンザの減少である。1位は感染性胃腸炎で22.70と4月1位23.66からわずかに減少した。2位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で10.01（4月3位9.19）、3位は流行性耳下腺炎で3.51（同4位3.17）といずれも微増した。4位がインフルエンザで2.69（同2位18.81）と1/7に減少し終息に向かっている。5位が流行性角結膜炎で2.65（同6位2.44）と微増、6位は同率で2疾患がならび、咽頭結膜熱は2.24（同11位1.25）と増加、突発性発疹が2.24（同7位2.04）と微増した。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	18週	19週	20週	21週	計
1	感染性胃腸炎		4.37	5.88	6.16	6.29	22.70
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.65	2.56	2.83	2.97	10.01
3	流行性耳下腺炎		0.76	0.95	0.95	0.85	3.51
4	インフルエンザ		1.24	0.68	0.48	0.29	2.69
5	流行性角結膜炎		0.59	0.75	0.66	0.65	2.65
6	咽頭結膜熱		0.41	0.54	0.56	0.73	2.24
	突発性発疹		0.44	0.57	0.58	0.65	2.24

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の5月の上位6疾患の合計は33.04で4月の57.14と比較して減少し、全国よりも少なかった（表2）。

1位は感染性胃腸炎で16.06と4月の2位19.30と比べて減少し、全国よりも少なかった。2位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で6.57（4月3位8.06）と減少し、全国よりも少なかった。3位はマイコプラズマ肺炎で4.38（同7位1.63）と約3倍に増加し全国よりも多かった。4位は流行性耳下腺炎で2.40（同6位1.97）と微増、5位が流行性角結膜炎で2.00（同10位0.67）と3倍に増加したが、いずれも全国よりも少なかった。6位はロタウイルス胃腸炎で1.63（同4位4.51）と減少したが、全国よりもわずかに多かった。インフルエンザは9位1.25（同1位21.03）と急速に減少しており、全国よりも少なかった。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	18週	19週	20週	21週	計
1	感染性胃腸炎		3.40	3.83	3.90	4.93	16.06
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.47	1.83	1.40	1.87	6.57
3	マイコプラズマ肺炎		0.63	1.00	1.00	1.75	4.38
4	流行性耳下腺炎		0.70	0.53	0.57	0.60	2.40
5	流行性角結膜炎		0.33	0.67	0.67	0.33	2.00
6	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		0.38	0.50	0.50	0.25	1.63

2. 全体の傾向

麻疹、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 60名（4月 1,009名）。2015/16シーズンは、11月に初めてまとまった数が報告され、施設内流行も報告されたが、12月は増加せず経過した。1月は報告数が増えたものの、全国集計で1月としては過去10年間で2007年に次ぐ少なさであった。とりわけ、高知県からの1月の報告数は全国で最も少なく、遅れて流行を迎えた。2月になって一気に流行が拡大した。過去10年間でみると、2月としては2012年に次いで2番目に多く、3月としては最多の報告数となった。4月は減少に転じ、5月は激減し終息しそうである。今季は、A型はAH1pdm09が優位な流行を示しており、ほぼ同時にB型の流行も始まったことが今季の特徴の1つである。

ウイルスはB/Yamagata、B/Victoriaがそれぞれ1件検出された。県下全域から多数の報告があり、特に須崎、高知市、中央西、安芸からの報告が多い。広い年齢層の報告がなされたが、中でも5～9歳、1～4歳、10～14歳の順に多い。

2) 咽頭結膜熱

報告数 31名（4月 16名）。すべて未成年例であり、幡多、高知市、中央西、中央東から表記の順に多く報告された。咽頭結膜熱の患者を含めアデノウイルスは検出されなかった。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 197名（4月 242名）。2014年10月以降多く報告されており、2015年8月は減少し例年並みの報告数になっていたが、9月以降に再び増加して、12月以降は2016年3月に至るまで、同時期として過去10年間では最大で、4月は2015年に次ぐ2番目となったが、5月はほぼ平年並みになり、ようやく鎮静化の傾向かもしれない。県下全域から報告されており、特に中央西、幡多、中央東、高知市の順に報告が多い。1～4歳が52名、5～9歳が102名と多かった。細菌はT4が2件、

TB3264が1件検出された。

4) 感染性胃腸炎

報告数 482名(4月579名)。5月としては報告数は多くなかった。県下全域から報告されたが、特に安芸、中央東、高知市、中央西で多い。ロタウイルスは2011年11月に任意ワクチンが導入されて2013年11月からサーベイランス調査が開始された。ロタウイルス胃腸炎は、3月に増加し、2013年11月以降では最多の患者数(101名)が報告されたが、4月は36名、5月は13名と減少した。ウイルスはSapovirusが1件検出された。

5) 水痘

報告数 34名(4月 13名)。安芸以外の全域から報告があり、須崎、幡多、中央西の順に報告が多い。5月の報告数として過去10年間でもっとも少なく、ワクチンの定期接種化の効果と思われる。

6) 手足口病

報告数 12名(4月 4名)。高知市、中央東から報告された。例年、初夏に向けて流行するので、今後の動向が注目される。

7) 伝染性紅斑

報告数 39名(4月 22名)。2015年以降、全国的に例年に比べて多い傾向で推移している。高知県からの報告は全国に比べて少ない。県下全域から報告があり、高知市、中央西、幡多、安芸で多く報告された。1~4歳が20名、5~9歳が17名報告された。ウイルスは検出されていない。

8) 突発性発疹

報告数 40名(4月 42名)。想定内の変動で推移している。

9) 百日咳

報告数 9名(4月 8名)。須崎、幡多、高知市、中央西、中央東から表記の順に多く報告された。

重症化する6カ月以下の乳児が1例報告された。細菌はBordetella pertussisが5件検出された。

10) ヘルパンギーナ

報告数 16名(4月 8名)。例年6-7月から流行がみられ、今後の増加が見込まれる。ウイルスは検出されていない。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 72名(4月 59名)。ほぼ例年並みの報告数である。県下全域から報告があり、中央西、須崎、幡多の順に多かった。ムンプスウイルスが1件検出された。

12) RSウイルス感染症

報告数 21名(4月 68名)。4月に比べて減少したものの、同時期としては過去10年間で2015年に次いで多い報告数だった。幡多、高知市、中央東で報告され、表記の順に多かった。

13) 流行性角結膜炎

報告数 6名(4月 2名)。ここ3年間は一桁で推移している。

14) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 35名(4月 13名)。高知市、中央東、幡多から報告があった。

基幹定点の月報疾患

15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 24名(4月 20名)。2015年12月から増加が続き、3月は減少したが4月から再び増加に転じている。

16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名(4月 1名)。2014年は計4例、2015年は1例のみであった。2016年は1例報告されている。

高知県感染症発生動向調査部会
前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患（平成28年5月）

類型	病名	報告年																												総計																	
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28																												
2	結核																		131	149	163	156	192	132	128	138	129	46	1,364																		
	計																		131	149	163	156	192	132	128	138	129	46	1,364																		
3	コレラ	1																		1											3																
	バラチフス	2																												2																	
	細菌性赤痢	11	4	2				3	1	2	2											25																									
	腸チフス	1																		1											3																
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2			157																										
計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	0			190																										
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1											3	1	32																								
	Q熱	1	1	2																		5																									
	オウム病			1				1																		2																					
	つつが虫病			9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	3				70																									
	マラリア																		2											3																	
	レジオネラ症			2				1				9	7	3	6	9	2	4	4			48																									
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	7	3	6	9	4	1	7	4	5	135																										
	日本脳炎	1	1	1																		6																									
	レプトスピラ症																		1			4	2	1				8																			
	E型肝炎																		1											2																	
	デング熱																		1			3	2	1			7																				
	重症熱性血小板減少症候群																				3	11	3	4			21																				
	計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	27	15	10			339																									
5	アメーバ赤痢			2	2	2	1	2	2	2	1				3	2	2	3	7	3	34																										
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3				3			1	54																										
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症																		7	19	6			32																							
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4				4	3	3				6			1	3			28																										
	ジアルジア症			1	2	1																		7																							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症				1																		3																								
	急性脳炎																		1	1	2	5	1	3	1			1	1	1	17																
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症				1	1	1																		11																						
	後天性免疫不全症候群	2			2	2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	5	5	55																										
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																		1	5	3			9																							
	侵襲性肺炎球菌感染症																		1	4	12	11			28																						
	水痘（入院例に限る）																				2	1			3																						
	髄膜炎菌性髄膜炎																		1											1																	
	破傷風			3	2	2	1			1	1	2	3	1	1	1	1			4	3	2	28																								
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	5			127																									
	麻疹																		5											5																	
	風しん																		1	1											16																
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	35			458																										
新型	新型インフルエンザ																													34	34																
動物	計																													34	34																
	鳥インフルエンザ																													1	1																
計																													1	1																	
総計																													61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	210	210	91	2,386

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

5月はウイルス45件，細菌17件の搬入があり，そのうちウイルス11件，細菌8件の病原体を検出した．また，平成28年4月に搬入された検体でウイルス10件，細菌1件を検出した．検出ウイルスの内訳は，Cytomegalovirus 1件，Echovirus 18 1件，Human herpes virus 6 3件，Human herpes virus 7 2件，Human metapneumovirus 1件，Influenza virus B/Victoria 1件，Influenza virus B/Yamagata 4件，Mumps virus 1件，Parainfluenza virus 3 1件，Rhinovirus 5件，Sapovirus genogroup unknown 1件，また，細菌の内訳は*Bordetella pertussis* 5件，*Enteroaggregative Escherichia coli O126 : H27 aggR* 1件，*Streptococcus pyogenes T4* 2件，*Streptococcus pyogenes TB3264* 1件であった．

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	3ヶ月	男	下気道炎	38℃，咳漱，下気道炎，	鼻咽腔，ぬぐい液	4. 5	Rhinovirus
2	3ヶ月	女	ジアンノッティ病の疑い	39℃，発疹，	ふん便	4.12	Rhinovirus
3	4ヶ月	女	感染性胃腸炎	嘔吐，	ふん便	4.18	Rhinovirus <i>Enteroaggregative Escherichia coli O126 : H27 aggR</i>
4	7	女	不明発疹症	37℃，発疹，	ぬぐい液	4.18	Human herpes virus 7
5	1	男	不明発疹症	40℃，下痢，嘔吐，嘔気，発疹，	ぬぐい液	4.19	Human herpes virus 6
6	51	男	インフルエンザ	38℃，	ぬぐい液	4.20	Influenza virus B/Yamagata
7	15	男	インフルエンザ	38℃，咳漱，上気道炎，	ぬぐい液	4.21	Influenza virus B/Yamagata
8	1ヶ月	男	-	39℃，	ぬぐい液	4.22	Echovirus 18
9	14	女	インフルエンザ	39℃，上気道炎，	ぬぐい液	4.22	Influenza virus B/Yamagata
10	1	男	不明発疹症	38℃，下痢，嘔吐，嘔気，発疹，	ぬぐい液	4.26	Cytomegalovirus
11	2	女	感染性胃腸炎	嘔吐，嘔気，腹痛，	ふん便	4.27	Sapovirus genogroup unknown
12	49	女	インフルエンザ	38℃，咳漱，関節痛，	ぬぐい液	4.27	Influenza virus B/Yamagata
13	6	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃，上気道炎，	ぬぐい液	4.30	<i>Streptococcus pyogenes T4</i>
14	5	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃，上気道炎，	ぬぐい液	5. 2	<i>Streptococcus pyogenes TB3264</i>
15	8	女	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃，上気道炎，	ぬぐい液	5. 2	<i>Streptococcus pyogenes T4</i>
16	12	男	百日咳	咳漱，	髄液	5. 2	<i>Bordetella pertussis</i>
17	9ヶ月	女	RSウイルス感染症，突発性発しん	40℃，発疹，	ふん便，鼻汁	5. 7	Human herpes virus 6
18	1	女	突発性発しん	41℃，咳漱，発疹，	ぬぐい液	5. 9	Human herpes virus 6
19	6	男	百日咳	咳漱，	鼻腔ぬぐい液	5. 9	<i>Bordetella pertussis</i>
20	5	女	流行性耳下腺炎	-	ぬぐい液	5.12	Mumps virus
21	4	男	インフルエンザ	40℃，上気道炎，	ぬぐい液	5.13	Influenza virus B/Victoria
22	7	女	百日咳	咳漱，	ぬぐい液	5.13	<i>Bordetella pertussis</i>
23	12	女	百日咳	咳漱，	ぬぐい液	5.14	<i>Bordetella pertussis</i>
24	1ヶ月	女	急性気管支炎	40℃，咳漱，気管支炎，	鼻腔ぬぐい液	5.16	Parainfluenza virus 3
25	1	男	急性気管支炎	39℃，咳漱，気管支炎，	ぬぐい液	5.18	Rhinovirus
26	6	男	-	38℃，発疹，	ぬぐい液	5.19	Human herpes virus 7
27	1	男	急性肺炎	40℃，肺炎，	ぬぐい液	5.20	Human metapneumovirus
28	9	男	百日咳	-	ぬぐい液	5.20	<i>Bordetella pertussis</i>
29	5	男	流行性筋痛症	咳漱，	ぬぐい液	5.23	Rhinovirus

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2016年					2016年 総計
		1	2	3	4	5	
A群溶血性 レン球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1	1					1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T4	1				2	3
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T3264					1	1
	Epstein-Barr virus	1					1
	計	3				3	6
インフルエンザ	Influenza virus A H3 NT	1					1
	Influenza virus A H1pdm09	7	45	10	2		64
	Influenza virus B /Victoria	2	3		1	1	7
	Influenza virus B Yamagata	1	12	8	9	1	31
	Human herpes virus 6			1			1
	計	11	60	19	12	2	104
咽頭結膜熱	Human herpes virus 6		1				1
	Human herpes virus 7		1				1
	計		2				2
感染性胃腸炎	Adenovirus 2			3			3
	Astrovirus NT			1			1
	Coxsackievirus A9			1			1
	Epstein-Barr virus			1			1
	Norovirus GII NT	8	1	1	3		13
	Rotavirus group A G2			4			4
	Rotavirus group AG3	1					1
	Rotavirus group AG8	1					1
	Rotavirus group A NT		4	2			6
	Rhinovirus				1		1
	Sapovirus genogroup unknown			2	2	1	5
	Enteropathogenic <i>Escherichia coli</i>	1					1
	<i>Enteropathogenic Escherichia coli</i> O126 : H27 aggR				1		1
	計	11	5	15	7	1	39
ヘルパンギーナ	Coxsackievirus A10		2				2
	計		2				2
手足口病	Coxsackievirus A14				1		1
	計				1		1
伝染性紅斑	human parvovirus B19 virus	1	1				2
	Respiratory syncytial virus A		1				1
	計	1	2				3
百日咳	<i>Bordetella parapertussis</i>		1				1
	<i>Bordetella pertussis</i>	2	5	4	4	5	20
	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>		1				1
	計	2	7	4	4	5	22
流行性耳下腺炎	Mumps virus					1	1
	計					1	1
無菌性髄膜炎	Human herpes virus 7	1					1
	計	1					1
マイコプラズマ肺炎	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>		1		1		2
	計		1		1		2
RSウイルス感染症	計						
水痘	計						
突発性発疹	Human herpes virus 6					2	2
	計					2	2
その他	Adenovirus 2	1					1
	Coxsackievirus A14	1					1
	Coxsackievirus A16						
	Cytomegalovirus	4		4	1		9
	Echovirus 18				1		1
	Epstein-Barr virus	3					3
	Herpes simplex virus 1	1					1
	Human herpes virus 6	2	4		1		7
	Human herpes virus 7	3	1	2	1	1	8
	Human metapneumovirus					1	1
	Parainfluenza virus 3					1	1
	Respiratory syncytial virus A	2	4				6
	Respiratory syncytial virus B	1		2			3
	Rhinovirus	2	1	3	2	2	10
	Rotavirus group A G2			1			1
	<i>Bordetella pertussis</i>				1		1
計	20	10	12	7	5	54	
総計		49	89	50	32	19	239

高知県感染症情報月報 2016年6月

(65定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ			1				1	60	55
小児科	咽頭結膜熱		7	21	4	1	15	48	31	24
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		49	115	40		43	247	197	332
	感染性胃腸炎	38	152	200	22	4	55	471	482	573
	水痘	1	8	12	9		7	37	34	38
	手足口病	2	39	65	1	3	5	115	12	183
	伝染性紅斑	5	8	28	3		2	46	39	9
	突発性発疹	1	20	32	9	2	5	69	40	70
	百日咳		6	6	1	1	1	15	9	1
	ヘルパンギーナ	2	53	76	18	7	20	176	16	19
	流行性耳下腺炎		10	33	48	9	41	141	72	40
	RSウイルス感染症			8			1	9	21	23
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎								6	1
STD	性器クラミジア感染症			4				4		2
	性器ヘルペスウイルス感染症									1
	尖圭コンジローマ									
	淋菌感染症									1
基幹	細菌性髄膜炎			1				1	1	
	無菌性髄膜炎			6			3	9	3	
	マイコプラズマ肺炎		1	13			5	19	35	24
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			1				1	1	6
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)						1	1	13	12
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	2	1	8				11	24	24
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									
	薬剤耐性緑膿菌感染症									
計		51	354	630	155	27	204	1,421	1,096	1,438
前月		60	246	464	117	51	158			
前年同月		72	254	632	164	76	240			
小児科定点数		2	7	11	3	2	5			

2016年6月

全国情報（5月30日～7月3日）

第22週（5月30日～）から第26週（～7月3日）までの5週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。

全国の6月の上位6疾患の合計は4週間に換算すると48.75で5月の46.04に比べて微増した。インフルエンザは流行が終息し、5月4位2.69から14位0.35に減少し、かわって毎初夏に流行するヘルパンギーナが増加して3位に浮上した。1位は感染性胃腸炎で4週間に換算すると22.75で5月1位22.70と比べ横ばいであった。2位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で11.46（5月2位10.01）と微増、3位はヘルパンギーナで4.48（同12位0.63）と前月から約7倍に増加した。4位が流行性耳下腺炎で4.24（同3位3.51）、5位は咽頭結膜熱で2.92（同6位2.24）、6位は流行性角結膜炎で2.90（同5位2.65）といずれもわずかに増加した。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	22週	23週	24週	25週	26週	計
1	感染性胃腸炎		5.95	6.27	5.82	5.42	4.98	28.44
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.92	3.15	2.82	2.75	2.68	14.32
3	ヘルパンギーナ		0.42	0.53	0.91	1.48	2.26	5.60
4	流行性耳下腺炎		1.11	0.94	1.06	1.13	1.06	5.30
5	咽頭結膜熱		0.75	0.79	0.72	0.70	0.69	3.65
6	流行性角結膜炎		0.66	0.67	0.74	0.81	0.75	3.63

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の6月の上位6疾患の合計は40.73、4週間に換算すると32.58で5月の33.04と比べて横ばいで、全国よりも少なかった（表2）。初夏の感染症であるヘルパンギーナと手足口病が増加した。1位は感染性胃腸炎で4週間換算値が12.57と5月の16.06と比べて減少し、全国よりも少なかった。2位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で6.58（5月2位6.57）と横ばいで、全国よりも少なかった。3位がヘルパンギーナで4.70と前月の13位0.53から約9倍に増加し全国よりも多かった。4位は流行性耳下腺炎で3.75（同4位2.40）と増加したが全国よりも少なかった。5位は手足口病で3.07（同14位0.40）と約8倍に増加し、全国よりも多かった。6位はマイコプラズマ肺炎で1.91（同3位4.38）と減少し、全国よりも少なかった。

無菌性髄膜炎が県下で9例報告され（11位0.90）、全国よりも多かった。過去10年間で1カ月の報告数では最多だった。さらに幡多では7月に入って

無菌性髄膜炎の小児が目に見えて増加している。EchovirusやCoxsackievirusといった夏かぜを起こすエンテロウイルスが原因と推測されるが、久しぶりの大きな流行となる可能性があり、今後の動向が注目される。なお、無菌性髄膜炎の臨床診断の患者から6月にEchovirus 6が1件検出されている。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	22週	23週	24週	25週	26週	計
1	感染性胃腸炎		3.47	3.10	3.47	3.47	2.20	15.71
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.00	1.83	1.47	1.40	1.53	8.23
3	ヘルパンギーナ		0.37	0.37	0.80	1.33	3.00	5.87
4	流行性耳下腺炎		0.93	1.03	0.90	0.80	1.03	4.69
5	手足口病		0.57	0.37	0.57	1.03	1.30	3.84
6	マイコプラズマ肺炎		0.50	0.50	0.38	0.63	0.38	2.39

2. 全体の傾向

麻疹、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 1名（5月 60名）。3歳児の1例のみが報告された。流行は終息し、ウイルスは検出されていない。全国で6月の段階で報告数が多かったのは、毎年夏季に流行をみとめる沖縄県が筆頭で、福島県、鹿児島県、大分県、北海道の順である。

2) 咽頭結膜熱

報告数 48名（5月 31名）。1例を除いて未成年例であり、幡多、高知市、中央西、中央東、須崎から表記の順に多く報告された。咽頭結膜熱の患者からウイルスは検出されなかったが、ヘルパンギーナの臨床診断の患者からAdenovirus 41が検出された。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 247名（5月 197名）。2014年10月以降多い報告数が続いていて、2015年12月以降は2016年3月に至るまで、同時期として過去10年間では最大の流行となった。2016年5月はほぼ平年並みとなっていたものの、6月は再び増加し、10年間では2011年、2015年に次ぐ大きな報告数であった。特に中央西、高知市、幡多、中央東の順に報告が多い。1-4歳が68名、5-9歳が115名と多く、成人も18例含まれている。細菌は検出されていない。

4) 感染性胃腸炎

報告数 471名（5月 482名）。

県下全域から報告されたが、中央東、高知市、安芸で多い。ロタウイルスは2011年11月に任意ワクチンが導入されて2013年11月からサーベイランス調査が開始された。ロタウイルス胃腸炎は、3

月に増加し、2013年11月以降では最多の患者数(101名)が報告されたが、4月は36名、5月は13名、6月は1名と減少した。ウイルスはNorovirus GⅡが1件検出された。

5) 水痘

報告数 37名(5月 34名)。須崎以外の全域から報告があり、中央西、幡多、中央東、高知市の順に報告が多い。6月の報告数として過去10年間でもっとも少なく、ワクチンの定期接種化の効果と思われる。

6) 手足口病

報告数 115名(5月 12名)。初夏に流行が始まる感染症で、例年通りの立ち上がりといっている。県下全域から報告があり、高知市、中央東が多い。手足口病の患者からRhinovirusが1件検出されているが、重複感染もしくは紛れ込みと思われる。今季の流行ウイルス株が、脳炎を合併する頻度が高いことで注意を要するEnterovirus 71なのか、概して経過の良好なCoxsackievirus B16なのか、ウイルス検出の結果が注目される。

7) 伝染性紅斑

報告数 46名(5月 39名)。2015年以降、全国的に例年に比べて多い傾向で推移している。高知県からの報告は全国に比べて少ない。須崎以外の全域から報告があり、高知市、安芸、中央東、中央西で多く報告された。1～4歳が14名、5～9歳が29名報告された。ウイルスは検出されていない。

8) 突発性発疹

報告数 69名(5月 40名)。想定内の変動で推移している。

9) 百日咳

報告数 15名(5月 9名)。安芸以外の全域から報告があり、中央東、高知市、須崎から多く報告された。10代が10名、5～9歳が4名、成人が1名で、乳児例の報告がなかったのは幸いである。原因菌として、Bordetella pertussisが6件検出された。前月に比べ増加傾向にあり、乳児では4種混合ワクチンを遅れずに完了し予防に努めることが大切である。高知県では百日咳の入院例に限定した全数調査が2016年から開始されている(厚

生労働省班会議研究の拠点調査)。

10) ヘルパンギーナ

報告数 176名(5月 16名)。例年6～7月から流行がみられるので、通常の流行の立ち上がりといっている。県下全域から報告があり、特に中央東、高知市、中央西が多い。ウイルスはAdenovirus 41が1件検出されているが、本来のエンテロウイルスはまだ検出されていない。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 141名(5月 72名)。全国的にも増加が報告され注目されているが、高知県でも前月から倍増した。6月としては過去10年間で、2008年に次ぐ2番目の多い報告数であり動向が注目される。10代が13例、成人例も1例報告された。年長児例は、重症化し、髄膜炎や精巣炎の合併症が増える傾向があり、未罹患の者に対して、任意接種となるがムンプス生ワクチン接種が推奨される。安芸以外から報告があり、中央西、幡多、須崎、高知市で特に多かった。ウイルスは検出されていない。

12) RSウイルス感染症

報告数 9名(5月 21名)。高知市と幡多から報告された。年間で最も少ない時期を迎えた。

13) 流行性角結膜炎

報告数 0名(5月 6名)。ここ3年間は一桁で推移している。

14) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 19名(5月 35名)。幡多、高知市、中央東から報告があった。

基幹定点の月報疾患

15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 11名(5月 24名)。2015年12月から増加が続き、3月は減少したが4月から再び増加に転じている。

16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名(5月 0名)。2014年は計4例、2015年は1例のみであった。2016年は1例報告されている。

高知県感染症発生動向調査部会
前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患（平成28年6月）

類型	病名	報告年																											総計						
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28																
2	結核																		131	149	163	156	192	132	128	138	129	60	1,378						
	計																		131	149	163	156	192	132	128	138	129	60	1,378						
3	コレラ	1																		1											3				
	パラチフス	2																												2					
	細菌性赤痢	11	4	2			3	1	2	2																		25							
	腸チフス	1																		1											3				
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	1	158															
計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	1	191																
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1													3	1	32										
	Q熱	1	1	2																		5													
	オウム病			1	1																		2												
	つつが虫病			9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	3	70																
	マラリア																		2											3					
	レジオネラ症			2			1	1																		50									
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	7	3	6	9	2	4	4	2	137															
	日本脳炎	1	1	1																		6													
	レプトスピラ症																		1	4	2	1											8		
	E型肝炎																		1	1											2				
	デング熱																		1			3	2	1											7
	重症熱性血小板減少症候群																				3	11	3	4											21
計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	27	15	14	343																
5	アメーバ赤痢			2	2	2	1	2	2	2	1	3	2	2	3			7	3	1	35														
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3			3			1	54															
	カルバペム耐性腸内細菌感染症																		7	19	9											35			
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4			4	3	3	6			1	3																		28			
	ジアルジア症			1	2	1																		7											
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					1																		3											
	急性脳炎																		1	1	2	5	1	3	1			1	1	1	17				
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症					1	1																		12										
	後天性免疫不全症候群	2			2	2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	5	55															
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																		1	5	3											9			
	侵襲性肺炎球菌感染症																		1	4	12	12											29		
	水痘（入院例に限る）																				2	1											3		
	髄膜炎菌性髄膜炎																		1											1					
	破傷風			3	2	2	1	1	1	2	3	1	1	1	1			4	3	2	28														
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	7	129															
	麻疹																		5											5					
	風しん																		1	1											16				
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	43	466																
新型	新型インフルエンザ																												34						
	計																												34						
動物	鳥インフルエンザ																												1						
	計																												1						
	総計	61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	210	210	118	2,413															

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

6月はウイルス62件，細菌25件の搬入があり，そのうちウイルス13件，細菌7件の病原体を検出し，また，平成28年5月に搬入された検体でウイルス6件，細菌1件を検出した。検出ウイルスの内訳は，Adenovirus 41 1件，Coxsackievirus A4 1件，Echovirus 6 2件，Enterovirus NT 4件，Epstein-Barr virus 1件，Human herpes virus 6 2件，Human metapneumovirus 2件，Norovirus GII NT 1件，Parainfluenza virus 1 1件，Parainfluenza virus 3 2件，Rhinovirus 2件また，細菌の内訳は*Bordetella pertussis* 6件，*Mycoplasma pneumoniae* 1件，*Streptococcus pyogenes T1* 1件であった。

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	4	男	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	5.18	Norovirus GII NT
2	4	男	手足口病	発疹，口内炎，	ぬぐい液	5.19	Enterovirus NT
3	3	男	気管支炎	39℃，咳漱，気管支炎，	ぬぐい液	5.20	Human metapneumovirus
4	1	男	手足口病	37℃，水疱，発疹，	ぬぐい液	5.23	Enterovirus NT
5	10ヶ月	男	突発性発しん	40℃，発疹，	ぬぐい液	5.23	Coxsackievirus A4
6	1	男	上気道炎	40℃，咳漱，上気道炎，発疹， 肝機能，	鼻咽頭ぬぐい液	5.24	Rhinovirus
7	0ヶ月	男	上気道炎	39℃，上気道炎，	髄液	5.26	Enterovirus NT
8	10	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃，上気道炎，	ぬぐい液	5.26	<i>Streptococcus pyogenes T1</i>
9	13	男	百日咳	—	鼻腔ぬぐい液	5.26	<i>Bordetella pertussis</i>
10	3	男	上気道炎	39℃，上気道炎，	ぬぐい液	5.31	Echovirus 6
11	1	女	— 上気道炎	咳漱， 39℃，咳漱，上気道炎，発疹，	ぬぐい液	5.31	Enterovirus NT
12	6ヶ月	男	—	39℃，嘔吐，嘔気，咳漱，	ぬぐい液	6. 2	Parainfluenza virus 3
13	4	男	無菌性髄膜炎	嘔吐，嘔気，	髄液	6. 2	Echovirus 6
14	5	女	肺炎	40℃，嘔吐，嘔気，咳漱，肺炎， 肝機能，	ぬぐい液	6. 3	Human metapneumovirus
15	1	女	ヘルパンギーナ	39℃，嘔吐，嘔気，気管支炎， 中枢神経系障害，	ふん便	6. 3	Adenovirus 41
16	11ヶ月	男	上気道炎	咳漱，上気道炎，発疹，	喀痰	6. 6	Epstein-Barr virus
17	1ヶ月	女	感染性胃腸炎	39℃，嘔吐，嘔気，発疹，	ふん便	6. 7	Human herpes virus 6
18	6	男	百日咳 疑い	咳漱，	ぬぐい液	6. 7	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
19	1	男	—	38℃，咳漱，	ぬぐい液	6. 9	Parainfluenza virus 1
20	2	女	肺炎	40℃，肺炎，	ぬぐい液	6.10	Parainfluenza virus 3
21	4	男	手足口病疑い	38℃，咳漱，	ぬぐい液	6.14	Rhinovirus
22	10	女	百日咳	咳漱，	ぬぐい液	6.18	<i>Bordetella pertussis</i>
23	14	男	百日咳	咳漱，	ぬぐい液	6.20	<i>Bordetella pertussis</i>
24	1	男	不明発疹症	40℃，発疹，	ぬぐい液	6.20	Human herpes virus 6
25	8	男	百日咳	咳漱，	ぬぐい液	6.22	<i>Bordetella pertussis</i>
26	6	男	百日咳	—	ぬぐい液	6.24	<i>Bordetella pertussis</i>
27	12	女	百日咳	咳漱，	ぬぐい液	6.25	<i>Bordetella pertussis</i>

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2016年						2016年 総計
		1	2	3	4	5	6	
A 群溶血性 レン球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1	1				1		2
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T4	1				2		3
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T3264					1		1
	Epstein-Barr virus	1						1
	計	3				4		7
インフルエンザ	Influenza virus A H3 NT	1						1
	Influenza virus A H1pdm09	7	45	10	2			64
	Influenza virus B /Victoria	2	3		1	1		7
	Influenza virus B Yamagata	1	12	8	9	1		31
	Human herpes virus 6			1				1
計	11	60	19	12	2		104	
咽頭結膜熱	Human herpes virus 6		1					1
	Human herpes virus 7		1					1
計		2					2	
感染性胃腸炎	Adenovirus 2			3				3
	Astrovirus NT			1				1
	Coxsackievirus A9			1				1
	Epstein-Barr virus			1				1
	Human herpes virus 6						1	1
	Norovirus GII NT	8	1	1	3		1	14
	Rotavirus group A G2			4				4
	Rotavirus group AG3	1						1
	Rotavirus group AG8	1						1
	Rotavirus group A NT		4	2				6
	Rhinovirus				1			1
	Sapovirus genogroup unknown			2	2	1		5
	Enteropathogenic <i>Escherichia coli</i>	1						1
	<i>Enteraggregative Escherichia coli</i> O126 : H27 aggR				1			1
計	11	5	15	7	1	2	41	
ヘルパンギーナ	Adenovirus 41						1	1
	Coxsackievirus A10		2					2
計		2					3	
手足口病	Coxsackievirus A14				1			1
	Enterovirus NT					2		2
	Rhinovirus						1	1
計				1	2	1	4	
伝染性紅斑	human parvovirus B19 virus	1	1					2
	Respiratory syncytial virus A		1					1
計	1	2					3	
百日咳	<i>Bordetella parapertussis</i>		1					1
	<i>Bordetella pertussis</i>	2	5	4	4	5	6	26
	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>		1				1	2
計	2	7	4	4	5	7	29	
流行性耳下腺炎	Mumps virus					1		1
	計					1		1
無菌性髄膜炎	Echovirus 6						1	1
	Human herpes virus 7	1						1
計	1					1	2	
マイコプラズマ肺炎	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>		1		1			2
	計		1		1			2
RS ウイルス感染症	計							
水痘	計							
突発性発疹	Coxsackievirus A4					1		1
	Human herpes virus 6					2		2
計					3		3	
その他	Adenovirus 2	1						1
	Coxsackievirus A14	1						1
	Coxsackievirus A16							
	Cytomegalovirus	4		4	1			9
	Echovirus 6						1	1
	Echovirus 18				1			1
	Enterovirus NT					1	1	2
	Epstein-Barr virus	3					1	4
	Herpes simplex virus 1	1						1
	Human herpes virus 6	2	4		1		1	8
	Human herpes virus 7	3	1	2	1	1		8
	Human metapneumovirus					2	1	3
	Parainfluenza virus 1						1	1
	Parainfluenza virus 3					1	2	3
	Respiratory syncytial virus A	2	4					6
	Respiratory syncytial virus B	1		2				3
	Rhinovirus	2	1	3	2	3		11
Rotavirus group A G2			1				1	
<i>Bordetella pertussis</i>				1			1	
計	20	10	12	7	8	8	65	
総計	49	89	50	32	26	20	266	

高知県感染症情報月報 2016年7月

(65定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ								1	9
小児科	咽頭結膜熱		7	29	15	8	11	70	48	29
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5	7	83	8	3	22	128	247	287
	感染性胃腸炎	9	72	133	9	8	32	263	471	392
	水痘	1	12	13	1	1	1	29	37	51
	手足口病	2	23	30	5	11	8	79	115	437
	伝染性紅斑	11	1	15	1			28	46	40
	突発性発疹	2	12	22	5	3	3	47	69	74
	百日咳		1	9	1	3	1	15	15	1
	ヘルパンギーナ	10	82	126	77	15	44	354	176	343
	流行性耳下腺炎		9	18	18	4	29	78	141	48
	RSウイルス感染症			6			1	7	9	27
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎									4
STD	性器クラミジア感染症		1					1	4	3
	性器ヘルペスウイルス感染症			3				3		1
	尖圭コンジローマ		1					1		
	淋菌感染症									
基幹	細菌性髄膜炎			2				2	1	2
	無菌性髄膜炎			2			8	10	9	
	マイコプラズマ肺炎		7	12			5	24	19	27
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)			1				1	1	3
	感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る)			2				2	1	
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	2	1	10			3	16	11	19
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									
	薬剤耐性緑膿菌感染症									
計		42	236	516	140	56	168	1,158	1,421	1,797
前月		51	354	630	155	27	204			
前年同月		142	325	817	155	157	201			
小児科定点数		2	7	11	3	2	5			

2016年7月

全国情報（7月4日～7月31日）

第27週（7月4日～）から第30週（～7月31日）までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。

全国の7月の上位6疾患の合計は51.04で、6月の4週間換算値48.75に比べて微増した。増加の主因は、毎初夏に流行し、2位に順位を上げたヘルパンギーナの増加である。1位は感染性胃腸炎で16.23と、6月の4週間換算値22.75と比べ減少した。2位がヘルパンギーナで14.56（6月3位4.48）と3倍強に著増した。3位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で8.47（同2位11.46）と減少、4位が流行性耳下腺炎で5.01（同4位4.24）、5位はマイコプラズマ肺炎で3.47（同7位2.49）、6位は流行性角結膜炎で3.30（同6位2.90）といずれも増加した。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	27週	28週	29週	30週	計
1	感染性胃腸炎		4.55	4.44	3.51	3.73	16.23
2	ヘルパンギーナ		3.14	4.05	3.52	3.85	14.56
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.54	2.42	1.74	1.77	8.47
4	流行性耳下腺炎		1.21	1.27	1.22	1.31	5.01
5	マイコプラズマ肺炎		0.77	0.91	0.79	1.00	3.47
6	流行性角結膜炎		0.85	0.84	0.77	0.84	3.30

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の7月の上位6疾患の合計は33.08で、6月の4週間換算値32.58と比べて横ばいで、全国よりも少なかった（表2）。初夏の感染症であるヘルパンギーナが増加した。1位はヘルパンギーナで11.79と6月の4週間換算値4.70から増加し、首位となったが全国よりも少なかった。2位は感染性胃腸炎で8.77（6月1位12.57）、3位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で4.27（同2位6.58）と減少し、全国よりも少なかった。4位はマイコプラズマ肺炎で3.01（同6位1.91）と増加したが全国よりも少なかった。5位は手足口病で2.64（同5位3.07）と減少し全国より少なかった。6位は流行性耳下腺炎で2.60（同4位3.75）と減少し、全国よりも少なかった。

無菌性髄膜炎が県下で10例（9位1.26）、6月の9例に引き続いて報告され、全国（0.34）よりも多かった。過去10年間で1カ月の報告数では最多だった。Echovirus 6が2件、Mumpsvirus、Parechovirus 3が各1件検出されており、今後の動向が注目される。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	27週	28週	29週	30週	計
1	ヘルパンギーナ		3.93	3.53	2.30	2.03	11.79
2	感染性胃腸炎		2.47	2.37	1.93	2.00	8.77
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.80	0.97	0.87	0.63	4.27
4	マイコプラズマ肺炎		1.13	0.50	0.50	0.88	3.01
5	手足口病		0.93	0.77	0.57	0.37	2.64
6	流行性耳下腺炎		0.60	0.93	0.50	0.57	2.60

2. 全体の傾向

麻疹、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 0名（6月 1名）。流行は終息した。

2) 咽頭結膜熱

報告数 70名（6月 48名）。中央西、須崎、高知市、幡多、中央東から表記の順に多く報告された。咽頭結膜熱の患者を含めてAdenovirusは1件も検出されなかった。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 128名（6月 247名）。2014年10月以降多い報告数が続いていて、2015年12月以降は2016年3月に至るまで、同時期として過去10年間では最大の流行となった。2016年5月はほぼ平常並み、6月は再び増加したものの、7月は減少に転じた。特に高知市、幡多、中央西、安芸の順に報告が多い。1-4歳が41名、5-9歳が51名と多く、成人も14例含まれている。細菌は検出されていない。

4) 感染性胃腸炎

報告数 263名（6月 471名）。県下全域から報告されたが、高知市、中央東で多い。ロタウイルスは2011年11月に任意ワクチンが導入されて2013年11月からサーベイランス調査が開始された。ロタウイルス胃腸炎は、3月に増加し、2013年11月以降では最多の患者数（101名）が報告されたが、4月は36名、5月は13名、6月は1名、7月2名と減少した。ウイルスはParechovirus 3が1件検出された。

5) 水痘

報告数 29名（6月 37名）。県下全域から報告されたが、中央東、高知市で多い。7月の報告数として過去10年間でもっとも少なく、ワクチンの定期接種化の効果と思われる。

6) 手足口病

報告数 79名（6月 115名）。初夏に流行が始まる感染症で、例年通りの立ち上がりだったが早くも減少に転じた。県下全域から報告があり、須崎、中央東、高知市で多い。手足口病の患者から

Enterovirus NTが4件、Coxsackievirus A14が2件、Parechovirus 3が1件検出された。

7) 伝染性紅斑

報告数 28名(6月 46名)。2015年以降、全国的に例年に比べて多い傾向で推移している。高知県からの報告は全国に比べて少ない。須崎・幡多以外の全域から報告があり、安芸、高知市で多く報告された。1～4歳が10名、5～9歳が14名報告された。ウイルスは検出されていない。

8) 突発性発疹

報告数 47名(6月 69名)。想定内の変動で推移している。

9) 百日咳

報告数 15名(6月 15名)。安芸以外の全域から報告があり、高知市、中央西、須崎から多く報告された。10代が9名、5～9歳が2名、成人が3名で、最年少例が4歳の1名であり、乳児例の報告がなかったのは幸いである。細菌は *Bordetella pertussis* のゲノムが3件検出された。多い数字で推移しており、乳児では4種混合ワクチンを遅れずに完了し予防に努めることが大切である。高知県では百日咳の入院例に限定した全数調査が2016年から開始されている(厚生労働省班会議研究の拠点調査)。

10) ヘルパンギーナ

報告数 354名(6月 176名)。例年6～7月から流行がみられるので、通常の流行の立ち上がり、規模とってよい。県下全域から報告があり、特に中央西、中央東、高知市で多い。ウイルスは Coxsackievirus A4が1件検出された。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 78名(6月 141名)。全国的にも増加が報告され注目されている。高知県でも6月に倍増し、流行が危惧されたが、7月は半減し、例年の流行レベルとなった。5～9歳が39名、1～4歳が28名、10歳台が9名、成人が2名報告された。安芸以外から報告があり、特に、中央西、幡多からの報告が多かった。

年長児例は重症化し、髄膜炎や精巣炎の合併症

が増える傾向があるため、未罹患の者に対して、任意接種となるがムンプス生ワクチン接種が推奨される。予後不良な難聴合併例が発生したとの情報もある。

12) RSウイルス感染症

報告数 7名(6月 9名)。高知市と幡多から報告された。年間で最も少ない時期である。

臨床診断、その他(急性咽頭炎)で提出された検体からではあるが、Respiratory syncytial virus Aが1件検出された。

13) 流行性角結膜炎

報告数 0名(6月 0名)。ここ3年間は一桁で推移している。

14) 細菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 2名(6月 1名)。40歳代、60歳代の2名が報告された。

15) 無菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 10名(6月 9名)。6月の9例に引き続いて報告され、過去10年間で1カ月の報告数では最多だった。幡多から8名、高知市から2名報告された。年齢分布は、0歳1名、1～4歳が1名、5～9歳が4名、10～14歳が2名、30歳代、60歳代が各1名であった。Echovirus 6が2件、Mumpsvirus、Parechovirus 3が各1件検出されており、今後の動向が注目される。

16) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 24名(6月 19名)。中央東、幡多、高知市から報告された。

基幹定点の月報疾患

17) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 16名(6月 11名)。2015年12月から増加が続き、3月は減少したが4月から再び増加に転じている。

18) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名(6月 0名)。2014年は計4例、2015年は1例のみであった。2016年は1例報告されている。

高知県感染症発生動向調査部会

前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患（平成28年7月）

類型	病名	報告年																												総計			
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28														
2	結核																		131	149	163	156	192	132	128	138	129	69	1,387				
	計																		131	149	163	156	192	132	128	138	129	69	1,387				
3	コレラ	1																		1											3		
	バラチフス	2																												2			
	細菌性赤痢	11	4	2				3	1	2	2											25											
	腸チフス	1																		1											3		
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	5	162													
計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	5	195														
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1											3	1	32										
	Q熱	1	1	2																		5											
	オウム病			1				1																		2							
	つつが虫病			9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	3			71												
	マラリア																		2											3			
	レジオネラ症			2				1											9	7	3	6	9	2	4	4	2	50					
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	7	7	15	4	1	7	4	7	137													
	日本脳炎	1	1	1																		6											
	レプトスピラ症																		1			4	2	1						8			
	E型肝炎																		1											2			
	デング熱																		1											3	2	1	7
	重症熱性血小板減少症候群																				3	11	3	4						21			
	計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	27	15	15	344													
5	アメーバ赤痢			2	2	2	1	2	2	2	1											3	1	35									
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3				1						54										
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症																		7	19	11						37						
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4				4	3	3			6			1	3						28										
	ジアルジア症			1	2	1																		7									
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症				1																		3										
	急性脳炎																		1	1	2	5	1	3	1			1	1	1	17		
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症				1	1	1																		12								
	後天性免疫不全症候群	2			2	2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	5	55													
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																		1	5	3						9						
	侵襲性肺炎球菌感染症																		1	4	12	12						29					
	水痘（入院例に限る）																				2	1						3					
	髄膜炎菌性髄膜炎																		1											1			
	破傷風			3	2	2	1			1	1	2	3	1	1	1	1			4	3	2	28										
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	8	130													
	麻疹																		5											5			
風しん																		1	1											16			
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	46	469														
新型	新型インフルエンザ																													34	34		
動物	鳥インフルエンザ																													1	1		
計																													1	1			
総計	61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	210	210	135	2,430														

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

7月はウイルス73件，細菌23件の搬入があり，そのうちウイルス16件，細菌4件の病原体を検出し，また，平成28年6月に搬入された検体でウイルス19件，細菌2件を検出した。検出ウイルスの内訳は，Adenovirus 2 2件，Coxsackievirus A4 4件，Coxsackievirus A14 2件，Cytomegalovirus 1件，Echovirus6 7件，Enterovirus NT 7件，Epstein-Barr virus 1件，Human herpes virus 6 1件，Human herpes virus 7 1件，Human metapneumovirus 1件，Mumps virus 1件，Parechovirus 3 3件，Respiratory syncytial virus A 1件，Respiratory syncytial virus B 1件，Rhinovirus 2件，また，細菌の内訳は*Bordetella pertussis* 5件，*Mycoplasma pneumoniae* 1件であった。

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	1	女	感染性胃腸炎	40℃，下痢，咳漱，	ふん便	6.10	Adenovirus 2
2	1	男	インフルエンザ様疾患	40℃，咳漱，上気道炎，下気道炎， 気管支炎，	ぬぐい液	6.10	Respiratory syncytial virus B
3	11ヶ月	女	-	40℃，発疹，肝機能，	ぬぐい液	6.11	Enterovirus NT
4	2	女	感染性胃腸炎	39℃，嘔吐，嘔気，	ふん便	6.14	Echovirus 6
5	11ヶ月	男	咽頭結膜熱	40℃，	ぬぐい液	6.21	Coxsackievirus A4
6	1	女	感染性胃腸炎	38℃，	ふん便	6.21	Adenovirus 2
7	5ヶ月	男	-	40℃，上気道炎，	ぬぐい液	6.21	Echovirus 6
8	1	男	手足口病	発疹，口内炎，	ぬぐい液	6.22	Rhinovirus
9	13	男	インフルエンザ様疾患，無菌性髄膜炎	39℃，	ぬぐい液	6.22	Human herpes virus 7
10	2	女	手足口病	水疱，発疹，口内炎，	ぬぐい液	6.23	Enterovirus NT
11	2ヶ月	女	急性気管支炎の疑い	38℃，咳漱，上気道炎，	ふん便，ぬぐい液	6.24	Echovirus 6
12	5	女	手足口病	37℃，発疹，	ぬぐい液	6.25	Rhinovirus
13	5	男	無菌性髄膜炎	39℃，嘔吐，嘔気，中枢神経系障害，	ふん便	6.25	Echovirus 6
14	4	男	インフルエンザ様疾患	38℃，	ぬぐい液	6.28	Echovirus 6
15	2	男	ヘルパンギーナ	39℃，咳漱，上気道炎，	ぬぐい液	6.29	Human metapneumovirus
16	10	男	不明発疹症	39℃，下痢，咳漱，肺炎，発疹， 筋肉痛，	ぬぐい液	6.29	Epstein-Barr virus
17	11ヶ月	男	不明発疹症（突発か？）	40℃，発疹，	ぬぐい液	6.29	Human herpes virus 6
18	3	女	ヘルパンギーナ	39℃，腹痛，	ぬぐい液	7. 1	Coxsackievirus A4
19	2	男	無菌性髄膜炎疑い	嘔吐，嘔気，	髄液	7. 1	Mumps virus
20	2	男	手足口病	39℃，発疹，	ぬぐい液	7. 2	Enterovirus NT
21	12	女	百日咳	37℃，咳漱，	ぬぐい液	7. 2	<i>Bordetella pertussis</i>
22	4	男	百日咳	咳漱，	ぬぐい液	7. 4	<i>Bordetella pertussis</i>
23	1	男	手足口病	39℃，発疹，	ぬぐい液	7. 5	Enterovirus NT
24	2	女	手足口病	37℃，発疹，	ぬぐい液	7. 5	Coxsackievirus A14
25	5ヶ月	男	手足口病，無菌性髄膜炎疑い	40℃，下痢，発疹，口内炎，	ふん便	7. 6	Parechovirus 3
26	5	男	手足口病	37℃，発疹，	ぬぐい液	7. 7	Coxsackievirus A14
27	2	女	手足口病	38℃，発疹，	ぬぐい液	7. 8	Enterovirus NT
28	2	女	手足口病	37℃，発疹，	ぬぐい液	7. 8	Enterovirus NT
29	1	女	インフルエンザ様疾患	40℃，上気道炎，	ぬぐい液	7. 8	Coxsackievirus A4
30	9	女	無菌性髄膜炎	39℃，	髄液	7. 8	Echovirus 6
31	11	男	百日咳	咳漱，	ぬぐい液	7. 9	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
32	3	男	ヘルパンギーナ	39℃，	ぬぐい液	7.11	Coxsackievirus A4
33	2ヶ月	女	急性発疹症	37℃，発疹，	ぬぐい液	7.11	Cytomegalovirus
34	6	女	手足口病	37℃，発疹，	ぬぐい液	7.11	Enterovirus NT
35	9	男	無菌性髄膜炎	40℃，	ぬぐい液	7.11	Echovirus 6

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス, 細菌の検出
36	12	男	百日咳またはマイコプラズマ感染症	咳漱, 気管支炎,	ぬぐい液	7.13	<i>Bordetella pertussis</i>
37	5	男	百日咳	38℃, 咳漱, 気管支炎,	ぬぐい液	7.15	<i>Bordetella pertussis</i>
38	2ヶ月	女	無菌性髄膜炎疑い	40℃, 下痢, 発疹,	髄液	7.16	Parechovirus 3
39	2ヶ月	女	感染性胃腸炎	40℃,	ふん便	7.17	Parechovirus 3
40	14	女	百日咳	咳漱,	鼻咽ぬぐい液	7.19	<i>Bordetella pertussis</i>
41	1	男	急性咽頭炎	39℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	7.19	Respiratory syncytial virus A

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2016年							2016年 総計
		1	2	3	4	5	6	7	
A群溶血性 レン球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1	1				1			2
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T4	1				2			3
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T3264					1			1
	Epstein-Barr virus	1							1
	計	3				4			7
インフルエンザ	Influenza virus A H3 NT	1							1
	Influenza virus A H1pdm09	7	45	10	2				64
	Influenza virus B /Victoria	2	3		1	1			7
	Influenza virus B Yamagata	1	12	8	9	1			31
	Coxsackievirus A4							1	1
	Echovirus 6						1		1
	Human herpes virus 6			1					1
	Human herpes virus 7						1		1
	Respiratory syncytial virus B						1		1
	計	11	60	19	12	2	3	1	108
咽頭結膜熱	Coxsackievirus A4						1		1
	Human herpes virus 6		1						1
	Human herpes virus 7		1						1
	計		2				1		3
感染性胃腸炎	Adenovirus 2			3			2		5
	Astrovirus NT			1					1
	Coxsackievirus A9			1					1
	Echovirus 6						1		1
	Epstein-Barr virus			1					1
	Human herpes virus 6						1		1
	Norovirus GI NT	8	1	1	3		1		14
	Parechovirus 3							1	1
	Rotavirus group A G2			4					4
	Rotavirus group AG3	1							1
	Rotavirus group AG8	1							1
	Rotavirus group A NT		4	2					6
	Rhinovirus				1				1
	Sapovirus genogroup unknown			2	2	1			5
<i>Enteropathogenic Escherichia coli</i>	1							1	
<i>Enterogastric Escherichia coli O126 : H27 aggR</i>				1				1	
	計	11	5	15	7	1	5	1	45
ヘルパンギーナ	Adenovirus 41						1		1
	Coxsackievirus A4						1	1	2
	Coxsackievirus A10		2						2
	Human metapneumovirus						1		1
	計		2				3	1	6
手足口病	Coxsackievirus A14				1			2	3
	Enterovirus NT					2	2	4	8
	Parechovirus 3							1	1
	Rhinovirus						3		3
	計				1	2	5	7	15
伝染性紅斑	human parvovirus B19 virus	1	1						2
	Respiratory syncytial virus A		1						1
	計	1	2						3
百日咳	<i>Bordetella parapertussis</i>		1						1
	<i>Bordetella pertussis</i>	2	5	4	4	5	8	3	31
	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>		1				1	1	3
	計	2	7	4	4	5	9	4	35
流行性耳下腺炎	Mumps virus					1			1
	計					1			1
無菌性髄膜炎	Echovirus 6						2	2	4
	Human herpes virus 7	1							1
	Mumps virus							1	1
	Parechovirus 3							1	1
	計	1					2	4	7
マイコプラズマ肺炎	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>		1		1				2
	計		1		1				2
RSウイルス感染症	計								
水痘	計								
突発性発疹	Coxsackievirus A4					1			1
	Human herpes virus 6					2			2
	計					3			3
その他	Adenovirus 2	1							1
	Coxsackievirus A14	1							1
	Coxsackievirus A16								
	Cytomegalovirus	4		4	1			1	10
	Echovirus 6						3		3
	Echovirus 18				1				1
	Enterovirus NT					1	2		3
	Epstein-Barr virus	3					2		5
	Herpes simplex virus 1	1					2		1
	Human herpes virus 6	2	4		1		2		9
	Human herpes virus 7	3	1	2	1	1			8
	Human metapneumovirus					2	1		3
	Parainfluenza virus 1						1		1
	Parainfluenza virus 3					1	2		3
	Respiratory syncytial virus A	2	4					1	7
	Respiratory syncytial virus B	1		2					3
Rhinovirus	2	1	3	2	3			11	
Rotavirus group A G2			1					1	
<i>Bordetella pertussis</i>					1			1	
	計	20	10	12	7	8	13	2	72
総計		49	89	50	32	26	41	20	307

高知県感染症情報月報 2016年 8 月

(65定点医療機関)

定点名	保健所		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
	疾病名										
内科・小児科	インフルエンザ							1	1		2
小児科	咽頭結膜熱			1	41	34		6	82	70	14
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	12	45	9	6	8	82	128	88	
	感染性胃腸炎	13	49	101	11	1	57	232	263	216	
	水痘		4	32	3	1	1	41	29	24	
	手足口病		9	14	4		3	30	79	414	
	伝染性紅斑	2	1	20				23	28	26	
	突発性発疹	1	8	23	2		6	40	47	61	
	百日咳			4				4	15	1	
	ヘルパンギーナ	8	17	30	24	5	30	114	354	397	
	流行性耳下腺炎	1	6	20	15		18	60	78	64	
	RSウイルス感染症		2	31			2	35	7	54	
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎			1				1		3	
STD	性器クラミジア感染症			2				1	3	1	2
	性器ヘルペスウイルス感染症									3	
	尖圭コンジローマ									1	
	淋菌感染症										
基幹	細菌性髄膜炎		2						2	2	
	無菌性髄膜炎			5					5	10	3
	マイコプラズマ肺炎		1	18				11	30	24	55
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									1	5
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)			2					2	2	
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	3	3	21					27	16	24
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症										
	薬剤耐性緑膿菌感染症										
計			30	115	410	102	13	144	814	1,158	1,453
前月			42	236	516	140	56	168			
前年同月			95	298	686	87	84	203			
小児科定点数			2	7	11	3	2	5			

2016年8月

全国情報（8月1日～8月28日）

第31週（8月1日～）から第34週（～8月28日）までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。

全国の8月の上位6疾患の合計は38.34で、7月の51.04に比べて減少した。上位6疾患は同じ顔ぶれで順位も変わりはなかった。減少の理由は1位から4位の各疾患がそれぞれ減少したことによる。1位は感染性胃腸炎で12.97と7月の16.23と比べ減少した。2位はヘルパンギーナで9.53（7月2位14.56）と減少した。3位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で4.70（同3位8.47）と減少、4位が流行性耳下腺炎で4.37（同4位5.01）と減少した。5位はマイコプラズマ肺炎で3.60（同5位3.47）と微増、6位は流行性結膜炎で3.17（同6位3.30）とわずかに減少した。

麻疹が流行している。第33週に13名、第34週には9名が報告され、累積で41名（うち36例が検査診断例）となった。千葉12名、東京6名、埼玉3名、兵庫6名、大阪3名とまとまった報告があり、動向が注目される。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	31週	32週	33週	34週	計
1	感染性胃腸炎		3.59	2.89	2.99	3.50	12.97
2	ヘルパンギーナ		3.62	2.58	1.47	1.86	9.53
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.53	1.08	0.97	1.12	4.70
4	流行性耳下腺炎		1.17	1.05	1.09	1.06	4.37
5	マイコプラズマ肺炎		0.93	0.93	0.88	0.86	3.60
6	流行性角結膜炎		0.81	0.62	0.79	0.95	3.17

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の8月の上位6疾患の合計は22.76で7月の33.51に比べ減少し、全国よりも少なかった（表2）。減少の主因はヘルパンギーナ、感染性胃腸炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病の減少である。1位は感染性胃腸炎で7.74と7月の2位9.20に比べ減少し、2位はヘルパンギーナで3.80（7月1位11.79）と減少しいずれも全国よりも少なかった。3位はマイコプラズマ肺炎で3.76（同4位3.01）と増加し全国をわずかに上回った。同率4位が咽頭結膜熱とA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で、ともに2.73で並んだ。咽頭結膜熱（同7位2.33）が増加し全国よりも多く、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（同3位4.27）が減少して全国よりも少なかった。6位は流行性耳下腺炎で2.00（同6位2.60）と減少し、全国よりも少なかった。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	31週	32週	33週	34週	計
1	感染性胃腸炎		1.97	2.17	1.93	1.67	7.74
2	ヘルパンギーナ		1.60	1.00	0.67	0.53	3.80
3	マイコプラズマ肺炎		0.75	1.13	1.13	0.75	3.76
4	咽頭結膜熱		0.33	0.90	0.80	0.70	2.73
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.67	0.43	0.80	0.83	2.73
6	流行性耳下腺炎		0.60	0.43	0.47	0.50	2.00

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 1名（7月 0名）。6月1名、7月0名、8月1名と流行はない。

2) 咽頭結膜熱

報告数 82名（7月 70名）。中央西、高知市、幡多、中央東から表記の順に多く報告された。8月としては過去10年間では2007年に次いで2番目に多い報告数だった。咽頭結膜熱の患者を含めてAdenovirusは1件も検出されなかった。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 82名（7月 128名）。2014年10月以降多い報告数が続いていて、2015年12月以降は2016年3月に至るまで、同時期として過去10年間では最大の流行となった。2016年5月はほぼ平常並み、6月は再び増加した。7月以降減少に転じたが引き続き例年よりは多い数字で推移している。県下全域から報告があったが、特に高知市、中央西、須崎で報告が多い。1-4歳が21名、5-9歳が42名と多く、成人も6例含まれている。細菌は検出されていない。

4) 感染性胃腸炎

報告数 232名（7月 263名）。県下全域から報告されたが、幡多、高知市、中央東、安芸で多い。ロタウイルスは2011年11月に任意ワクチンが導入されて2013年11月からサーベイランス調査が開始された。ロタウイルス胃腸炎は、3月に増加し、2013年11月以降では最多の患者数（101名）が報告されたが、4月は36名、5月は13名、6月は1名、7月8月はともに2名と減少した。ウイルスはNorovirus GIIが2件検出された。

5) 水痘

報告数 41名（7月 29名）。安芸以外の県下全域から報告されたが、高知市、中央西で多い。8月の報告数として過去10年間では2015年に次いで少なく、ワクチンの定期接種化の効果と思われる。

6) 手足口病

報告数 30名(7月 79名)。初夏に流行が始まる感染症で、例年通りの立ち上がりだったが7月以降減少しており小さな流行に終わりそうである。中央西、中央東、高知市、幡多から表記の順に多く報告された。ウイルスは検出されていない。

7) 伝染性紅斑

報告数 23名(7月 28名)。2015年以降、全国的に例年に比べて多い傾向で推移している。高知県からの報告は全国に比べて少ない。高知市、安芸、中央東から報告があり、表記の順に多く報告された。1～4歳が14名、5～9歳が9名報告された。ウイルスは検出されていない。

8) 突発性発疹

報告数 40名(7月 47名)。想定内の変動で推移している。

9) 百日咳

報告数 4名(7月 15名)。高知市から幼児と学童合わせて4名が報告された。細菌はBordetella pertussisのゲノムが4件検出された。高知県では百日咳の入院例に限定した全数調査が2016年から開始されている(厚生労働省班会議研究の拠点調査)。

10) ヘルパンギーナ

報告数 114名(7月 354名)。例年6～7月から流行がみられるので、通常の流行の立ち上がり、規模であった。県下全域から報告があり、特に中央西、幡多、安芸が多い。ウイルスは検出されていない。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 60名(7月 78名)。全国的にも増加が報告され注目されている。高知県でも6月に倍増し、流行が危惧されたが、7月は半減し、例年の流行レベルとなった。5～9歳が29名、1～4歳が28名、10歳台が3名報告された。須崎以外の全域から報告があり、特に、中央西、幡多、高知市からの報告が多かった。ウイルスは検出されてい

ない。

12) RSウイルス感染症

報告数 35名(7月 7名)。高知市、幡多、中央東から報告された。近々流行期に入ると予想され、ハイリスク児に対するパリビズマブ予防の開始は、例年通り9月からでよいと思われる。ウイルスは検出されていない。

13) 流行性角結膜炎

報告数 1名(7月 0名)。ここ3年間は一桁で推移している。

14) 細菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 2名(7月 2名)。50歳代、60歳代のそれぞれ1名が報告された。

15) 無菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 5名(7月 10名)。いずれも高知市から5名、うち0歳1名、10歳代1名、20歳代2名、60歳代1名が報告された。6月9名、7月に10名が報告されたが、8月は減少に転じた。Parainfluenza virus 3が1件検出された。

16) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 30名(7月 24名)。幡多、高知市、中央東から表記の順に多く報告された。幡多地域では臨床的にマクロライド系薬剤耐性であり、抗菌薬選択に注意を要する。細菌はMycoplasma pneumoniaeが1件検出された。

基幹定点の月報疾患

17) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 27名(7月 16名)。2015年12月から増加が続き、3月は減少したが4月から再び増加に転じている。

18) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名(7月 0名)。2014年は計4例、2015年は1例のみであった。2016年は1例報告されている。

高知県感染症発生動向調査部会
前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患（平成28年8月）

類型	病名	報告年																											総計																	
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28																											
2	結核																		131	149	163	156	192	132	128	138	129	87	1,405																	
	計																		131	149	163	156	192	132	128	138	129	87	1,405																	
3	コレラ	1																	1											3																
	バラチフス	2																											2																	
	細菌性赤痢	11	4	2				3	1	2	2																	25																		
	腸チフス	1																											1																	
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	6	163																										
計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	6	196																											
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1											3	1	32																							
	Q熱	1	1	2																											1															
	オウム病			1																											1															
	つつが虫病			9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	3			1	71																								
	マラリア																											2																		
	レジオネラ症			2																											1															
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	7	3	6	9	2	4	4	2	50																										
	日本脳炎	1	1	1																											1															
	レプトスピラ症											1			4	2	1											8																		
	E型肝炎																											1																		
	デング熱											1			3	2	1											7																		
	重症熱性血小板減少症候群																3	11	3	6											23															
	計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	27	15	19	348																										
5	アメーバ赤痢																											2	2	2	1	2	2	2	1	3	2	2	3			7	3	1	35	
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3			3			1			54																								
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症																											7	19	11											37					
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4																											4	3	3	6			1	3			2			28		
	ジアルジア症			1	2	1																											1	1	1											7
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症																											1			1											3				
	急性脳炎											1	1	2	5	1	3	1			1	1	1	17																						
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症																											1	1	3	1			1	3			1			13					
	後天性免疫不全症候群	2			2	2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	6	56																										
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																1	5	3											9																
	侵襲性肺炎球菌感染症																1	4	12	13											30															
	水痘（入院例に限る）																											2	1	3											3					
	髄膜炎菌性髄膜炎																											1											1							
	破傷風			3	2	2	1			1	1	2	3	1	1	1	1			4	3	2	28																							
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	10	132																										
	麻疹																											5											5							
	風しん																											1	1											16						
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	51	474																											
新型	新型インフルエンザ																											34											34							
計																											34											34								
動物	鳥インフルエンザ																											1											1							
計																											1											1								
総計	61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	210	210	163	2,458																											

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

8月はウイルス56件，細菌14件の搬入があり，そのうちウイルス14件，細菌5件の病原体を検出した。また，平成28年6月に搬入された検体でウイルス1件，7月に搬入された検体でウイルス15件を検出した。検出ウイルスの内訳は，Coxsackievirus A4 2件，Cytomegalovirus 3件，Echovirus 6 6件，Human herpes virus 7 2件，Human metapneumovirus 7件，human parvovirus B19 1件，Mumps virus 1件，Norovirus GII NT 2件，Parainfluenza virus 3 3件，Rhinovirus 3件，また，細菌の内訳は *Bordetella pertussis* 4件，*Mycoplasma pneumoniae* 1件であった。

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	3	男	下気道炎	咳漱，下気道炎，	ぬぐい液	6.22	Rhinovirus
2	10	男	マイコプラズマ	39℃，下痢，咳漱，肺炎，発疹， 筋肉痛，	ぬぐい液	6.29	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
3	4	女	手足口病	40℃，発疹，	ぬぐい液	7.1	Human herpes virus 7
4	7ヶ月	男	RSウイルス感染症様下気道炎	咳漱，下気道炎，	鼻腔	7.13	Rhinovirus
5	5	女	ヘルペス？	39℃，	ぬぐい液	7.14	Coxsackievirus A4
6	2	女	手足口病？	38℃，	ぬぐい液	7.15	Cytomegalovirus
7	8	男	無菌性髄膜炎	39℃，嘔吐，嘔気，	髄液	7.15	Echovirus 6
8	2ヶ月	男	感染性胃腸炎	38℃，	ふん便	7.16	Echovirus 6
9	1	女	不明熱	39℃，咳漱，	ぬぐい液	7.16	Coxsackievirus A4
10	1	男	手足口病	37℃，発疹，	ぬぐい液	7.19	Rhinovirus
11	8	女	-	-	ぬぐい液	7.20	human parvovirus B19
12	11ヶ月	男	感染性胃腸炎	40℃，嘔吐，嘔気，	ふん便	7.21	Echovirus 6
13	5	女	上気道炎	39℃，咳漱，上気道炎，	ぬぐい液	7.22	Human herpes virus 7
14	5	女	流行性筋痛症 (Bornholm 病) 疑い	38℃，嘔吐，嘔気，腹痛，筋肉痛，	ふん便	7.22	Echovirus 6
15	2	男	感染性胃腸炎	39℃，嘔吐，嘔気，	ふん便	7.23	Echovirus 6
16	0ヶ月	女	髄膜炎疑い	40℃，	ぬぐい液	7.24	Mumps virus
17	4	男	感染性胃腸炎	嘔吐，嘔気，腹痛，	ふん便	7.25	Echovirus 6
18	46	男	上気道炎	咳漱，上気道炎，	ぬぐい液	7.27	Human metapneumovirus
19	63	女	下気道炎	38℃，咳漱，下気道炎，	ぬぐい液	7.27	Human metapneumovirus
20	60	男	下気道炎	39℃，咳漱，下気道炎，	ぬぐい液	7.27	Human metapneumovirus
21	48	女	下気道炎	39℃，咳漱，下気道炎，	ぬぐい液	7.27	Human metapneumovirus
22	1	男	感染性胃腸炎	37℃，嘔吐，嘔気，腹痛，	ふん便	7.28	Norovirus GII NT
23	4	男	気管支喘息	咳漱，	ぬぐい液	7.28	Parainfluenza virus 3
24	14	男	百日咳 疑い	肺炎，	鼻腔ぬぐい液	7.28	<i>Bordetella pertussis</i>
25	45	男	-	40℃，咳漱，	ぬぐい液	7.29	Human metapneumovirus
26	8ヶ月	男	気管支炎	41℃，咳漱，気管支炎，	鼻腔	7.29	Parainfluenza virus 3
27	1	女	突発性発しん	-	ぬぐい液	7.29	Cytomegalovirus
28	33	男	インフルエンザ様疾患	40℃，咳漱，上気道炎，	ぬぐい液	7.31	Human metapneumovirus
29	2	女	hMPV ウイルス気管支炎	40℃，咳漱，気管支炎，	鼻咽頭ぬぐい液	8.5	Human metapneumovirus
30	15	女	無菌性髄膜炎疑い	咳漱，	ぬぐい液	8.5	Parainfluenza virus 3
31	2	男	上気道炎	39℃，咳漱，上気道炎，発疹，	ぬぐい液	8.12	Cytomegalovirus
32	7	男	百日咳 疑い	-	鼻腔ぬぐい液	8.17	<i>Bordetella pertussis</i>
33	11	男	百日咳	咳漱，	ぬぐい液	8.22	<i>Bordetella pertussis</i>
34	9	男	百日咳	咳漱，	ぬぐい液	8.22	<i>Bordetella pertussis</i>
35	1	男	感染性胃腸炎	38℃，下痢，嘔吐，嘔気，咳漱，	ふん便	8.23	Norovirus GII NT

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2016年								2016年 総計
		1	2	3	4	5	6	7	8	
A 群溶血性 連鎖球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1	1				1				2
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T4	1				2				3
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T3264					1				1
	Epstein-Barr virus	1								1
	計	3				4				7
インフルエンザ	Influenza virus A H3 NT	1								1
	Influenza virus A H1pdm09	7	45	10	2					64
	Influenza virus B /Victoria	2	3		1	1				7
	Influenza virus B Yamagata	1	12	8	9	1				31
	Coxsackievirus A4							1		1
	Echovirus 6						1			1
	Human herpes virus 6			1						1
	Human herpes virus 7						1			1
	Respiratory syncytial virus B						1			1
	計	11	60	19	12	2	3	1		108
咽頭結膜熱	Coxsackievirus A4						1			1
	Human herpes virus 6		1							1
	Human herpes virus 7		1							1
計		2				1			3	
感染性胃腸炎	Adenovirus 2			3			2			5
	Astrovirus NT			1						1
	Coxsackievirus A9			1						1
	Echovirus 6						1	4		5
	Epstein-Barr virus			1						1
	Human herpes virus 6						1			1
	Norovirus GI NT	8	1	1	3		1		2	16
	Parechovirus 3							1		1
	Rotavirus group A G2			4						4
	Rotavirus group AG3	1								1
	Rotavirus group AG8	1								1
	Rotavirus group A NT		4	2						6
	Rhinovirus				1					1
	Sapovirus genogroup unknown			2	2	1				5
	<i>Enteropathogenic Escherichia coli</i>	1								1
<i>Enterogastric Escherichia coli</i> O126 : H27 aggR				1					1	
計	11	5	15	7	1	5	5	2	51	
ヘルパンギーナ	Adenovirus 41						1			1
	Coxsackievirus A4						1	1		2
	Coxsackievirus A10		2							2
	Human metapneumovirus						1			1
計		2				3	1		6	
手足口病	Coxsackievirus A14				1					2
	Cytomegalovirus						1			1
	Enterovirus NT					2	2	4		8
	Human herpes virus 7							1		1
	Parechovirus 3							1		1
	Rhinovirus						3	1		4
計				1	2	5	10		18	
伝染性紅斑	human parvovirus B19 virus	1	1							2
	Respiratory syncytial virus A		1							1
	計	1	2							3
百日咳	<i>Bordetella parapertussis</i>		1							1
	<i>Bordetella pertussis</i>	2	5	4	4	5	8	3	4	35
	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>		1				1			3
	計	2	7	4	4	5	9	4	4	39
流行性耳下腺炎	Mumps virus					1				1
	計					1				1
無菌性髄膜炎	Echovirus 6						2	3		5
	Human herpes virus 7	1								1
	Mumps virus							2		2
	Parechovirus 3							1		1
	Parainfluenza virus 3								1	1
計	1					2	6	1	10	
マイコプラズマ肺炎	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>		1		1				1	3
	計		1		1				1	3
RSウイルス感染症	計									
水痘	計									
突発性発疹	Coxsackievirus A4					1				1
	Cytomegalovirus								1	1
	Human herpes virus 6					2				2
	計					3			1	4
その他	Adenovirus 2	1								1
	Coxsackievirus A4							2		2
	Coxsackievirus A14	1								1
	Cytomegalovirus	4		4	1		1	1		11
	Echovirus 6						3	1		4
	Echovirus 18				1					1
	Enterovirus NT					1	2			3
	Epstein-Barr virus	3					2			5
	Herpes simplex virus 1	1								1
	Human herpes virus 6	2	4		1		2			9
	Human herpes virus 7	3	1	2	1	1		1		9
	Human metapneumovirus					2	1		7	10
	human parvovirus B19							1		1
	Parainfluenza virus 1						1			1
	Parainfluenza virus 3						1		2	5
	Respiratory syncytial virus A	2	4					1		7
	Respiratory syncytial virus B	1		2						3
	Rhinovirus	2	1	3	2	3	1	1		13
	Rotavirus group A G2			1						1
<i>Bordetella pertussis</i>				1					1	
計	20	10	12	7	8	14	8	10	89	
総計	49	89	50	32	26	42	35	19	342	

高知県感染症情報月報 2016年 9 月

(65定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ								1	4
小児科	咽頭結膜熱		5	89	46	8	5	153	82	5
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7	8	85	6	6	5	117	82	139
	感染性胃腸炎	22	100	189	11	13	43	378	232	172
	水痘	4	9	30		17		60	41	45
	手足口病	2	8	12	1	2	2	27	30	471
	伝染性紅斑	4	2	22	3	2	3	36	23	23
	突発性発疹	3	12	31	4	4	8	62	40	38
	百日咳			6	4	10		20	4	1
	ヘルパンギーナ	3	7	15	7	6	12	50	114	145
	流行性耳下腺炎		26	24	2	2	31	85	60	45
	RSウイルス感染症	4	20	46	13	2	2	87	35	220
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			5				5	1	1
STD	性器クラミジア感染症			2				2	3	
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ									
	淋菌感染症		1					1		
基幹	細菌性髄膜炎		1	3				4	2	
	無菌性髄膜炎			3				3	5	1
	マイコプラズマ肺炎		2	20			23	45	30	40
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			2				2		2
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)			1			1	2	2	
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	3		11			1	15	27	23
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									
	薬剤耐性緑膿菌感染症									5
計		52	201	596	97	72	136	1,154	814	1,380
前月		30	115	410	102	13	144			
前年同月		69	272	722	78	41	198			
小児科定点数		2	7	11	3	2	5			

2016年9月

全国情報（8月29日～10月2日）

第35週（8月29日～）から第39週（～10月2日）までの5週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。

全国の9月5週間の上位6疾患の合計は4週間に換算すると42.27で8月の38.34に比べて増加した。増加の理由は感染性胃腸炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症が増加したことによる。1位は感染性胃腸炎で4週間換算値が14.36と8月の12.97に比べ増加した。2位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で5.60（8月3位4.70）と増加、3位がヘルパンギーナで5.53（同2位9.53）と減少した。4位はRSウイルス感染症で5.15（同9位1.59）と3倍以上に増加した。5位が流行性耳下腺炎で4.11（同4位4.37）で減少した。6位は同数3.76で流行性角結膜炎（同6位3.17）とマイコプラズマ肺炎（同5位3.60）が並び、ともにわずかに増加した。

8月から麻疹が流行している。第34週から38週に、それぞれ9名、26名、23名、21名、9名が報告され、累積で114名となり前月と比べさらに増加した。大阪32名、兵庫19名、東京11名、千葉10名、埼玉7名とまとまった報告があり動向が注目される。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	35週	36週	37週	38週	39週	計
1	感染性胃腸炎		3.90	3.76	3.71	2.94	3.64	17.95
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.26	1.44	1.60	1.20	1.50	7.00
3	ヘルパンギーナ		1.95	1.67	1.43	0.88	0.98	6.91
4	RSウイルス感染症		0.86	1.06	1.45	1.34	1.73	6.44
5	流行性耳下腺炎		0.94	0.99	1.07	0.94	1.20	5.14
6	流行性角結膜炎		0.90	1.00	0.96	0.83	1.01	4.70
	マイコプラズマ肺炎		0.88	0.85	0.95	0.84	1.18	4.70

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の9月の上位6疾患の合計は4週間に換算すると26.37で8月の22.76に比べ増加したが全国よりも少なかった（表2）。増加の原因は上位6疾患すべての増加であり、一方でヘルパンギーナは3.80から1.34に減少し9位になった。

1位は感染性胃腸炎で4週換算値10.08と8月の7.74に比べ増加したが全国よりも少なかった。2位はマイコプラズマ肺炎で4.51（8月3位3.76）、3位は咽頭結膜熱で4.08（同4位2.73）と増加し、いずれも全国よりも多かった。4位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で3.12（同4位2.73）と再び増加に転じ、5位はRSウイルス感染症で2.32（同9位1.17）と増

加し、いずれも全国よりも少なかった。6位は流行性耳下腺炎で2.26（同6位2.00）と微増したが全国よりも少なかった。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	35週	36週	37週	38週	39週	計
1	感染性胃腸炎		1.93	2.40	2.77	2.43	3.07	12.60
2	マイコプラズマ肺炎		2.00	0.88	1.13	0.75	0.88	5.64
3	咽頭結膜熱		0.63	0.97	1.93	0.70	0.87	5.10
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.77	0.63	0.77	0.73	1.00	3.90
5	RSウイルス感染症		0.60	0.20	0.50	0.57	1.03	2.90
6	流行性耳下腺炎		0.60	0.43	0.73	0.53	0.53	2.82

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 0名（8月 1名）。6月から9月は、0名ないし1名であり、まだ流行はない。

2) 咽頭結膜熱

報告数 153名（8月 82名）。安芸以外の県全域から報告され、中央西、高知市、須崎の順に多く報告された。9月は咽頭結膜熱の患者を含めてAdenovirusは1件も検出されなかった。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 117名（8月 82名）。2014年10月以降多い報告数が続いていて、2015年12月以降は2016年3月に至るまで、同時期として過去10年間では最大の流行となった。2016年5月はほぼ平常並み、6月は再び増加した。7月以降減少に転じたものの9月には再び増加し、過去10年間で同時期としては2015年に次ぐ多い数字で推移している。県下全域から報告があり、特に高知市、安芸、須崎、中央西からの報告が多い。細菌は検出されていない。

4) 感染性胃腸炎

報告数 378名（8月 232名）。県下全域から報告があり、高知市、中央東、安芸、幡多、須崎、中央西の順に多く報告された。病原体としてはSalmonella enteritidisが1件検出された。ロタウイルスは2011年11月に任意ワクチンが導入されて2013年11月からサーベイランス調査が開始された。ロタウイルス胃腸炎は、3月に増加し、2013年11月以降では最多の患者数（101名）が報告されたが、4月は36名、5月は13名、6月は1名、7月～9月はともに2名と減少した。

5) 水痘

報告数 60名（8月 41名）。須崎、高知市、安芸、中央東から表記の順に多く報告された。9月の報

告数としては例年並みの報告数であった。

6) 手足口病

報告数 27名(8月 30名)。初夏に流行が始まる感染症で、例年通りの立ち上がりだったが7月以降減少しており小さな流行に終わりそうである。高知県全域から報告され、地域差は少なかった。ウイルスは検出されていない。

7) 伝染性紅斑

報告数 36名(8月 23名)。2015年以降、全国的に例年に比べて多い傾向で推移している。高知県からの報告は全国に比べて多い。県下全域から報告があり、安芸、高知市からの報告が多い。ウイルスは検出されていない。

8) 突発性発疹

報告数 62名(8月 40名)。想定内の変動で推移している。

9) 百日咳

報告数 20名(8月 4名)。須崎、中央西、高知市から、表記の順に多く報告された。9月としては過去10年間で最多の報告数であった。0歳、1歳例が各2名報告された。細菌は*Bordetella pertussis*のゲノムが10件検出された。高知県では百日咳の入院例に限定した全数調査が2016年から開始されている(厚生労働省班会議研究の拠点調査)。

10) ヘルパンギーナ

報告数 50名(8月 114名)。例年6-7月から流行がみられ、通常の流行の立ち上がり、規模であった。県下全域から報告があり、特に須崎、幡多、中央西で多い。ウイルスは検出されていない。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 85名(8月 60名)。全国的にも増加が報告され注目されている。高知県でも6月に倍増し、流行が危惧されたが、7月は半減し、例年

の流行レベルとなった。安芸以外から報告があり、幡多、中央東、高知市で多い。ウイルスは検出されていない。

12) RSウイルス感染症

報告数 87名(8月 35名)。県下全域に拡大し、中央西、高知市、中央東、安芸から報告が多かった。RS virus Aが1件検出された。

13) 流行性角結膜炎

報告数 5名(8月 1名)。ここ3年間は一桁で推移している。全例、高知市からの報告であった。

14) 細菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 4名(8月 2名)。全例50歳以上であった。

15) 無菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 3名(8月 5名)。高知市から3例報告され、Echovirus 30が1件検出された。

16) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 45名(8月 30名)。幡多、高知市、中央東から表記の順に多く報告された。多数の報告が続く幡多地域では臨床的にマクロライド系薬剤耐性であり、抗菌薬選択に注意を要する。臨床診断、百日咳で提出された検体からではあるが、細菌は*Mycoplasma pneumoniae*のゲノムが1件検出された。

基幹定点の月報疾患

17) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 15名(8月 27名)。過去10年間の同時期としては最も少ない数字であった。

18) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名(8月 0名)。2014年は計4例、2015年は1例のみであった。2016年は1例報告されている。

高知県感染症発生動向調査部会
前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患（平成28年9月）

類型	病名	報告年																												総計					
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20		21	22	23	24	25
2	結核																													1,417					
	計																													1,417					
3	コレラ																													3					
	パラチフス																													2					
	細菌性赤痢																													25					
	腸チフス																													3					
	腸管出血性大腸菌感染症																													191					
計																													224						
4	A型肝炎																													32					
	Q熱																													5					
	オウム病																													2					
	つつが虫病																													71					
	マラリア																													3					
	レジオネラ症																													50					
	日本紅斑熱																													140					
	日本脳炎																													6					
	レプトスピラ症																													8					
	E型肝炎																													2					
	デング熱																													7					
	重症熱性血小板減少症候群																													24					
	計																													350					
	5	アメーバ赤痢																													35				
ウイルス性肝炎																														54					
カルバペネム耐性腸内細菌感染症																														40					
クロイツフェルト・ヤコブ病																														28					
ジアルジア症																														7					
バンコマイシン耐性腸球菌感染症																														3					
急性脳炎																														17					
劇症型溶血性レンサ球菌感染症																														13					
後天性免疫不全症候群																														57					
侵襲性インフルエンザ菌感染症																														9					
侵襲性肺炎球菌感染症																														30					
水痘（入院例に限る）																														3					
髄膜炎菌性髄膜炎																														1					
破傷風																														29					
梅毒																														133					
麻疹																														5					
風しん																														16					
計																														480					
新型	新型インフルエンザ																													34					
計																													34						
動物	鳥インフルエンザ																													1					
計																													1						
総計																													2,506						

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

9月はウイルス34件，細菌29件の搬入があり，そのうちウイルス7件，細菌12件の病原体を検出し，また，平成28年8月に搬入された検体でウイルス6件，細菌1件を検出した。検出ウイルスの内訳は，Adenovirus 4 1件，Astrovirus NT 1件，Echovirus 6 2件，Echovirus 30 1件，Human herpes virus 6 3件，Human herpes virus 7 2件，Parainfluenza virus 3 1件，Respiratory syncytial virus A 1件，Rhinovirus 1件，*Bordetella pertussis* 10件，*Mycoplasma pneumoniae* 2件，*Salmonella Enteritidis* 1件であった。

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	9	女	無菌性髄膜炎	38℃，嘔吐，嘔気，	ぬぐい液	8. 4	Human herpes virus 7
2	0ヶ月	男	-	39℃，	髄液	8.14	Echovirus 6
3	6	男	感染性胃腸炎	40℃，下痢，腹痛，中枢神経系障害，	ふん便	8.14	Adenovirus 4
4	1	男	感染性胃腸炎	38℃，下痢，嘔吐，嘔気，咳漱，	ふん便	8.23	Rhinovirus
5	10	男	無菌性髄膜炎	38℃，	髄液	8.23	Echovirus 6
6	11	男	百日咳	咳漱，	ぬぐい液	8.24	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
7	2	女	感染性胃腸炎	38℃，下痢，	ふん便	8.25	Astrovirus NT
8	2ヶ月	男	RSウイルス感染症	気管支炎，	鼻腔	9. 2	Respiratory syncytial virus A
9	5	女	感染性胃腸炎	38℃，腹痛，	ふん便	9. 2	<i>Salmonella Enteritidis</i>
10	7	女	百日咳	咳漱，	ぬぐい液	9. 2	<i>Bordetella pertussis</i>
11	8	女	無菌性髄膜炎	39℃，嘔吐，嘔気，	ぬぐい液	9. 5	Echovirus 30
12	1	男	突発性発しん	39℃，下痢，咳漱，発疹，	鼻咽腔	9. 6	Human herpes virus 6
13	8ヶ月	男	百日咳	37℃，咳漱，	ぬぐい液	9. 6	<i>Bordetella pertussis</i>
14	6	女	インフルエンザ様疾患	39℃，下気道炎，	ぬぐい液	9. 8	Parainfluenza virus 3
15	18	女	百日咳	咳漱，	ぬぐい液	9.10	<i>Bordetella pertussis</i>
16	9	男	百日咳	咳漱，	ぬぐい液	9.10	<i>Bordetella pertussis</i>
17	4	男	百日咳	咳漱，	ぬぐい液	9.10	<i>Bordetella pertussis</i>
18	10	男	百日咳	咳漱，	ぬぐい液	9.10	<i>Bordetella pertussis</i>
19	3	男	不明発疹症	38℃，発疹，	ぬぐい液	9.12	Human herpes virus 6 Human herpes virus 7
20	1	男	不明発疹症	40℃，下痢，発疹，	ぬぐい液	9.15	Human herpes virus 6
21	5	女	百日咳	36℃，咳漱，	ぬぐい液	9.16	<i>Bordetella pertussis</i> <i>Mycoplasma pneumoniae</i>
22	1	男	百日咳	37℃，咳漱，	ぬぐい液	9.17	<i>Bordetella pertussis</i>
23	10	男	百日咳	咳漱，	ぬぐい液	9.17	<i>Bordetella pertussis</i>
24	7	男	百日咳	咳漱，	ぬぐい液	9.20	<i>Bordetella pertussis</i>

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2016年									2016年 総計	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9		
A 群溶血性 レン球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1	1				1						2
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T4	1				2						3
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T3264					1						1
	Epstein-Barr virus	1										1
	計	3				4						7
インフルエンザ	Influenza virus A H3 NT	1										1
	Influenza virus A H1pdm09	7	45	10	2							64
	Influenza virus B /Victoria	2	3		1	1						7
	Influenza virus B Yamagata	1	12	8	9	1						31
	Coxsackievirus A4								1	1		2
	Echovirus 6											1
	Human herpes virus 6			1								1
	Human herpes virus 7											1
	Respiratory syncytial virus B											1
計	11	60	19	12	2	3	1				108	
咽頭結膜熱	Coxsackievirus A4						1					1
	Human herpes virus 6		1									1
	Human herpes virus 7		1									1
計		2					1				3	
感染性胃腸炎	Adenovirus 2			3			2					5
	Adenovirus 4									1		1
	Astrovirus NT			1						1		2
	Coxsackievirus A9			1								1
	Echovirus 6						1	4				5
	Epstein-Barr virus			1								1
	Human herpes virus 6						1			2		3
	Norovirus GII NT	8	1	1	3		1					16
	Parechovirus 3							1				1
	Rotavirus group A G2			4								4
	Rotavirus group AG3	1										1
	Rotavirus group AG8	1										1
	Rotavirus group A NT		4	2								6
	Rhinovirus				1					1		2
	Sapovirus genogroup unknown			2	2	1						5
	Enteropathogenic <i>Escherichia coli</i>	1										1
	Enteraggregative <i>Escherichia coli</i> O126 : H27 aggR				1							1
	Salmonella Enteritidis										1	1
計	11	5	15	7	1	5	5	5	5	1	55	
ヘルパンギーナ	Adenovirus 41						1					1
	Coxsackievirus A4						1	1				2
	Coxsackievirus A10		2									2
	Human metapneumovirus						1					1
計		2				3	1				6	
手足口病	Coxsackievirus A14				1			2				3
	Cytomegalovirus							1				1
	Enterovirus NT					2	2	4				8
	Human herpes virus 7							1				1
	Parechovirus 3							1				1
	Rhinovirus						3	1				4
計				1	2	5	10				18	
伝染性紅斑	human parvovirus B19 virus	1	1									2
	Respiratory syncytial virus A		1									1
計	1	2									3	
百日咳	<i>Bordetella parapertussis</i>		1									1
	<i>Bordetella pertussis</i>	2	5	4	4	5	8	3	4	10		45
	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>		1				1	1	1	1		5
	計	2	7	4	4	5	9	4	5	11		51
流行性耳下腺炎	Mumps virus						1					1
	計						1					1
無菌性髄膜炎	Echovirus 6						2	3	1			6
	Echovirus 30										1	1
	Human herpes virus 7	1							1		1	3
	Mumps virus							2				2
	Parechovirus 3							1				1
	Parainfluenza virus 3								1			1
計	1					2	6	3	1		13	
マイコプラズマ肺炎	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>		1		1				1			3
	計		1		1				1			3
RS ウイルス感染症	Respiratory syncytial virus A										1	1
	計										1	1
水痘	計											
突発性発疹	Coxsackievirus A4					1						1
	Cytomegalovirus								1			1
	Human herpes virus 6					2				1		3
	計					3			1	1		5
その他	Adenovirus 2	1										1
	Coxsackievirus A4							2				2
	Coxsackievirus A14	1										1
	Cytomegalovirus	4		4	1			1	1			11
	Echovirus 6						3	1	1			5
	Echovirus 18				1							1
	Enterovirus NT					1	2					3
	Epstein-Barr virus	3					2					5
	Herpes simplex virus 1	1										1
	Human herpes virus 6	2	4		1		2				2	11
	Human herpes virus 7	3	1	2	1	1		1			1	10
	Human metapneumovirus					2	1		7			10
	human parvovirus B19								1			1
	Parainfluenza virus 1						1					1
	Parainfluenza virus 3					1	2		2	1		6
	Respiratory syncytial virus A	2	4									7
	Respiratory syncytial virus B	1		2					1			3
	Rhinovirus	2	1	3	2	3	1	1				13
	Rotavirus group A G2			1								1
<i>Bordetella pertussis</i>				1							1	
計	20	10	12	7	8	14	8	11	4		94	
総計	49	89	50	32	26	42	35	26	19		368	

高知県感染症情報月報 2016年10月

(65定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
内科・小児科	インフルエンザ										2
小児科	咽頭結膜熱			17	96	7	8		128	153	8
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		6	17	60	5	9	11	108	117	174
	感染性胃腸炎		26	135	199	7	9	44	420	378	223
	水痘		2	11	22	2	2		39	60	48
	手足口病		5		9	34	3	1	52	27	255
	伝染性紅斑			3	20			4	27	36	19
	突発性発疹		4	5	23	5	3	7	47	62	50
	百日咳				3	2	3	1	9	20	4
	ヘルパンギーナ				16	1		12	29	50	27
	流行性耳下腺炎		1	52	30		4	12	99	85	47
	RSウイルス感染症		5	55	98	13	2	10	183	87	249
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎									5	
STD	性器クラミジア感染症									2	
	性器ヘルペスウイルス感染症										
	尖圭コンジローマ			1					1		
	淋菌感染症									1	
基幹	細菌性髄膜炎									4	1
	無菌性髄膜炎				1				1	3	2
	マイコプラズマ肺炎			4	19			16	39	45	22
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									2	7
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)				1				1	2	3
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		2	1	18			2	23	15	12
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症										
	薬剤耐性緑膿菌感染症										2
計		51	301	615	76	43	120	1,206	1,154	1,155	
前月		52	201	596	97	72	136				
前年同月		59	233	559	101	29	174				
小児科定点数		2	7	11	3	2	5				

2016年10月

全国情報 (10月3日～10月30日)

第40週 (10月3日～) から第43週 (～10月30日) までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における10月の上位6疾患の合計は45.45で9月の4週間換算値38.51に比べて増加した。増加の理由は、上位6疾患が全て増加したことによるが、中でもRSウイルス感染症、マイコプラズマ肺炎、感染性胃腸炎、手足口病の増加が目立っていた。1位は感染性胃腸炎で16.74と9月の4週間換算値14.36に比べ増加した。2位はRSウイルス感染症で7.91 (9月4位5.15)、3位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で6.30 (同2位5.60) と増加した。4位はマイコプラズマ肺炎で5.63 (同6位3.76) と増加し、統計をとりはじめて最多の報告数を記録したことが、複数のメディアで報じられた。5位は手足口病で4.58 (同8位3.28)、6位が流行性耳下腺炎で4.29 (同5位4.11) と増加した。

8月から麻疹が流行している。第34週～38週に88名の患者が報告されたが、10月の39週～42週は21名で減少に転じた。2016年の累計は155名 (うち検査診断例が96例) となり、昨年を大きく上回っている。10月も、東京で6名、神奈川で3名、大阪で3名と、まとまった報告があった。

表1 各週定点当たり報告数 (全国)

No	疾病名	週	40週	41週	42週	43週	計
1	感染性胃腸炎		3.69	3.43	4.36	5.26	16.74
2	RSウイルス感染症		2.32	2.02	1.90	1.67	7.91
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.61	1.28	1.72	1.69	6.30
4	マイコプラズマ肺炎		1.33	1.23	1.61	1.46	5.63
5	手足口病		1.39	1.09	1.04	1.06	4.58
6	流行性耳下腺炎		1.11	0.94	1.27	0.97	4.29

県内情報

1. 全国との対比 (定点当たり報告数)

高知県の10月の上位6疾患の合計は36.12と9月の4週間換算値26.37に比べ増加したが、全国よりも少なかった (表2)。増加の原因は上位6疾患すべての増加であり、特に増加が目立ったのはRSウイルス感染症と感染性胃腸炎である。全国の値と比べると咽頭結膜熱を除く5疾患はいずれも少ない報告数だった。

1位は感染性胃腸炎で、13.99と9月の4週換算値10.08に比べ増加したが全国よりも少なかった。2位はRSウイルス感染症で6.10 (9月5位2.32) と2.6倍に増加、3位はマイコプラズマ肺炎で4.88 (同2位4.51)、4位は咽頭結膜熱で4.26 (同3位4.08) とい

ずれも微増した。5位がA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で3.59 (同4位3.12) と前月につづいて増加を続け、6位は流行性耳下腺炎で3.30 (同6位2.26) と増加した。

表2 各週定点当たり報告数 (高知県)

No	疾病名	週	40週	41週	42週	43週	計
1	感染性胃腸炎		2.93	3.43	3.53	4.10	13.99
2	RSウイルス感染症		1.47	1.50	1.63	1.50	6.10
3	マイコプラズマ肺炎		0.75	1.00	2.00	1.13	4.88
4	咽頭結膜熱		1.30	0.93	0.93	1.10	4.26
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.70	0.73	1.03	1.13	3.59
6	流行性耳下腺炎		1.17	0.43	1.10	0.60	3.30

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 0名 (9月 0名)。全国的には第34週以降に報告が増加しており、例年の同時期に比べてかなり多いが、本県では報告はゼロであった。ただし、報告がないのは本県をのぞけば青森県だけであり、動向が注目される。

2) 咽頭結膜熱

報告数 128名 (9月 153名)。安芸と幡多を除く地域から報告され、高知市、須崎で多く報告された。同時期としては過去10年で最も多い報告数である。咽頭結膜熱の患者からのウイルス検出はなかったが、手足口病の臨床診断の患者検体からAdenovirus 3が1件、感染性胃腸炎の患者からAdenovirus 41が1件検出された。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 108名 (9月 117名)。2014年10月以降多い報告数が続いていて、2015年12月以降は2016年3月に至るまで、同時期として過去10年間では最大の流行となった。2016年5月はほぼ平年並み、6月は再び増加した。7月以降減少に転じたものの9月には再びゆるやかに増加を続けている。同時期としては平年並みの数となった。県下全域から報告があり、特に高知市、須崎、安芸からの報告が多い。病原体としては*Streptococcus agalactiae*が1件検出された。

4) 感染性胃腸炎

報告数 420名 (9月 378名)。県下全域から報告があり、中央東、高知市、安芸、幡多の順に多く報告された。病原体としてはAdenovirus 41とEchovirus 30が各1件検出された。ロタウイルスは2011年11月に任意ワクチンが導入されて2013年11月からサーベイランス調査が開始された。ロ

タウウイルス胃腸炎は、3月に増加し、2013年11月以降では最多の患者数（101名）が報告されたが、4月は36名、5月は13名、6月は1名、7月～9月はともに2名、10月は1名と減少している。

5) 水痘

報告数 39名（9月 60名）。幡多以外の地域から報告があり、高知市、中央東から報告が多い。10月の報告数としては過去10年で最も少ない報告数であり、2015年からの水痘ワクチン定期化の効果と思われる。

6) 手足口病

報告数 52名（9月 27名）。初夏に流行が始まる感染症で、例年通りの立ち上がりで、7月以降減少していたが、10月に再び増加に転じた。中央東以外から報告があり、特に中央西からの報告が多い。手足口病の患者からCoxsackievirus A6, Adenovirus 3, HHV6, HHV7が各1件ずつ検出された。

7) 伝染性紅斑

報告数 27名（9月 36名）。2015年以降、全国的に例年に比べて多い傾向で推移している。高知県からの報告は全国に比べて多い。高知市、幡多、中央東から報告があり、表記の順に多かった。ウイルスは検出されていない。軽症のことが多く、医療機関を訪れる機会も少なく流行状況の正確な把握が難しい側面がある。流行が続けば、成人の関節炎、貧血発作（Aplastic crisis）、流産、胎児水腫といった合併症が増加する可能性があり、注意を要する。

8) 突発性発疹

報告数 47名（9月 62名）。想定内の変動で推移している。

9) 百日咳

報告数 9名（9月 20名）。須崎、中央西、高知市、幡多から表記の順に多く報告された。細菌は*Bordetella pertussis*のゲノムが6件検出された。高知県では百日咳の入院例に限定した全数調査が2016年から開始されている（厚生労働省班会議研究の拠点調査）。

10) ヘルパンギーナ

報告数 29名（9月 50名）。例年6～7月か

ら流行がみられるが、今季は、通常の流行の立ち上がり、規模ともに小さかった。幡多、高知市、中央西から表記の順に多く報告された。ウイルスはCoxsackievirus A2が1件検出された。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 99名（9月 85名）。全国的にも増加が報告され注目されている。高知県でも6月に倍増し、流行が危惧されたが、7月は半減し、例年の流行レベルとなった。中央西以外から報告があり、中央東、高知市、幡多で多い。1歳女児からMumps virusが1件検出されている。

12) RSウイルス感染症

報告数 183名（9月 87名）。県下全域から報告され、高知市、中央東、から報告が多かった。ウイルスは検出されていない。

13) 流行性角結膜炎

報告数 0名（9月 5名）。ここ3年間は一桁で推移している。

14) 細菌性髄膜炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 0名（9月 4名）。

15) 無菌性髄膜炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 1名（9月 3名）。高知市の0か月児の髄液からCoxsackievirus B3が1件検出された。

16) マイコプラズマ肺炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 39名（9月 45名）。幡多、中央東、高知市から表記の順に多く報告された。同時期としては過去10年間で最も多く報告された。同じ傾向が全国でみとめられ、各種メディアで報道された。多数の報告が続く幡多地域では、臨床的にマクロライド系薬剤耐性であり、抗菌薬選択に注意を要する。細菌は検出されなかった。

基幹定点の月報疾患

17) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 23名（9月 15名）。例年並みの数で推移している。

18) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名（9月 0名）。2014年は計4例、2015年は1例のみであった。2016年は1例報告されている。

高知県感染症発生動向調査部会

前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患（平成28年10月）

類型	病名	報告年																												総計								
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28																			
2	結核																		131	149	163	156	192	132	128	138	129	108	1,426									
	計																		131	149	163	156	192	132	128	138	129	108	1,426									
3	コレラ	1																		1											3							
	バラチフス	2																												2								
	細菌性赤痢	11	4	2			3	1	2	2											25																	
	腸チフス	1																		1											3							
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	34	191																		
計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	34	224																			
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1											3	1	32															
	Q熱	1	1	2																		1											5					
	オウム病			1			1																												2			
	つつが虫病			9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	3											1									
	マラリア																		2											3								
	レジオネラ症			2			1			1											9	7	3	6	9	2	4	4	2	50								
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	7	3	6	7	15	4	1	7	4	11	141																
	日本脳炎	1	1	1																		1	1											6				
	レプトスピラ症																		1			4	2	1											8			
	E型肝炎																		1			1											2					
	デング熱																		1			3	2	1											7			
	重症熱性血小板減少症候群																				3	11	3	7											24			
計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	27	15	22	351																			
5	アメーバ赤痢			2	2	2	1	2	2	2	1	3	2	2	3											1	35											
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3											1	54													
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症																				7	19	17											43				
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4			4	3	3											6			1	3	28													
	ジアルジア症			1	2	1																		1	1											7		
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症																		1											3								
	急性脳炎																		1	1	2	5	1	3	1			1	1	1	17							
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症																		1	1	1	3	1	3			1											3
	後天性免疫不全症候群	2			2	2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	9											59								
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																				1	5	3											9				
	侵襲性肺炎球菌感染症																				1	4	12	14											31			
	水痘（入院例に限る）																				2	1											3					
	髄膜炎菌性髄膜炎																		1											1								
	破傷風			3	2	2	1			1	1	2	3	1	1	1	1			4	3	3	29															
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	11											133								
	麻疹																		5											5								
	風しん																		1	1			4	9	1											16		
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	63	486																			
新型	新型インフルエンザ																													34	34							
動物	鳥インフルエンザ																													1	1							
計																													1	1								
総計	61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	210	210	227	2,522																			

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

10月はウイルス50件，細菌20件の搬入があり，そのうちウイルス15件，細菌7件の病原体を検出し，また，平成28年9月に搬入された検体でウイルス6件を検出した。検出ウイルスの内訳は，Adenovirus 3 1件，Adenovirus 41 2件，Coxsackievirus A2 1件，Coxsackievirus A6 1件，Coxsackievirus A14 1件，Coxsackievirus B3 1件，Cytomegalovirus 2件，Echovirus 30 1件，Human herpes virus 6 3件，Human herpes virus 7 2件，Human metapneumovirus 2件，Mumps virus 2件，Norovirus GII NT 2件であった。また，細菌の内訳は，*Bordetella pertussis* 6件，*Streptococcus agalactiae* 1件であった。

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	2	女	手足口病	37℃，発疹，	ぬぐい液	9. 6	Coxsackievirus A14
2	1	女	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	9.15	Norovirus GII NT
3	8	男	無菌性髄膜炎 流行性耳下腺炎	40℃，	尿	9.16	Cytomegalovirus
4	1	女	-	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	9.20	Adenovirus 41
5	5	女	伝染性紅斑	37℃，咳漱，発疹，	ぬぐい液	9.21	Human herpes virus 7
6	1	男	上気道炎	39℃，嘔吐，嘔気，上気道炎，	髄液	9.23	Mumps virus
7	10ヶ月	男	-	39℃，下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	9.28	Norovirus GII NT
8	11	女	百日咳	-	鼻腔	9.28	<i>Bordetella pertussis</i>
9	1	女	インフルエンザ様疾患	39℃，気管支炎，	ぬぐい液	9.30	Human metapneumovirus
10	4	男	百日咳	咳漱，	ぬぐい液	9.30	<i>Bordetella pertussis</i>
11	11ヶ月	女	不明発疹症	38℃，発疹，	ぬぐい液	9.30	Human herpes virus 6
12	1	女	流行性耳下腺炎	39℃，	ぬぐい液	10. 3	Mumps virus
13	9ヶ月	女	感染性胃腸炎	38℃，嘔吐，嘔気，	ふん便	10. 4	Echovirus 30
14	5	女	百日咳	咳漱，	鼻腔	10. 5	<i>Bordetella pertussis</i>
15	11ヶ月	男	手足口病	39℃，水疱，口内炎，	ぬぐい液	10. 6	Coxsackievirus A6
16	1	女	ヘルパンギーナ	40℃，	ぬぐい液	10. 7	Coxsackievirus A2
			感染性胃腸炎	40℃，下痢，発疹，	ふん便	10. 8	
17	4	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃，発疹，	ぬぐい液	10.11	<i>Streptococcus agalactiae</i>
18	5	男	手足口病	39℃，発疹，	ぬぐい液	10.11	Adenovirus 3
19	11	女	百日咳	37℃，咳漱，	ぬぐい液	10.11	<i>Bordetella pertussis</i>
20	3	女	感染性胃腸炎	下痢，腹痛，	ふん便	10.12	Adenovirus 41
21	0ヶ月	女	無菌性髄膜炎	38℃，	髄液	10.12	Coxsackievirus B3
22	1	女	不明発疹症	39℃，上気道炎，発疹，	ぬぐい液	10.14	Cytomegalovirus
23	3	男	百日咳	-	鼻腔ぬぐい液	10.17	<i>Bordetella pertussis</i>
24	1	女	手足口病	37℃，下痢，発疹，	ぬぐい液	10.22	Human herpes virus 6
							Human herpes virus 7
25	7	女	百日咳	36℃，咳漱，	ぬぐい液	10.22	<i>Bordetella pertussis</i>
26	1	女	-	38℃，咳漱，発疹，	ぬぐい液	10.25	Human herpes virus 6
							Human metapneumovirus

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2016年										2016年 総計	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
A群溶血性 球菌咽頭炎	<i>Streptococcus agalactiae</i>											1	1
	<i>Streptococcus pyogenes T1</i>	1					1						2
	<i>Streptococcus pyogenes T4</i>	1					2						3
	<i>Streptococcus pyogenes T3264</i>						1						1
	Epstein-Barr virus						1						1
	計	3					4					1	8
インフルエンザ	Influenza virus A H3 NT	1											1
	Influenza virus A H1pdm09	7	45	10	2								64
	Influenza virus B /Victoria	2	3		1	1							7
	Influenza virus B Yamagata	1	12	8	9	1							31
	Coxsackievirus A4							1	1				1
	Echovirus 6							1					1
	Human herpes virus 6			1									1
	Human herpes virus 7							1					1
	Respiratory syncytial virus B							1					1
	計	11	60	19	12	2	3	1					108
咽頭結膜熱	Coxsackievirus A4							1					1
	Human herpes virus 6		1										1
	Human herpes virus 7		1										1
	計		2										3
感染性胃腸炎	Adenovirus 2			3				2					5
	Adenovirus 4								1				1
	Adenovirus 41				1						1		2
	Astrovirus NT			1					1				2
	Coxsackievirus A9												1
	Echovirus 6						1	4					5
	Echovirus 30										1		1
	Epstein-Barr virus				1								1
	Human herpes virus 6						1		2	1			1
	Norovirus GI/NT	8	1	1	3		1		1				17
	Parechovirus 3							1					1
	Rotavirus group A G2				4								4
	Rotavirus group AG3	1											1
	Rotavirus group AG8	1											1
	Rotavirus group A NT			4	2								6
	Rhinovirus					1				1			2
	Sapovirus genogroup unknown				2	2	1						5
	<i>Enteropathogenic Escherichia coli</i>	1											1
	<i>Enterogastric Escherichia coli O126</i> - <i>H27 aggR</i>					1							1
	<i>Salmonella Enteritidis</i>										1		1
	計	11	5	15	7	1	5	5	5	2	2	58	
ヘルパンギーナ	Adenovirus 41							1					1
	Coxsackievirus A2										1		1
	Coxsackievirus A4							1	1				2
	Coxsackievirus A10		2										2
	Human metapneumovirus							1					1
	計		2					3	1			7	
手足口病	Adenovirus 3										1		1
	Coxsackievirus A6									1			1
	Coxsackievirus A14				1				2		1		4
	Cytomegalovirus								1				1
	Enterovirus NT					2	2		4				8
	Human herpes virus 6										1		1
	Human herpes virus 7										1		1
	Parechovirus 3								1				1
Rhinovirus						3		1				4	
	計				1	2	5	10		1	4	23	
伝染性紅斑	Human herpes virus 7		1								1		2
	human parvovirus B19 virus	1											1
	Respiratory syncytial virus A		1										1
	計	1	2								1	4	
百日咳	<i>Bordetella parapertussis</i>		1										1
	<i>Bordetella pertussis</i>	2	5	4	4	5	8	3	4	10	6	51	
	<i>Mycoplasm pneumoniae</i>		1				1	1	1	1		5	
	計	2	7	4	4	5	9	4	5	11	6	57	
流行性耳下腺炎	Mumps virus					1					1		2
	計					1					1	2	
無菌性髄膜炎	Coxsackievirus B3										1		1
	Cytomegalovirus										1		1
	Echovirus 6						2	3	1		1		6
	Echovirus 30										1		1
	Human herpes virus 7	1							1				2
	Mumps virus								2				2
	Parechovirus 3								1				1
Parainfluenza virus 3									1			1	
	計	1					2	6	3	2	1	15	
マイコプラズマ肺炎	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>		1		1					1			3
	計		1		1					1		3	
RSウイルス感染症	Respiratory syncytial virus A									1			1
	計									1		1	
水痘	計												
突発性発疹	Coxsackievirus A4					1				1			1
	Cytomegalovirus											1	1
	Human herpes virus 6					2					1		3
	計					3				1		5	
その他	Adenovirus 2	1											1
	Adenovirus 41												1
	Coxsackievirus A4								2				2
	Coxsackievirus A14	1											1
	Cytomegalovirus	4		4	1			1	1		1		12
	Echovirus 6												5
	Enterovirus 18				1								3
	Enterovirus NT					1		2					3
	Epstein-Barr virus	3						2					5
	Herpes simplex virus 1	1											1
	Human herpes virus 6	2	4		1			2			2		13
	Human herpes virus 7	3	1	2	1	1		1			2		10
	Human metapneumovirus					2	1			7		2	12
	human parvovirus B19												1
	Mumps virus										1		1
	Norovirus GI/NT											1	1
	Parainfluenza virus 1												1
	Parainfluenza virus 3						1						6
	Respiratory syncytial virus A	2	4				1		2		1		7
	Respiratory syncytial virus B	1		2					1				3
	Rhinovirus	2	1	3	2	3	1	1					13
Rotavirus group A G2			1									1	
<i>Bordetella pertussis</i>				1								1	
計	20	10	12	7	8	14	8	11	6		6	102	
総計	49	89	50	32	26	42	35	26	25	22	396		

高知県感染症情報月報 2016年11月

(65定点医療機関)

定点名	保健所		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
	疾病名										
内科・小児科	インフルエンザ		4	13	6	7	1		31		31
小児科	咽頭結膜熱			23	68	3	3		97	128	10
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2	17	104	9	6	8	146	108	228
	感染性胃腸炎		31	203	218	62	47	33	594	420	332
	水痘			12	39	9	2	6	68	39	57
	手足口病			2	10	4	1		17	52	18
	伝染性紅斑			2	16			5	23	27	23
	突発性発疹			12	14	2	4	5	37	47	50
	百日咳				4		3	2	9	9	8
	ヘルパンギーナ		1	2	23	3		3	32	29	6
	流行性耳下腺炎			46	21	4	4	5	80	99	46
	RSウイルス感染症		6	21	50	9	11	10	107	183	84
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎			2					2		
STD	性器クラミジア感染症				2				2		2
	性器ヘルペスウイルス感染症										
	尖圭コンジローマ									1	
	淋菌感染症										
基幹	細菌性髄膜炎										
	無菌性髄膜炎									1	
	マイコプラズマ肺炎			2	20			12	34	39	31
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)				2				2		8
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)				2				2	1	15
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		4	2	9			1	16	23	14
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症										
	薬剤耐性緑膿菌感染症										
計			48	357	610	112	82	90	1,299	1,206	963
前月			51	301	615	76	43	120			
前年同月			53	178	417	79	73	163			
小児科定点数			2	7	11	3	2	5			

2016年11月

全国情報 (10月31日～11月27日)

第44週 (10月31日～) から第47週 (～11月27日) までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における11月の上位6疾患の合計は67.81で10月の45.45に比べて増加した。増加の主因は感染性胃腸炎の大幅な増加であるが、インフルエンザとマイコプラズマ肺炎の増加も見逃せない。1位は感染性胃腸炎で41.75と10月の16.74に比べて2.5倍に増加した。2位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で8.00 (10月3位6.30) と増加した。3位がマイコプラズマ肺炎で4.75 (同4位5.63)、4位はRSウイルス感染症で4.65 (同2位7.91) と減少した。5位に登場したのがインフルエンザで4.60 (同10位1.31) と増加し例年に比べて早い流行期を迎えたようである。都道府県別の上位は沖縄県 (36.04)、栃木県 (15.77)、福井県 (13.23) で、高知県は0.64であった。

2016年は8月から麻疹が流行し、話題となった。第34週～38週に102名の患者が報告されたが、10月の第39週～42週は17名で減少に転じ、11月は4名とさらに減少し、冬季に入り一時流行は終息しそうである。ただし、2016年の累計は155名 (うち検査診断例が93例) となり、昨年を大きく上回っており、まだ油断できない。

表1 各週定点当たり報告数 (全国)

No	疾病名	週	44週	45週	46週	47週	計
1	感染性胃腸炎		6.41	9.37	13.12	12.85	41.75
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.70	1.99	2.22	2.09	8.00
3	マイコプラズマ肺炎		1.12	1.33	1.32	0.98	4.75
4	RSウイルス感染症		1.33	1.19	1.11	1.02	4.65
5	インフルエンザ		0.59	0.84	1.38	1.79	4.60
6	流行性耳下腺炎		1.05	1.07	0.96	0.98	4.06

県内情報

1. 全国との対比 (定点当たり報告数)

高知県の11月の上位6疾患の合計は38.39と10月の36.12に比べ増加したが、全国よりも少なかった (表2)。増加の原因は上位2疾患すなわち感染性胃腸炎とA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の増加である。全国の値と比べると、咽頭結膜熱を除く5疾患はいずれも少ない報告数だった。

1位は感染性胃腸炎で、19.80と10月の13.99と比べ増加したが全国よりも少なかった。県下の臨床検体からNorovirusとSapovirusが各5件同定されており、とりわけ強い感染力をもち、感染予防策を講じることが難しいNorovirusの流行期に入ったと思われる注意が必要である。2位はA群溶血性レンサ球

菌咽頭炎で4.87 (10月5位3.59) と増加した。3位はマイコプラズマ肺炎で4.26 (同3位4.88) と減少し、4位はRSウイルス感染症で3.56 (10月2位6.10) と減少に転じた。5位が咽頭結膜熱で3.24 (同4位4.26)、6位は流行性耳下腺炎で2.66 (同6位3.30) と減少した。

全国で流行の到来が告げられたインフルエンザは、本県では12位0.64でまだ本格的な流行には至っていない。

表2 各週定点当たり報告数 (高知県)

No	疾病名	週	44週	45週	46週	47週	計
1	感染性胃腸炎		4.50	6.13	4.40	4.77	19.80
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.27	1.00	0.90	1.70	4.87
3	マイコプラズマ肺炎		0.50	1.25	1.38	1.13	4.26
4	RSウイルス感染症		0.93	1.03	0.90	0.70	3.56
5	咽頭結膜熱		1.10	0.37	0.77	1.00	3.24
6	流行性耳下腺炎		0.50	1.00	0.53	0.63	2.66

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 31名 (10月 0名)。全国では第34週以降に報告が増加しており、例年の同時期に比べてかなり多い。本県は出遅れたものの11月になってまとまった報告があった。広い年齢層で報告された。幡多を除く全域から報告があり、中央西、中央東、安芸で多かった。中央東では学級閉鎖も1校出ており動向が注目される。ウイルスは1件も検出されていない。全国の調査では、今のところ主な流行株はA香港 (AH3) である。

2) 咽頭結膜熱

報告数 97名 (10月 128名)。安芸と幡多を除く地域から報告され、高知市、中央東で多く報告された。10月につづいて同時期としては過去10年で最も多い報告数である。咽頭結膜熱の患者からのウイルス検出はなかったが、流行性角結膜炎と臨床診断された患者検体からAdenovirus 2が1件検出された。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 146名 (10月 108名)。2014年10月以降多い報告数が続いていて、2015年12月以降は2016年3月に至るまで、同時期として過去10年間では最大の流行となった。2016年5月はほぼ平常並み、6月は再び増加した。7月以降減少に転じたものの9月以降には再びゆるやかに増加し100台で推移し、11月としては平常並みの数となった。県下全域から報告があり、特に高知市、中央西、

須崎，中央東からの報告が多い。細菌は検出されていない。

4) 感染性胃腸炎

報告数 594名(10月 420名)。県下全域から報告があり，中央東，須崎，中央西，高知市で多く報告された。病原体としてはNorovirus GⅡ，Sapovirusが各5件，Coxsackievirus A14が1件検出された。特に強い感染力をもつNorovirusの流行期に入ったと思われ注意が必要である。

ロタウイルスは2011年11月に任意ワクチンが導入されて2013年11月からサーベイランス調査が開始された。ロタウイルス胃腸炎は，3月に増加し，2013年11月以降では最多の患者数(101名)が報告されたが，4月は36名，5月は13名，6月以降は1～2名と減少している。

5) 水痘

報告数 68名(10月 39名)。安芸以外の地域から報告があり，高知市，中央西から報告が多い。11月の報告数としては過去10年で昨年に次ぐ少ない報告数であり，2015年からの水痘ワクチン定期化の効果と思われる。

6) 手足口病

報告数 17名(10月 52名)。初夏に流行が始まる感染症で，例年通りの立ち上がりで，7月以降減少していたが，10月に再び増加に転じたが11月は減少した。安芸，幡多以外から報告があり，特に中央西からの報告が多い。病原体は検出されていない。

7) 伝染性紅斑

報告数 23名(10月 27名)。2015年以降，全国的に例年に比べて多い傾向で推移している。高知市，幡多，中央東から報告があり，表記の順に多かった。Parvovirus B19は検出されていない。軽症のことが多く，医療機関を訪れる機会も少なく流行状況の正確な把握が難しい側面がある。流行が続けば，成人の関節炎，貧血発作(Aplastic crisis)，流産，胎児水腫といった合併症が増加する可能性があり，注意を要する。

8) 突発性発疹

報告数 37名(10月 47名)。想定内の変動で推移している。

9) 百日咳

報告数 9名(10月 9名)。報告があった9名のうち，重症化しやすい6か月未満の乳児が3名含まれている。須崎，幡多，高知市から表記の順に多く報告された。細菌は*Bordetella pertussis*のゲノムが3件検出された。高知県では百日咳の入院例に限定した全数調査が2016年から開始されて

いる(厚生労働省班会議研究の拠点調査)。

10) ヘルパンギーナ

報告数 32名(10月 29名)。例年6～7月から流行がみられるが，今季は，通常の流行の立ち上がり，規模ともに小さかったがただだと報告が続いている。高知市，中央西から多く報告された。ウイルスはCoxsackievirus A2が1件検出された。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 80名(10月 99名)。全国的にも増加が報告され注目されている。高知県でも6月に倍増し，流行が危惧されたが，7月は半減し，例年の流行レベルとなった。安芸以外から報告があり，中央東，須崎，高知市で多い。ウイルスは検出されていない。

12) RSウイルス感染症

報告数 107名(10月 183名)。この時期としては平年並みの数である。県下全域から報告され，須崎，高知市，中央西・安芸，中央東，幡多から表記の順に多く報告された。RS virus Bが2件検出された。

13) 流行性角結膜炎

報告数 2名(10月 0名)。ここ3年間は一桁で推移している。

14) 細菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(10月 0名)。

15) 無菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(10月 1名)。

16) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 34名(10月 39名)。幡多，高知市，中央東から表記の順に多く報告された。同時期としては過去10年間で2012年に次いで2番目に多く報告された。同じ傾向が全国でみとめられ，各種メディアで報道された。多数の報告が続く幡多地域では，臨床的にマクロライド系薬剤耐性であり，抗菌薬選択に注意を要する。百日咳と区別が難しい患者から3件，細菌ゲノムが検出された。

基幹定点の月報疾患

17) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 16名(10月 23名)。例年並みの数で推移している。

18) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名(10月 0名)。2014年は計4例，2015年は1例のみであった。2016年は1例報告されている。

高知県感染症発生動向調査部会
前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患（平成28年11月）

類型	病名	報告年																												総計																	
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28																												
2	結核																		131	149	163	156	192	132	128	138	129	117	1,435																		
	計																		131	149	163	156	192	132	128	138	129	117	1,435																		
3	コレラ	1																		1											3																
	バラチフス	2																												2																	
	細菌性赤痢	11	4	2				3	1	2	2											25																									
	腸チフス	1																		1											3																
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	34	191																											
計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	34	224																												
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1											3	1	32																								
	Q熱	1	1	2																		1	5																								
	オウム病			1				1																		2																					
	つつが虫病			9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	3			3																										
	マラリア																		2											3																	
	レジオネラ症			2				1																		3																					
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	7	3	6	9	2	4	4	3	143																											
	日本脳炎	1	1	1																		1	6																								
	レプトスピラ症																		1			4	2	1					8																		
	E型肝炎																		1			1					2																				
	デング熱																		1					3	2	1			7																		
	重症熱性血小板減少症候群																						3	11	3	7			24																		
計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	27	15	27	356																												
5	アメーバ赤痢			2	2	2	1	2	2	2	1											3	1	35																							
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3				1					54																									
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症																				7	19	20			46																					
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4				4	3	3							6	1	3			28																									
	ジアルジア症			1	2	1																		1	7																						
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症				1																		1	3																							
	急性脳炎																		1	1	2	5	1	3	1			1	1	1	17																
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症				1	1	1																		1	3																					
	後天性免疫不全症候群	2			2	2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	9	59																											
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																				1	5	3			9																					
	侵襲性肺炎球菌感染症																				1	4	12	14			31																				
	水痘（入院例に限る）																						2	1			3																				
	髄膜炎菌性髄膜炎																		1											1																	
	破傷風			3	2	2	1			1	1	2	3	1	1	1	1			4	3	3	29																								
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	11	133																											
	麻疹																		5											5																	
	風しん																		1	1											16																
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	66	489																												
新型	新型インフルエンザ																													34	34																
動物	計																													34	34																
	鳥インフルエンザ																													1	1																
計																													1	1																	
総計																													61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	210	210	244	2,539

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

11月はウイルス50件，細菌29件の搬入があり，そのうちウイルス23件，細菌6件の病原体を検出し，また，平成28年10月に搬入された検体でウイルス4件を検出した。検出ウイルスの内訳は，Adenovirus 1 1件，Adenovirus 2 1件，Adenovirus 3 1件，Coxsackievirus A2 1件，Coxsackievirus A5 1件，Coxsackievirus A14 2件，Epstein-Barr virus 1件，Human herpes virus 6 1件，Human herpes virus 7 1件，Norovirus GII NT 5件，Parechovirus 3 1件，Respiratory syncytial virus B 4件，Rhinovirus 1件，Sapovirus genogroup unknown 6件であった。また，細菌の内訳は，*Bordetella pertussis* 3件，*Mycoplasma pneumoniae* 3件であった。

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	4	男	-	40℃，	ぬぐい液	10.18	Adenovirus 3
2	1	男	咽頭結膜熱	39℃，下痢，	ぬぐい液	10.22	Adenovirus 1
3	3	男	手足口病	37℃，発疹，	ぬぐい液	10.24	Coxsackievirus A14
4	6	男	-	咳漱，	ぬぐい液	10.25	Rhinovirus
5	11ヶ月	男	ヘルパンギーナ	38℃，咳漱，	ぬぐい液	10.25	Coxsackievirus A5
6	12	男	百日咳	38℃，咳漱，	ぬぐい液	10.25	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
7	1	男	肺炎	40℃，咳漱，気管支炎，肺炎，	後鼻腔ぬぐい液	10.26	Respiratory syncytial virus B
8	5	女	ヘルパンギーナ	40℃，	ぬぐい液	10.29	Coxsackievirus A2
9	8	女	-	39℃，	ぬぐい液	10.31	Epstein-Barr virus
10	1ヶ月	男	RSウイルス感染症	咳漱，気管支炎，肝機能，	後鼻腔ぬぐい液	10.31	Respiratory syncytial virus B
11	3	男	百日咳	咳漱，	鼻腔	10.31	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
12	0ヶ月	男	インフルエンザ様疾患， RSウイルス感染症ただし抗原(-)	咳漱，上気道炎，	うがい液	11. 1	Respiratory syncytial virus B
13	1	女	流行性角結膜炎	39℃，	ふん便	11. 1	Adenovirus 2
14	0ヶ月	男	伝染性紅斑	39℃，嘔吐，嘔気，	髄液、ふん便	11. 2	Parechovirus 3
15	1	女	感染性胃腸炎	37℃，下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	11. 4	Norovirus GII NT
16	2	女	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	11. 4	Norovirus GII NT Coxsackievirus A14
17	3ヶ月	女	百日咳	咳漱，	ぬぐい液	11. 5	<i>Bordetella pertussis</i>
18	4	女	インフルエンザ様疾患	40℃，咳漱，上気道炎，	うがい液	11. 7	Respiratory syncytial virus B
19	2	女	感染性胃腸炎	37℃，嘔吐，嘔気，	ふん便	11. 7	Sapovirus genogroup unknown
20	3	男	感染性胃腸炎	37℃，嘔吐，嘔気，	ふん便	11. 8	Norovirus GII NT
21	1	女	急性咽頭炎	40℃，上気道炎，中枢神経系障害，	ふん便	11. 9	Sapovirus genogroup unknown
22	7	男	-	嘔吐，嘔気，腹痛，発疹，関節痛，肝機能，	ぬぐい液	11.13	Human herpes virus 7
23	1	女	感染性胃腸炎	38℃，嘔吐，嘔気，	ふん便	11.14	Sapovirus genogroup unknown
24	2	女	感染性胃腸炎	37℃，下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	11.14	Sapovirus genogroup unknown
25	11	男	百日咳	38℃，咳漱，	ぬぐい液	11.14	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
26	11ヶ月	男	感染性胃腸炎	37℃，下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	11.15	Sapovirus genogroup unknown
27	8	女	感染性胃腸炎	37℃，下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	11.15	Sapovirus genogroup unknown
28	1	男	-	発疹，	鼻汁	11.18	Human herpes virus 6
29	2	男	感染性胃腸炎	38℃，嘔吐，嘔気，	ふん便	11.18	Norovirus GII NT
30	1	男	感染性胃腸炎	下痢，	ふん便	11.21	Norovirus GII NT
31	1ヶ月	女	百日咳	38℃，咳漱，	ぬぐい液	11.21	<i>Bordetella pertussis</i>
32	11	女	百日咳	37℃，咳漱，	ぬぐい液	11.21	<i>Bordetella pertussis</i>

高知県感染症情報月報 2016年12月

(65定点医療機関)

定点名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
	疾病名									
内科・小児科	インフルエンザ	21	69	364	92	56	125	727	31	35
小児科	咽頭結膜熱		9	46			3	58	97	20
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	30	139	41	39	26	278	146	383
	感染性胃腸炎	31	231	375	95	105	242	1,079	594	1,052
	水痘	4	45	64	21	3	18	155	68	32
	手足口病		2	14				16	17	4
	伝染性紅斑	1	1	24			10	36	23	38
	突発性発疹	1	4	25	3	1	8	42	37	51
	百日咳			5	1		1	7	9	3
	ヘルパンギーナ	1	2	2		1	4	10	32	4
	流行性耳下腺炎		37	22	8	7	6	80	80	73
	RSウイルス感染症	11	20	73	3	19	46	172	107	113
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			2				2	2	2
STD	性器クラミジア感染症								2	1
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ									
	淋菌感染症									
基幹	細菌性髄膜炎									2
	無菌性髄膜炎									2
	マイコプラズマ肺炎		6	17			5	28	34	29
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			4				4	2	10
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)			3				3	2	7
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	4	1	14			1	20	16	24
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									
	薬剤耐性緑膿菌感染症									
計		77	457	1,193	264	231	495	2,717	1,299	1,885
前月		48	357	610	112	82	90			
前年同月		91	398	935	138	116	207			
小児科定点数		2	7	11	3	2	5			

2016年12月

全国情報 (11月28日～1月1日)

第48週(11月28日～)から第52週(～1月1日)までの5週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における12月の上位6疾患の合計は4週間に換算すると110.01で11月の67.81に比べて増加した。増加の主因は感染性胃腸炎と12月に流行が始まったインフルエンザの増加である。1位は感染性胃腸炎で4週間換算値67.70と11月の1位41.75に比べて約1.6倍に増加した。2位はインフルエンザで22.19(11月5位4.60)に比べて約4.8倍に増加した。3位がA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で9.27(同2位8.00)と横ばいであった。4位がマイコプラズマ肺炎で3.96(同3位4.75)とわずかに減少した。5位は流行性耳下腺炎で3.69(同6位4.06)と微減、6位はRSウイルス感染症で3.19(同4位4.65)と減少した。

2016年は8月から麻疹が流行し、話題となった。第34週～38週に100名の患者が報告されたが、10月の第39週～42週は17名で減少に転じ、11月は3名、12月は7名と増加しているが、冬季に入り一時流行は終息しそうである。ただし、2016年の累計は159名(うち検査診断例が98例)となり、昨年を大きく上回っており、動向に注意を要する。

表1 各週定点当たり報告数(全国)

No	疾病名	週	48週	49週	50週	51週	52週	計
1	感染性胃腸炎		17.37	19.45	20.89	17.28	9.64	84.63
2	インフルエンザ		2.49	3.31	5.02	8.38	8.54	27.74
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.41	2.56	2.72	2.36	1.54	11.59
4	マイコプラズマ肺炎		1.13	1.21	1.01	0.84	0.76	4.95
5	流行性耳下腺炎		1.05	0.99	0.97	0.88	0.72	4.61
6	RSウイルス感染症		0.97	0.93	0.79	0.70	0.60	3.99

県内情報

1. 全国との対比(定点当たり報告数)

高知県の12月の上位6疾患の合計は4週間換算で59.85と11月の38.39に比べ増加したが、全国よりも少なかった(表2)。増加の主たる原因は上位2疾患すなわち感染性胃腸炎とインフルエンザの増加である。全国の値と比べると、RSウイルス感染症と水痘を除く4疾患はいずれも少ない報告数だった。

1位は感染性胃腸炎で、4週間換算値28.78と11月の19.80と比べ増加した。県下の臨床検体からNorovirusが6件、Sapovirus、Coxsackievirusが各3件、Adenovirus5とAstrovirusが各1件同定されており、多彩なウイルスが原因となっている。とりわけ強い感染力をもち、感染予防策を講じることが難しいNorovirus

が、11月以降流行が続いており注意が必要である。2位はインフルエンザで、12.12(11月12位0.64)と18.9倍に増え、本県は全国よりも遅れたが、いよいよ流行期に入った。本県でA香港H3が8件、AH1pdm09が1件検出されており、全国の流行株の比率と同様である。3位がA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で7.42(同2位4.87)、4位はRSウイルス感染症で4.58(同4位3.56)といずれも増加した。5位が水痘で4.14(同7位2.27)と増加し、定点当たりの報告は全国で最も多かった。6位がマイコプラズマ肺炎で2.82(同3位4.26)と減少した。

表2 各週定点当たり報告数(高知県)

No	疾病名	週	48週	49週	50週	51週	52週	計
1	感染性胃腸炎		5.73	6.77	8.77	8.57	6.13	35.97
2	インフルエンザ		0.48	0.92	2.25	4.42	7.08	15.15
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.67	2.07	2.33	1.97	1.23	9.27
4	RSウイルス感染症		1.03	1.40	1.00	0.97	1.33	5.73
5	水痘		1.70	0.97	0.77	0.80	0.93	5.17
6	マイコプラズマ肺炎		1.13	0.88	0.63	0.50	0.38	3.52

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 727名(11月 31名)。全国では第34週以降に報告が増加しており、例年の同時期に比べてかなり多い。本県は出遅れたものの11月になってまとまった報告があり、12月には著しく増加し流行期に入った。12月としては、過去10年間のうちで、パンデミック(新型インフルエンザ)として記憶に新しい2009年に次ぐ多い報告数であった。広い年齢層で報告され、20歳未満が56.5%であった。県下全域から報告があり、高知市、中央西、幡多、須崎で多かった。ウイルスはA香港H3が8件、AH1pdm09が1件検出された。

2) 咽頭結膜熱

報告数 58名(11月 97名)。高知市、中央東、幡多から、表記の順に多く報告された。同時期としては、過去10年で、2013年に次いで多い報告数である。咽頭結膜熱の患者からのウイルス検出はなかったが、感染性胃腸炎と臨床診断された患者検体からAdenovirus 5が1件、詳細不明の患者検体からAdenovirus 2が1件それぞれ検出された。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 278名(11月 146名)。2014年10月以降多い報告数が続いていて、2015年12月以降は2016年3月に至るまで、同時期として過去10年間では最大の流行となった。2016年5月はほぼ平常並み、

6月は再び増加した。7月以降減少に転じたものの9月以降には再びゆるやかに増加し100台で推移し、11月、12月は平年並みの数となった。県下全域から報告があり、特に須崎、中央西、高知市からの報告が多い。細菌は検出されていない。

4) 感染性胃腸炎

報告数 1,079名(11月 594名)。県下全域から報告があり、須崎、幡多、高知市、中央東、中央西、安芸の順に多く報告された。病原体としてはNorovirusが6件、Sapovirus、Coxsackievirusが各3件、Adenovirus 5とAstrovirusが各1件検出された。特に強い感染力をもつNorovirusの流行が11月から続いており注意が必要である。

ロタウイルスは2011年11月に任意ワクチンが導入されて2013年11月からサーベイランス調査が開始された。ロタウイルス胃腸炎は、3月に増加し、2013年11月以降では最多の患者数(101名)が報告されたが、4月は36名、5月は13名、6月以降は1~3名と減少している。本県でのワクチン接種率は乳児の4割程度で、全国よりも低いと推測されている。

5) 水痘

報告数 155名(11月 68名)。県下全域から報告があり、中央西、中央東、高知市、幡多からの報告が多い。2015年からの水痘ワクチン定期化の効果で、少ない数字で推移していたが、12月は大幅に増加した。ワクチン定期化の恩恵を受けていない5歳以上が78名(50%)を占め、この年齢層での流行があるためか、過去10年間ではこの時期として5番目の報告数に上った。定点当たりの報告は全国で最も多かった。今後の動向に注意が必要である。

6) 手足口病

報告数 16名(11月 17名)。初夏に流行が始まる感染症で、例年通りの立ち上がりで、7月以降減少していたが、10月に再び増加に転じたが11月12月と減少したが終息は未だである。高知市と中央東から報告された。病原体はCoxsackievirus A6が1件検出された。

7) 伝染性紅斑

報告数 36名(11月 23名)。2015年以降、全国的に例年に比べて多い傾向で推移している。高知市、幡多、安芸、中央東から報告があり、表記の順に多かった。Parvovirus B19は検出されていない。軽症のことが多く、医療機関を訪れる機会も少なく流行状況の正確な把握が難しい側面がある。流行が続けば、成人の関節炎、貧血発作(Aplastic crisis)、流産、胎児水腫といった合併

症が増加する可能性があり、注意を要する。

8) 突発性発疹

報告数 42名(11月 37名)。想定内の変動で推移している。

9) 百日咳

報告数 7名(11月 9名)。重症化しやすい6か月未満の乳児が1名含まれている。高知市、中央西、幡多から報告があった。細菌は*Bordetella pertussis*のゲノムは1件検出された。高知県では百日咳の入院例に限定した全数調査が2016年から開始されている(厚生労働省班会議研究の拠点調査)。

10) ヘルパンギーナ

報告数 10名(11月 32名)。例年6-7月から流行がみられるが、今季は、通常の流行の立ち上がり、規模ともに小さかったが、ただらと報告が続いている。中央西以外の全域から報告された。ウイルスはCoxsackievirus A2が2件検出された。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 80名(11月 80名)。全国的にも増加が報告され注目されている。高知県でも6月に倍増し、流行が危惧されたが、7月は半減し、例年の流行レベルとなった。安芸以外から報告があり、中央東、須崎、中央西、高知市で多い。ウイルスは検出されていない。

12) RSウイルス感染症

報告数 172名(11月 107名)。県下全域から報告があり、須崎、幡多、高知市、安芸、中央東の順に多かった。この時期としては平年並みの数である。病原体としてはRS virus Bが1件検出された。

13) 流行性角結膜炎

報告数 2名(11月 2名)。ここ3年間は一桁で推移している。

14) 細菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(11月 0名)。

15) 無菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(11月 0名)。

16) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 28名(11月 34名)。中央東、幡多、高知市から表記の順に多く報告された。多数の報告が続く幡多地域では、臨床的にマクロライド系薬剤耐性であり、抗菌薬選択に注意を要する。百日咳と区別が難しい患者から1件、細菌ゲノムが検出された。

基幹定点の月報疾患

17) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 20名(11月 16名)。例年並みの数で推移している。

18) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

高知県感染症発生動向調査部会

報告数 0名 (11月 0名). 2014年は計4例,

前田 明彦

2015年, 2016年は各1例報告があった.

高知県における月別全数報告疾患 (平成28年12月)

類型	病名	報告年																												総計
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28											
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	138	129	123	1,441										
	計									131	149	163	156	192	132	128	138	129	123	1,441										
3	コレラ	1					1						1							3										
	パラチフス	2																		2										
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2											25										
	腸チフス		1						1										1	3										
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	34	191										
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	34	224										
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1				3						3	1	32								
	Q熱	1	1	2				1													5									
	オウム病			1		1															2									
	つつが虫病		9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	3				4	74								
	マラリア								2					1								3								
	レジオネラ症		2		1		1				9	7	3	6	9	2	4	4	3		51									
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	4	13		143									
	日本脳炎	1	1	1					1				1	1								6								
	レプトスピラ症											1		4	2	1						8								
	E型肝炎												1		1							2								
	デング熱												1				3	2	1		7									
	重症熱性血小板減少症候群																3	11	3	7		24								
		計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	27	15	28	357									
5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3			7	3	2		36								
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3			1				54								
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症																		7	19	21	47								
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3					2				28								
	ジアルジア症		1	2	1						1			1	1							7								
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1								1								1		3								
	急性脳炎								1	1	2	5	1	3	1			1	1	1	1	17								
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	1				1	1	1	1	3			1				3	13								
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	9		59									
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																	1	5	3		9								
	侵襲性肺炎球菌感染症																1	4	12	16		33								
	水痘 (入院例に限る)																		2	1	3		3							
	播種性クリプトコックス症																				1		1							
	髄膜炎菌性髄膜炎										1												1							
	破傷風		3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1			4	3	3		29								
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	13		135									
	麻しん										5												5							
風しん										1	1			4	9	1						16								
	計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	73	496										
新型	新型インフルエンザ																				34									
	計																				34									
動物	鳥インフルエンザ														1							1								
	計													1								1								
	総計	61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	210	210	258	2,553										

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

12月はウイルス45件，細菌15件の搬入があり，そのうちウイルス28件，細菌2件の病原体を検出し，また，平成28年11月に搬入された検体でウイルス7件を検出した。検出ウイルスの内訳は，Adenovirus 2 1件，Adenovirus 5 1件，Astrovirus NT 1件，Coxsackievirus A2 6件，Coxsackievirus A4 1件，Coxsackievirus A6 1件，Coxsackievirus B4 1件，human parvovirus B19 1件，Influenza virus A H1pdm09 1件，Influenza virus A H3 NT 8件，Norovirus GII NT 7件，Respiratory syncytial virus B 1件，Rhinovirus 1件，Sapovirus genogroup unknown 4件であった。また，細菌の内訳は，*Bordetella pertussis* 1件，*Mycoplasma pneumoniae* 1件であった。

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	11ヶ月	男	感染性胃腸炎	37℃，下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	11.15	Coxsackievirus A2
2	2	男	感染性胃腸炎	38℃，嘔吐，嘔気，	ふん便	11.18	Coxsackievirus A2
3	51	男	-	38℃，咳漱，	うがい液	11.18	Rhinovirus
4	1	女	感染性胃腸炎	嘔吐，嘔気，中枢神経系障害，	ふん便	11.21	Coxsackievirus A4 Norovirus GII NT
5	3	男	感染性胃腸炎	36℃，下痢，嘔吐，嘔気，腹痛，	ふん便	11.25	Sapovirus genogroup unknown
6	6	男	-	39℃，腹痛，	ぬぐい液	11.25	human parvovirus B19
7	4	女	インフルエンザ	39℃，	ぬぐい液	11.29	Influenza virus A H3 NT
8	12	男	インフルエンザ	38℃，咳漱，	ぬぐい液	11.29	Influenza virus A H3 NT
9	8	女	感染性胃腸炎	38℃，下痢，嘔吐，嘔気，咳漱，	ふん便	11.30	Sapovirus genogroup unknown
10	3	女	インフルエンザ	39℃，腹痛，咳漱，	ぬぐい液	11.30	Influenza virus A H3 NT
11	8ヶ月	女	ヘルパンギーナ	40℃，	ぬぐい液	11.30	Coxsackievirus A2
12	13	男	インフルエンザ	38℃，関節痛，	ぬぐい液	12.2	Influenza virus A H3 NT
13	66	女	インフルエンザ	37℃，咳漱，	ぬぐい液	12.2	Influenza virus A H3 NT
14	2	女	手足口病	嘔吐，嘔気，腹痛，	ふん便	12.2	Coxsackievirus A6
15	3	男	感染性胃腸炎	37℃，嘔吐，嘔気，	ふん便	12.3	Sapovirus genogroup unknown
16	9	男	インフルエンザ	40℃，	ぬぐい液	12.3	Influenza virus A H3 NT
17	2	女	インフルエンザ様疾患	40℃，肺炎，	鼻汁吸引液	12.5	Respiratory syncytial virus B
18	11ヶ月	男	感染性胃腸炎	38℃，下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	12.5	Astrovirus NT Coxsackievirus B4 Norovirus GII NT
19	9ヶ月	女	-	-	ぬぐい液	12.6	Adenovirus 2
20	1	男	ヘルパンギーナ	40℃，咳漱，	ぬぐい液	12.8	Coxsackievirus A2
21	11	女	百日咳	咳漱，	ぬぐい液	12.8	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
22	1	男	感染性胃腸炎	37℃，下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	12.9	Adenovirus 5
23	4	女	感染性胃腸炎	36℃，嘔吐，嘔気，	ふん便	12.9	Coxsackievirus A2
24	4	男	感染性胃腸炎	37℃，下痢，	ふん便	12.12	Norovirus GII NT
25	1	女	感染性胃腸炎	37℃，下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	12.12	Coxsackievirus A2
26	2	男	インフルエンザ	40℃，咳漱，	ぬぐい液	12.12	Influenza virus A H3 NT
27	17	女	インフルエンザ	40℃，	ぬぐい液	12.12	Influenza virus A H3 NT
28	10	男	感染性胃腸炎	36℃，嘔吐，嘔気，腹痛，	ふん便	12.13	Norovirus GII NT
29	10	男	インフルエンザ	39℃，咳漱，上気道炎，	ぬぐい液	12.13	Influenza virus A H1pdm09
30	5	男	感染性胃腸炎	38℃，嘔吐，嘔気，	ふん便	12.14	Norovirus GII NT
31	8	女	百日咳	咳漱，	ぬぐい液	12.14	<i>Bordetella pertussis</i>
32	2	女	感染性胃腸炎	37℃，下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	12.15	Sapovirus genogroup unknown
33	1	男	感染性胃腸炎	37℃，嘔吐，嘔気，	ふん便	12.16	Norovirus GII NT
34	6	女	感染性胃腸炎	38℃，嘔吐，嘔気，	ふん便	12.19	Norovirus GII NT

V 参 考

高知県の伝染病

高知県法定・指定伝染病患者(疑似を含む)疾病別年次別発生数

年	コレラ		赤痢(疫痢)		腸管性出血性大腸菌感染症		腸チフス		パラチフス		ジフテリア		流行性脳脊髄膜炎		日本脳炎		急性灰白髄炎		計	
	患者数	死者数	患者数	死者数	患者数	死者数	患者数	死者数	患者数	死者数	患者数	死者数	患者数	死者数	患者数	死者数	患者数	死者数	患者数	死者数
昭和	30		647	31			40	1	1		118	2	11	3	72	26			889	63
	31		1,440	26			25	1	1		158	2	3		114	39			1,741	68
	32		1,704	23			37	1	2		260		6		59	27			2,068	51
	33		1,377	23			41		4		268	2	8	1	89	22			1,787	48
	34		2,107	24			17				595	17	7		47	18	9	3	2,782	62
	35		1,857	14			15		1		416	1	6	1	57	25	37	2	2,389	43
	36		1,640	14			14	1	1		267	4	2		77	35	29		2,030	54
	37		2,180	3			8				268	1	2		71	27	4	1	2,533	32
	38		724	10			7		3		296		3	1	18	9	1	1	1,052	21
	39		778	1			6				136		1		52	22	3		976	23
	40		1,151	4			1				71		3		28	9			1,254	13
	41		1,085	2			1		2		48		1		57	30	1		1,195	32
	42		1,119	2			1	1			57				41	18	1	1	1,219	22
	43		227				3				14				29	12	1	1	274	13
	44		338	3			2				7				13	8			360	11
	45		269				2				6				7	5			284	5
	46		38				7				1				9	4			55	4
	47		23				8				1				3	3			35	3
	48		16				1				6				5	1			28	1
	49		10				1				2		1						14	
	50		379								1				3	2			383	2
	51		25				2				1				4	3			32	3
	52		19				2		2		1				2	2			26	2
	53		21				2		1						2	1			26	1
	54		14				1				1				4	2			20	2
	55		14				3						2		3				22	
	56		1												1				2	
	57		3												4	1			7	1
	58		24				2												26	
	59		5						5		1								11	
	60	2	7						1						1				11	
	61		5								2				5				12	
	62		5				2												7	
	63		1																1	
平成	元		1																1	
	2		4												8	5			12	5
	3		2																2	
	4		2						1										3	
	5																		0	
	6	1	5	1															6	1
	7		2						1										3	
	8		3			13									1				17	
	9		11			5							1		2				19	
	10	1	3			19		1	1						1				26	
	11	1	1												1				3	

1. とうそう、発しんチフス、ペストについては、28年以降発生なし。
2. 腸管性出血性大腸菌感染症については、平成8年8月6日指定伝染病に指定された。
3. 平成11年は、3月31日まで、4月以降は感染症法により別掲。

高知県日本脳炎患者発生状況

年	患者発生数（人）		性別・年齢	診定月日	予 後	日脳汚染決定月日					
昭和	56	1	男 1	男 47歳	8月28日	転症	9月16日				
	57	4	男 2 女 2 (1)	男 41歳	8月07日	治癒（真性）	7月21日				
				男 81歳	8月14日	治癒（真性）					
				女 85歳	8月21日	死亡					
				女 6歳	8月31日	治癒（真性）					
	58						8月23日				
	59						指定ならず				
	60	1	男 1	男 81歳	8月24日	転症	8月07日				
	61	5	男 2 女 3	男 42歳	8月06日	治癒（真性）	8月28日				
女 78歳				8月27日	治癒（疑似）						
女 76歳				8月29日	治癒（真性）						
女 68歳				9月03日	治癒（真性）						
62						8月19日					
						8月29日					
63						8月17日					
平成	元						8月17日				
	2	8	男 6 女 2 (5)	男 49歳	8月14日	死亡（真性）	8月01日				
				男 41歳	8月22日	死亡（真性）					
				男 31歳	8月29日	死亡（疑似）					
				女 45歳	9月03日	転症					
				男 90歳	9月08日	死亡（真性）					
				男 27歳	9月18日	転症					
				男 65歳	9月26日	死亡（真性）					
				女 68歳	10月13日	転症					
				3							8月02日
				4							8月27日
	5						8月28日				
	6						8月03日				
	7						8月16日				
	8	1	男 1	男 73歳	8月23日	治癒（真性）	8月09日				
	9	2	男 1 女 1	男 60歳	8月20日	治癒（真性）	8月01日				
				女 59歳	9月30日	治癒（真性）					
	10	1	女 1	女 86歳	8月04日	治癒（疑似）	7月17日				
	11	1	男 1	男 56歳	8月20日	治癒（真性）	7月16日				
	12	1	女 1	女 71歳	9月12日	治癒（真性）	7月19日				
	13	1	女 1	女 11歳	10月30日	治癒（真性）	8月24日				
	14						7月23日				
	15						7月04日				
	16						7月12日				
	17						6月30日				
	18	1	男 1	男 46歳	9月01日	治癒（真性）	8月03日				
	19						8月03日				
	20						7月23日				
21	1	女 1	女 1歳	10月23日	治癒（真性）	7月17日					
22	1	男 1	男 70歳	11月22日	治癒（真性）	9月03日					
23						9月16日					
24						8月01日					
25						7月16日					
26						8月01日					
27						7月17日					
28						7月15日					

注：平成14年から日脳汚染決定年月日を日本脳炎ウイルス感染の注意報発令に変更（ ）内死亡数

VI その 他

高知県感染症発生動向調査事業実施要綱

第1 趣旨及び目的

感染症発生動向調査事業については、昭和54年6月から県単独で、昭和56年7月からは全国レベルで開始され、さらに昭和62年1月からコンピュータを用いたオンラインシステムにおいて27疾患を対象にする等、充実・拡大されて運用されてきたところである。平成10年9月に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（平成10年法律第114号。以下「法」という。）が成立し、平成11年4月から施行されたことに伴い、法に基づく施策として感染症発生動向調査が位置づけられた。本事業は、感染症の発生情報の正確な把握と分析、その結果の県民や医療関係者への的確な提供・公開により、感染症に対する有効かつ的確な予防・診断・治療に係る対策を図り、多様な感染症の発生及びまん延を防止するとともに、病原体情報を収集、分析することで、流行している病原体の検出状況及び特性を確認し、適切な感染症対策を立案することを目的として、医師等の医療関係者の協力のもと、的確な体制を構築していくこととする。

第2 対象感染症

本事業の対象とする感染症は次のとおりとする。

1 全数把握の対象

一類感染症

(1) エボラ出血熱、(2) クリミア・コンゴ出血熱、(3) 痘そう、(4) 南米出血熱、(5) ペスト、(6) マールブルグ病、(7) ラッサ熱

二類感染症

(8) 急性灰白髄炎、(9) 結核、(10) ジフテリア、(11) 重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る.）、(12) 中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る.）、(13) 鳥インフルエンザ（H5N1）、(14) 鳥インフルエンザ（H7N9）

三類感染症

(15) コレラ、(16) 細菌性赤痢、(17) 腸管出血性大腸菌感染症、(18) 腸チフス、(19) パラチフス

四類感染症

(20) E型肝炎、(21) ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む.）、(22) A型肝炎、(23) エキノコックス症、(24) 黄熱、(25) オウム病、(26) オムスク出血熱、(27) 回帰熱、(28) キャサナル森林病、(29) Q熱、(30) 狂犬病、(31) コクシジオイデス症、(32) サル痘、(33) ジカウイルス感染症、(34) 重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る.）、(35) 腎症候性出血熱、(36) 西部ウマ脳炎、(37) ダニ媒介脳炎、(38) 炭疽、(39) チクングニア熱、(40) つつが虫病、(41) デング熱、(42) 東部ウマ脳炎、(43) 鳥インフルエンザ（H5N1及びH7N9を除く.）、(44) ニパウイルス感染症、(45) 日本紅斑熱、(46) 日本脳炎、(47) ハンタウイルス肺症候群、(48) Bウイルス病、(49) 鼻疽、(50) ブルセラ症、(51) ベネズエラウマ脳炎、(52) ヘンドラウイルス感染症、(53) 発しんチフス、(54) ボツリヌス症、(55) マラリア、

(56) 野兔病, (57) ライム病, (58) リッサウイルス感染症, (59) リフトバレー熱, (60) 類鼻疽, (61) レジオネラ症, (62) レプトスピラ症, (63) ロッキー山紅斑熱

五類感染症

(64) アメーバ赤痢, (65) ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く.), (66) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症, (67) 急性脳炎 (ウエストナイル脳炎, 西部ウマ脳炎, ダニ媒介脳炎, 東部ウマ脳炎, 日本脳炎, ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く.), (68) クリプトスポリジウム症, (69) クロイツフェルト・ヤコブ病, (70) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症, (71) 後天性免疫不全症候群, (72) ジアルジア症, (73) 侵襲性インフルエンザ菌感染症, (74) 侵襲性髄膜炎菌感染症, (75) 侵襲性肺炎球菌感染症, (76) 水痘 (患者が入院を要すると認められるものに限る.) (77) 先天性風しん症候群, (78) 梅毒, (79) 播種性クリプトコックス症, (80) 破傷風, (81) バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症, (82) バンコマイシン耐性腸球菌感染症, (83) 風しん, (84) 麻しん, (85) 薬剤耐性アシネトバクター感染症

新型インフルエンザ等感染症

(111) 新型インフルエンザ, (112) 再興型インフルエンザ

指定感染症

該当なし

2 定点把握の対象

五類感染症 (定点)

(86) R S ウイルス感染症, (87) 咽頭結膜熱, (88) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎, (89) 感染性胃腸炎, (90) 水痘, (91) 手足口病, (92) 伝染性紅斑, (93) 突発性発しん, (94) 百日咳, (95) ヘルパンギーナ, (96) 流行性耳下腺炎, (97) インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く.), (98) 急性出血性結膜炎, (99) 流行性角結膜炎, (100) 性器クラミジア感染症, (101) 性器ヘルペスウイルス感染症, (102) 尖圭コンジローマ, (103) 淋菌感染症, (104) クラミジア肺炎 (オウム病を除く.), (105) 細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌, 髄膜炎菌, 肺炎球菌を原因として同定された場合を除く.), (106) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症, (107) マイコプラズマ肺炎, (108) 無菌性髄膜炎, (109) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症, (110) 薬剤耐性緑膿菌感染症

法第14条第1項に規定する厚生労働省で定める疑似症

(113) 摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状 (明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く.)
若しくは (114) 発熱及び発しん又は水疱 (ただし, 当該疑似症が二類感染症, 三類感染症, 四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く.)

3 オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の対象

二類感染症

(13) 鳥インフルエンザ (H5N1)

第3 実施主体

実施主体は, 高知県及び高知市とする。

1 高知県感染症情報センター及び基幹高知県感染症情報センター

高知県感染症情報センター（以下「感染症情報センター」という。）を衛生研究所内に設置し、高知県における基幹高知県感染症情報センターとしての役割を併せ持ち、高知市を含む高知県域における患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、高知県健康政策部健康対策課（組織改正や名称変更等があった場合は事務を引き継いだ所管課。以下「本庁担当課」という。）に報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに県民及び保健所（高知市含む。以下同じ。）及び医師会等の関係機関に提供・公開する。

2 指定届出機関及び指定提出機関（別紙）

(1) 定点把握対象の感染症について、患者情報及び疑似症情報を収集するため、法第14条第1項に規定する指定届出機関として、患者定点及び疑似症定点をあらかじめ選定する。

(2) 定点把握対象の五類感染症について、患者の検体又は当該感染症の病原体（以下「検体等」という。）を収集するため、病原体定点をあらかじめ選定する。なお、法施行規則第7条の2に規定する五類感染症については、法第14条の2第1項に規定する指定提出機関として、病原体定点を選定する。

3 感染症発生動向調査部会

県内における情報の収集、分析の効果的・効率的な運用を図るため、高知県医師会、高知大学医学部附属病院等感染症に関する専門の学識経験者の代表等からなる高知県感染症対策協議会の中に感染症発生動向調査部会を置く。部会の事務局は、本庁担当課で行う。

4 検査施設

県内における本事業に係る検体等の検査については、平成27年11月17日付厚生労働省結核感染症課長通知別添の検査施設における病原体等検査の業務管理要領（以下「病原体検査業務管理要領」という。）に基づき、衛生研究所又は保健所の検査施設（以下「衛生研究所等」という。）において実施し、検査の信頼性確保に努めることとする。

第4 事業の実施

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症（第2の(74)及び(84)）、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症

(1) 調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症（第2の(74)及び(84)）、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症を届出基準等通知に基づき診断した医師は、別に定める基準（平成18年3月8日付け健感発第0308001号「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出基準等について」（以下、「医師の届出基準等通知」という。））に基づく様式のうち該当する感染症の様式（別記様式1-1～4-44、5-11、5-21、新型インフルエンザ等感染症については別に定める）により、直ちに最寄りの保健所に届出を行う。

イ 検体等を所持している医療機関等

保健所から当該患者の病原体検査のための検体等の提供について、依頼又は命令を受けた場合にあっては、検体等について、別記様式1の検査票（特別に様式を指定する感染症にあってはその様式。以下同じ。）を添付して提供する。

ウ 保健所

- ① 届出を受けた保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力する。また、保健所は、病原体検査が必要と判断した場合には、検体等を所持している医療機関等に対して、必要に応じて病原体検査のための検体等の提供について、別記様式1の検査票を添付して依頼等する。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて衛生研究所と協議する。
- ② 保健所は、検体等の提供を受けた場合には、別記様式1の検査票を添付して衛生研究所等へ検査を依頼するものとする。
- ③ 保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、感染症情報センターが出す患者情報及び病原体情報について、地域の特性に応じた適切な方法を用い、週報（月単位の場合は月報）等として、市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に配布する。

エ 衛生研究所等

- ① 衛生研究所等は、別記様式1の検査票及び検体等が提供された場合は、病原体検査業務管理要領に基づき当該検体等を検査し、別記様式1に検査結果を記入のうえ保健所を經由して診断した医師に通知するとともに、本庁担当課及び感染症情報センターに送付する。また、病原体情報について、速やかに中央感染症情報センター（国立感染症研究所感染症疫学センター内に設置、以下同じ。）に報告する。
- ② 検査のうち、衛生研究所等において実施困難なものについては、必要に応じて、他の都道府県等又は国立感染症研究所に協力を依頼する。
- ③ 衛生研究所等は、県域を越えた感染症の集団感染が発生する等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあっては、検体等を国立感染症研究所に送付する。

オ 感染症情報センター

- ① 感染症情報センターは、高知県域で得られた患者情報について、保健所からの情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。
- ② 感染症情報センターは、高知県域において得られた全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される県及び全国情報と併せて県民及び保健所、市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

カ 本庁担当課

本庁担当課は、感染症情報センターが収集、分析した患者情報及び病原体情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。なお、緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、本庁担当課は、直接必要な情報を収集するとともに、国及び他の都道府県等とも連携の上、迅速な対応を行う。

2 全数把握対象の五類感染症（第2の（74）及び（84）を除く。）

(1) 調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

全数把握対象の五類感染症（第2の（74）及び（84）を除く。）の患者を医師の届出基準等通

知に基づき診断した医師は、医師の届出基準等通知に基づく様式のうち該当する感染症の様式（別記様式5-1～5-10, 5-12～5-20, 5-22）により、診断後7日以内に最寄りの保健所に届出を行う。

イ 検体等を所持している医療機関等

保健所から当該患者の病原体検査のための検体等の提供の依頼を受けた場合にあっては、検体等について、保健所に協力し、別記様式1の検査票を添付して提供する。

ウ 保健所

- ① 当該届出を受けた保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力する。また保健所は、病原体検査が必要と判断した場合には、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の提供について、別記様式1の検査票を添付して依頼する。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて衛生研究所と協議する。
- ② 保健所は、検体等の提供を受けた場合には、別記様式1の検査票を添付して衛生研究所等へ検査を依頼する。
- ③ 保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、感染症情報センターが出す患者情報及び病原体情報について、地域の特性など必要に応じて週報（月単位の場合は月報）等として、地域住民及び市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供し連携を図る。

エ 衛生研究所等

- ① 衛生研究所等は、別記様式1の検査票及び検体等が提供された場合は、病原体検査業務管理要領に基づき当該検体等を検査し、別紙様式1に検査結果を記入のうえ保健所を經由して診断した医師に通知するとともに、本庁担当課及び感染症情報センターに報告する。また、病原体情報について、速やかに中央感染症情報センターに報告する。
- ② 検査のうち、衛生研究所等において実施困難なものについては、必要に応じて、他の都道府県等又は国立感染症研究所に協力を依頼する。
- ③ 衛生研究所等は、県域を越えた感染症の集団感染が発生する等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあっては、検体等を国立感染症研究所に送付する。

オ 感染症情報センター

- ① 感染症情報センターは、高知県域で得られた患者情報について、保健所からの情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。
- ② 感染症情報センターは、高知県域において得られた全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される県及び全国情報と併せて県民及び保健所、市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

カ 本庁担当課

本庁担当課は、感染症情報センターが収集、分析した患者情報及び病原体情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。なお、緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、本庁担当課は、直接必要な情報を収集するとともに、国及び他の都道府県等とも連携の上、迅速な対応を行う。

3 定点把握対象の五類感染症

(1) 対象とする感染症の状態

定点把握対象の五類感染症について、医師の届出基準等通知の報告基準を参考とし、当該疾病の患者と診断される場合とする。

(2) 定点の選定

ア 患者定点

定点把握対象の五類感染症の発生状況を地域的に把握するため、次の点に留意し、関係医師会等の協力を得て、患者定点を選定する。

- ① 人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ県全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮する。
- ② 対象感染症のうち、第2の(86)から(96)までに掲げるものについては、小児科を標榜する医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）を小児科定点として指定する。小児科定点の数は下記の計算式を参考として算定する。

保健所管内人口	定点数
～3万人	1
3万人～7.5万人	2
7.5万人～	$3 + (\text{人口} - 7.5\text{万人}) / 5\text{万人}$

- ③ 対象感染症のうち、第2の(97)に掲げるインフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。以下同じ。）については、前記②で選定した小児科定点のうち、インフルエンザ定点として協力をする小児科定点に加え、内科を標榜する医療機関（主として内科医療を提供しているもの）を内科定点として指定し、両者を合わせたインフルエンザ定点及び別途後記⑥に定める基幹定点とする。内科定点の数は下記の計算式を参考として算定する。

保健所管内人口	定点数
～7.5万人	1
7.5万人～12.5万人	2
12.5万人～	$3 + (\text{人口} - 12.5\text{万人}) / 10\text{万人}$

なお、基幹定点における届出基準は、インフルエンザ定点と異なり、入院患者に限定されることに留意すること。

- ④ 対象感染症のうち、第2の(98)及び(99)に掲げるものについては、眼科を標榜する医療機関（主として眼科医療を提供しているもの）を眼科定点として指定する。眼科定点の数は下記の計算式を参考として算定する。

保健所管内人口	定点数
～12.5万人	0
12.5万人～	$1 + (\text{人口} - 12.5\text{万人}) / 15\text{万人}$

(注) 総定点数が3未満と計算された場合は、3定点とする。

- ⑤ 対象感染症のうち、第2の(100)から(103)に掲げるものについては、産婦人科、産科若しくは婦人科（産婦人科系）、医療法施行令（昭和23年政令第326号）第3条の2第1項第1号ハ及びニ（2）の規定により性感染症と組み合わせた名称を診療科名とする診療科、泌尿器科又は皮膚科を標榜する医療機関（主として各々の標榜科の医療を提供しているもの）を性感染症定点として指定する。性感染症定点の数は下記の計算式を参考として算定する。

保健所管内人口	定点数
～7.5万人	0
7.5万人～	$1 + (\text{人口} - 7.5\text{万人}) / 13\text{万人}$

（注）産婦人科系と泌尿器科・皮膚科系が同数になるよう指定する。

- ⑥ 対象感染症のうち、第2の(89)のうち病原体がロタウイルスであるもの及び(104)から(110)までに掲げるものについては、対象患者がほとんど入院患者であるため、患者を300人以上収容する施設を有する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）を2次医療圏域毎に1カ所以上、基幹定点として指定する。

イ 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、県は、次の点に留意し、関係医師会等の協力を得て病原体定点を選定する。

- ① 人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ県全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮する。
- ② 医療機関を病原体定点として選定する場合は、原則として、患者定点として選定された医療機関の中から選定する。
- ③ アの②により選定された患者定点の概ね10%を小児科病原体定点として、第2の(86)から(96)までを対象感染症とする。
- ④ アの③により選定された患者定点の概ね10%をインフルエンザ病原体定点として、第2の(97)を対象感染症とする。なお、インフルエンザ病原体定点の選定に当たっては、小児科定点から10%以上及び内科定点から10%以上を、それぞれ3定点と2定点を下回らないよう選定することとし、法第14条の2第1項に規定する指定提出機関として指定する。
- ⑤ アの④により選定された患者定点の概ね10%を眼科病原体定点として、第2の(98)及び(99)を対象感染症とする。
- ⑥ アの⑥により選定された患者定点の全てを基幹病原体定点として、第2の(89)のうち病原体がロタウイルスであるもの及び(105)、及び(108)を対象感染症とする。

(3) 調査単位等

ア 患者情報のうち、(2)のアの②、③、④及び⑥（第2の(106)、(109)、及び(110)に関する患者情報を除く。）により選定された患者定点に関するものについては、1週間（月曜日から日曜日）を調査単位として、(2)のアの⑤及び⑥（第2の(106)、(109)及び(110)に関する患者情報のみ）により選定された患者定点に関するものについては、各月を調査単位とする。

イ 病原体情報のうち、(2)のイの④により選定された病原体定点に関するものについては、第2の(97)に掲げるインフルエンザの流行期（(2)のアの③により選定された患者定点当たりの患

者発生数が1を超えた時点から1を下回るまでの間)には1週間(月曜日から日曜日)を調査単位とし、非流行期(流行期以外の期間)には各月を調査単位とする。その他の病原体定点に関するものについては、各月を調査単位とする。

(4) 実施方法

ア 患者定点

- ① 患者定点として選定された医療機関(以下「定点医療機関」という。)は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時における医師の届出基準等通知の報告基準により、患者発生状況の把握を行うものとする。
- ② 定点医療機関は、別記様式7-1~7-6に、それぞれ調査単位の患者発生状況等を記載する。
- ③ 上記②による患者情報については、調査単位が週の場合は翌週の月曜日に、月単位の場合は翌月の初日に保健所への発送を行う。この場合において、提供の方法については、患者情報の円滑な収集の観点から、地域の特性に応じた適切な方法を採用することができるものとする。

イ 病原体定点

- ① 病原体定点として選定された医療機関(以下「病原体定点医療機関」という。)は、必要に応じて病原体検査のために検体等を採取する。
- ② 病原体定点は、検体等について、別記様式8の検査票を添えて、速やかに衛生研究所等へ送付する。
- ③ (2)のイの③により選定された病原体定点においては、第2の(86)から(96)までの対象感染症のうち、患者発生状況等を踏まえ、別に定める病原体検査業務管理要領により選定した複数の感染症について、調査単位ごとに、概ね4症例からそれぞれ少なくとも1検体を送付するものとする。
- ④ (2)のイの④により選定された病原体定点においては、第2の(97)に掲げるインフルエンザ(インフルエンザ様疾患を含む。)について、調査単位ごとに、少なくとも1検体を送付するものとする。

ウ 検体等を所持している医療機関等

保健所から当該患者の病原体検査のための検体等の提供の依頼を受けた場合にあっては、検体等について、保健所に協力し、別記様式8の検査票を添付して提供する。

エ 保健所

- ① 保健所は、患者定点から得られた患者情報が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の3日までに、感染症発生動向調査システムに入力するものとし、併せて、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報についても本庁担当課及び感染症情報センターへ報告する。また、保健所は、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の提供について、別記様式8の検査票を添付して依頼するものとする。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて衛生研究所と協議する。
- ② 保健所は、検体等の提供を受けた場合には、別記様式8の検査票を添付して衛生研究所等へ検査を依頼するものとする。

- ③ 保健所は、感染症情報センターが出す患者情報及び病原体情報を把握し、地域の特性など必要に応じて週報（月単位の場合は月報）として、地域住民及び市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供し連携を図る。

オ 衛生研究所等

- ① 衛生研究所等は、別記様式 8 の検査票及び検体等が提供された場合は、病原体検査業務管理要領に基づき当該検体を検査し、その結果を別記様式 8 に記載し病原体情報として病原体定点に通知するとともに、本庁担当課及び感染症情報センターに送付する。また、病原体情報については、速やかに中央感染症情報センターに報告する。
- ② 検査のうち、衛生研究所等において実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の都道府県等又は国立感染症研究所に協力を依頼する。
- ③ 衛生研究所等は、県域を越えた感染症の集団感染が発生する等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあつては、検体等を国立感染症研究所に送付する。

カ 感染症情報センター

- ① 感染症情報センターは、県域内の患者情報について、保健所からの情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。
- ② 感染症情報センターは、県域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される県及び全国情報と併せて、県民及び保健所、市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

キ 本庁担当課

本庁担当課は、感染症情報センターが収集、分析した患者情報及び病原体情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。なお、緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、本庁担当課は、直接必要な情報を収集するとともに、国及び他の都道府県等とも連携の上、迅速な対応を行う。

4 法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(1) 対象とする疑似症の状態

各々の疑似症について、医師の届出基準等通知を参考とし、当該疑似症の患者と診断される場合とする。

(2) 定点の選定

ア 疑似症定点

疑似症の発生状況を地域的に把握するため、県は次の点に留意し、医師会等の協力を得て、医療機関の中から可能な限り無作為に疑似症定点を選定する。

また、定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ県全体の疑似症の発生状況を把握できるよう考慮する。

対象疑似症のうち、第2の(113)に掲げるものについては、小児科を標榜する医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）又は内科を標榜する医療機関（主として内科医療を提供しているもの）を第一号疑似症定点として指定する。

また、第2の(114)に掲げるものについては、小児科を標榜する医療機関（主として小児科

医療を提供しているもの)、内科を標榜する医療機関(主として内科医療を提供しているもの)又は皮膚科を標榜する医療機関(主として皮膚科医療を提供しているもの)を第二号疑似症定点として指定する。

なお、各疑似症定点の数は下記の計算式を参考として算定するとともに、内科を標榜する医療機関については、第4の3(2)ア⑥に掲げる基幹定点の要件を満たす病院を2次医療圏域毎に1カ所以上含むよう考慮する。

保健所管内人口	定点数
～3万人	3
3万人～7.5万人	4
7.5万人～12.5万人	7
12.5万人～	$7 + 6 \times (\text{人口} - 12.5\text{万人}) / 10\text{万人}$

(3) 実施方法

ア 疑似症定点

- ① 疑似症定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、診療時における医師の届出基準等通知の報告基準により、直ちに疑似症発生状況の把握を行う。
- ② 疑似症定点においては、別記様式7-7に従い、直ちに疑似症発生状況等を記載し、最寄りの保健所に電話連絡後FAXする。

イ 保健所

- ① 届出を受けた保健所は、疑似症定点から得られた疑似症情報を、直ちに、症候群サーベイランスシステムに入力するものとする。また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報についても本庁担当課及び感染症情報センター及び中央感染症情報センターへ報告する。
- ② 保健所は、感染症情報センターが出す疑似症情報等について、必要に応じて週報等として、地域住民及び市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供し連携を図る。

ウ 感染症情報センター

- ① 感染症情報センターは、県域内の疑似症情報について、保健所からの情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。
- ② 感染症情報センターは、県域内の全ての疑似症情報を収集、分析するとともに、その結果を週報(月単位の場合は月報)等として公表される県及び全国情報と併せて、県民及び保健所、市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

エ 本庁担当課

本庁担当課は、感染症情報センターが収集、分析した疑似症情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。なお、緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、本庁担当課は、直接必要な情報を収集するとともに、国及び他の都道府県等とも連携の上、迅速な対応を行う。

5 オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の実施方法

(1) 保健所

鳥インフルエンザ（N5H1）に係る積極的疫学調査を実施した保健所は、別に定める基準（届出基準等通知）に従い、直ちに疑い症例調査支援システムに調査内容を入力するものとする。

なお、医療機関より提出される検体は、疑い症例調査支援システムが発行する検査依頼票を添付し、衛生研究所に送付する。

(2) 衛生研究所等

ア 衛生研究所等は、検査依頼票及び検体等が送付された場合は、当該検体等を病原体検査指針に基づき検査し、その結果を検体等を提供した医療機関及び保健所に通知する。通知を受けた保健所においては、その内容を直ちに疑い症例調査支援システムに入力する。

イ 鳥インフルエンザ（N5H1）に係る積極的疫学調査の結果を厚生労働省に報告する場合は、法施行規則第9条第2項に従い、検体等を国立感染症研究所に送付する。

6 その他

感染症発生動向調査のために取り扱うこととなった検体等については、感染症の発生及びまん延防止策の構築、公衆衛生の向上のために使用されるものであり、それ以外の目的に用いてはならない。また、検体採取の際には、その使用目的について説明のうえ、できるだけ、本人等に同意をとることが望ましい。なお、上記に掲げる目的以外の研究に使用する場合は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等の別に定める規定に従い行うものとする。

第5 実施時期

この要綱は、平成11年4月1日から施行する。

この要綱は、平成14年11月1日から施行する。

この要綱は、平成15年11月5日から施行する。

この要綱は、平成18年11月22日から施行する。

この要綱は、平成20年1月1日から施行する。

この要綱は、平成22年2月23日から施行する。

この要綱は、平成23年3月8日から施行する。

この要綱は、平成23年7月4日から施行し、平成23年4月1日から適用する。

この要綱は、平成23年9月5日から施行する。ただし、第4の3の(2)の③の指定については、平成23年7月29日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成25年3月4日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成25年4月1日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成25年5月6日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成25年10月14日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成26年5月12日から施行する。ただし、第2の1の指定感染症（107）鳥インフルエンザ（H7N9）の指定期間延長については平成26年4月25日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成26年7月26日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成26年9月19日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成27年1月21日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成27年5月21日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成28年4月1日から施行する。ただし、第2の1の対象感染症の追加に係る改正については、平成28年2月15日から施行する。

別紙1 感染症発生動向調査定点医療機関

病原体検査定点数	4	2	10	0	2	0	0	0	8
HC	市町村名	1/7カドガ・小児科定点名(30)	小児科定点名(30)	STD定点名(6)	眼科定点名(3)	第一号疑似症定点名(39)	第二号疑似症定点名(39)	基幹定点名(8)	
安芸	室戸市	室戸中央病院 0887-23-3311	高知県立あき総合病院	高知大学泌尿器科	高知県立あき総合病院	室戸中央病院	室戸中央病院	高知県立あき総合病院	
	安芸市	高知県立あき総合病院 0887-34-3111	高知大学医学部	高知大学産婦人科	高知県立あき総合病院	高知県立あき総合病院	高知県立あき総合病院	高知県立あき総合病院	
	田野町	田野病院 0887-38-7111	高知大学医学部	高知大学泌尿器科	田野病院	田野病院	田野病院	高知大学医学部	
	南国市	高知大学医学部 088-866-5811 いちほら内科小児科 088-863-3915 JA高知病院 088-863-2181	高知大学医学部 いちほら内科小児科 088-863-3915 JA高知病院	高知大学産婦人科 高知大学産婦人科	高知大学医学部 いちほら内科小児科 JA高知病院	高知大学医学部 いちほら内科小児科 JA高知病院	高知大学医学部 いちほら内科小児科 JA高知病院	高知大学医学部 いちほら内科小児科 JA高知病院	高知大学医学部 いちほら内科小児科 JA高知病院
中央東	おひさまこどもクリニック 0887-57-8880	おひさまこどもクリニック	おひさまこどもクリニック	おひさまこどもクリニック	おひさまこどもクリニック	おひさまこどもクリニック	おひさまこどもクリニック	おひさまこどもクリニック	
	香南市	野市中央病院 0887-55-1101	野市中央病院	野市中央病院	野市中央病院	野市中央病院	野市中央病院	野市中央病院	
	本山町	早明浦病院 0887-82-0456	早明浦病院	早明浦病院	早明浦病院	早明浦病院	早明浦病院	早明浦病院	
	土佐町	国立病院機構高知病院 088-844-3111 細木病院 088-822-7211 矢野小児科 088-875-0178 福井小児科 088-824-6556 高知赤十字病院 088-822-1201 三愛病院 088-845-5291 高知医療センター 088-837-3000	国立病院機構高知病院 細木病院 矢野小児科 福井小児科 高知赤十字病院 三愛病院 高知医療センター	近森病院泌尿器科 国産産婦人科 088-822-5054	近森病院泌尿器科 国産産婦人科 088-822-5054	近森病院泌尿器科 国産産婦人科 088-822-5054	近森病院泌尿器科 国産産婦人科 088-822-5054	近森病院泌尿器科 国産産婦人科 088-822-5054	近森病院泌尿器科 国産産婦人科 088-822-5054
高知市	佐川町	くぼたこどもクリニック 0889-22-0666	くぼたこどもクリニック	くぼたこどもクリニック	くぼたこどもクリニック	くぼたこどもクリニック	くぼたこどもクリニック	くぼたこどもクリニック	
	日高村	日高クリニック 0889-24-7785	日高クリニック	日高クリニック	日高クリニック	日高クリニック	日高クリニック	日高クリニック	
	土佐市	石黒小児科 088-852-0100	石黒小児科	石黒小児科	石黒小児科	石黒小児科	石黒小児科	石黒小児科	
	須崎市	もりはた小児科 0889-43-2211	もりはた小児科	もりはた小児科	もりはた小児科	もりはた小児科	もりはた小児科	もりはた小児科	
須崎	四万十町	大西病院 0880-22-1191	大西病院	大西病院	大西病院	大西病院	大西病院	大西病院	
	四万十市	さたけ小児科 0880-37-2255 こいけクリニック 0880-35-5112	さたけ小児科 こいけクリニック	さたけ小児科 こいけクリニック	さたけ小児科 こいけクリニック	さたけ小児科 こいけクリニック	さたけ小児科 こいけクリニック	さたけ小児科 こいけクリニック	
	宿毛市	備後けんみん病院 0880-68-2222 大井田病院 0880-63-2101	備後けんみん病院 大井田病院	備後けんみん病院泌尿器科 大井田病院	備後けんみん病院 大井田病院	備後けんみん病院 大井田病院	備後けんみん病院 大井田病院	備後けんみん病院 大井田病院	
	土佐清水市	渭南病院 08808-2-1511	渭南病院	渭南病院	渭南病院	渭南病院	渭南病院	渭南病院	
※ 緑枠は病原体検査定点	松谷内科 08808-2-1377	松谷内科 08808-2-1377	松谷内科	松谷内科	松谷内科	松谷内科	松谷内科	松谷内科	

□□-□□-□□

□□□□-□□□□□□-□□□□□□□□

□□□□□□□□□□

一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型コロナウイルス感染症及び指定感染症検査票(病原体)

性別	(男・女)
患者年齢	(歳 月)
患者氏名	
患者住所	

定点医療機関の場合は該当するものを○で囲んでください

- ・インフルエンザ定点・小児科定点・眼科定点
- ・性感感染症定点・基幹定点

主治医等記載欄	
医療機関等名及び主治医等医師名(記載者)	
検体送付日	年 月 日 分離株(無、有、検査中)
診断名	
発病日	年 月 日
検取日	年 月 日
検査材料の種類	<ul style="list-style-type: none"> ・ふん便(腸内容物、直腸ぬぐい液) ・唾液 ・尿 ・穿刺液(腹水、胸水、関節液、その他) ・皮膚病巣(水疱内容、痂皮、創傷) ・咽頭ぬぐい液(うがい液、鼻汁) ・結膜ぬぐい液(結膜擦過物、眼脂) ・陰部尿道管擦過物/分泌物 ・細胞診、生検、剖検材料(臓器) ・血液(全血、血清、血漿、血漿、抗凝固剤) ・その他
臨床徴候等	<ul style="list-style-type: none"> ・無症状 ・頭痛 ・発熱(最高℃) ・頸性けいれん ・関節痛(関節炎)、筋肉痛 ・口内炎 ・上気道炎(咽頭炎/痛、扁桃炎) ・下気道炎(肺炎、気管支炎) ・水疱 ・発疹(丘疹、紅斑、バラ疹) ・出血傾向※(全身性のもの) ・リンパ節腫脹(部位) ・唾液腺腫脹 ・腎機能障害(HUS、血尿、乏尿、蛋白尿、浮腫(部位)) ・ショック症状(低血圧、循環不全) ・その他の症状(上記以外の症状や臨床徴候)
基礎疾患	経過観察中、軽快、治癒、後遺症有り、死亡(原因)
転帰	
主治医等から地方衛生研究所への連絡事項	

*インフルエンザ迅速キット使用(無、有、メーカー名)]:[陰性、陽性、保留]
 *抗インフルエンザ薬投与(無、有、薬剤名)]:[投与開始日 年 月 日][予防投与、治療投与]

[保健所等記載欄(主治医記載可)]	
発生の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・散発 ・集団発生(無、有) ・発生市区町村() ・地域流行 ・家族内発生(無、有)
最近の海外渡航履歴	<ul style="list-style-type: none"> 有の場合(保育所、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学、宿舍、寮、病院、老人ホーム[介護施設を含む]、福祉・介護施設、旅館・ホテル、飲食店、事業所、海外ツアー、国内ツアー、その他)
ワクチン接種履歴	<ul style="list-style-type: none"> 有、有、不明) 最終接種年月日 年 月 日 ワクチン名 (Lot No.)

[地方衛生研究所記載欄]	
記載者名	
抗体検出方法	(蛍光、IP、ELISA、CF、HI、PA、中和、イムノブロット、ゲル内沈降、凝集反応、その他)
結果	()
検出年月日	年 月 日
検出方法	<ul style="list-style-type: none"> ・分離培養(培養細胞:細胞名) 人工培地、発育鶏卵、動物、その他 ・抗原検出(蛍光、EIA、RPHA、LA、PA、ICI[イムノクロマト]、その他) ・遺伝子検出(1.非増幅(ハイブリ)、PAGE、その他) 2.増幅(PCR、PCR+ハイブリ、PCR+シーケンス、LAMP、その他) ・電顕 ・鏡検
検出病原体(群、型、亜型)	
その他特記事項	

注1)患者の氏名及び住所欄については、感染症法第16条の3、第26条の3、第26条の4、第44条の7及び第50条に基づく一類感染症、二類感染症、新型コロナウイルス感染症又は新感染症に係る検査の場合に記載をお願いします。
 注2)主治医記載欄については、検体送付日において記載できる範囲で記載をお願いします。
 注3)ワクチン接種履歴については、当該疾患に係るものにつき記載して下さい。
 注4)医療機関(民間検査所を含む)で病原体を分離した場合は、地方衛生研究所への分離株の送付をお願いします。

工ボラ出血熱発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第 1 項 (同条第 6 項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 印
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
・患者(確定例)・無症状病原体保有者・疑似症患者・感染症死亡者の死体・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名
3 性別
4 生年月日
5 診断時の年齢(0歳は月齢)
6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名
10 保護者住所 (9,10は患者が未成年の場合のみ記入)

11 発熱・頭痛・腹痛・胸痛・出血・その他(なし)
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 接触感染(接触した人・物の種類・状況)
2 動物・蚊・昆虫等からの感染(動物・蚊・昆虫等の種類・状況)
3 針等の鋭利なものへの刺入による感染(刺入物の種類・状況)
4 輸血・血液製剤(輸血・血液製剤の種類・使用年月・状況)
5 その他
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内(都道府県 市区町村)
2 国外(国 詳細地域)

13 初診年月日
14 診断(検案(※))年月日
15 感染したと推定される年月日
16 発病年月日(※)
17 死亡年月日(※)

(1, 3, 11, 12, 13欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに行ってください

クリミア・コンゴ出血熱発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第 1 項 (同条第 6 項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 印
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
・患者(確定例)・無症状病原体保有者・疑似症患者・感染症死亡者の死体・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名
3 性別
4 生年月日
5 診断時の年齢(0歳は月齢)
6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名
10 保護者住所 (9,10は患者が未成年の場合のみ記入)

11 発熱・頭痛・腹痛・胸痛・出血・その他(なし)
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 接触感染(接触した人・物の種類・状況)
2 動物・蚊・昆虫等からの感染(動物・蚊・昆虫等の種類・状況)
3 針等の鋭利なものへの刺入による感染(刺入物の種類・状況)
4 輸血・血液製剤(輸血・血液製剤の種類・使用年月・状況)
5 その他
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内(都道府県 市区町村)
2 国外(国 詳細地域)

13 初診年月日
14 診断(検案(※))年月日
15 感染したと推定される年月日
16 発病年月日(※)
17 死亡年月日(※)

(1, 3, 11, 12, 13欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに行ってください

痘 そ う 発 生 届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

Table with 6 columns: 1. 診断(検査)した者(死体)の類型・患者(確定例)・無症状病原体保有者・疑似症患者・感染症死亡者の死体・感染症死亡疑い者の死体. 2. 当該者氏名. 3. 性別. 4. 生年月日. 5. 診断時の年齢(歳は月齢). 6. 当該者職業. 7. 当該者住所. 8. 当該者所在地. 9. 保護者氏名. 10. 保護者住所 (9、10は患者が未成年の場合のみ記入). 電話 () -

Table with 2 columns: 11. 症状. 12. 診断方法. 18. 感染原因・感染経路・感染地域. 19. その他感染症(まん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項)

この届出は診断後直ちに帰ってくださ

(1. 3. 10. 11. 12欄は該当する番号等を○で囲み、4. 12から17欄は年齢、年月日を記入すること。(※)欄は、死亡者を検査した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

南 米 出 血 熱 発 生 届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

Table with 6 columns: 1. 診断(検査)した者(死体)の類型・患者(確定例)・無症状病原体保有者・疑似症患者・感染症死亡者の死体・感染症死亡疑い者の死体. 2. 当該者氏名. 3. 性別. 4. 生年月日. 5. 診断時の年齢(歳は月齢). 6. 当該者職業. 7. 当該者住所. 8. 当該者所在地. 9. 保護者氏名. 10. 保護者住所 (9、10は患者が未成年の場合のみ記入). 電話 () -

Table with 2 columns: 11. 症状. 12. 診断方法. 18. 感染原因・感染経路・感染地域. 19. その他感染症(まん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項)

この届出は診断後直ちに帰ってくださ

(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。(※)欄は、死亡者を検査した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

ペスト発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日
医師の氏名
(署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
・患者(確定例) ・無症状病原体保有者 ・疑似症患者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名
3 性別
4 生年月日
5 診断時の年齢(0歳は月齢)
6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保羅者氏名
10 保羅者住所
(9、10は患者が未成年の場合のみ記入)

11 症状
・リンパ節炎 ・敗血症 ・高熱 ・頭痛
・意識障害 ・出血斑 ・気管支炎
・肺炎 ・呼吸困難 ・血痰
・その他
・なし
12 状態
・分離・同定による病原体の検出
検体：血液・リンパ節腫脹引物・喀痰・病理組織・その他
・蛍光抗体法によるエンベロープ抗原(Fraction 1 抗原)の検出
検体：血液・リンパ節腫脹引物・喀痰・病理組織・その他
・検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出
検体：血液・リンパ節腫脹引物・喀痰・病理組織・その他
・赤血球凝集反応によるエンベロープ抗原(Fraction 1 抗原)に対する血清抗体の検出(16倍以上)
・その他の方法
検体：
結果：
臨床決定
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 飛沫・飛沫核感染(感染源の種類・状況)
2 動物・蚊・昆虫等からの感染(動物・蚊・昆虫等の種類・状況)
3 その他
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項
(1、3、11、12、18欄は該当する番号等○で囲み、4、5、13から17欄は年齢・年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11、12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに行ってください

マールブルグ病発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日
医師の氏名
(署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
・患者(確定例) ・無症状病原体保有者 ・疑似症患者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名
3 性別
4 生年月日
5 診断時の年齢(0歳は月齢)
6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保羅者氏名
10 保羅者住所
(9、10は患者が未成年の場合のみ記入)

11 症状
・発熱 ・頭痛 ・筋内痛 ・皮疹
・粘膜疹 ・咽頭炎
・下痢 ・鼻口腔出血 ・消化管出血
・その他
・なし
12 状態
・分離・同定による病原体の検出
検体：血液・その他
・ELISA法による病原体抗原検出
検体：血液・尿・咽拭い液・その他
・検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出
検体：血液・尿・咽拭い液・その他
・ELISA法による血清抗体の検出(IgM・IgG)
・蛍光抗体法による血清抗体の検出(IgM・IgG)
・その他の方法
検体：
結果：
臨床決定
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 接触感染(接触した人、物の種類・状況)
2 動物・蚊・昆虫等からの感染(動物・蚊・昆虫等の種類・状況)
3 針等の鋭利なものからの感染(刺入物による感染(刺入物の種類・状況)
4 輸血・血液製剤(輸血・血液製剤の種類・使用年月・状況)
5 その他
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内(都道府県 市区町村)
2 国外(国 詳細地域)
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項
(1、3、11、12、18欄は該当する番号等○で囲み、4、5、13から17欄は年齢・年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11、12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに行ってください

ラ ッ サ 熱 発 生 届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第 1 項（同条第 6 項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日 印 (署名又は記名押印のこと) 従事する病院・診療所の名称 上記病院・診療所の所在地(※) 電話番号(※)

1 診断(検案)した者(死体)の類型 ・患者(確定例) ・無症状病原体保有者 ・疑似症患者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体 2 当該者氏名 3性別 4 生年月日 5 診断時の年齢(○歳は月齢) 6 当該者職業 7 当該者住所 8 当該者所在地 9 保腫者氏名 10 保腫者住所 (9、10は患者が未成年の場合のみ記入) 電話() 電話()

11 症 状 ・発熱 ・全身倦怠感 ・咽頭痛 ・関節痛 ・咳 ・咽頭痛 ・筋肉痛 ・心窩部痛 ・後胸部痛 ・嘔吐 ・下痢 ・腹痛 ・腰痛 ・腹痛 ・膿球性髄膜炎 ・結膜出血 ・消化管出血 ・心膜炎 ・胸膜炎 ・ショック ・肺力障害 ・その他() ・なし 12 診断方法 ・分種・同定による病原体の検出 検体:血液・その他() ・ELISA法による病原体抗原の検出 検体:血液・血清・咽頭拭い液・その他() ・検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出 検体:血液・尿・咽頭拭い液・その他() ・蛍光抗体法による血清抗体の検出 (IgM・IgG) ・その他の方法() 検体() 結果() 臨床決定() 18 感染原因・感染経路・感染地域 ①感染原因・感染経路(確定・推定) 1 接触感染(接触した人・物の種類・状況) 2 動物・蚊・昆虫等からの感染(動物・蚊・昆虫等の種類・状況) 3 針等の鋭利なものの刺入による感染(刺入物の種類・状況) 4 輸血・血液製剤(輸血・血液製剤の種類・使用年月・状況) 5 その他() ②感染地域(確定・推定) 1 日本国内(都道府県 市区町村) 2 国外(詳細地域) 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項 13 初診年月日 平成 年 月 日 14 診断(検案(※))年月日 平成 年 月 日 15 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日 16 発症年月日(※) 平成 年 月 日 17 死亡年月日(※) 平成 年 月 日

(1、3、11、12、18欄は該当する番号等○で囲み、4、5、13から17欄は年齢、年月日を記入すること。(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。11、12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに発行してください

急性灰白髄炎発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第 1 項（同条第 6 項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日 印 (署名又は記名押印のこと) 従事する病院・診療所の名称 上記病院・診療所の所在地(※) 電話番号(※)

1 診断(検案)した者(死体)の類型 ・患者(確定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体 2 当該者氏名 3性別 4 生年月日 5 診断時の年齢(○歳は月齢) 6 当該者職業 7 当該者住所 8 当該者所在地 9 保腫者氏名 10 保腫者住所 (9、10は患者が未成年の場合のみ記入) 電話() 電話()

11 症 状 ・発熱 ・頭痛 ・全身倦怠感 ・咽頭痛 ・心窩部痛 ・嘔吐 ・下痢 ・腹痛 ・腰痛 ・腹痛 ・膿球性髄膜炎 ・結膜出血 ・消化管出血 ・心膜炎 ・胸膜炎 ・ショック ・肺力障害 ・その他() ・なし 12 診断方法 ・分種・同定による病原体の検出 検体:便・その他() ・その他の方法() 検体() 結果() 臨床決定() 18 感染原因・感染経路・感染地域 ①感染原因・感染経路(確定・推定) 1 経口感染(飲食物の種類・状況) 2 接触感染(接触した人・物の種類・状況) 3 その他() ②感染地域(確定・推定) 1 日本国内(都道府県 市区町村) 2 国外(詳細地域) ③ポリオ含有ワクチン接種歴(有・無・不明) 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項 13 初診年月日 平成 年 月 日 14 診断(検案(※))年月日 平成 年 月 日 15 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日 16 発症年月日(※) 平成 年 月 日 17 死亡年月日(※) 平成 年 月 日

(1、3、11、12、18欄は該当する番号等○で囲み、4、5、13から17欄は年齢、年月日を記入すること。(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。11、12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに発行してください

結核発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日 印 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称 上記病院・診療所の所在地(※) 電話番号(※)

1 診断(検案)した者(死体)の類型・患者(確定例)・無症状病原体保有者・疑似症患者・感染症死亡者の死体・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名 3性別 4 生年月日 5 診断時の年齢(0歳は月齢) 6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保羅者氏名 10 保羅者住所 (9,10)は患者が未成年の場合のみ記入)

18 感染原因・感染経路・感染地域
11 症状 1 飛沫核・飛沫感染(感染源の種類・状況)
12 状態 2 その他
13 診断方法 1 日本国内(都道府県市区町村) 2 国外(詳細地域)
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちにに行ってください

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を入力すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

ジフテリア発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日 印 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称 上記病院・診療所の所在地(※) 電話番号(※)

1 診断(検案)した者(死体)の類型・患者(確定例)・無症状病原体保有者・感染症死亡者の死体・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名 3性別 4 生年月日 5 診断時の年齢(0歳は月齢) 6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保羅者氏名 10 保羅者住所 (9,10)は患者が未成年の場合のみ記入)

18 感染原因・感染経路・感染地域
11 症状 1 飛沫核・飛沫感染(感染源の種類・状況)
12 状態 2 経口感染(飲食物の種類・状況)
13 診断方法 1 日本国内(都道府県市区町村) 2 国外(詳細地域)
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちにに行ってください

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を入力すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

重症急性性呼吸器症候群 (SARS) 発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと) 報告年月日 平成 年 月 日

従事する機関・診療所の名称 (署名又は記名押印のこと) 上記病院・診療所の所在地(※) 電話番号(※)

Table with 10 rows for patient information: 1. 診断(検案)した者(死体)の類型, 2. 当該者氏名, 3. 性別, 4. 生年月日, 5. 診断時の年齢(0歳は月齢), 6. 当該者職業, 7. 当該者住所, 8. 当該者所在地, 9. 保護者氏名, 10. 保護者住所

Main table for SARS with 11 columns: 11. 症状, 12. 診断方法, 13. 初診年月日, 14. 診断(検案)年月日, 15. 感染したと推定される年月日, 16. 発病年月日, 17. 死亡年月日, 18. 感染原因, 19. その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

(1. 3. 11. 12. 18. 欄は該当する番号等○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。(* 欄は、患者(前定例)を診断した場合のみ記入すること。11. 12. 欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちにしてください

中東呼吸器症候群 (MERS) 発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと) 報告年月日 平成 年 月 日

従事する機関・診療所の名称 (署名又は記名押印のこと) 上記病院・診療所の所在地(※) 電話番号(※)

(※)病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 10 rows for patient information: 1. 診断(検案)した者(死体)の類型, 2. 当該者氏名, 3. 性別, 4. 生年月日, 5. 診断時の年齢(0歳は月齢), 6. 当該者職業, 7. 当該者住所, 8. 当該者所在地, 9. 保護者氏名, 10. 保護者住所

Main table for MERS with 11 columns: 11. 症状, 12. 診断方法, 13. 初診年月日, 14. 診断(検案)年月日, 15. 感染したと推定される年月日, 16. 発病年月日, 17. 死亡年月日, 18. 感染原因, 19. その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

(1. 3. 11. 12. 及び18. 欄において該当する番号等を○で囲み、4. 5. 及び13から17までの欄においては年齢又は年月日を記入すること。(* 欄は、患者(前定例)を診断した場合のみ記入すること。(* 欄は、患者(前定例)を診断した場合のみ記入すること。11. 及び12. 欄においては、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちにしてください

鳥インフルエンザ (H 5 N 1) 発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日
医師の氏名
(署名又は記名押印のこと)
(署名又は記名押印のこと)
(署名又は記名押印のこと)

Table with 6 columns: 1 診断 (検案) した者 (死体) の類型, 2 当該者氏名, 3 性別, 4 生年月日, 5 診断時の年齢(0歳は月齢), 6 当該者職業, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保腫者氏名, 10 保腫者住所

Table with 2 columns: 11 症状, 12 診断方法, 13 初診年月日, 14 診断 (検案) 年月日, 15 感染したと推定される年月日, 16 発病年月日 (*), 17 死亡年月日 (※). Includes detailed medical and diagnostic information.

(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。 (*)欄は、患者 (確定例) を診断した場合のみ記入すること。
11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに... (Vertical text)

鳥インフルエンザ (H 7 N 9) 発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日
医師の氏名
(署名又は記名押印のこと)
(署名又は記名押印のこと)
(署名又は記名押印のこと)

Table with 6 columns: 1 診断 (検案) した者 (死体) の類型, 2 当該者氏名, 3 性別, 4 生年月日, 5 診断時の年齢(0歳は月齢), 6 当該者職業, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保腫者氏名, 10 保腫者住所

Table with 2 columns: 11 症状, 12 診断方法, 13 初診年月日, 14 診断 (検案) 年月日, 15 感染したと推定される年月日, 16 発病年月日 (*), 17 死亡年月日 (※). Includes detailed medical and diagnostic information.

(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。 (*)欄は、患者 (確定例) を診断した場合のみ記入すること。
11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに... (Vertical text)

コロナ発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名、印、報告年月日、平成、年、月、日、(署名又は記名押印のこと) 従事する施設・診療所の名称、上記病院・診療所の所在地、電話番号

1 診断(検査)した者(死体)の種類、患者(確定例)・無症状病原体保有者・感染症死亡者の死体、2 当該者氏名、3性別、4 生年月日、5診断時の年齢(0歳は月齢)、6 当該者職業、7 当該者住所、8 当該者所在地、9 保護者氏名、10 保護者住所

11 症状、12 診断方法、18 感染原因・感染経路・感染地域、19 その他感染のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに実行してください

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等をOで囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。)(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

細菌性赤痢発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名、印、報告年月日、平成、年、月、日、(署名又は記名押印のこと) 従事する施設・診療所の名称、上記病院・診療所の所在地、電話番号

1 診断(検査)した者(死体)の種類、患者(確定例)・無症状病原体保有者・感染症死亡者の死体、2 当該者氏名、3性別、4 生年月日、5診断時の年齢(0歳は月齢)、6 当該者職業、7 当該者住所、8 当該者所在地、9 保護者氏名、10 保護者住所

11 症状、12 診断方法、18 感染原因・感染経路・感染地域、19 その他感染のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに実行してください

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等をOで囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。)(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

腸管出血性大腸菌感染症発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと) 報告年月日 平成 年 月 日

従事する病院・診療所の名称 (署名又は記名押印のこと) 上記病院・診療所の所在地(※) 電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師については、その住所・電話番号を記載)

Table with 10 rows for patient information: 1 診断(検査)した者(死体)の類型, 2 当該者氏名, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名

Table with 2 columns: 11 症状, 12 診断方法. Contains detailed medical and diagnostic information.

Table with 2 columns: 18 感染原因・感染経路・感染地域, 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

Table with 5 rows for dates: 13 初診年月日, 14 診断(検査)年月日, 15 感染したと推定される年月日, 16 発症年月日, 17 死亡年月日

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。)

この届出は診断後直ちに行ってください

腸チフス発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと) 報告年月日 平成 年 月 日

従事する病院・診療所の名称 (署名又は記名押印のこと) 上記病院・診療所の所在地(※) 電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師については、その住所・電話番号を記載)

Table with 10 rows for patient information: 1 診断(検査)した者(死体)の類型, 2 当該者氏名, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名

Table with 2 columns: 11 症状, 12 診断方法. Contains detailed medical and diagnostic information.

Table with 2 columns: 18 感染原因・感染経路・感染地域, 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

Table with 5 rows for dates: 13 初診年月日, 14 診断(検査)年月日, 15 感染したと推定される年月日, 16 発症年月日, 17 死亡年月日

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。)

この届出は診断後直ちに行ってください

パラチフス発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

Table with 10 rows for patient information: 1. 診断(検査)した者(死体)の類型, 2. 当該者氏名, 7. 当該者住所, 8. 当該者所在地, 9. 保護者氏名

Table with 2 columns: 11. 症状, 12. 診断方法, 18. 感染原因・感染経路・感染地域

Table with 2 columns: 13. 初診年月日, 14. 診断(検査)年月日, 15. 感染したと推定される年月日, 16. 発病年月日, 17. 死亡年月日

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに持ってくださ

E型肝炎発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

Table with 10 rows for patient information: 1. 診断(検査)した者(死体)の類型, 2. 当該者氏名, 7. 当該者住所, 8. 当該者所在地, 9. 保護者氏名

Table with 2 columns: 11. 症状, 12. 診断方法, 18. 感染原因・感染経路・感染地域

Table with 2 columns: 13. 初診年月日, 14. 診断(検査)年月日, 15. 感染したと推定される年月日, 16. 発病年月日, 17. 死亡年月日

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに持ってくださ

ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎含む）発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
印
(署名又は記名押印のこと)
従事する施設・診療所の名称
上記施設・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
・患者(確定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名 3 性別 4 生年月日 5 診断時の年齢(0歳は月齢) 6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保羅者氏名 10 保羅者住所 (9, 10)は患者が未成年の場合のみ記入
電話() -
電話() -

11 症状
・発熱 ・頭痛 ・筋肉痛
・リンパ節腫脹 ・意識障害 ・痙攣 ・筋力低下
・副腎炎 ・脱臼
・その他()
・なし
12 診断方法
・分画・同定による病原体の検出
・検体:血液・髄液・その他()
・検体:血液・髄液・その他()
・IgM抗体の検出
・検体:血清・髄液・その他()
・ベア血清での中和抗体の検出
・結果:抗体陽転・抗体価の有意上昇
・その他の方法()
・検体()
・結果()
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 動物・蚊・昆虫等からの感染(動物・蚊・昆虫等の種類・状況)
2 輸血・血液製剤(輸血・血液製剤の種類・使用年月・状況)
3 その他()
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内(都道府県 市区町村)
2 国外(国 詳細地域)
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項
13 初診年月日 平成 年 月 日
14 診断(検案)年月日 平成 年 月 日
15 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日
16 発病年月日(※) 平成 年 月 日
17 死亡年月日(※) 平成 年 月 日

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等をつけて囲み、4, 5, 13から17欄は年齢・年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに行ってください

A型肝炎発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
印
(署名又は記名押印のこと)
従事する施設・診療所の名称
上記施設・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
・患者(確定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名 3 性別 4 生年月日 5 診断時の年齢(0歳は月齢) 6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保羅者氏名 10 保羅者住所 (9, 10)は患者が未成年の場合のみ記入
電話() -
電話() -

11 症状
・全身倦怠感 ・発熱 ・黄疸
・食欲不振 ・肝機能異常
・肝腫大 ・その他()
・なし
12 診断方法
・検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出
・検体:血液・便・その他()
・血清IgM抗体の検出
・その他の方法()
・検体()
・結果()
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 経口感染(飲食物の種類・状況)
2 輸血・血液製剤(輸血・血液製剤の種類・使用年月・状況)
3 性的接触(A:性交 B:経口)(A:同性間 I:異性間 U:不明)
4 その他()
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内(都道府県 市区町村)
2 国外(国 詳細地域)
③A型肝炎ワクチン接種歴(有・無・不明)
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項
13 初診年月日 平成 年 月 日
14 診断(検案)年月日 平成 年 月 日
15 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日
16 発病年月日(※) 平成 年 月 日
17 死亡年月日(※) 平成 年 月 日

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等をつけて囲み、4, 5, 13から17欄は年齢・年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに行ってください

エキノコックス症発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
・患者(確定例)・無症状病原体保有者・感染症死亡者の死体・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名
3 性別
4 生年月日
5 診断時の年齢(0歳は月齢)
6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名
10 保護者住所
電話() -

18 感染原因・感染経路・感染地域
1) 多包虫、2) 単包虫
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 経口感染(飲食物の種類・状況)
2 動物・蚊・昆虫等からの感染(動物・蚊・昆虫等の種類・状況)
3 その他
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内(都道府県 市区町村)
2 国外(詳細地域)
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項
13 初診年月日
14 診断(検案(※))年月日
15 感染したと推定される年月日
16 発症年月日(※)
17 死亡年月日(※)

(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。(※)欄は、死亡者を検案した場合はのみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちにしてください

黄熱発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
・患者(確定例)・無症状病原体保有者・感染症死亡者の死体・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名
3 性別
4 生年月日
5 診断時の年齢(0歳は月齢)
6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名
10 保護者住所
電話() -

18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 動物・蚊・昆虫等からの感染(動物・蚊・昆虫等の種類・状況)
2 その他
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内(都道府県 市区町村)
2 国外(詳細地域)
③黄熱ワクチン接種歴(有・無・不明)
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項
13 初診年月日
14 診断(検案(※))年月日
15 感染したと推定される年月日
16 発症年月日(※)
17 死亡年月日(※)

(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。(※)欄は、死亡者を検案した場合はのみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちにしてください

オウム病発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日 印 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称 上記病院・診療所の所在地(※) 電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 6 columns: 1 診断(検査)した者(死体)の種類, 2 当該者氏名, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名, 10 保護者住所

Main table with 11 columns: 11 発熱・頭痛・咳・呼吸困難・意識障害・DIC・その他, 12 分離・同定による病原体の検出, 18 感染原因・感染経路・感染地域, 19 その他感染症のまん延の防止及び当該患者の医療のために医師が必要と認める事項

(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。 (※)欄は、死亡者を検査した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。 11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに実行してください

オムスク出血熱発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日 印 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称 上記病院・診療所の所在地(※) 電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 6 columns: 1 診断(検査)した者(死体)の種類, 2 当該者氏名, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名, 10 保護者住所

Main table with 11 columns: 11 発熱・頭痛・咳・低血圧・呼吸困難・意識障害・DIC・その他, 12 分離・同定による病原体の検出, 18 感染原因・感染経路・感染地域, 19 その他感染症のまん延の防止及び当該患者の医療のために医師が必要と認める事項

(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。 (※)欄は、死亡者を検査した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。 11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに実行してください

帰熱発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日 印

(署名又は記名押印のこと)

医師の氏名

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地(※)

電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 6 columns: 1 診断(検案)した者(死体)の類型, 2 当該者氏名, 3性別, 4 生年月日, 5 診断時の年齢(満年齢), 6 当該者職業, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名, 10 保護者住所

Main table with 3 columns: 11 症状, 12 診断方法, 13-17 診断年月日. Includes detailed medical and diagnostic information.

この届出は診断後直ちに実行してください

(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。 (※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。 11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

キヤサヌル森林病発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日 印

(署名又は記名押印のこと)

医師の氏名

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地(※)

電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 6 columns: 1 診断(検案)した者(死体)の類型, 2 当該者氏名, 3性別, 4 生年月日, 5 診断時の年齢(満年齢), 6 当該者職業, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名, 10 保護者住所

Main table with 3 columns: 11 症状, 12 診断方法, 13-17 診断年月日. Includes detailed medical and diagnostic information.

この届出は診断後直ちに実行してください

(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。 (※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。 11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

Q 熱 発 生 届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

1 診断(検査)した者(死体)の類型
・患者(確定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名 3性別 4 生年月日 5 診断時の年齢(0歳は月齢) 6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名 10 保護者住所 (9、10は患者が未成年の場合のみ記入)
電話() 電話()

11 症状
・発熱 ・全身倦怠感 ・肝機能異常 ・その他()
12 診断方法
・分離・同定による病原体の検出
・抗体法による病原体の検出
・蛍光抗体法による病原体の検出
・間接免疫蛍光法による血清抗体の検出
結果: IgM抗体64倍以上、IgG抗体256倍以上、
ペア血清での抗体陽転・ペア血清での抗体価の有意上昇
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 動物・蚊・昆虫等からの感染(動物・蚊・昆虫等の種類・状況)
2 塵埃感染(吸入物の種類・状況)
3 その他()
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内()
2 国外()
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

13 初診年月日 平成 年 月 日
14 診断(検査(※))年月日 平成 年 月 日
15 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日
16 発病年月日(※) 平成 年 月 日
17 死亡年月日(※) 平成 年 月 日
(1、3、11、12、18欄は該当する番号等を○で囲み、4、5、13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11、12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに行ってください

狂 犬 病 発 生 届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

1 診断(検査)した者(死体)の類型
・患者(確定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名 3性別 4 生年月日 5 診断時の年齢(0歳は月齢) 6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名 10 保護者住所 (9、10は患者が未成年の場合のみ記入)
電話() 電話()

11 症状
・咬傷部位の知覚異常 ・疼痛 ・発熱 ・不眠 ・頭痛 ・恐怖発作 ・異常興奮 ・その他()
12 診断方法
・分離・同定による病原体の検出
・抗体法による病原体の検出
・蛍光抗体法による病原体の検出
・免疫組織化学法による免疫組織・その他()
・抗体法による病原体遺伝子の検出
・Fluorescent Focus inhibition Testによる唾液抗体の検出
・ELISA法による唾液抗体の検出(IgM・IgG)
・その他の方法()
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 動物・蚊・昆虫等からの感染(動物・蚊・昆虫等の種類・状況)
2 その他()
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内()
2 国外()
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

13 初診年月日 平成 年 月 日
14 診断(検査(※))年月日 平成 年 月 日
15 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日
16 発病年月日(※) 平成 年 月 日
17 死亡年月日(※) 平成 年 月 日
(1、3、11、12、18欄は該当する番号等を○で囲み、4、5、13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11、12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに行ってください

コクシジオイデス症発生病

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第 1 項 (同条第 6 項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日 印

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあつては、その住所・電話番号を記載)

Table with 9 rows: 1 診断(検案)した者(死体)の類型, 2 当該者氏名, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名

Table with 18 rows: 11 症状, 12 診断方法, 18 感染原因・感染経路・感染地域, 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のため

この届出は診断後直ちにに行ってください

(1, 3, 11, 12, 18 欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13 から 17 欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した旨のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11, 12 欄は、該当するものすべてを記載すること。)

ナル痘発生病

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第 1 項 (同条第 6 項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日 印

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあつては、その住所・電話番号を記載)

Table with 9 rows: 1 診断(検案)した者(死体)の類型, 2 当該者氏名, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名

Table with 18 rows: 11 症状, 12 診断方法, 18 感染原因・感染経路・感染地域, 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のため

この届出は診断後直ちにに行ってください

(1, 3, 11, 12, 18 欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13 から 17 欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した旨のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11, 12 欄は、該当するものすべてを記載すること。)

ジカウイルス感染症発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)

1 診断 (検案) した者 (死体) の類型
・患者 (確定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名 3性別 4 生年月日 5 診断時の年齢(歳) 6 当該者職業
7 当該者住所 8 当該者所在地
9 保護者氏名 10 保護者住所 (9, 10)は患者が未成年の場合のみ記入

1) ジカウイルス病、2) 先天性ジカウイルス感染症
11 症状 合併症
12 診断方法
13 初診年月日 14 診断 (検案) 年月日 15 感染したと推定される年月日 16 発病年月日 (*) 17 死亡年月日 (※)

この届出は診断後直ちにしてください

重症熱性血小板減少症候群 (病原体がフレボウイルス属 SFTSウイルスであるものに限る。) 発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)

1 診断 (検案) した者 (死体) の類型
・患者 (確定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名 3性別 4 生年月日 5 診断時の年齢(歳) 6 当該者職業
7 当該者住所 8 当該者所在地
9 保護者氏名 10 保護者住所 (9, 10)は患者が未成年の場合のみ記入

11 症状 合併症
12 診断方法
13 初診年月日 14 診断 (検案) 年月日 15 感染したと推定される年月日 16 発病年月日 (*) 17 死亡年月日 (※)

この届出は診断後直ちにしてください

腎 症 候 性 出 血 熱 (HFRS) 発 生 届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)
報告年月日 平成 年 月 日
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※)病院・診療所に従事していない医師にあつては、その住所・電話番号を記載)

Table with 2 columns: Item number and Description. Items include: 1 診断 (検案) した者 (死体) の類型, 2 当該者氏名, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名.

Main diagnostic table with 2 columns: Item number and Description. Items include: 11 症状, 12 診断方法, 18 感染原因・感染経路・感染地域, 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項.

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者 (確定例) を診断した場合のみ記入すること。11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに行ってください

西 部 ウ マ 脳 炎 発 生 届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)
報告年月日 平成 年 月 日
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※)病院・診療所に従事していない医師にあつては、その住所・電話番号を記載)

Table with 2 columns: Item number and Description. Items include: 1 診断 (検案) した者 (死体) の類型, 2 当該者氏名, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名.

Main diagnostic table with 2 columns: Item number and Description. Items include: 11 症状, 12 診断方法, 18 感染原因・感染経路・感染地域, 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項.

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者 (確定例) を診断した場合のみ記入すること。11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに行ってください

ダニ媒介脳炎発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿
感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名
(署名又は記名押印のこと)
報告年月日 平成 年 月 日

1 診断(検案)した者(死体)の種類
患者(確定例)・無症状病原体保有者・感染症死亡者の死体
2 当該者氏名
3 性別
4 生年月日
5 診断時の年齢(歳)
6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名
10 保護者住所

11 症状
12 診断方法
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 動物・蚊・昆虫等からの感染(動物・蚊・昆虫等の種類・状況)
2 輸血・血液製剤(輸血・血液製剤の種類・使用年月・状況)
3 その他
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内(都道府県 市区町村)
2 国外(国 詳細地域)

13 初診年月日
14 診断(検案)年月日
15 感染したと推定される年月日
16 発病年月日(*)
17 死亡年月日(※)
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに引っ行ってください

炭疽発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿
感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名
(署名又は記名押印のこと)
報告年月日 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)
(署名又は記名押印のこと)
(署名又は記名押印のこと)

1 診断(検案)した者(死体)の種類
患者(確定例)・無症状病原体保有者・感染症死亡者の死体・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名
3 性別
4 生年月日
5 診断時の年齢(歳)
6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名
10 保護者住所

11 症状
12 診断方法
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 経口感染(飲食物の種類・状況)
2 接触感染(接触した人・物の種類・状況)
3 動物・蚊・昆虫等からの感染(動物・蚊・昆虫等の種類・状況)
4 その他
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内(都道府県 市区町村)
2 国外(国 詳細地域)

13 初診年月日
14 診断(検案)年月日
15 感染したと推定される年月日
16 発病年月日(*)
17 死亡年月日(※)
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに引っ行ってください

チクングニア熱発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)
報告年月日 平成 年 月 日

従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
2 当該者氏名
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名

11 症 状
12 診 断 方 法
18 感染原因・感染経路・感染地域
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに行ってください

(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11. 12欄は、該当するものを記載すること。)

つつが虫病発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)
報告年月日 平成 年 月 日

従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※)病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
2 当該者氏名
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名

11 症 状
12 診 断 方 法
18 感染原因・感染経路・感染地域
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに行ってください

(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11. 12欄は、該当するものを記載すること。)

デング熱発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日 印 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称 上記病院・診療所の所在地(※) 電話番号(※) (※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
・患者(確定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名 3性別 4 生年月日 5診断時の年齢(0歳は月齢) 6 当該者職業
7 当該者住所 8 当該者所在地 9 保護者氏名 10 保護者住所 (9、10は患者が未成年の場合のみ記入) 電話() 電話()

11 症状 12 診断方法 13 初診年月日 14 診断(検案)年月日 15 感染したと推定される年月日 16 発症年月日(※) 17 死亡年月日(※)
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 動物・蚊・昆虫等からの感染(動物・蚊・昆虫等の種類・状況)
2 その他()
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内(都道府県 市区町村)
2 国外(国 詳細地域)
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに帰ってください

(1、3、11、12、18欄は該当する番号等を○で囲み、4、5、13から17欄は年齢、年月日を記入すること。(※)欄は、死亡者を検案した場合はのみ記入すること。)*欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。11、12欄は、該当するものすべてを記載すること。

東部ウマ脳炎発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日 印 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称 上記病院・診療所の所在地(※) 電話番号(※) (※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
・患者(確定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名 3性別 4 生年月日 5診断時の年齢(0歳は月齢) 6 当該者職業
7 当該者住所 8 当該者所在地 9 保護者氏名 10 保護者住所 (9、10は患者が未成年の場合のみ記入) 電話() 電話()

11 症状 12 診断方法 13 初診年月日 14 診断(検案)年月日 15 感染したと推定される年月日 16 発症年月日(※) 17 死亡年月日(※)
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 動物・蚊・昆虫等からの感染(動物・蚊・昆虫等の種類・状況)
2 輸血・血液製剤(輸血・血液製剤の種類・使用年月・状況)
3 その他()
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内(都道府県 市区町村)
2 国外(国 詳細地域)
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに帰ってください

(1、3、11、12、18欄は該当する番号等を○で囲み、4、5、13から17欄は年齢、年月日を記入すること。(※)欄は、死亡者を検案した場合はのみ記入すること。)*欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。11、12欄は、該当するものすべてを記載すること。

鳥インフルエンザ (H5N1 及び H7N9) を除く。

発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第 1 項 (同条第 6 項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)
報告年月日 平成 年 月 日

従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地 (※)
電話番号 (※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 6 columns: 1 診断 (検査) した者 (死体) の類型, 2 当該者氏名, 3 性別, 4 生年月日, 5 診断時の年齢 (0歳は月齢), 6 当該者職業, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名, 10 保護者住所

Main table with 11 columns: 11 症状, 12 診断方法, 18 感染原因・感染経路・感染地域, 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちにこの届出は診断後直ちに

(1, 3, 11, 12, 18 欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13 から 17 欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者 (確定例) を診断した場合のみ記入すること。
11, 12 欄は、該当するものすべてを記載すること。)

ニパウイルス感染症発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第 1 項 (同条第 6 項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)
報告年月日 平成 年 月 日

従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地 (※)
電話番号 (※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 6 columns: 1 診断 (検査) した者 (死体) の類型, 2 当該者氏名, 3 性別, 4 生年月日, 5 診断時の年齢 (0歳は月齢), 6 当該者職業, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名, 10 保護者住所

Main table with 11 columns: 11 症状, 12 診断方法, 18 感染原因・感染経路・感染地域, 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちにこの届出は診断後直ちに

(1, 3, 11, 12, 18 欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13 から 17 欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者 (確定例) を診断した場合のみ記入すること。
11, 12 欄は、該当するものすべてを記載すること。)

日本紅斑熱発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

印

医師の氏名

(署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地(※)

電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断 (検案) した者 (死体) の類型
・患者 (確定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名
3 性別
4 生年月日
5 診断時の年齢(0歳は月齢)
6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名
10 保護者住所 (9、10は患者が未成年の場合のみ記入)
電話 () -
電話 () -

11 発熱 ・頭痛 ・発疹 ・刺し口 ・DIC ・肝機能異常 ・その他 ()
12 分譲・同定による病原体の検出
検体:血液・その他 ()
検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出
検体:血液・その他 ()
間接蛍光抗体法又は間接免疫ペルオキシダーゼ法による血清抗体の検出
結果: IgM抗体 ・ペア血清での抗体陽転・ペア血清での抗体価の有意上昇
・その他の方法 ()
検体 ()
結果 ()
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路 (確定・推定)
1 動物・蚊・昆虫等からの感染 (動物・蚊・昆虫等の種類・状況)
2 その他 ()
②感染地域 (確定・推定)
1 日本国内 () 都道府県 () 市区町村 ()
2 国外 () 国 () 詳細地域 ()
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項
13 初診年月日 平成 年 月 日
14 診断 (検案(※)) 年月日 平成 年 月 日
15 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日
16 発病年月日 (*) 平成 年 月 日
17 死亡年月日 (※) 平成 年 月 日
(1、3、11、12、18欄は該当する番号等○で囲み、4、5、13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11、12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに帰って下さい

日本脳炎発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

印

医師の氏名

(署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地(※)

電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断 (検案) した者 (死体) の類型
・患者 (確定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名
3 性別
4 生年月日
5 診断時の年齢(0歳は月齢)
6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名
10 保護者住所 (9、10は患者が未成年の場合のみ記入)
電話 () -
電話 () -

11 発熱 ・嘔吐 ・意識障害 ・痲痺 ・痲痺 ・痲痺 ・痲痺 ・運動失調 ・その他 ()
12 分譲・同定による病原体の検出
検体:血液・髄液・その他 ()
検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出
検体:血液・髄液・その他 ()
IgM抗体の検出
検体:血液・髄液・その他 ()
ペア血清での赤血球凝集阻止抗体の検出
結果: 抗体陽転 ・抗体価の有意上昇
ペア血清での中和抗体の検出
結果: 抗体陽転 ・抗体価の有意上昇
ペア血清での補体結合抗体の検出
結果: 抗体陽転 ・抗体価の有意上昇
・その他の方法 ()
検体 ()
結果 ()
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路 (確定・推定)
1 動物・蚊・昆虫等からの感染 (動物・蚊・昆虫等の種類・状況)
2 輸血・血液製剤 (輸血・血液製剤の種類・使用年月・状況)
3 その他 ()
②感染地域 (確定・推定)
1 日本国内 () 都道府県 () 市区町村 ()
2 国外 () 国 () 詳細地域 ()
③日本脳炎ワクチン接種歴
1 回目 有 () 無 () 不明 ()
接種年月日 (S・H) 年 月 日
2 回目 有 () 無 () 不明 ()
接種年月日 (S・H) 年 月 日
3 回目 有 () 無 () 不明 ()
接種年月日 (S・H) 年 月 日
4 回目 有 () 無 () 不明 ()
接種年月日 (S・H) 年 月 日
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項
13 初診年月日 平成 年 月 日
14 診断 (検案(※)) 年月日 平成 年 月 日
15 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日
16 発病年月日 (*) 平成 年 月 日
17 死亡年月日 (※) 平成 年 月 日
(1、3、11、12、18欄は該当する番号等○で囲み、4、5、13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11、12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに帰って下さい

ハンタウイルス肺症候群 (HPS) 発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)
(署名又は記名押印のこと)
(署名又は記名押印のこと)
(署名又は記名押印のこと)

1 診断 (検査) した者 (死体) の類型
1 患者 (確定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名 3性別 4 生年月日 5 診断時の年齢(0歳は月齢) 6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名 10 保護者住所 (9、10は患者が未成年の場合のみ記入)
電話 () -

11 症状
・発熱
・頭痛
・呼吸困難
・消化器症状
・頻脈
・肺水腫
・その他 ()
12 診断方法
・分離・同定による病原体の検出
・抗体:血液・肺組織・その他 ()
・検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出
・間接蛍光抗体法による血清抗体の検出 (IgM・IgG)
・ELISA法による血清抗体の検出 (IgM・IgG)
・その他の方法 ()
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路 (確定・推定)
1 動物・蚊・昆虫等からの感染 (動物・蚊・昆虫等の種類・状況)
2 その他 ()
②感染地域 (確定・推定)
1 日本国内 (都道府県 市区町村)
2 国外 (国 詳細地域)
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項
13 初診年月日 平成 年 月 日
14 診断 (検査)(※) 年月日 平成 年 月 日
15 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日
16 発病年月日 (*) 平成 年 月 日
17 死亡年月日 (※) 平成 年 月 日

(1、3、11、12、18欄は該当する番号等を○で囲み、4、5、13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11、12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに行ってください

ブライルス病発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)
(署名又は記名押印のこと)
(署名又は記名押印のこと)
(署名又は記名押印のこと)

1 診断 (検査) した者 (死体) の類型
1 患者 (確定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名 3性別 4 生年月日 5 診断時の年齢(0歳は月齢) 6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名 10 保護者住所 (9、10は患者が未成年の場合のみ記入)
電話 () -

11 症状
・水疱性
・潰瘍性皮膚粘膜病変
・動物との接触部位の高所症状
・リンパ腫腫脹
・発熱
・筋力低下
・麻痺
・構音障害
・知覚障害
・その他 ()
・なし
12 診断方法
・分離・同定による病原体の検出
・抗体:明頭抗ウイルス・髄液・吹動部生検組織・その他 ()
・検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出
・間接蛍光抗体法による血清抗体の検出
・ELISA法(ドットプロット法を含む)による血清抗体の検出
・その他の方法 ()
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路 (確定・推定)
1 動物・蚊・昆虫等からの感染 (動物・蚊・昆虫等の種類・状況)
2 針等の鋭利なものへの刺入による感染 (刺入物の種類・状況)
3 その他 ()
②感染地域 (確定・推定)
1 日本国内 (都道府県 市区町村)
2 国外 (国 詳細地域)
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項
13 初診年月日 平成 年 月 日
14 診断 (検査)(※) 年月日 平成 年 月 日
15 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日
16 発病年月日 (*) 平成 年 月 日
17 死亡年月日 (※) 平成 年 月 日

(1、3、11、12、18欄は該当する番号等を○で囲み、4、5、13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11、12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに行ってください

鼻 痘 発 生 届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日 印
医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
・患者(確定例)・無症状病原体保有者・感染症死亡者の死体・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名 3性別 4 生年月日 5 診断時の年齢(0歳は月齢) 6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名 10 保護者住所 (9、10は患者が未成年の場合のみ記入)

11 症状 12 診断方法 13 初診年月日 14 診断(検案(※))年月日 15 感染したと推定される年月日 16 発病年月日(※) 17 死亡年月日(※)

(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに帰国してください

ブルセラ症発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日 印
医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
・患者(確定例)・無症状病原体保有者・感染症死亡者の死体・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名 3性別 4 生年月日 5 診断時の年齢(0歳は月齢) 6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名 10 保護者住所 (9、10は患者が未成年の場合のみ記入)

11 症状 12 診断方法 13 初診年月日 14 診断(検案(※))年月日 15 感染したと推定される年月日 16 発病年月日(※) 17 死亡年月日(※)

(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに帰国してください

ペネズエラウマ脳炎発生病

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名
(署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあつては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検査)した者(死体)の類型
患者(確定例)
2 当該者氏名
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名
10 保護者住所

11 症状
12 診断方法
18 感染原因・感染経路・感染地域
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちにしてください

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を入力すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。

ヘンドラウイルス感染症発生病

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名
(署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあつては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検査)した者(死体)の類型
患者(確定例)
2 当該者氏名
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名
10 保護者住所

11 症状
12 診断方法
18 感染原因・感染経路・感染地域
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちにしてください

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を入力すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。

発しんちフス発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名

（署名又は記名押印のこと）

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地（※）

電話番号（※）

（※病院・診療所に従事していない医師にあつては、その住所・電話番号を記載）

Table with 2 columns: 1 診断（検案）した者（死体）の種類・患者（確定例）・無症状病原体保有者・感染症死亡者の死体・感染症死亡疑い者の死体; 2 当診者氏名; 7 当診者住所; 8 当診者所在地; 9 保護者氏名

Table with 2 columns: 11 症状・発熱・発疹・発赤・幻覚・意識障害・その他（なし）; 12 診断方法; 13 初診年月日; 14 診察（検案）年月日; 15 感染したと推定される年月日; 16 発病年月日; 17 死亡年月日; 18 感染原因・感染経路・感染地域; 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに行ってください

11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。

ボツリヌス症発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名

（署名又は記名押印のこと）

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地（※）

電話番号（※）

（※病院・診療所に従事していない医師にあつては、その住所・電話番号を記載）

Table with 2 columns: 1 診断（検案）した者（死体）の種類・患者（確定例）・無症状病原体保有者・感染症死亡者の死体・感染症死亡疑い者の死体; 2 当診者氏名; 7 当診者住所; 8 当診者所在地; 9 保護者氏名

Table with 2 columns: 11 症状・弛緩性麻痺・咽下困難・口渇・嘔吐・筋力低下・その他（なし）; 12 診断方法; 13 初診年月日; 14 診察（検案）年月日; 15 感染したと推定される年月日; 16 発病年月日; 17 死亡年月日; 18 感染原因・感染経路・感染地域; 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに行ってください

11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。

マラリア発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日 印

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと) 従事する病院・診療所の名称 上記病院・診療所の所在地(※) 電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあつては、その住所・電話番号を記載)

Table with 2 columns: 1 診断(検案)した者(死体)の種類, 2 当該者氏名, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名

Main table with 2 columns: 11 症状, 12 診断方法, 18 感染原因・感染経路・感染地域, 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに帰ってくださ

(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

野兔病発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日 印

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと) 従事する病院・診療所の名称 上記病院・診療所の所在地(※) 電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあつては、その住所・電話番号を記載)

Table with 2 columns: 1 診断(検案)した者(死体)の種類, 2 当該者氏名, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名

Main table with 2 columns: 11 症状, 12 診断方法, 18 感染原因・感染経路・感染地域, 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに帰ってくださ

(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

ライム病発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 _____ 報告年月日 平成 年 月 日 印 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称 _____ (署名又は記名押印のこと)
上記病院・診療所の所在地(※) _____
電話番号(※) _____

1. 診断(検案)した者(死体)の類型 (※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 6 columns: 患者(確定例)・無症状病原体保有者, 3性別, 4生年月日, 5診断時の年齢(0歳は月齢), 6当該者職業

7 当該者住所 _____ 電話() () -

8 当該者所在地 _____ 電話() () -

9 保護者氏名 _____ 10 保護者住所 (9, 10は患者が未成年の場合のみ記入) _____ 電話() () -

11 症状 游走性紅斑・筋肉痛・筋肉炎・関節腫脹・中枢神経症状・発熱・筋膜炎・末梢神経症状・循環器症状・眼症状・慢性萎縮性肢端皮膚炎・慢性脳脊髄炎・その他()

12 診断方法 ・分離・同定による病原体の検出 検体: 血液・髄液・脳液・その他() 菌種名() ・検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出 検体: 血液・髄液・その他() ・Western Blot法による血清抗体の検出 ・その他の方法() 検体() 結果()

13 初診年月日 平成 年 月 日
14 診断(検案)年月日 平成 年 月 日
15 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日
16 発病年月日(*) 平成 年 月 日
17 死亡年月日(※) 平成 年 月 日

18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 動物・蚊・昆虫等からの感染(動物・蚊・昆虫等の種類・状況)
2 その他()
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内(都道府県 市区町村)
2 国外(国 詳細地域)

19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢・年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した時点のみ記入すること。
11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに実行してください

リッサウイルス感染症発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 _____ 報告年月日 平成 年 月 日 印 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称 _____ (署名又は記名押印のこと)
上記病院・診療所の所在地(※) _____
電話番号(※) _____

1. 診断(検案)した者(死体)の類型 (※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 6 columns: 患者(確定例)・無症状病原体保有者, 3性別, 4生年月日, 5診断時の年齢(0歳は月齢), 6当該者職業

7 当該者住所 _____ 電話() () -

8 当該者所在地 _____ 電話() () -

9 保護者氏名 _____ 10 保護者住所 (9, 10は患者が未成年の場合のみ記入) _____ 電話() () -

11 症状 ・咬傷周辺の知覚異常・疼痛・発熱・不穏・頭痛・痲痺・恐怖条件・異常興奮・その他()

12 診断方法 ・分離・同定による病原体の検出 検体: 唾液・その他() ・蛍光抗体法による病原体抗原の検出 検体: 角膜炎様標本・頸部の皮膚・気管吸引物・唾液・涙液・脳組織・その他() ・検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出 検体: 唾液・髄液・脳液・その他() ・その他の方法() 検体() 結果()

13 初診年月日 平成 年 月 日
14 診断(検案)年月日 平成 年 月 日
15 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日
16 発病年月日(*) 平成 年 月 日
17 死亡年月日(※) 平成 年 月 日

18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 動物・蚊・昆虫等からの感染(動物・蚊・昆虫等の種類・状況)
2 その他()
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内(都道府県 市区町村)
2 国外(国 詳細地域)

19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢・年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した時点のみ記入すること。
11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに実行してください

リフトバレー熱発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日
医師の氏名
（署名又は記名押印のこと）

1 診断（検査）した者（死体）の類型
・患者（確定例） ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名
3 性別
4 生年月日
5 診断時の年齢（歳）（月齢）
6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名
10 保護者住所
（9、10は患者が未成年の場合のみ記入）

11 症状
・発熱
・嘔吐
・意識障害
・痲痺
・脳神経障害
・運動失調
・その他
12 診断方法
・分種・同定による病原体の検出
・検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出
・血清での中和抗体の検出
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路（確定・推定）
1 動物・蚊・昆虫等からの感染（動物・蚊・昆虫等の種類・状況）
2 輸血・血液製剤（輸血・血液製剤の種類・使用年月・状況）
3 その他
②感染地域（確定・推定）
1 日本国内（都道府県 市区町村）
2 国外（国 詳細地域）

この届出は診断後直ちに帰国してください

13 初診年月日
14 診断（検査）年月日
15 感染したと推定される年月日
16 発症年月日（*）
17 死亡年月日（**）
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

（*）欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。（**）欄は、患者（確定例）を診断した場合のみ記入すること。
11、12欄は、該当するものすべてを記載すること。

類鼻痘発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日
医師の氏名
（署名又は記名押印のこと）

1 診断（検査）した者（死体）の類型
・患者（確定例） ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名
3 性別
4 生年月日
5 診断時の年齢（歳）（月齢）
6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名
10 保護者住所
（9、10は患者が未成年の場合のみ記入）

11 症状
・発熱
・敗血症
・肺炎
・リンパ節腫脹
・その他
12 診断方法
・分種・同定による病原体の検出
・検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路（確定・推定）
1 水系感染（水の種類・状況）
2 創傷感染（創傷の部位・状況）
3 塵埃感染（吸入物の種類・状況）
4 その他
②感染地域（確定・推定）
1 日本国内（都道府県 市区町村）
2 国外（国 詳細地域）

この届出は診断後直ちに帰国してください

13 初診年月日
14 診断（検査）年月日
15 感染したと推定される年月日
16 発症年月日（*）
17 死亡年月日（**）
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

（*）欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。（**）欄は、患者（確定例）を診断した場合のみ記入すること。
11、12欄は、該当するものすべてを記載すること。

レジオネラ症発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日

（署名又は記名押印のこと）

従事する病院・診療所の名称 上記病院・診療所の所在地（※） 電話番号（※）

（※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載）

Table with 6 columns: 1 診断(検査)した者(死体)の類型, 2 当該者氏名, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名, 10 保護者住所

Main table with columns for symptoms (11), signs (12), diagnosis methods (13-17), and infection details (18-19)

この届出は診断後直ちに実行してください

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。)

(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。11, 12欄は、該当するものを記載すること。

レプトスピラ症発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日

（署名又は記名押印のこと）

従事する病院・診療所の名称 上記病院・診療所の所在地（※） 電話番号（※）

（※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載）

Table with 6 columns: 1 診断(検査)した者(死体)の類型, 2 当該者氏名, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名, 10 保護者住所

Main table with columns for symptoms (11), signs (12), diagnosis methods (13-17), and infection details (18-19)

この届出は診断後直ちに実行してください

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。)

(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。11, 12欄は、該当するものを記載すること。

ロツキ一山紅斑熱発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長)殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)

の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日 (署名又は記名押印のこと)

1 診断(検査)した者(死体)の類型 2 当該者氏名 3 性別 4 生年月日 5 診断時の年齢(0歳は月齢) 6 当該者職業 7 当該者住所 8 当該者所在地 9 保護者氏名 10 保護者住所 電話() 電話() 電話()

Table with 2 columns: 11 症状 12 診断方法 13 初診年月日 14 診断(検査)年月日 15 感染したと推定される年月日 16 発病年月日(*) 17 死亡年月日(※)

11. 12欄は、該当するものを記載すること。

この届出は診断後直ちに帰国してください

アメーバ赤痢発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長)殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)

の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日 (署名又は記名押印のこと)

1 診断(検査)した者(死体)の類型 2 性別 3 診断時の年齢(0歳は月齢) 4 性別

Table with 2 columns: 11 感染原因・感染経路・感染地域 12 診断方法 13 初診年月日 14 診断(検査)年月日 15 感染したと推定される年月日 16 発病年月日(*) 17 死亡年月日(※)

11. 12欄は、該当するものを記載すること。

この届出は診断から7日以内に行ってください

ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く。）発生病

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

1 診断(検査)した者(死体)の類型
・患者(確定例) ・感染症死亡者の死体
2 性別 男・女
3 診断時の年齢(0歳は月齢) 歳(か月)

1.1 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 針等の鋭利なものへの刺入による感染(刺入物の種類・状況)
2 静注薬物常用
3 輸血・血液製剤(輸血・血液製剤の種類・使用年月・状況)
4 性的接触(A:性交 B:経口) (A:同性間 イ:異性間 ウ:不明)
5 母子感染 (ア:胎内 イ:出産時 ウ:母乳)
6 その他()
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内(都道府県 市区町村)
2 国外(国 詳細地域)
③B型肝炎ワクチン接種歴(有・無・不明)

(1, 2, 4, 5, 11欄は該当する番号等を○で囲み、3, 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。
(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
4, 5欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断から7日以内に行ってください

カルバペネム耐性腸内細菌感染症発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

1 診断(検査)した者(死体)の類型
・患者(確定例) ・感染症死亡者の死体
2 性別 男・女
3 診断時の年齢(0歳は月齢) 歳(か月)

1.1 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 以前からの保菌(保菌部位)
2 院内感染(保菌も含めた患者数など感染伝播の状況)
3 医療器具関連感染(中心静脈カテーテル・尿路カテーテル・人工呼吸器・その他)
4 手術部位感染(手術手技)
5 その他()
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内(都道府県 市区町村)
2 国外(国 詳細地域)
③90日以内の海外渡航歴(有・無)
有りの場合
1 渡航先()
2 海外での医療機関の受診歴(有・無)
有りの場合
受診した国名()
入院歴(有・無)

(1, 2, 4, 5及び11欄においては該当する番号等を○で囲み、3及び6から10までの欄においては年齢又は年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。
(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
4及び5欄においては、該当するものを全てを記載すること。)

この届出は診断から7日以内に行ってください

急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。） 発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日
印
（署名又は記名押印のこと）

医師の氏名
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地（※）
電話番号（※）

（※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載）

1 診断（検査）した者（死体）の類型
・患者（確定例） ・感染症死亡者の死体

2 性別 3 診断時の年齢（0歳は月齢）
男 ・ 女 歳（ か月）

1) 病原体（ 2) 病原体不明	11 感染原因、感染経路、感染地域
4 症 状 ・発熱 ・頭痛 ・嘔吐 ・項部硬直 ・痲痺 ・意識障害 ・髄液細胞数の増加 ・その他（ ）	①感染原因、感染経路（確定・推定） 1 飛沫・飛沫核感染（感染源の種類・状況： ） 2 経口感染（飲食物の種類・状況： ） 3 接触感染（接触した人・物の種類・状況： ） 4 動物・蚊・昆虫等からの感染（動物・蚊・昆虫等の種類・状況： ） 5 その他（ ）
5 診断方法 ・意識障害を伴って死亡した者、または意識障害を伴って24時間以上入院した者のうち、次の①②③の少なくとも1つの症状を呈したことを確認 ①38度以上の高熱、②何らかの中脳神経症状、③先行感染症状（熱性痲痺、代謝性酸中毒、脳血管障害、脳腫瘍、外傷等、明らかに感染性とは異なる場合は除外する。）	②感染地域（確定・推定） 1 日本国内（ ） 都道府県 市区町村 2 国外（ ） 国 詳細地域
6 初診年月日 平成 年 月 日 7 診断（検査）年月日 平成 年 月 日 8 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日 9 発病年月日（*） 平成 年 月 日 10 死亡年月日（※） 平成 年 月 日	

(1, 2, 4, 5, 11欄は該当する番号等を○で囲み、3, 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。
（※）欄は、死亡者を検査した場合のみ記入すること。
（*）欄は、患者（確定例）を診断した場合のみ記入すること。
4, 5欄は、該当するものすべてを記載すること。）

この届出は診断日から7日以内に行ってください

クリプトスポリジウム症発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日
印
（署名又は記名押印のこと）

医師の氏名
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地（※）
電話番号（※）

（※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載）

1 診断（検査）した者（死体）の類型
・患者（確定例） ・感染症死亡者の死体

2 性別 3 診断時の年齢（0歳は月齢）
男 ・ 女 歳（ か月）

4 症 状 ・腹痛 ・下痢 ・発熱 ・免疫不全 ・その他（ ）	11 感染原因、感染経路、感染地域
5 診断方法 ・顕微鏡による病原体の検出 検体：便・生検組織・十二指腸液・胆汁・尿液・その他（ ） ・病原体抗原の検出 検体：便・生検組織・十二指腸液・胆汁・尿液・その他（ ） 検査法（酵素抗体法・イムノクロマト法） ・検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出 検体：便・生検組織・十二指腸液・胆汁・尿液・その他（ ） その他の検査方法（ ） 検体（ ） 結果（ ）	①感染原因、感染経路（確定・推定） 1 経口感染（飲食物の種類・状況： ） 2 水系感染（水の種類・状況： ） 3 接触感染（接触した人・物の種類・状況： ） 4 動物・蚊・昆虫等からの感染（動物・蚊・昆虫等の種類・状況： ） 5 性的接触（A.性交 B.経口（ア、同性間 イ、異性間 ウ、不明） ） 6 その他（ ） ②感染地域（確定・推定） 1 日本国内（ ） 都道府県 市区町村 2 国外（ ） 国 詳細地域
6 初診年月日 平成 年 月 日 7 診断（検査）年月日 平成 年 月 日 8 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日 9 発病年月日（*） 平成 年 月 日 10 死亡年月日（※） 平成 年 月 日	

(1, 2, 4, 5, 11欄は該当する番号等を○で囲み、3, 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。
（※）欄は、死亡者を検査した場合のみ記入すること。
（*）欄は、患者（確定例）を診断した場合のみ記入すること。
4, 5欄は、該当するものすべてを記載すること。）

この届出は診断日から7日以内に行ってください

クローンフェルト・ヤコブ病発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 (平成 年 月 日)
医師の氏名
(署名または記名押印のこと)

所属する病院・診療所の名称
(署名又は記名押印のこと)

上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

1 診断 (検案) した者 (死体) の類型
・患者 (確定例) ・感染症死亡者の死体
2 性別
3 診断時の年齢 (0歳は月齢)
4 診断した者 (死体) の類型
5 診断方法
6 症状
7 初診年月日
8 診断 (検案) した者 (死体) の類型
9 感染したと推定される年月日
10 発病年月日
11 死亡年月日
12 感染原因・感染経路・感染地域
13 診断方法

この届出は診断から7日以内に行ってください

(1、2、4から6、12欄は該当する番号等○で囲み、3、7から11欄は年齢・年月日を記入すること。(※)欄は、死亡者を検案した場合はのみ記入すること。(※)欄は、患者を診断した場合はのみ記入すること。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 (平成 年 月 日)
医師の氏名
(署名又は記名押印のこと)

所属する病院・診療所の名称
(署名又は記名押印のこと)

上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

1 診断 (検案) した者 (死体) の類型
・患者 (確定例) ・感染症死亡者の死体
2 性別
3 診断時の年齢 (0歳は月齢)
4 診断した者 (死体) の類型
5 診断方法
6 初診年月日
7 診断 (検案) した者 (死体) の類型
8 感染したと推定される年月日
9 発病年月日
10 死亡年月日
11 感染原因・感染経路・感染地域
12 診断方法

この届出は診断から7日以内に行ってください

(1、2、4、5、11欄は該当する番号等○で囲み、3、6から10欄は年齢、年月日を記入すること。(※)欄は、死亡者を検案した場合はのみ記入すること。(※)欄は、患者 (確定例) を診断した場合のみ記入すること。4、5欄は、該当するものをすべて記載すること。)

後天性免疫不全症候群発生届 (HIV感染症を含む)

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名 _____ 印
 (署名又は記名押印のこと)
 従事する病院・診療所の名称 _____
 上記病院・診療所の所在地(※) _____
 電話番号(※) _____

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断 (検査) した者 (死体) の類型 ・患者 (確定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体	
2 性別	男 ・ 女
3 診断時の年齢	歳
4 病名	1) 無症候性キャリア 2) AIDS 3) その他 ()
5-1 診断方法	・抗HIV抗体スクリーニング検査 1) ELISA法 2) P法 3) IC法 4) その他 () ・確認検査 1) Western Blot法 2) IFA法 3) その他 () ・病原検査 1) HIV抗原検査 2) ウイルス分離 3) PCR法 4) その他 () ・18か月未満の児の免疫学的所見 () (該当するものを全てに○をすること)
6 診断時の症状	1) 有 2) 無 (無症候性キャリアの場合は、当欄の記載は不要)
7 発病年月日	平成 年 月 日
8 初診年月日	平成 年 月 日
9 診断(検査)年月日	平成 年 月 日
10 AIDS給付認定(5-2)の診断日	平成 年 月 日
11 死亡年月日 ※	平成 年 月 日

この届出は診断から7日以内に行ってください

5-2	1) カンジタ症 (食道、気管、気管支、肺) 2) クリプトコッカス症 (肺以外) 3) コクシジオイデス症 (①全身に播種したもの ②肺、頸部、肺門リンパ節以外の部位に起こったもの) 4) ヒストプラズマ症 (①全身に播種したもの ②肺、頸部、肺門リンパ節以外の部位に起こったもの) 5) ニューモンスチス肺炎 6) トキソプラズマ脳症 (生後1か月以後) 7) クリプトスクリジウム症 (1か月以上続く下痢を伴ったもの) 8) イソスボラ症 (1か月以上続く下痢を伴ったもの) 9) 化膿性細菌感染症 (13歳未満で、ヘモフィルス、連鎖球菌等の化膿性細菌により①敗血症 ②肺炎 ③髄膜炎 ④中耳炎、皮膚粘膜炎以外の部位や深在臓器の膿瘍のいずれかが、2年以内、二つ以上多発あるいは繰り返して起こったもの) 10) サルモネラ菌症 (再発を繰り返すもので、チフス菌によるものを除く) 11) 活動性結核 (肺結核又は肺外結核) 12) 非結核性抗酸菌症 (①全身に播種したもの ②肺、皮膚、頸部、肺門リンパ節以外の部位に起こったもの) 13) サイトメガロウイルス感染症 (生後1か月以後で、肝、脾、リンパ節以外) 14) 単純ヘルペスウイルス感染症 (①1か月以上持続する粘膜、皮膚の潰瘍を呈するもの ②生後1か月以後で気管炎、肺炎、食道炎を併発するもの) 15) 進行性多巣性白質脳症 16) カボジ肉腫 17) 原発性脳リンパ腫 18) 非ホジキンリンパ腫 19) 嚢嚢性子宮頸癌 20) 反復性肺炎 21) リンパ管間質性肺炎/肺リンパ管過形成: LIP/PLH complex (13歳未満) 22) HIV脳症 (認知症又は急性性脳炎) 23) HIV消耗性症候群 (全身衰弱又はスリム病)
A	13 感染症のまん延及び当該者の医療のために必要な事項として厚生労働大臣が定める事項 ① 最近数年間の主な居住地 1) 日本国内 () 2) その他 () 3) 不明 ② 国籍 1) 日本 2) その他 3) 不明
I	① 推定される感染原因・感染経路 1) 性行為感染 2) 静注薬物使用 3) 母子感染 4) 輸血 5) その他 () 6) 不明 ② 推定される感染地域 1) 日本国内 () 2) その他 () 3) 不明
D	① 推定される感染原因・感染経路 1) 同性間性的接触 2) 同性間性的接触 イ. 同性間性的接触 3) 母子感染 4) 輸血 5) その他 () 6) 不明 ② 推定される感染地域 1) 日本国内 () 2) その他 () 3) 不明
S	① 推定される感染原因・感染経路 1) 同性間性的接触 2) 同性間性的接触 3) 母子感染 4) 輸血 5) その他 () 6) 不明 ② 推定される感染地域 1) 日本国内 () 2) その他 () 3) 不明
と	
診	
断	

(1、2、4から6、12、13欄は該当する番号等を○で囲み、3、7から11欄は年齢・年月日を記入すること。※欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。)

ジアルジア症発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名

(署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地(※)

電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検査)した者(死体)の類型
・患者(確定例) ・感染症死亡者の死体
2 性別
男 ・ 女
3 診断時の年齢(0歳は月齢)
歳 (か月)

11 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 経口感染(飲食物の種類・状況)
2 水系感染(水の種類・状況)
3 性的接触(A.性交 B.経口)
(ア.同性間 イ.異性間 ウ.不明)
4 その他
検査法(酵素抗体法・イムノクロマト法)
・検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出
・検体:便・生検組織・十二指腸液・胆汁・尿・痰液・その他
・その他の検査方法
初診年月日 平成 年 月 日
7 診断(検査)年月日 平成 年 月 日
8 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日
9 発病年月日(※) 平成 年 月 日
10 死亡年月日(※) 平成 年 月 日

(1, 2, 4, 5, 11欄は該当する番号等オで囲み、3, 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検査した場合のみ記入すること。
(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
4.5欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断から7日以内に行ってください

侵襲性インフルエンザ菌感染症発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名

(署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地(※)

電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検査)した者(死体)の類型
・患者(確定例) ・感染症死亡者の死体
2 性別
男 ・ 女
3 診断時の年齢(0歳は月齢)
歳 (か月)

11 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 飛沫・飛沫核感染(感染源の種類・状況)
2 接触感染(接触した人・物の種類・状況)
3 その他
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内(都道府県市区町村)
2 国外(詳細地域)
③ヒパフクチン接種歴
1回目 有() 無()
接種年月日(S・H)年 月 日
製造会社/Lot番号()
2回目 有() 無()
接種年月日(S・H)年 月 日
製造会社/Lot番号()
3回目 有() 無()
接種年月日(S・H)年 月 日
製造会社/Lot番号()
4回目 有() 無()
接種年月日(S・H)年 月 日
製造会社/Lot番号()
5 分譲・同定による病原体の検出
検体:膿液・血液・その他()
血清型:寒菌型・b群・その他()
検体からの直接のPCR法による病原体遺伝子の検出
検体:膿液・血液・その他()
血清型:寒菌型・b群・その他()
・ラテックス法による病原体抗原の検出
・その他の検査方法
初診年月日 平成 年 月 日
7 診断(検査)年月日 平成 年 月 日
8 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日
9 発病年月日(※) 平成 年 月 日
10 死亡年月日(※) 平成 年 月 日

(1, 2, 4, 5, 11欄は該当する番号等オで囲み、3, 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検査した場合のみ記入すること。
(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
4.5欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断から7日以内に行ってください

侵襲性髄膜炎菌感染症発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地 (※)
電話番号 (※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 10 rows: 1 診断 (検案) した者 (死体) の類型, 2 当該者氏名, 3 性別, 4 生年月日, 5 診断時の年齢(0歳は月齢), 6 当該者職業, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保健者氏名, 10 保健者住所 (9, 10は患者が未成年の場合のみ記入)

Main table for meningitis infection with 11 rows: 11 症状, 12 診断方法, 13 初診年月日, 14 診断 (検案) 年月日, 15 感染したと推定される年月日, 16 発病年月日 (*), 17 死亡年月日 (※), 18 感染原因・感染経路・感染地域, 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のため

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。
(*)欄は、患者 (確定例) を診断した場合のみ記入すること。
11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちにこの届出は診断後直ちに

侵襲性肺炎球菌感染症発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地 (※)
電話番号 (※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 3 rows: 1 診断 (検案) した者 (死体) の類型, 2 性別, 3 診断時の年齢 (0歳は月齢)

Main table for pneumonia infection with 11 rows: 11 感染原因・感染経路・感染地域, 12 症状, 13 診断方法, 14 初診年月日, 15 診断 (検案) 年月日, 16 感染したと推定される年月日, 17 発病年月日 (*), 18 死亡年月日 (※), 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のため

(1, 2, 4, 5, 11欄は該当する番号等を○で囲み、3, 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。
(*)欄は、患者 (確定例) を診断した場合のみ記入すること。
4, 5欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断から7日以内に行ってください

水痘（入院例に限る。）発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

1 診断(検案)した者(死体の)の類型
・患者(確定例) ・感染症死亡者の死体
2 性別 男 女
3 診断時の年齢(0歳は月齢) 歳() 月() 日()

1) 検査診断例
4 発熱・発疹・肺炎・気管支炎・熱性痙攣
2) 臨床診断例
4 発熱・発疹・肺炎・気管支炎・熱性痙攣
5 診断方法
6 初診年月日
7 診断(検案)年月日
8 感染したと推定される年月日
9 発病年月日
10 死亡年月日
11 感染原因・感染経路・感染地域

この届出は診断から7日以内に行ってください

(1, 2, 4, 5, 11欄)においては該当する番号等を○で囲み、3及び6から10までの欄においては年齢又は年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。
(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
4及び5欄においては、該当するものを記載すること。

先天性風しん症候群発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

1 診断(検案)した者(死体の)の類型
・患者(確定例) ・感染症死亡者の死体
2 性別 男 女
3 診断時の年齢(0歳は月齢) 歳() 月() 日()

1) CRS典型例、2) その他
4 白内障 ・先天性心疾患
5 診断方法
6 初診年月日
7 診断(検案)年月日
8 感染したと推定される年月日
9 発病年月日
10 死亡年月日
11 感染原因・感染経路・感染地域

この届出は診断から7日以内に行ってください

(1, 2, 4, 5, 11欄)は該当する番号等を○で囲み、3, 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。
(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
4, 5欄は、該当するものを記載すること。

梅毒発生病

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日
医師の氏名
(署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)
(※)病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検査)した者(死体)の類型
・患者(確定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体

2 性別
男・女
3 診断時の年齢(0歳は月齢)
歳(か月)

Table with 2 main columns: 1 1 感染原因・感染経路・感染地域 and 2 診断方法. Includes detailed medical and diagnostic information.

10欄目は診断日から7日以内に行ってください

(1, 2, 4, 5, 11欄は該当する番号等を○で囲み、3, 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。
(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
4, 5欄は、該当するものすべてを記載すること。

播種性クリプトコックス症発生病

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日
医師の氏名
(署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)
(※)病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検査)した者(死体)の類型
・患者(確定例) ・感染症死亡者の死体

2 性別
男・女
3 診断時の年齢(0歳は月齢)
歳(か月)

Table with 2 main columns: 1 1 感染原因・感染経路・感染地域 and 2 診断方法. Includes detailed medical and diagnostic information.

10欄目は診断日から7日以内に行ってください

(1, 2, 4, 5及び11欄において該当する番号等を○で囲み、3及び6から10までの欄においては年齢又は年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。
(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
4及び5欄において、該当するものを全てを記載すること。

破傷風発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名

（署名又は記名押印のこと）

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地（※）

電話番号（※）

（※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載）

1 診断（検査）した者（死体）の類型 ・患者（確定例） ・感染症死亡者の死体	2 性別 男 ・ 女	3 診断時の年齢（0歳は月齢） 歳（ か月）
---	---------------	---------------------------

4 症状 ・筋肉のこわばり ・嚥下障害 ・痙攣 ・呼吸困難（遊離性） ・反弓緊張 ・その他（ ）	11 感染原因・感染経路・感染地域 ①感染原因・感染経路（確定・推定） 1 針等の鋭利なものによる感染（刺入物の種類・状況： ） 2 静注薬物常用 3 創傷感染（創傷の部位・状況） 4 その他（ ）	②感染地域（確定・推定） 1 日本国内（ ） 都道府県 市区町村 2 国外（ ） 国 詳細地域 ③破傷風含有ワクチン接種歴（有・無・不明）
5 診断方法 ・臨床決定（ ）	6 初診年月日 平成 年 月 日	7 診断（検査）年月日 平成 年 月 日
8 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日	9 発病年月日（*） 平成 年 月 日	10 死亡年月日（※） 平成 年 月 日

（1. 2. 4. 5. 11欄は該当する番号等を○で囲み、3. 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。

（※）欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。

（*）欄は、患者（確定例）を診断した場合のみ記入すること。

4. 5欄は、該当するものをすべてを記載すること。）

この届出は診断から7日以内に行ってください

バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名

（署名又は記名押印のこと）

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地（※）

電話番号（※）

（※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載）

1 診断（検査）した者（死体）の類型 ・患者（確定例） ・感染症死亡者の死体	2 性別 男 ・ 女	3 診断時の年齢（0歳は月齢） 歳（ か月）
---	---------------	---------------------------

4 症状 ・発熱 ・皮膚感染症 ・肺炎 ・髄膜炎 ・その他（ ）	11 感染原因・感染経路・感染地域 ①感染原因・感染経路（確定・推定） 1 飛沫・飛沫核感染（感染源の種類・状況： ） 2 経口感染（飲食物の種類・状況： ） 3 接触感染（接触した人・物の種類・状況： ） 4 針等の鋭利なものによる感染（刺入物の種類・状況： ） 5 創傷感染（創傷の部位・状況： ） 6 その他（ ）	②感染地域（確定・推定） 1 日本国内（ ） 都道府県 市区町村 2 国外（ ） 国 詳細地域
5 診断方法 ・通常無菌的ではない液体からの分離・同定による黄色ブドウ球菌の検出かつ分種類のバンコマイシンのMIC値が16μg/ml以上 ・通常無菌的ではない液体からの分離・同定による黄色ブドウ球菌の検出、かつ分種類のバンコマイシンのMIC値が16μg/ml以上、かつ分種類が感染症の原因であることの判定 液体：喀痰・尿・膿・その他（ ）	6 初診年月日 平成 年 月 日	7 診断（検査）年月日 平成 年 月 日
8 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日	9 発病年月日（*） 平成 年 月 日	10 死亡年月日（※） 平成 年 月 日

（1. 2. 4. 5. 11欄は該当する番号等を○で囲み、3. 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。

（※）欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。

（*）欄は、患者（確定例）を診断した場合のみ記入すること。

4. 5欄は、該当するものをすべてを記載すること。）

この届出は診断から7日以内に行ってください

バンコマイシン耐性腸球菌感染症発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日
医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

1 診断(検査)した者(死体)の種類
患者(確定例)・感染症死亡者の死体
2 性別
男・女
3 診断時の年齢(0歳は月齢)
歳(か月)

11 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 飛沫・飛沫核感染(感染源の種類・状況)
2 経口感染(飲食物の種類・状況)
3 接触感染(接触した人・物の種類・状況)
4 針等の鋭利なものへの刺入による感染(刺入物の種類・状況)
5 その他
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内(都道府県)
2 国外(詳細地域)
6 初診年月日
7 診断(検査)年月日
8 感染したと推定される年月日
9 発病年月日(*)
10 死亡年月日(※)

(1, 2, 4, 5, 11欄は該当する番号等を○で囲み、3, 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検査した場合のみ記入すること。
(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
4, 5欄は、該当するものすべてを記載すること。

この届出は診断から7日以内に行ってください

1. 風しんについては、診断を行った医師は7日以内に届出をさせていただくこととなっておりますが、風しんに対するよ
り迅速な行政対応に資するため、風しんを診断(臨床診断を含む)した医師は24時間以内を目処に最寄りの保健所へ
の届出を行っていただくようお願いいたします。
2. 臨床診断については、届出後であっても、血清抗体価の測定を実施するとともに、検査結果等を総合的に判断し、
風しんでないと判断された場合は届出の取り下げ等のご協力いただきますようお願いいたします。

別記様式 5-2-0

風しん発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日
医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

1 診断(検査)した者(死体)の種類
患者(確定例)・感染症死亡者の死体
2 性別
男・女
3 診断時の年齢(0歳は月齢)
歳(か月)

11 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 飛沫・飛沫核感染(感染源の種類・状況)
2 接触感染(接触した人・物の種類・状況)
3 その他
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内(都道府県)
2 国外(詳細地域)
③風しん含有ワクチン接種歴
1 回目有(歳)・無・不明
接種年月日(S・H年 月 日)
製造会社/Lot番号()
2 回目有(歳)・無・不明
接種年月日(S・H年 月 日)
ワクチンの種類(風しん単抗原・MR・MMR・不明)
製造会社/Lot番号()
3 回目有(歳)・無・不明
接種年月日(S・H年 月 日)
ワクチンの種類(風しん単抗原・MR・MMR・不明)
製造会社/Lot番号()
6 初診年月日
7 診断(検査)年月日
8 感染したと推定される年月日
9 発病年月日(*)
10 死亡年月日(※)

(1, 2, 4, 5, 11欄は該当する番号等を○で囲み、3, 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検査した場合のみ記入すること。
(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
4, 5欄は、該当するものすべてを記載すること。

この届出は診断から7日以内に行ってください

薬剤耐性アシネトバクター感染症発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※)病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載

Table with 3 columns: 1 診断(検査)した者(死体)の類型・患者(確定例)・感染症死亡者の死体, 2 性別, 3 診断時の年齢(0歳は月齢)

Main table with columns for symptoms, diagnosis methods, and infection details (1-5). Includes a box at the top right: 'この届出は診断から7日以内に行ってください'

(1, 2, 4, 5及び11欄)においては該当する番号等を○で囲み、3及び6から10までの欄においては年齢又は年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検査した場合のみ記入すること。
(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
4及び5欄においては、該当するものを全てを記載すること。

麻しん発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※)病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載

Table with 6 columns: 1 診断(検査)した者(死体)の類型・患者(確定例)・感染症死亡者の死体, 2 当該者氏名, 3 性別, 4 生年月日, 5 診断時の年齢(0歳は月齢), 6 当該者職業

Main table with columns for disease type, infection details (1-19), and diagnosis methods. Includes a box at the top right: 'この届出は診断後直ちにに行ってください'

(1, 3, 11から13欄)は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 14から18欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検査した場合のみ記入すること。
(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11, 12欄は、該当するものを全てを記載すること。

感染症発生動向調査(小児科定点)

週報

保健所コード
医療機関コード

調査期間 平成 年 月 日 ~ 年 月 日 第 週 医療機関名:

疾病	年齢		0~5 九月	6~11 九月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10~14	15~19	20歳 以上	合計	コメント	
	男	女																	
RSウイルス感染症	男	女																	
咽頭結膜熱	男	女																	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	男	女																	
感染性胃腸炎	男	女																	
水痘	男	女																	
手足口病	男	女																	
伝染性紅斑	男	女																	
突発性発疹	男	女																	
百日咳	男	女																	
ヘルパンギーナ	男	女																	
流行性耳下腺炎	男	女																	
インフルエンザ迅速検査結果																			
検査数																			
検査結果																			
A B A+B																			
福祉保健所																			
FAX:																			

(インフルエンザ定点)

疾病	年齢		0~5 九月	6~11 九月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上	合計	予防接種		
	男	女																								
インフルエンザ (鳥インフルエンザを除く)	男	女																								

感染症発生動向調査(インフルエンザ定点)

週報

保健所コード _____

医療機関コード _____

調査期間 平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日 ~ ____ 年 ____ 月 ____ 日 第 ____ 週 医療機関名: _____

疾病	年齢	年齢												合計	予防接種										
		0~5 か月	6~11 か月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10~ 14			15~ 19	20~ 29	30~ 39	40~ 49	50~ 59	60~ 69	70~ 79	80歳 以上		
インフルエンザ (鳥インフルエンザを除く)	男																								
	女																								

コメント

インフルエンザ迅速検査結果			
検査数	検査結果		
	A	B	A+B

福祉保健所
FAX: _____

感染症発生動向調査(眼科定点)

週報

保健所コード _____

医療機関コード _____

調査期間 平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日 ~ ____ 年 ____ 月 ____ 日 第 ____ 週 医療機関名: _____

疾病	年齢		0~5 ヵ月	6~11 ヵ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳 以上	合計		
	男	女																						
急性出血性結膜炎																								
流行性角結膜炎																								

コメント

福祉保健所
FAX: _____

感染症発生動向調査(STD定点)

月報

保健所コード _____

医療機関コード _____

調査期間 平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日 ~ ____ 年 ____ 月 ____ 日 医療機関名: _____

疾病	年齢		1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上	合計	
	男	女																	
性器クラミジア感染症																			
性器ヘルペスウイルス感染症																			
尖圭コンジローマ																			
淋菌感染症																			

コメント

福祉保健所

FAX: _____

感染症発生動向調査(基幹定点)

週報

保健所コード

医療機関コード

調査期間 平成 年 月 日 ~ 年 月 日 第 週 医療機関名:

ID番号	性	年齢 (0歳は月齢)	疾病名*	病原体名称(検査結果)	病原体検査							
					左記の結果を得た 病原体検査方法**							検体名
1			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7							
2			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7							
3			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7							
4			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7							
5			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7							
6			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7							
7			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7							
8			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7							
9			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7							
10			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7							

* 疾病名

- 1:細菌性髄膜炎(インフルエンザ菌、髄膜炎菌肺炎球菌を原因として同定された場合を除く)
- 2:無菌性髄膜炎(真菌、結核菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、原虫を含む)
- 3:マイコプラズマ肺炎
- 4:クラミジア肺炎(オウム病を除く)
- 5:感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る)

** 病原体検査方法

- 1:分離・同定
- 2:抗原検出
- 3:核酸・PCR
- 4:塗抹検鏡
- 5:電顕
- 6:抗体検出
- 7:その他

<記載上の注意>

- ・ 細菌性髄膜炎および無菌性髄膜炎: 病原体が判明している場合は、その病原体名(複数検出された場合は、主要なもの二種のみ記載)、その結果を得た病原体検出方法(複数の場合は、最も根拠となった方法の一つを選択)及びその検体名を記載。病原体が判明していない場合は、病原体名称欄に“検出せず”と記載してください(病原体検査欄の記載は不要)。
- ・ マイコプラズマ肺炎: 病原体検査診断が必須。病原体名称欄に*M. pneumoniae*と記載の上、病原体検査方法(1, 2, 3, 6, 7のいずれか、複数の場合は主要な一つを選択)及びその検体名を記載してください。
- ・ クラミジア肺炎: 病原体検査診断が必須。病原体名称欄に*C. pneumoniae*, *C. trachomatis*を記載の上、病原体検査方法(1, 2, 3, 6, 7のいずれか、複数の場合は主要な一つを選択)及びその検体名を記載してください。
- ・ 感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。): 病原体検査診断が必須。病原体名称欄にロタウイルスと記載の上、病原体検査方法(1, 2, 3, 7, のいずれか、複数の場合は主要な一つを選択)及びその検体名を記載してください。※基幹定点として指定されている医療機関が小児科定点として指定されている場合、感染性胃腸炎の届出も行うこと。

コメント

福祉保健所

FAX:

感染症発生動向調査(基幹定点)

月報

保健所コード _____

医療機関コード _____

調査期間 平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日 ~ ____ 年 ____ 月 ____ 日 医療機関名: _____

ID番号	性	年齢 (0歳は月齢)	疾病名*	検体採取部位**
1			1 2 3	
2			1 2 3	
3			1 2 3	
4			1 2 3	
5			1 2 3	
6			1 2 3	
7			1 2 3	
8			1 2 3	
9			1 2 3	
10			1 2 3	

- * 疾病名(番号を○で囲む)
 1:メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
 2:ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
 3:薬剤耐性緑膿菌感染症
 ** 検体採取部位

複数部位から検出された場合は、
最も重要と考えられる1か所のみを記載。

コメント
福祉保健所
FAX:

緊急連絡

この届出は診断後直ちに行ってください

報告番号：
_____**感染症発生動向調査（疑似症定点）**

報告日 平成 年 月 日

医療機関名：
_____主治医名：

症候群分類 *	1	2
年齢	歳	ヶ月
性別	男	女

* 症候群分類（番号を○で囲む）

- 1： 摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状
（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）
- 2： 発熱及び発しん又は水疱

※届出については、最寄りの保健所に電話連絡後、FAXをお願いします。
 （夜間・休日の連絡先は、高知市内；高知市保健所地域保健課電話822-0577、
 高知市以外；高知県庁代表電話088-823-1111にお願いします。）

感染症発生動向調査検査依頼票

機 関 名 _____
 担当者(主治医) _____

衛 研 受 付 _____ 年 月 日
 受 付 番 号 _____

患 者	I D <small>(医療機関の 管理番号等)</small>		<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女	年 月 日生 (歳) 0歳の場合は必ず月歳記入 (カ月)
	住 所	市 町 村 郡	施 設 名	(年 組)
検 査 材 料	採 取 日	年 月 日	発 病 日	年 月 日
	材 料 の 種 類	<input type="checkbox"/> ふん便 <input type="checkbox"/> 咽頭ぬぐい液 <input type="checkbox"/> 咽頭うがい液 <input type="checkbox"/> 髄液 <input type="checkbox"/> 喀痰 <input type="checkbox"/> 穿刺液 <input type="checkbox"/> 尿 <input type="checkbox"/> その他 ()		
臨 床 報 告	疫 学 的 事 項	<input type="checkbox"/> 散発 <input type="checkbox"/> 家族内 <input type="checkbox"/> 集団発生 <input type="checkbox"/> 地域流行 () <input type="checkbox"/> 集団発生の場合 (<input type="checkbox"/> 保育所 <input type="checkbox"/> 幼稚園 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 寮 <input type="checkbox"/> 福祉・養護施設 <input type="checkbox"/> 老人福祉施設 <input type="checkbox"/> 飲食店() <input type="checkbox"/> その他 ())		
	発病疾患に対するワクチン名	今 期 の イン フ ル エ ン ザ		
	ワ ク チ ン 接 種 歴	年 月 日	ワ ク チ ン 接 種 歴	年 月 日
	ペット・家畜との 接 触 機 会	<input type="checkbox"/> 有 (<input type="checkbox"/> 犬 <input type="checkbox"/> 猫 <input type="checkbox"/> 鶏 <input type="checkbox"/> 鳥 <input type="checkbox"/> 亀 <input type="checkbox"/> 猿 <input type="checkbox"/> 豚 <input type="checkbox"/> 牛 <input type="checkbox"/> その他()) <input type="checkbox"/> 無		
	本人及び家族に 海外旅行の経験	<input type="checkbox"/> 有 (年 月 頃 : 国名) <input type="checkbox"/> 無		
床	季節性インフルエンザ病原体定点	<input type="checkbox"/> インフルエンザ <input type="checkbox"/> インフルエンザ様疾患 迅速キット (<input type="checkbox"/> 有(<input type="checkbox"/> A+ <input type="checkbox"/> A- <input type="checkbox"/> B+ <input type="checkbox"/> B-) ・ <input type="checkbox"/> 無)		
報	小児科 病原体 定点	<input type="checkbox"/> RSウイルス感染症 <input type="checkbox"/> 咽頭結膜熱 <input type="checkbox"/> A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 <input type="checkbox"/> 感染性胃腸炎 <input type="checkbox"/> 水痘 <input type="checkbox"/> 手足口病 <input type="checkbox"/> 伝染性紅斑 <input type="checkbox"/> 突発性発しん <input type="checkbox"/> 百日咳 <input type="checkbox"/> ヘルパンギーナ <input type="checkbox"/> 流行性耳下腺炎		
告	眼科定点	<input type="checkbox"/> 急性出血性結膜炎 <input type="checkbox"/> 流行性角結膜炎		
告	基幹定点	<input type="checkbox"/> 細菌性髄膜炎 <input type="checkbox"/> 無菌性髄膜炎		
告	臨床症状・徴候等	<input type="checkbox"/> 無症状 <input type="checkbox"/> 発 熱 (最高 °C) <input type="checkbox"/> 熱性けいれん <input type="checkbox"/> 胃腸炎症状 <input type="checkbox"/> 下痢 (回) 便性状 (<input type="checkbox"/> 血便 <input type="checkbox"/> 粘性 <input type="checkbox"/> 水様 <input type="checkbox"/> 泥状 <input type="checkbox"/> 軟状 <input type="checkbox"/> 膿状) <input type="checkbox"/> 白色 <input type="checkbox"/> その他 ()) <input type="checkbox"/> 嘔吐・嘔気 <input type="checkbox"/> 腹痛 <input type="checkbox"/> 咳嗽 <input type="checkbox"/> 上気道炎 <input type="checkbox"/> 下気道炎 <input type="checkbox"/> 気管支炎 <input type="checkbox"/> 肺炎 <input type="checkbox"/> 水疱 <input type="checkbox"/> 発疹 <input type="checkbox"/> 口内炎 <input type="checkbox"/> 出血傾向(←紫斑病、出血熱)全身性のもの <input type="checkbox"/> 角膜炎 <input type="checkbox"/> 結膜炎 <input type="checkbox"/> 角結膜炎 <input type="checkbox"/> リンパ節腫脹 <input type="checkbox"/> 唾液腺腫脹 <input type="checkbox"/> 関節痛 <input type="checkbox"/> 筋肉痛 <input type="checkbox"/> 肝機能障害 <input type="checkbox"/> 腎機能障害 <input type="checkbox"/> 循環器障害 <input type="checkbox"/> ショック症状 <input type="checkbox"/> 髄膜炎(←項部硬直) <input type="checkbox"/> 意識障害 <input type="checkbox"/> 麻痺(全身性、中枢神経系のもの) <input type="checkbox"/> 脳炎 <input type="checkbox"/> 脳症 <input type="checkbox"/> 脊髄炎 <input type="checkbox"/> その他()		
連絡事項等				
検査結果:報告日 年 月 日				

* 各項目の該当する箇所には「レ線」を入れてください。

高知県感染症対策協議会規約

(要 旨)

第1条 この規約は、感染症の予防及び感染症の患者の医療に関する法律第6条第1項に規定する感染症について、有効かつ的確な感染症対策を確立するとともに感染症の予防の総合的な推進を図るため、高知県感染症対策協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(任 務)

第2条 協議会は、第1条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事項について協議するとともに当該事項の推進にあたるものとする。

- (1) 感染症発生動向調査実施要綱に基づく情報の解析・評価
- (2) 予防計画に関すること
- (3) 事前対応に即した予防対策の検討
- (4) 肝炎対策に関すること
- (5) その他、必要な事項

(組 織)

第3条 協議会は、高知県医師会、高知大学医学部附属病院など感染症に関する専門の学識経験者のなかから知事が委嘱する委員20名以内で構成する。

2 日常的な情報を解析し具体の予防対策を検討するため、協議会に結核対策部会、エイズ・性感染症対策部会、感染症発生動向調査部会、肝炎対策部会の部会を設ける。

(任 期)

第4条 委員の任期は、3年とする。ただし、再任を防げない。

2 委員に欠員が生じたとき、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。

(役員等)

第5条 協議会には会長及び副会長2名をおき、委員の互選によりこれを定める。

- 2 会長は会を統括する。
- 3 会長に事故があるときは、副会長が職務を代行する。
- 4 部会の部会員は会長が指名する。
- 5 部会の部会長は、協議会の中から会長が指名する。

(会 議)

第6条 会議は、会長が必要と認めるときに召集し、会長が議長となる。

- 2 部会は、部会長が必要に応じて召集し、部会長が議長となる。
- 3 部会での検討事項は、協議会に報告する。
- 4 協議会及び部会は、必要に応じ委員及び部会員の同意を得て会長指名の専門委員を会議に参加させることができる。

(事務局)

第7条 協議会の事務局は、高知県健康政策部健康対策課に置く。

(雑 則)

第8条 この規約に定めるもののほか、協議会の運営について必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この規約は平成12年2月17日から施行する。
- 2 高知県結核・感染症発生動向調査委員会規約及び高知県エイズ対策協議会の規約は廃止する。
- 3 第1回の協議会は、第6条第1項の規定にかかわらず知事が召集する。

附 則

この規約は平成20年1月1日から施行する。

附 則

この規約は平成22年2月8日から施行する。

附 則

この規約は平成23年2月15日から施行し、平成22年4月1日から適用する。

高知県感染症対策協議会委員名簿

高知県感染症対策協議会（10名）

会 長：吉川 清志（高知医療センター）
副会長：石黒 成人（県医師会） 西原 利治（高知大）
委 員：池上 信夫（県産婦人科医会） 大串 文隆（国立高知）
 小倉 英郎（大西病院） 猿田 隆夫（県医師会）
 藤枝 幹也（高知大） 前田 明彦（幡多けんみん）
 柳澤 光秋（市医師会）

結核対策部会（4名）

会 長：大串 文隆（国立高知）
委 員：浦田 知之（高知医療センター） 竹内 栄治（日赤）
 豊田 誠（高知市）

エイズ・性感染症対策部会（5名）

会 長：猿田 隆夫（県医師会）
委 員：池上 信夫（県産婦人科医会） 武内 世生（高知大）
 中村 章一郎（日赤） 三木 鈴（県産婦人科医会）

肝炎対策部会（5名）

会 長：西原 利治（高知大）
委 員：石黒 成人（県医師会） 岩村 伸一（日赤）
 堀川 俊一（高知市） 前田 隆（クリニック地球33番地）

感染症発生動向調査部会（7名）

会 長：吉川 清志（高知医療センター）
委 員：石黒 成人（県医師会） 小倉 英郎（大西病院）
 友田 隆士（南病院） 浜田 義文（はまだ小児科）
 前田 明彦（幡多けんみん） 森畑 東洋一（もりはた小児科）

高知県感染症対策協議会の体系図

《目的》

- * 事前対応に即した感染症情報の収集・解析・評価
- * 有効かつ的確な感染症予防対策の確立

平常時

感染症対策協議会

感染症

感染症法
に基づく
疾患

日常的な情報解析委員

エイズ・性感染症対策部会

結核対策部会

肝炎対策部会

感染症発生動向調査部会
(週報・月報)

情報解析

具体の予防
対策の検討

緊急時

- * 厚生労働省専門員の派遣・助言
- * 会長指名専門委員の参加

感染症対策協議会

感染症

・ 集団発生
・ 特殊事例
(不明疾患等)

拡大防止
のために
臨時召集

事態に応じ迅速
・ 的確に対応す
るための協議

執筆担当

患者情報

－高知県における感染症の年次的推移（第18号）－

高知医療センター 吉川 清志

検査情報

－高知県感染症発生動向調査における病原微生物分離－

幡多けんみん病院 前田 明彦

地域情報

－2015年、2016年高知県須崎地域における感染症発生動向

もりはた小児科 森畑 東洋一

－2015/16シーズンに当院を受診したインフルエンザ患児の検討

ふないキッズクリニック 船井 守

－ロタウイルスワクチン導入前後における腸重積発生状況

高知県立あき総合病院 佐藤 哲也 他

高知県感染症発生動向調査事業報告

第18号

平成29年3月発行

- 発行
- ・高知県感染症対策協議会感染症発生動向調査部会
事務局 高知県健康政策部健康対策課
〒780-8570 高知市丸ノ内 1-2-20
電話 088-823-9677
 - ・高知県感染症情報センター
高知県衛生研究所
〒780-0850 高知市丸ノ内 2-4-1
電話 088-821-4961

- 印刷所
- ・西富謄写堂印刷
〒780-8037 高知市城山町36
電話 088-831-6820